

2024年度

# シラバス



聖霊女子短期大学

生活文化科生活文化専攻《2024年度生 1年次開講科目》

科目名	頁	科目名	頁
<b>[教養教育科目全学共通]</b>		日本文化史B	52
キリスト教学I	1	スポーツ科学A	53
情報と社会	2	スポーツ科学B	54
体験学習*	3	アメリカ文化A	55
キャリアデザインI (就職コース)	4	ドイツ語圏文化A	56
キャリアデザインI (進学コース)	4	韓国文化A	本年度開講せず
職場体験学習*	5	地域リーダーシップ論	57
情報システム論	6	<b>[専門教育科目 食を中心とする生活文化分野]</b>	
国語表現I	7	食生活論	58
<b>[専門教育科目 語学文学分野]</b>		食品と調理	59
海外語学研修	13	調理演習A	60
Basic English Skills I	14	調理演習B	61
Basic English Skills II	15	<b>[専門教育科目 デザイン分野]</b>	
Listening I	16	基礎デザイン論	62
Listening II	17	色彩デザイン演習	63
Oral Communication I	18	コンピュータグラフィックス	64
Oral Communication II	19	グラフィックデザイン演習	65
Writing	20	<b>[専門教育科目 ビジネス分野]</b>	
TOEFL I*	21	基礎経済論	66
TOEIC L&R A*	22	時事経済	67
TOEIC L&R B*	23	消費生活論	68
Global Issues I	24	食料経済	69
ドイツ語I	25	簿記	70
ドイツ語II	26	秘書学概論	71
韓国語I	27	秘書実務I	72
韓国語II	28	ビジネス実務総論	73
中国語I	29	ビジネス実務演習I	74
中国語II	30	グローバル経済	75
<b>[専門教育科目 情報文化分野]</b>		インドビジネス文化	76
Webプログラミング	31		
表計算活用	32		
ワードプロセッサ活用学A	33		
ICT基礎	34		
情報科学入門	35		
Python I	36		
<b>[専門教育科目 教養文化分野]</b>			
心理学A	37		
心理学B	38		
哲学A	39		
哲学B	40		
日本文学A	41		
日本文学B	42		
日本国憲法	43		
法学	44		
人間関係論	45		
リーダーシップのコーチングA	46		
リーダーシップのコーチングB	47		
比較文化A	48		
比較文化B	49		
グローバル世界と地域文化B	50		
日本文化史A	51		

注) ※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活文化専攻《2023年度生 2年次開講科目》

科目名	頁	科目名	頁
<b>[教養教育科目全学共通]</b>			
キリスト教学Ⅱ	8		
リーダーシップ論	9		
キャリアデザインⅡ（就職コース）	10		
キャリアデザインⅡ（進学コース）	11		
体験学習Ⅱ	本年度開講せず		
国語表現Ⅱ	12		
職場体験学習*	5頁参照		
<b>[専門教育科目必修]</b>			
卒業研究	77		
<b>[専門教育科目 語学文学分野]</b>			
アメリカ語学セミナー	85		
Basic English Skills Ⅲ	86		
Basic English Skills Ⅳ	87		
Oral Communication Ⅲ	88		
Oral Communication Ⅳ	89		
TOEFL Ⅱ*	90		
Essay and Speech*	91		
ドイツ語Ⅲ	92		
ドイツ語Ⅳ	93		
韓国語Ⅲ	94		
韓国語Ⅳ	95		
<b>[専門教育科目 情報文化分野]</b>			
データベース活用	96		
プログラミングⅡ	97		
プログラミング演習	本年度開講せず		
データサイエンス入門	98		
ワードプロセッサ活用学B	99		
Web ページ作成Ⅰ	100		
Web ページ作成Ⅱ	101		
Python Ⅱ	102		
<b>[専門教育科目 教養文化分野]</b>			
グローバル世界と地域文化A	103		
フィリピン文化セミナー	本年度開講せず		
アメリカ文化B	104		
ドイツ語圏文化A	56頁参照		
韓国文化B	本年度開講せず		
国内インターンシップ	105		
海外インターンシップ	106		
アジア海外演習	本年度開講せず		
<b>[専門教育科目 食を中心とする生活文化分野]</b>			
現代家族論	107		
保育学	108		
<b>[専門教育科目 ビジネス分野]</b>			
消費生活論	68頁参照		
簿記	70頁参照		
秘書実務Ⅱ	109		
ビジネス実務演習Ⅱ	110		
アメリカビジネス文化	本年度開講せず		
韓国ビジネス文化	本年度開講せず		
グローバル経済	75頁参照		
インドビジネス文化	76頁参照		

注) \*印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。



生活文化科生活こども専攻《2023年度生 2年次開講科目》

科目名	頁	科目名	頁
<b>[教養教育科目全学共通]</b>		幼稚園教育実習指導*	170
キリスト教学Ⅱ	8頁参照	幼稚園教育実習*	138頁参照
リーダーシップ論	9頁参照	地域・遊び実践演習	171
キャリアデザインⅡ（就職コース）	10頁参照	I C T教育演習	172
キャリアデザインⅡ（進学コース）	11頁参照	海外保育実習	173
<b>[教養教育科目選択]</b>			
体験学習Ⅱ	本年度開講せず		
情報処理演習	139		
データサイエンス入門	98頁参照		
国語表現Ⅱ	12頁参照		
哲学A	39頁参照		
哲学B	40頁参照		
法学	44頁参照		
比較文化A	48頁参照		
比較文化B	49頁参照		
日本文化史A	51頁参照		
日本文化史B	52頁参照		
リーダーシップのコーチング	141		
グローバル教養	142		
アメリカ語学セミナー	85頁参照		
フィリピン文化セミナー	本年度開講せず		
<b>[専門教育科目 必修]</b>			
社会福祉	143		
こども家庭福祉	144		
こども家庭支援論	145		
<b>[専門教育科目 選択]</b>			
こども家庭支援の心理学	146		
こどもの理解と援助	147		
こどもの食と栄養	148		
保育指導法	149		
保育内容・健康	150		
保育内容・環境A	151		
保育内容・環境B	152		
保育内容・言葉B	153		
保育内容・表現（音楽B）	154		
特別支援教育	155		
子育て支援	157		
こどもの英語	158		
鍵盤楽器奏法A	本年度開講せず		
鍵盤楽器奏法B	本年度開講せず		
教職実践演習（幼稚園・保育所）	159		
保育実習ⅠB*	161		
保育実習指導ⅡA*	162		
保育実習指導ⅡB	163		
保育実習ⅡA*	164		
保育実習ⅡB	164		
教育制度論	165		
教育課程総論	166		
教育方法論	167		
幼児理解	168		
教育相談	169		

注) ※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科健康栄養専攻《2024年度生 1年次開講科目》

科目名	頁	科目名	頁
<b>[教養教育科目 必修]</b>		調理学	186
キリスト教学 I	1 頁参照	<b>[専門教育科目 選択]</b>	
情報と社会	2 頁参照	食品学実験	187
体験学習*	3 頁参照	食品加工衛生学実験	188
キャリアデザイン I (就職コース)	4 頁参照	基礎調理実習	189
キャリアデザイン I (進学コース)	4 頁参照	応用調理実習	190
情報システム論	6 頁参照	食生活論	58 頁参照
国語表現 I	7 頁参照	学校栄養教育論	191
<b>[教養教育科目 選択]</b>		<b>[卒業所要単位に含まれない科目]</b>	
職場体験学習*	5 頁参照	教職概論	215
Web プログラミング	31 頁参照	教育原理*	216
表計算活用	32 頁参照	教育制度論	217
ワードプロセッサ活用学 A	33 頁参照	教育心理学	218
心理学 A	37 頁参照	特別支援教育	219
心理学 B	38 頁参照	教育課程総論	220
哲学 A	39 頁参照	教育方法論	221
哲学 B	40 頁参照	道徳・特別活動及び総合的な学習	222
日本文学 A	41 頁参照		
日本文学 B	42 頁参照		
基礎経済論	66 頁参照		
時事経済	67 頁参照		
日本国憲法	43 頁参照		
法学	44 頁参照		
人間関係論	45 頁参照		
リーダーシップのコーチング A	46 頁参照		
リーダーシップのコーチング B	47 頁参照		
比較文化 A	48 頁参照		
比較文化 B	49 頁参照		
グローバル世界と地域文化 B	50 頁参照		
日本文化史 A	51 頁参照		
日本文化史 B	52 頁参照		
秘書学概論	71 頁参照		
秘書実務 I	72 頁参照		
ビジネス実務総論	73 頁参照		
ビジネス実務演習 I	74 頁参照		
総合基礎 (教職) A	174		
スポーツ科学 A	53 頁参照		
スポーツ科学 B	54 頁参照		
<b>[外国語科目]</b>			
英語 A	175		
英語 B	176		
<b>[専門教育科目 必修]</b>			
解剖生理学 I	177		
解剖生理学 II	178		
生化学	179		
食品学総論	180		
食品学各論	181		
食品衛生学	182		
栄養学総論	183		
ライフステージ栄養学	184		
給食管理	185		

注) ※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科健康栄養専攻《2023年度生 2年次開講科目》

科目名	頁	科目名	頁
<b>[教養教育科目全学共通]</b>			
キリスト教学Ⅱ	7頁参照		
リーダーシップ論	8頁参照		
キャリアデザインⅡ（就職コース）	9頁参照		
キャリアデザインⅡ（進学コース）	10頁参照		
<b>[教養教育科目 選択]</b>			
体験学習Ⅱ	192		
職場体験学習	5頁参照		
データベース活用	96頁参照		
プログラミングⅡ	97頁参照		
データサイエンス入門	98頁参照		
ワードプロセッサ活用学B	99頁参照		
国語表現Ⅱ	12頁参照		
グローバル社会と地域文化A	103頁参照		
秘書実務Ⅱ	109頁参照		
ビジネス実務演習Ⅱ	110頁参照		
総合基礎（教職）B	193		
フィリピン文化セミナー	本年度開講せず		
<b>[外国語科目]</b>			
英語C	本年度開講せず		
英語D	本年度開講せず		
<b>[専門教育科目 必修]</b>			
社会福祉概論	194		
公衆衛生学	195		
運動生理学	196		
臨床栄養学Ⅰ	197		
臨床栄養学Ⅱ	198		
スポーツ栄養学	199		
公衆栄養学	200		
栄養指導論	201		
ライフステージ栄養指導論	202		
<b>[専門教育科目 選択]</b>			
解剖生理学実験※	203		
生化学実験	204		
栄養学実習	205		
ライフステージ栄養学実習	206		
臨床栄養学実習※	207		
栄養指導実習※	208		
ライフステージ栄養指導実習※	209		
給食管理実習Ⅰ※	210		
給食管理実習Ⅱ※	211		
食料経済	69頁参照		
調理学実験	212		
フードコーディネータ論	213		
食品の官能評価・鑑別演習	214		
簿記	70頁参照		
<b>[卒業所要単位に含まれない科目]</b>			
生徒指導	223		
教育相談	224		
栄養教育実習指導	225		
栄養教育実習※	225		
教職実践演習（栄養教諭）	226		

注) ※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

科目名	キリスト教学Ⅰ	担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・後期〔講義〕2単位 必修／全学		
評価基準	受講態度(20%)、中間レポート(20%)、毎授業のリアクションペーパー(20%)、学期末試験(記述式)(40%)		
課題に対するフィードバック	毎授業のリアクションペーパー等を随時授業で取り上げコメントする。		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教そのものの深い理解を目指し、宗教の定義、キリスト教とはいかなる宗教であるか、発展とその特徴、神の存在の意義を通して考えを深める。</li> <li>・人間とは何か、人としてどう生きるべきか、をキリスト教思想において考え、真に大切なものへの価値観を深める。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教の概念を理解している。</li> <li>・キリスト教について、聖書を中心にイエス・キリストの生涯、教え、今日までの成立過程を理解している。</li> <li>・現代でキリスト教の精神を生きるとはどのようなことなのかを理解している。</li> </ul>		
履修上の注意	なし		
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～15:00		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンス、宗教とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と宗教、宗教について知っていること、自分の考えをまとめる。(1時間)</li> <li>・配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(0.5時間)</li> </ul>	
2	キリスト教とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教について知っていることを考え、キリスト教に持っている自分のイメージをまとめる。(1時間)</li> <li>・配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5時間)間</li> </ul>	
3	聖書という書物Ⅰ(旧約聖書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書全般について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> <li>・配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5時間)</li> </ul>	
4	聖書という書物Ⅱ(新約聖書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新約聖書について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> <li>・配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5時間)</li> </ul>	
5	イエス・キリストの生き方Ⅰ—受肉と誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(1時間)</li> </ul>	
6	イエス・キリストの生き方Ⅱ—使命と活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(1時間)</li> </ul>	
7	イエス・キリストの生き方Ⅲ—愛といのち 中間レポート(授業内で実施)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教における愛といのちとは何か自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> <li>・中間レポートのテーマを調べ、学習して自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> </ul>	
8	イエス・キリストの生き方Ⅳ—死と復活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(0.5時間)</li> <li>・キリスト教における死と復活とは何か自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> </ul>	
9	キリスト教の広まり、使徒の活躍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(1時間)</li> </ul>	
10	キリスト教の生き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(1時間)</li> </ul>	
11	キリスト教と信仰Ⅰ—キリスト教を生きた人々	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信仰を生きるとは何か自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> <li>・配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(0.5時間)</li> </ul>	
12	キリスト教と信仰Ⅱ—現代のキリスト教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界で見られるキリスト教について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> </ul>	
13	日本におけるキリスト教	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のキリスト教や歴史について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> </ul>	
14	キリスト教とわたしたち キリスト教芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教の芸術(美術、音楽)、今の社会とキリスト教の繋がりについて知っていること、自分の考えをまとめておく。(1時間)</li> </ul>	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの配布資料を復習し、重要語句を確認し、疑問点、内容を整理する。(1時間)</li> <li>・事前に出されるテーマから学期末試験(記述式)の準備。(1時間)</li> </ul>	
テキスト	授業ごとに資料を配布する。授業内で参考文献を適宜紹介する。		
指定図書	なし。		

科目名	情報と社会		担当者	米山修司	
区分等	1年次・後期 [講義] 1単位 必修/全学				
評価基準	① 確認問題(40%) ② リアクションペーパー(40%) ③ グループワークへの取り組み姿勢(10%) ④ プレゼンテーション(10%)				
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。				
目的	① 社会の変化をデジタル化の視点から考え、ビッグデータやAIの利活用により社会システムが大きく変わりつつあることを理解する。 ② データ駆動型社会のリスクについて正しく理解する。 ③ 情報倫理、個人情報保護、情報セキュリティ等の知識を身につけ、情報化社会の中で責任をもって正しく判断する力を養う。				
到達目標	① 情報化社会の中で、データやAIがどのように活用されているか実例を挙げ、その有用性とリスクについて考え、説明することができる。 ② データ・AIを利活用する際に生ずる課題を理解し、これらを扱うときに求められるモラル・倫理について説明できる。 ③ 情報セキュリティや個人情報保護に関する基礎的な知識を身につける。				
履修上の注意	① 授業の一部に外部講師による講演が含まれる予定。 ② 本科目は全8回のため、単位取得のためには、7回以上の出席が必要。				
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15				
		<b>授業計画</b>		<b>準備学習（予習・復習）の内容および、時間</b>	
1	社会で起きている変化 第4次産業革命とビッグデータ データ駆動型社会の特徴		講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
2	社会で収集・活用されているデータについて 人口知能（AI）とは		講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
3	社会におけるデータ・AIの利活用の事例		講義の復習とデータ・AIの活用事例の調査 （2時間）		
4	社会の中でのビッグデータやAIの活用事例について、興味ある分野から調査し、資料をまとめる （グループワーク）		データ・AIの活用事例の調査と発表資料の作成 （2時間）		
5	データ駆動型社会のリスクと課題 ELSI, AI社会原則		講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
6	情報セキュリティについて		講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
7	個人情報保護と著作権について		講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
8	調査結果の発表とまとめ		講義の総復習（2時間）		
テキスト	佐藤万寿美 ほか『超スマート社会を生きるための情報倫理&セキュリティ』（実教出版）				
指定図書	あり（巻末参照）。				

科目名	体験学習		担当者	大曾基宣
区分等	1年次・通年 [演習] 1単位 必修/全学			
評価基準	① 受講・参加態度、特に地域や施設活動における主体性、積極性 (80%)。 ② 活動報告書[2回提出] (20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、コメントをする。			
目的	建学の精神が目指す隣人愛を体験に基づいて理解する。他者と関わり、生まれながら与えられているリーダーシップの能力に気づき、地域ネットワークや活動プラットフォームの立ち上げ方を学ぶ。今、重要視される情報発信と地域活性化スキルを学び、助けを必要とする地域の事業や人々と接することを通して、共生社会実現への関心を深め、地域問題の解決に自己の役割に気づく。			
到達目標	1. 援助を必要とする事業や人と接するとき、助けの手を惜しまない者になる。 2. 共生社会がどれほど実現しているか、地域社会の現状についての知見を得、困難にある人との連帯の可能性を知る。 3. 地域の事業者や困っている人と住民を情報で繋ぐことが出来るようになる。 4. 活動プラットフォームの立ち上げが出来るようになる。 5. 挨拶、礼儀など社会生活上求められることを実行できるようになる。			
履修上の注意	1. 単位取得には1回のイベントの実施が必要であり、学外イベントや所定の活動を欠課した場合、その分を補う奉仕活動を行う。 2. 木曜午後に授業および活動を14回実施。それに加え12月「クリスマスの日」に地域貢献活動を行う。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画 ※木曜午後「年間計画」参照。		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	オリエンテーション ーリーダーシップ総論ー	第1回の学習内容の振り返り (2時間)		
2	プラットフォーム構築の理論	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
3	プラットフォーム構築の計画立案	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
4	プロジェクト活動の計画立案	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
5	プロジェクト活動準備 ー進捗状況確認、資料収集ー	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
6	プロジェクト活動準備 ー進捗状況確認、資料分析ー	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
7	プロジェクト活動準備 ー進捗状況確認、教材研究、ブース内容作成ー	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
8	プロジェクト活動準備 ー進捗状況確認、教材やブース内容の修正ー	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
9	プロジェクト活動準備 ー進捗状況確認、事前打ち合わせー	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
10	プロジェクト活動準備 ー進捗状況確認、会場設営ー	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
11	プロジェクト活動 ー実践：学内外ー	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
12	プロジェクト活動 ー実践と振り返り：学内外ー	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
13	地域貢献活動 ー地域の子どもたちに向けたクリスマスカード作成ー	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
14	プロジェクト活動の報告	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認 (2時間)		
15	プロジェクト活動の省察	第15回の学習内容の振り返り (2時間)		
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容

地域活動での実践的学習を通して、ネットワークの立ち上げや助けを必要とする人々と接して、共生社会実現への関心を深め、自己の役割に気づく。

科目名	キャリアデザインⅠ（就職コース）	担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・通年〔講義〕1単位 必修／全学		
評価基準	①レポート(70%) ②取組姿勢(30%)		
課題に対するフィードバック	空き時間に進路支援室で個別に指導する。		
目的	卒業後の進路や職業選択に向けて、いま自分自身で知っておかなければならないこと、社会人として準備しておかなければならないことを学び、行動するきっかけをつくる。		
到達目標	キャリアおよびキャリアデザインの意味を理解し、近い将来の就職、自分が志望する職種、社会人像などについて理解できるようになる。		
履修上の注意	①就職希望と進学希望とでクラス分けする。 ②課題のレポート100%提出を要す。		
オフィスアワー	前期：金曜日 13:00～16:30／ 後期：月曜日 13:00～16:30		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	キャリアを考える	テキストを読んでキャリアについて考える（1時間）。	
2	自己を考える	自分自身を表現する言葉や小さいころから興味関心のあることを書き出す（1時間）	
3	専攻ごとの授業	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するように努める（1時間）	
4	自己理解のための就職模試・適性検査	結果を熟読し、適性を理解する（1時間）	
5	就職戦線へ向けて（マイナビ）	就職活動の現状を理解し、自分の活動の軸について考える（1時間）	
6	グループディスカッション	テキストを読んで、グループディスカッションのための準備をする（1時間）	
7	面接対策（マイナビ）	就職活動の流れを確認し、説明会に参加する準備をする（1時間）	
8	就職活動体験発表	就職活動の現状を理解し、自分の活動の軸について考える（1時間）	
テキスト	水原道子編著『キャリアデザイン』（樹村房） ※全専攻 『就職筆記試験対策問題集 一般常識・SPI編』（ムゲンダイ出版）※生活文化専攻のみ		
指定図書	なし。		

科目名	キャリアデザインⅠ（進学コース・英語）	担当者	近藤清兄
区分等	1年次・通年〔講義〕1単位 必修／全学		
評価基準	① 出席、授業態度等(80%) ② まとめの教場小テスト(20%)		
課題に対するフィードバック	次の授業中に前回の内容を復習する。		
目的	四年制大学編入学に必要な英語力を身につける。		
到達目標	①編入学試験に必要な英語力を身につける。 ②文法の復習をしながら、構文を正しく把握できる力を身につける。		
履修上の注意	①授業に英和辞書を持参すること。 ②毎回の授業に臨む前に、わからない単語は辞書で調べ、例文をあらかじめ訳しておくこと。		
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Noodles[動名詞]	Unit1(2時間)	
2	Mysterious Object[受動態]	Unit2(2時間)	
3	Baskin-Robbins[不定詞]	Unit3(2時間)	
4	Dealing with “Claimers” [形容詞]	Unit4(2時間)	
5	Haunted Campus? [副詞]	Unit5(2時間)	
6	Solo Artists Are More Popular[比較級]	Unit6(2時間)	
7	Headphones[接続詞]	Unit7(2時間)	
8	まとめ(小テスト)	これまでの重要文法項目・語彙の復習(2時間)	
テキスト	Jonathan Lynch他:” Read On, Think On [Basic Level]” (三修社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	職場体験学習		担当者	伊藤雅子
区分等	1年次・不定期・集中 [実習] 1単位 2年次・不定期・集中 [実習] 1単位	選択	生活文化専攻、健康栄養専攻	
評価基準	事前・事後指導を含んだ45時間以上の活動を対象とする。 活動証明書の指導責任者の所見、活動報告書などから総合評価する。			
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントを付けて返却する。			
目的	学生が実社会で必要となる専門知識および技術を職場で体験することにより学習し、自らが適応する職域を見つけ、問題意識・意欲の向上につなげる。			
到達目標	①事前学習により、職場体験学習の目的を理解し、個人の目標を明確にすることができる。 ②職場体験学習を通して実社会の現状を把握することができる。 ③職場体験学習を通して職場での職員間の連携の大切さを理解できる。 ④職場体験学習により、学習意欲の向上や職業観を身に付けることができる。 ⑤職場体験学習終了後、自らの経験や今後の学生生活の取組方針についてまとめることができる。			
履修上の注意	①活動証明書は事前に事務局から受け取り、活動場所で証明を受ける。 ②就業体験中は各施設の諸規定や規則を厳守し、指導者の指示に従う。 ③白衣または施設が指示した着衣を身に付け、身だしなみ、態度、言葉づかい等に注意する。 ④施設で知り得た情報を口外してはならない。 ⑤開始時間は厳重に守る。 やむを得ず欠席あるいは遅刻する場合には、指導者に必ず連絡する。 ⑥健康管理に注意する。 ⑦提出物の期限を厳守する。 ⑧インフルエンザ流行期に就業体験に臨む場合は事前に予防接種をする。			
オフィスアワー	月曜日 16時～17時			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
実施の流れ 1. 職場体験学習の説明 2. 希望調査 3. 事前指導 4. 施設での事前面接 5. 就業体験 6. 報告書作成 7. 事後指導		健康栄養専攻の学生については就業活動に際し、食中毒予防のための食品の衛生、就業先の給食を提供する対象者の年代を踏まえた栄養的な特徴について理解する。		
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容

実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務

教育内容：学生が実社会で必要となる専門知識および技術を職場で体験することにより学習し、自らが適応する職域を見つけ、問題意識・意欲の向上につなげる。

科目名	情報システム論	担当者	米山修司
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/全学		
評価基準	① 課題提出(60%) ② 定期試験(30%) ③ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。		
目的	① オフィススイートを構成する基本的なアプリケーションソフトウェアであるワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトを利用する能力を養う。 ② 情報を適切に整理・加工し、発信するための能力を養う。 ③ インターネットを利用したコミュニケーションツールを扱う能力を養う。		
到達目標	① レポート作成のための文書作成技術を身につける。 ② 目的に応じてデータを加工・集計する技術を身につける。 ③ プレゼンテーションのためのスライド作成技術を学び、豊かな表現力を身につける。 ④ インターネットを利用したビジネスコミュニケーションの技術を身につける。		
履修上の注意	① この授業は複数のコマで開講されているが、学生ごとに受講するコマが指定されているので注意すること。 ② 新入生オリエンテーションで配布された Windows および Google の ID・パスワードの用紙を必ず持参すること。		
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガイダンス ～コンピュータの基本操作～</li> <li>● ファイルシステム ～ファイルとフォルダの扱い方～</li> <li>● 拡張子</li> <li>● ラーニングマネジメントシステム (Google Classroom)</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Web ブラウザ</li> <li>● 電子メール (Gmail)</li> <li>● メールの作法</li> <li>● ビジネスチャットツール (Google Chat)</li> <li>● テキストエディタ (メモ帳)</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● タッチタイピング ～キーボードのホームポジション～</li> <li>● 文書作成 (Word) ① ～書式設定・段組み～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文書作成 (Word) ② ～表の挿入・数式の挿入～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文書作成 (Word) ③ ～画像の挿入・SmartArt～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表計算 (Excel) ① ～数式の入力～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表計算 (Excel) ② ～絶対参照と相対参照～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表計算 (Excel) ③ ～関数：基本的な計算～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表計算 (Excel) ④ ～関数：条件分岐～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 表計算 (Excel) ⑤ ～グラフの作成・データベース機能～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プレゼンテーション (PowerPoint) ① ～スライド作成の基礎～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プレゼンテーション (PowerPoint) ② ～グループディスカッション：テーマと構成の検討～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プレゼンテーション (PowerPoint) ③ ～発表者ツール～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Web 会議システム (Zoom)</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインプレゼンテーションの実践</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認 (2時間)	
テキスト	小野目如快『Office2019で学ぶコンピュータリテラシー』（実教出版）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	国語表現 I		担当者	栗森 貢
区分等	1 年次・後期 [講義] 2 単位 必修/全学			
評価基準	定期テスト (50%)、授業に取り組む姿勢 (20%)、授業で提出する課題 (30%) により、総合的に評価する。			
課題に対するフィードバック	机間指導の折に学生に応じたアドバイスをし、提出した学習シートに必要なコメントを付して返却する。			
目的	○テーマに沿った情報等を選択し、適切な言葉遣いで論理的な文章表現ができる力を養う。 ○効果的な表現構成の仕方を身に付け、分かりやすい文章を書く力を高める。 ○文章表現をするための基礎となる語彙力 (漢字力と言葉を吟味する力) 及び文章を推敲する力を高める。			
到達目標	1. 自己や社会全般を見つめて得た意見や感想を、説得力のある文章で表現することができる。 2. 小論文における論題や条件を理解し、情報収集や文章構成を工夫し、的確に論理的な文章を書くことができる。 3. 正確かつ多様な表現ができるよう漢字力を中心とした語彙力を高めるための小テストで8割以上の合格を目指すことができる。			
履修上の注意	・優れた表現から学び、積極的に自分の表現に生かすことに努めること。 ・毎回行われる基礎的な漢字小テストで合格できるよう、事前学習をして授業に臨むこと。			
オフィスアワー	木曜日 : 14 : 00 ~ 17 : 00			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 【1】基礎レッスン—ことばと情報の操作 (1) ことばに変える		この科目の全体計画を読んでおく。テキストの第1部を読んでおく。(1時間)	
2	(2) 情報を要約する		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
3	(3) 情報の探し方(パソコン室や図書室)		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
4	【2】アカデミックライティング—「正確な表現」 (1) ウォーミングアップ—「何を書くか」		テキスト第2部を読んでおく。小テスト学習 (1.5時間)	
5	(2) 論理力トレーニング		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
6	(3) 文章を書く技法		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
7	(4) レポートから論文へ		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
8	【3】テクニカルライティング—「わかりやすい表現」 (1) わかりやすい表現の基礎		テキスト第3部を読んでおく。小テスト学習 (1.5時間)	
9	(2) ライティング技法		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
10	(3) わかりやすいマニュアルを制作する		ノートの整理と確認及び小テスト学習 (1.5時間)	
11	【4】クリエイティブライティング—「創造的な表現」 (1) 自分史 (2) モノ語り—モノを通して自分を表現する (3) 創作 (4) 本を作る		表現する自分自身を中心にした文章、ことばのもつリズムやイメージを生かした表現などを生かして、自分史やモノ語りなどを創作する学習である。自分自身をどのような形で表現するかを考えて、形の残る創造的な表現活動に取り組む。小テスト学習 (各1.5時間)	
12				
13				
14				
15	本科目で学んだことを振り返り、日本語表現について自分自身が身に付けた成果を意見文として書く。		数多くの視点から日本語表現について学んだので、その成果を意見文にまとめる。小テスト学習 (2時間)	
テキスト	長沼行太郎、青嶋康文 他著『日本語表現のレッスン』(教育出版) 松村明 校閲『表記の手引き』(第七版) (教育出版編集部)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	キリスト教学Ⅱ	担当者	Mathew Philip
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 必修/全学		
評価基準	①受講態度(20%) ②授業ごとの提出ノート・感想文(30%) ③定期試験[筆記](50%)		
課題に対するフィードバック	毎回学生が提出した感想文を評価し、コメントを書く。		
目的	キリスト教思想における人間観およびそれに関連付けられる歴史的、社会的問題について学ぶことを通して、人間の尊厳や人生の意義に対する考えを深め、人間らしく豊かに生きるための指針を得る。		
到達目標	1. キリスト教思想に関する基礎知識、教養を習得し、それについて説明できるようになる。 2. 習得した知識、教養を活かして、人生の課題に主体的に取り組めるようになる。		
履修上の注意	1. 授業中にパワーポイント用意、DVDを見ての討議に積極的に参加する。 2. 毎回講義内容や8回の感想文をノートに記録する。講義終了時に提出する。 3. 積極的にグループディスカッションに参加する。(第12回と第15回の授業)		
オフィスアワー	授業料後、10分程度。事前に予約してください。		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンス「キリスト教による3つの美德(信仰、希望、愛)」	1 コリント 13:13 を読んで、今学期の各自の目標や期待などを考えておく。【1時間】	
2	愛に生きる① “Pay it Forward” の意味①	積極的にDVDを見ながら “Pay it forward” の意味を理解し、自分の生きがいを考えておく。【1時間】	
3	愛に生きる② “Pay it Forward” の精神②	積極的にDVDを見ながら “Pay it forward” の精神を学び、今学期の自分の目標を考えておく。配った資料を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
4	愛に生きる③—生命の尊さ	動画を観察しながら、生命の大切さに気付き、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記 2:7 を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
5	愛に生きる④—貧困と国際共同体	DVDを見ながら、地球家族の一員として広い心を持つ大切さに気付き、関連ある記事やマタイ 25:40 を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
6	愛に生きる⑤—エコスピリチュアル	動画を観察しながら、キリスト教の教えにおける環境問題を意識し、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記 1:1~11 を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
7	神の国の福音—愛の教え	内容を深めていく為、ヨハネ 15:1~17 を読んでおく。【1時間】	
8	神の国の福音(イエス・キリストの言葉と行い) 隣人愛について	内容を深めていく為、ルカ 10:25~37 を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
9	神の国の福音(イエス・キリストの言葉と行い)「赦しあい」	内容を深めていく為、マタイ 18:21~22 を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
10	生と死について①	「モリー先生との火曜日」のDVDを観察しながら、気付いたことや疑問や学んだことなどを記録する。【1時間】	
11	生と死について②	DVDの続き、「キリスト教と私」p. 255~263 を読んでおく。【1時間】感想文【10分】	
12	聖書における幸福	授業で指示してある聖句、特にマタイ 5:1~12 や「キリスト教と私」p. 30~38 を読んでおく。【1時間】	
13	幸せの力①	DVDを観察しながらこれからの人生の幸せな力を考えておく。マタイ 5:1~12 を読んでおく。【1時間】	
14	幸せの力②	DVDの続き、自分の幸せについて反省し、第15回目の課題として考えて置く。【1時間】感想文【10分】	
15	まとめ	1. 授業の目的と到達目標を確認しながら、各自の目標や期待することなどを振り返ってみる。 2. 自分の幸せの妨げになる課題を見つめ、それに対応できる次のステップを考えておく。 3. A5サイズのレポートを作成する。【1時間】	
テキスト	『聖書—旧約聖書続編つき 新共同訳』(日本聖書協会)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	リーダーシップ論	担当者	Mathew Philip
区分等	2年次・通年 [講義] 1単位・必修/全学		
評価基準	①レポート (50%) ②授業ごとのワークシート (30%) ③課題レポート (20%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたワークシート等は授業内で解説し返却する。 必要に応じて地域特性や課題にあったソリューションの提案やプロジェクトの作成。		
目的	①自分自身のリーダーシップ (誰かを幸せにする力) に気づき、養う。 ②地域特性や課題にあったソリューションの提案やプロジェクトの作成のスキルを養う。 ③グローバル・地域・自己リーダーシップ力を養う。 ④人間としての尊厳に気づき、考え、実行できる力を養う。 ⑤聖霊学園建学の精神について考え、実行できる力を養う。		
到達目標	① 目標を掲げて、その達成に向けた計画を、周囲を巻き込みながら立てて、周囲の模範となって計画を実行・管理することができるようになる。 ② 命を守るために自分にできる行動を深く考え、命を守ることができるようになる。 ③ 世界・地域・自分自身を幸せにすることができるようになる。		
履修上の注意	学内、学外の講師の講話を主体とする。		
オフィスアワー	月曜日曜日 16時～17時		
	<b>授業計画</b>	<b>準備学習 (予習・復習) の内容および、時間</b>	
1	「誰かをしあわせにする力」リーダーシップ	マザーテレサに活動について調べる (1時間)	
2	私たちが取り巻く現代社会とリーダーシップの役割	ノートの整理と確認 (1時間)	
3	自己リーダーシップ	ノートの整理と確認 (1時間)	
4	地域リーダーシップ	ノートの整理と確認 (1時間)	
5	グローバルリーダーシップ	ノートの整理と確認 (1時間)	
6	自分の隣人・地域・世界を幸せにする力キマイヤリア	ノートの整理と確認 (1時間)	
7	ビジネスリーダーシップ・コーチング	ノートの整理と確認 (1時間)	
8	ゲストスピーカー (企業経営者・起業家など) による講演とディスカッションからキャリアやビジネスについて学ぶ	ノートの整理と確認 (1時間)	
テキスト	沖 守弘 『マザー・テレサ～あふれる愛～』 (講談社青い鳥文庫)		
指定図書	なし。		

科目名	キャリアデザインⅡ (就職コース)	担当者	佐藤 恵
区分等	2年次・通年 [講義] 1単位 必修/全学		
評価基準	①レポート(70%) ②取組姿勢(30%)		
課題に対するフィードバック	空き時間に進路支援室で個別に指導する。		
目的	就職意欲の向上、実際の就職活動の実践など、初期キャリアの獲得に向けて就職をあきらめないための行動力とともに基礎的社会人力等の養成を目指す。		
到達目標	企業の具体的内容、自分が志望する仕事、働く意義などを理解し、新たな発見のもと目標に向けてチャレンジする意欲が育まれる。		
履修上の注意	①就職希望と進学希望とクラス分けする。 ②課題のレポート100%提出を要す。		
オフィスアワー	前期：金曜日 13:00～16:30 / 後期：月曜日 13:00～16:30		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習（予習・復習）の内容および、時間</b>	
1	就職活動の進め方(マイナビ)	テキストを再読し、自分のキャリアの発達を考えて授業に参加する（1時間）。	
2	グループディスカッション	学修内容から、グループディスカッションのための、準備をする（1時間）。	
3	講演「職場で求められる人になるために」	テキストを熟読し、学修した内容と照らし合わせる。（1時間）。	
4	専攻ごとの授業	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するように努める（1時間）。	
5	ライフイベントとワークイベントを考える	自分のキャリアについて改めて考える（1時間）。	
6	講演「働く時に必要な法知識」	学修した内容を整理する（1時間）。	
7	講演「新社会人のためのマネー講座」	学修した内容を日常生活において実践する（1時間）。	
8	今年度の振り返り	社会人としてスタートするにあたり、今しなければならぬことを考える（1時間）。	
テキスト	水原道子編著『キャリアデザイン』（樹村房） 『自分で動く就職』（財団法人雇用開発センター）		
指定図書	なし。		

科目名	キャリアデザインⅡ (進学コース・英語)	担当者	近藤清兄
区分等	2年次・通年 [講義] 1単位 必修/生活文化専攻、生活こども専攻		
評価基準	① 出席、授業態度等 (80%) ② まとめ教場小テスト (20%)		
課題に対するフィードバック	次の授業中に前回の内容を復習する。		
目的	四年制大学編入学に必要な英語力を身につける。		
到達目標	①英文を正しく読み取ることができるよう、特殊構文の読み方を身につける。 ②長文問題を正しく読む技術を身につける。		
履修上の注意	①授業に英和辞書を持参すること。 ③ 毎回の授業に臨む前に、わからない単語は辞書で調べ、例文をあらかじめ訳しておくこと。 ④ 編入学試験に英語以外の専門科目が必要な者については、別途、専門科目内容、また論文作成についても指導を受けることができる。		
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Where Did the Moon Come From? [分詞]	Unit8 (2時間)	
2	Road Rage [前置詞句]	Unit9 (2時間)	
3	Irritating Things on the Train [分詞形容詞]	Unit10 (2時間)	
4	Live Action Versions [例示]	Unit11 (2時間)	
5	Tapioca and Bubble Tea [前置詞]	Unit12 (2時間)	
6	Animal Beauty Contests [as]	Unit13 (2時間)	
7	Energy Drinks [used to]	Unit14 (2時間)	
8	まとめ (小テスト)	これまでの重要文法項目・語彙の復習 (2時間)	
テキスト	Jonathan Lynch 他: "Read On, Think On [Basic Level]" (三修社)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	キャリアデザインⅡ (進学コース・栄養学)	担当者	浅野純平
区分等	2年次・通年 [講義] 1単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する (中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目的	進学に必要な栄養学領域の知識を身に付けさせる。		
到達目標	「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」の各領域の繋がりを捉え知識を深める。		
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 「栄養士実力認定試験過去問題集 (建帛社)」を持参すること。 3. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	人体の構造と機能	日頃から教科書を読み自学すること (2時間)	
2	栄養と健康	〃	
3	食品と衛生	〃	
4	中間まとめの試験と解説	〃	
5	社会生活と健康	〃	
6	栄養の指導	〃	
7	給食の運営	〃	
8	中間まとめの試験と解説	〃	
テキスト	栄養士実力認定試験過去問題集 (建帛社)		
指定図書	なし。		

科目名	国語表現Ⅱ		担当者	栗森 貢
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 選択/全学			
評価基準	定期テスト(50%)、学習に取り組む姿勢(20%) 課題提出内容(30%)により、総合的に評価する。			
課題に対するフィードバック	机間指導しながら、個々に応じてアドバイスをし、回収した学習シートに必要な応じたコメントを書いて返却する。			
目的	テーマに沿った具体的な事例等を根拠に、効果的な文章構成や言葉遣いで説得力のある文章を書く力を養う。			
到達目標	1. 文章構成や言葉遣いを工夫して、自分の意見や感想を読み手に分かりやすく伝えることができる。 2. 興味を引く根拠をもとに、テーマを掘り下げた文章を書くことができる。			
履修上の注意	優れた文章表現を書き留め、その表現を目的に応じて使おうとする習慣を身に付けること			
オフィスアワー	木曜日：14：00～17：00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 自分自身の紹介文を書く。	自分の良さや弱点を客観的に見つけて書き留める(2時間)		
2	自分の良さを観点ごとに整理し、読み手にとって読みやすく書く方法を理解する。	随筆や論文から、優れた文章表現を見いだす(2時間)		
3	職種に応じた自分の長所を取り入れ、簡潔な志望動機を書く。	仕事内容や職場の場面を想定し、そのことと関連させて、自分の良さをまとめる(2時間)		
4	決められた文字数で職種に応じた自己PR文を書き、相互批評をしながら推敲する。	想定した職種を対象にして、字数に応じた文章を書く練習をする(2時間)		
5	仕事に関する文章を自分の経験や社会で求められている姿とつながる事例等を取り入れて書く。	自分が希望する職種に関する情報をいくつかの側面からまとめる(2時間)		
6	仕事に関することについて伝えたいことが明瞭に読み手に届くように構成を工夫して書く。	一つのテーマをいくつかの構成で文章を書き、それぞれの良さを知る(2時間)		
7	自分が就きたい職業を対象とした「好ましい論作文の書き方」や「面接質問への好ましい回答」についてのリーフレットを作成する。	好ましい論作文の観点や面接時の質問内容を想定し、よりよい印象を伝える内容とはどのようなものかを書き留めておく(2時間)		
8	取り上げたい社会問題に関して、よりよい事例とはどのようなものかを吟味することができる。	取り上げたい事例をいくつか選択し、それぞれの良さを調べる(2時間)		
9	取り上げる事例に相応しい構成を考えて、社会問題に関する文章を書く。	読み手に対して説得力をもつ感想であるための事例を取り上げておく(2時間)		
10	国際情勢に関する文章を論点が明確になるように取り上げる事例を吟味して書く。	論点が明確になるよう取り上げたい事例を何点かまとめておく(2時間)		
11	論点を明確にできるよう構成や事例を工夫して国際情勢に関する文章を書く。	工夫した書き出しの文になるよう、書き出しの仕方を何例か準備する(2時間)		
12	郷土秋田を文章でアピールする方法、伝えるテーマに応じた事例を数点取り上げ、構成を考える。	取り上げる事例を分野に応じて調べ、具体例を記録する(2時間)		
13	秋田の良さに関する文章を書き、構成や事例の点から推敲する。	文章全体が説得力をもつための推敲の観点を見いだす(2時間)		
14	テーマに沿ったスピーチメモを作り、スピーチを聞き合い互いに批評し合う。	メモに沿って聞き手を意識したスピーチの練習をする(2時間)		
15	テーマに沿って小集団による協議をし、事例の取り上げ方や協議の進め方を学び合う。	発言した内容を受けて、自分の考えを述べる仕方を練習する(2時間)		
テキスト	長沼行太郎、青嶋康文 他著『日本語表現のレッスン』(教育出版) 松村明 校閲『表記の手引き』(第七版)(教育出版編集部)【いずれも1年次で購入したもの】			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	海外語学研修		担当者	菅野 薫
区分等	1年次・集中 [実習] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	①セミナーへの参加態度 50% ②事前準備に対する取り組み方と事後の報告書作成など 50%			
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へフィードバックをし、返却する。			
目的	英語力を総合的に高めると同時に、英語圏の国での生活を通じてその国の文化や社会問題について学ぶ。			
到達目標	英語レッスンやその他体験をとおして、英語でのコミュニケーションができるようになる。英語圏の文化や社会問題について基礎的な知識を身につける。英語圏の国と日本との違いを考察し、地球家族の一員であることを自覚して、国際的視野を持つようになる。			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の1つとも言える英語に興味関心があり、語学はもとより人との交流を通して学ぶ意識の高い学生の参加が望ましいです。</li> <li>・必要最低限の英語の知識を身につけてもらう必要がありますので、積極的に英語の科目を受講するか、自分で英語学習をすることをお勧めします。</li> <li>・参加者確定後は空き時間や放課後、昼休みの時間を利用して事前指導を行いますので、単位取得のためには事前、事後の集まりへの出席も必要となります。</li> <li>・セミナー参加費には、航空券代金、現地滞在費、語学学校プログラム費が含まれます。パスポート申請費用、海外旅行傷害保険料金、その他現地活動費等は含まれませんのでご注意ください。</li> </ul> <p>※実施時期については確定し次第お知らせしますが、冬期休暇前後に実施の予定です。ただし、社会情勢等により、実施時期や内容の変更、やむを得ない中止の場合があります。</p>			
オフィスアワー	木曜日 11時～13時05分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	事前指導(日本) オリエンテーション 事前準備: パスポート申請・入国審査等 渡航に関する説明 英会話練習 現地学生との交流準備 等		現地で最低限の意思疎通ができるよう自分で英語学習を続ける。事前学習時に学んだことの復習・確認を随時行う。	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は、引率教員と共に語学研修プログラムに参加する。</li> <li>・主に平日は語学学校にて英語レッスンを実施し、現地学生との交流、近隣へのエクササイズが予定されている。</li> <li>・現地では各家庭に2～3名ずつホームステイもしくは寮での滞在となる。</li> </ul>		滞在中は毎日の予習・復習が必要。また、報告書作成のため、その日1日の振り返りと記録をつける。	
3	事後指導(日本) 反省会、ポスター・報告書作成		事前指導と同様、放課後や休み時間、週末などに主に学内外での作業が必要。	
テキスト	適宜プリントを配付します。			
指定図書	なし。			

科目名	Basic English Skills I		担当者	近藤清兄
区分等	1年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)基礎単語小テスト(前期10回)(10%) (3)授業態度(20%)			
課題に対するフィードバック	小テスト答案はコメントを付け返却する。その他随時助言・提案を行う。			
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500語+α程度)、を養成します。漫画 <i>Peanuts</i> と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。			
到達目標	各課の重要単語と文法テーマを理解し、それを用いた日常的表现に習熟し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	(1) 毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。 (2) Listening Iを併せて履修することを推奨します。			
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション		(1) [予習] Words, Expressions, Grammar and Usage を調べる。 (2) [予習] Let' s try(練習問題): Words, Expressions, Grammar and Usage で見たことをヒントに解いてみましょう。 (3) [復習] Words と 4 択問題は重要です。	
2	Unit 1 品詞 【小テスト①p12-19】		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3	Unit 2 動詞 【小テスト②p20-31】			
4	Unit 3 句動詞 【小テスト③p32-43】			
5	Unit 4 基本時制 【小テスト④p44-55】			
6	Unit 5 進行形・完了形 【小テスト⑤p56-61】			
7	Unit 6 名詞・冠詞 【小テスト⑥p68-77】			
8	Unit 7 代名詞 【小テスト⑦p78-91】			
9	Unit 8 形容詞 【小テスト⑧p92-103】			
10	Unit 9 副詞 【小テスト⑨p104-117】			
11	Lesson 10 助動詞 【小テスト⑩p118-129】			
12	復習(Unit 1-3)			
13	復習(Unit 4-6)			
14	復習(unit 7-8)			
15	復習(Unit 9-10)			
テキスト	Hidehiko Konaka: "Happy Days with Snoopy" (Asahi Press) 桐原書店編集部編『データベース 3000 基本英単語・熟語[5 <sup>th</sup> Edition]』(桐原書店)【小テスト用】			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	Basic English Skills II		担当者	近藤清兄
区分等	1 年次・後期 [演習] 1 単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	(1) 定期試験 (70%) (2) 基礎単語小テスト (後期 10 回) (10%) (3) 授業態度 (20%)			
課題に対するフィードバック	小テスト答案はコメントを付け返却する。その他随時助言・提案を行う。			
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500 語+α程度)、を養成します。漫画 <i>Peanuts</i> と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。			
到達目標	各課の重要単語と文法テーマを理解し、それをを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	Unit 11 主語と動詞の一致 【小テスト⑪p130-141】	(1) [予習] Words, Expressions, Grammar and Usage を調べる。 (2) [予習] Let' s try (練習問題): Words, Expressions, Grammar and Usage で見たことをヒントに解いてみましょう。 (3) [復習] Words と 4 択問題は重要です。		
2	Unit 12 受動態 【小テスト⑫p142-157】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。		
3	Unit 13 不定詞 【小テスト⑬p158-173】			
4	Unit 14 動名詞 【小テスト⑭p182-197】			
5	Unit 15 分詞 【小テスト⑮p198-211】			
6	Unit 16 前置詞 【小テスト⑯p212-225】			
7	Unit 17 接続詞 【小テスト⑰p226-231】			
8	Unit 18 関係詞 【小テスト⑱p238-245】			
9	Unit 19 比較 【小テスト⑲p246-259】			
10	Unit 20 否定 【小テスト⑳p260-273】			
11	復習 (Unit11-12)			
12	復習 (Unit13-14)			
13	復習 (Unit15-16)			
14	復習 (Unit17-18)			
15	復習 (Unit19-20)			
テキスト	Hidehiko Konaka: "Eappy Days with Snoopy" (Asahi Press) 桐原書店編集部編『データベース 3000 基本英単語・熟語 [5 <sup>th</sup> Edition]』(桐原書店)【小テスト用】			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	Listening I		担当者	近藤清兄
区分等	1年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。つづりと発音の複雑な関係の理由を歴史的観点からも理解する。			
到達目標	英語の母音の発音の基礎を学習し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	(1)反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。 (2)Basic English Skills Iを併せて履修することを推奨します。			
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション		(1)学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2)「SENTENCE」の各例文はしっかりと復習してください。	
2	母音 1. [ i: ] 2. [ i ]		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3	3. [ e ] 4. [ æ ] 5. [ a ]			
4	6. [ a: ] 7. [ a:r ] 8. [ ʌ ]			
5	9. [ ə ] 10. [ ə:r ]			
6	11. [ ɔ ] 12. [ ɔ: ] 13. [ ɔ:r ]			
7	14. [ u ] 15. [ u: ]			
8	16. [ ei ] 17. [ ai ]			
9	18. [ au ] 19. [ ɔi ]			
10	20. [ ou ] 21. [ iə ][ i ər ]			
11	22. [ ε ə ][ ε ə r ] 23. [ u ə ][ u ər ] 24. [ ai ə ][ ai ər ]			
12	復習(1-6)			
13	復習(7-12)			
14	復習(13-18)			
15	復習(19-24)			
テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー著『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社)			
指定図書	必要に応じ教室で指示する。			

科目名	Listening II		担当者	近藤清兄
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。つづりと発音の複雑な関係の理由を歴史的観点からも理解する。			
到達目標	英語の子音の発音の基礎を学習し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	子音	1. [ p ][ b ]	(1)学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2)「SENTENCE」の各例文はしっかりと復習してください。	
2		2. [ t ][ d ] 3. [ k ][ g ]	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3		4. [ f ][ v ] 5. [ θ ][ ð ]		
4		6. [ s ][ z ] 7. [ ʃ ][ ʒ ]		
5		8. [ tʃ ][ dʒ ] 9. [ ts ][ dz ]		
6		10. [ m ] 11. [ n ]		
7		12. [ ŋ ]		
8		13. [ l ] 14. [ r ]		
9		15. [ h ] 16. [ j ]		
10		17. [ w ] 18. [ hw ]		
11		19. [ pl ][ tr ][ st ]		
12	復習(1-5)			
13	復習(6-10)			
14	復習(11-15)			
15	復習(16-19)			
テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー著『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』(朝日出版社)			
指定図書	必要に応じ教室で指示する。			

科目名	Oral Communication I	担当者	Rachel Youngblood
区分等	1年次・前期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (50%)、Assessment (30%) Final Project/Presentation (10%)、Homework (10%)		
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or written as needed on homework.		
目的	The aim of this course is to build students' confidence and skills using English in everyday situations.		
到達目標	Students will be able to use listening and speaking skills to communicate daily ideas, needs, or information using English.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	Monday-Wednesday 9:00-12:15		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Introduction to the Course, Unit 1: Nice to meet you	Unit 1 + English Central (EC) 復習, Unit 2 予習 (1 hour) World Interview 1 予習 (30 minutes)	
2	Unit 2: What do you like to do? World Interview 1	Unit 2 + EC 復習, Unit 3 予習 (1 hour) World Interview 2 予習 (30 minutes)	
3	Unit 3: Where are you from? World Interview 2	Unit 3 + EC 復習, Unit 4 予習 (1 hour) World Interview 3 予習 (30 minutes)	
4	Unit 4: Who's that? World Interview 3	Unit 1-4 + EC 復習 (1 hour) World Interview Vocabulary 復習 (45 minutes)	
5	Assessment		
6	Supplementary Activities	World Interview 4 予習 (30 minutes)	
7	Unit 5: Where's that? World Interview 4	Unit 5 + EC 復習, Unit 6 予習 (1 hour) World Interview 5 予習 (30 minutes)	
8	Unit 6: How do we get there? World Interview 5	Unit 5-6 + EC 復習 (1 hour) World Interview Vocabulary 復習 (45 minutes)	
9	Assessment		
10	Supplementary Activities	World Interview 6 予習 (30 minutes)	
11	Unit 7: Are you hungry? World Interview 6	Unit 7 + EC 復習, Unit 8 予習 (1 hour) World Interview 7 復習 (30 minutes)	
12	Unit 8: Let's eat! World Interview 7	Unit 7-8 + EC 予習 (1 hour) World Interview Vocabulary 復習 (45 minutes)	
13	Assessment		
14	Supplementary Activities	World Interview 8 予習 (30 minutes)	
15	Unit 9: What are you watching? World Interview 8	Unit 9 + EC 復習, Unit 10 予習 (1 hour) World Interview 9 予習 (30 minutes)	
16	Unit 10: What music do you like? World Interview 9	Unit 9-10 + EC 復習 (1 hour) World Interview Vocabulary 復習 (45 minutes)	
17	Assessment		
18	Supplementary Activities	World Interview 10 予習 (30 minutes)	
19	Unit 11: How much is it? World Interview 10	Unit 11 + EC 復習, Unit 12 予習 (1 hour) World Interview 11 予習 (30 minutes)	
20	Unit 12: Let's play! World Interview 11	Unit 11-12 + EC 復習 (1 hour) World Interview Vocabulary 復習 (45 minutes)	
21	Assessment		
22	Supplementary Activities	World Interview 13 予習 (30 minutes)	
23	Unit 13: Where are you going? World Interview 12	Unit 13 + EC 復習, Unit 14 予習 (1 hour) World Interview 13 予習 (30 minutes)	
24	Unit 14: Do you work? World Interview 13	Unit 14 + EC 復習, Unit 15 予習 (1 hour) World Interview 14 予習 (30 minutes)	
25	Unit 15: What do you want to do? World Interview 14	Unit 13-15 + EC 復習 (1 hour) World Interview Vocabulary 復習 (45 minutes)	
26	Assessment		
27	Final Project Preparation	Unit 1-15 復習	
28	Final Project Preparation	Unit 1-15 復習	
29	Final Project Preparation	Unit 1-15 復習	
30	Final Project Presentations		
テキスト	(1) J. Bury, A. Sellick, & K. Horiuchi "Complete Communication" (Seibido) (2) Miles Craven "World Interviews" (Seibido)		
指定図書	なし。		

科目名	Oral Communication II		担当者	Rachel Youngblood
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	Classroom participation (50%) Homework (20%) Assessment (30%)			
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or written as needed on homework.			
目的	The aim of this course is to continue building students' confidence and skills using English in everyday situations.			
到達目標	Students will be able to use listening, speaking, and reading skills to more deeply communicate ideas and information in English.			
履修上の注意	Student's must have previously completed "Oral Communication I".			
オフィスアワー	Monday-Wednesday 9:00-12:15			
		<b>授業計画</b>	<b>準備学習 (予習・復習) の内容および、時間</b>	
1	Introduction to the course, Unit 1: Introductions		Unit 1 復習, Unit 2 予習 (1.5 hours)	
2	Unit 2		Unit 2 復習, Unit 3 予習 (1.5 hours)	
3	Unit 3: Fashion		Unit 3 復習, Unit 4 予習 (1.5 hours)	
4	Unit 4		Unit 4 復習, Unit 5 予習 + Assessment 予習 (2.5 hours)	
5	Unit 5: Review & Assessment		Unit 5 復習, Unit 6 予習 (1.5 hours)	
6	Unit 6: Food		Unit 6 復習, Unit 7 予習 (1.5 hours)	
7	Unit 7		Unit 7 復習, Unit 8 予習 (1.5 hours)	
8	Unit 8: Lifestyles		Unit 8 復習, Unit 9 予習 (1.5 hours)	
9	Unit 9		Unit 9 復習, Unit 10 + Assessment 予習 (2.5 hours)	
10	Unit 10: Review & Assessment		Unit 10 復習, Unit 11 予習 (1.5 hours)	
11	Unit 11: Travel		Unit 11 復習, Unit 12 予習 (1.5 hours)	
12	Unit 12		Unit 12 復習, Unit 13 予習 (1.5 hours)	
13	Unit 13: Rules		Unit 13 復習, Unit 14 予習 (1.5 hours)	
14	Unit 14		Unit 14 復習, Unit 15 + Assessment 予習 (2.5 hours)	
15	Unit 15: Review & Assessment			
テキスト	C. Thompson & T. Woolstencroft "Framework English A" (Kinseido)			
指定図書	None			

科目名	Writing	担当者	Rachel Youngblood
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	Classroom Participation (40%) Writing Review/Re-write (30%) Final Writing (30%)		
課題に対するフィードバック	Feedback will be given on writing homework. Feedback, comments, and suggestions will also be given vocally during class time.		
目的	The aim of this course is to build students' English writing skills across a variety of common situations.		
到達目標	Students will be able to utilize writing and reading skills in English to clearly express ideas and information.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	To be announced		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Introduction to the course, Unit 1: Self-Introduction	Unit 1 復習, Unit 2 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
2	Unit 2: Apologies	Unit 2 復習, Unit 3 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
3	Unit 3: Reports	Unit 3 復習, Unit 4 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
4	Unit 4: Requests	Unit 4 復習, Unit 5 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
5	Unit 5: Declining/Refusals	Unit 5 復習, Unit 6 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
6	Unit 6: Proposals	Unit 6 復習, Unit 7 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
7	Unit 7: Recommendations/Personal Statements	Unit 7 復習, Unit 8 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
8	Unit 8: Opinions	Unit 8 復習, Unit 9 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
9	Unit 9: Asking for Advice	Unit 9 復習, Unit 10 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
10	Unit 10: Narrating Past Events	Unit 10 復習, Unit 11 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
11	Unit 11: Gratitude	Unit 11 復習, Unit 12 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
12	Unit 12: Cover Letters	Unit 12 復習, Unit 13 予習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
13	Unit 13: Abstracts	Unit 13 復習 Writing Review/Re-write 復習 (1.5 hours)	
14	Final Writing Preparation	Units 1-13 復習	
15	Final Writing Peer Review		
テキスト	H. Yagihashi, Y. Nomura, N. Tatara, & A.L. Spreadbury "English Template Writing" (Kinseido)		
指定図書	None		

科目名	TOEFL I	担当者	菅野 薫
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (30%)、宿題 (30%)、レポート (20%)、最終スピーチ (20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は海外の大学への留学や国内の編入学に必要な試験である。リスニング、リーディングのみならず、自分の意見を論じる技術も必要とされることから授業を通じて世界的な問題に目を向け、それに対する自分の意見をまとめて伝える力を養成することを目標とする。まずは母国語で意見を論理的にまとめる力を身につけていく。		
到達目標	<p>リスニング：フレーズごとの発音が聞き取れるようになる。</p> <p>リーディング：意味のまとめり毎に日本語の語順に訳さず大意を取れるようになる。</p> <p>ライティング：アウトラインをもとに分かりやすい文章を書くことができるようになる。(主に日本語)・英語と日本語の語順の違いに気づき、分かりやすく伝える方法を身に付ける。</p> <p>スピーキング：考えを他者に分かりやすく伝えられるようになる。(主に日本語)</p> <p>上の技能を通じて社会に出てからも役に立つであろうコミュニケーション力を身に付ける。また、ニュースや社会問題を題材に自分の意見を分かりやすく伝えるコツをつかむことを目標とする。</p>		
履修上の注意	主に日本語での発信力を身につけるための科目となります。英語の不得意な学生もどんどん履修してください。自分の意見をまとめる方法の指導が中心となります。		
オフィスアワー	木曜日 11時～13時05分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション・エッセイライティング	エッセイライティングについて復習 (1時間)	
2	自分の意見を述べるということ、意見のまとめ方、エッセイライティング確認	Topic 1 予習、エッセイライティングのふりかえり (1時間)	
3	Topic 1	Topic 1 復習・Topic 2 予習 (1時間)	
4	Topic 1 続き・Topic 2	Topic 2 復習・Topic 3 予習 (1時間)	
5	Topic 2 続き・Topic 3	Topic 3 復習 (1時間)	
6	Topic 3 続き・ディスカッション	ディスカッション発表準備 (1時間)	
7	ディスカッション、発表	発表振り返り、Topic 4 予習 (1時間)	
8	Topic 4	Topic 4 復習・Topic 5 予習 (1時間)	
9	Topic 5	Topic 5 復習・洋画鑑賞準備プリント (1時間)	
10	洋画鑑賞プリント確認・洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	エッセイの取組 (1時間)	
11	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	エッセイの取組 (1時間)	
12	洋画鑑賞(文化学習・リスニング・ディクテーション練習)・感想発表・エッセイ提出	洋画鑑賞感想のまとめ・Topic 6 予習 (1時間)	
13	Topic 6・スピーチ原稿準備	Topic 6 復習・Topic 7 予習・スピーチ準備 (1時間)	
14	Topic 7・スピーチ準備	Topic 7 復習・スピーチ準備 (1時間)	
15	スピーチ練習	これまでの反省と復習 (1時間)	
テキスト	Paul Underwood, Miyako Nakaya 『CLIL Writing about Global Relations』(三修社) 主に授業ではプリントを配付して進めていきます。必要に応じて授業中に数冊紹介し、受講生にとって最も使いやすいものを相談しながら選定することもあります。		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。

自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科目名	TOEIC L&R A	担当者	菅野 薫
区分等	1 年次・前期 [演習] 2 単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (40%)、宿題 (50%)、テスト (団体用 TOEIC 受験者対象) (10%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEIC (Test of English for International Communication) は英語によるコミュニケーション能力を評価するためのもので就職や国内の編入学の際、多くの企業や大学が評価基準として示すようになってきている。準備学習を通して文法の基礎を踏まえた日常の様々な場面で使える英語能力を養成する。		
到達目標	リーディング：基本的な英文法・語彙を身につける。英文中にある主語、述語を的確に見つけ、大意を捉えられるようになる。 リスニング：会話からシーンを想像できるようになる。 実際の TOEIC で 350 点以上のスコアをとれるようになることが望まれる。 学生が自発的に学んでいく姿勢を身につけることも望まれる。		
履修上の注意	受験技能の習得というよりもむしろ、TOEIC の教材を使いながら勉強法を学び、基本的な英語力を高めるという心構えで受講してください。受講希望者は評価にも加味されますので、長期休暇明け実施予定の団体用 TOEIC (4,230 円) の受験をできるだけ希望してください。また、宿題はほぼ毎回出ます。確実に解き、提出することが望まれます。		
オフィスアワー	木曜日 11 時～13 時 05 分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	TOEIC 概要説明・実力診断テスト・目標設定	TOEIC 概要確認 (1 時間)	
2	実力診断テスト解説 1	英文法プリント (1 時間)	
3	実力診断テスト解説 2	文法確認トレーニング Unit1・(1 時間)	
4	品詞・時制等基本事項解説	Unit 1 (1 時間)	
5	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit2,3 (1 時間)	
6	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 2.3 (1 時間)	
7	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit4,5 (1 時間)	
8	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 4.5 (1 時間)	
9	前回の復習・宿題丸付け、解説	前回の復習・文法確認トレーニング Unit6 (1 時間)	
10	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 1-5 (1 時間)	
11	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit7,8 スニング (1 時間)	
12	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 6.7 (1 時間)	
13	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit9,10 (1 時間)	
14	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 8.9 (1 時間)	
15	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit11・(1 時間)	
16	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 6-9 (1 時間)	
17	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit12・(1 時間)	
18	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 10.11 (1 時間)	
19	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit13 (1 時間)	
20	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit 12.13 (1 時間)	
21	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit14,15 (1 時間)	
22	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 10-13 (1 時間)	
23	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit16,17 (1 時間)	
24	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit14.15 (1 時間)	
25	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit18 (1 時間)	
26	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 14-15 (1 時間)	
27	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit19,20 (1 時間)	
28	前回の復習・宿題丸付け、解説	英文法確認プリント	
29	前回の復習・宿題丸付け、解説・実践演習	TOEIC Part 1~4 総復習 (1 時間)	
30	まとめ・振り返り	TOEIC Part 5~7 総復習 (1 時間)	
テキスト	佐藤誠司著『5 分間 基本英文法確認トレーニング』(南雲堂) Mark D. Stafford 著『Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Intro 2nd Edition』(桐原書店) 主に教科書と補足プリントを配付して進めていきます。		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。

自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科目名	TOEIC L&R B	担当者	菅野 薫
区分等	1 年次・後期 [演習] 2 単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (40%)、宿題 (40%)、テスト (団体用 TOEIC 受験者対象) (20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEIC (Test of English for International Communication) は英語によるコミュニケーション能力を評価するためのもので就職や国内の編入学の際、多くの企業や大学が評価基準として示すようになってきている。準備学習を通して身につけたスキルを日常生活でも使えるよう応用力を身に付ける。		
到達目標	リーディング：英文法・語彙の知識を身につけ、キーワードを見つけながらテンポよく読解できるようになる。 リスニング：フレーズ単位にキーワードを聞き取り、大意を理解できるようになる。 実際の TOEIC で 350～380 点以上のスコアをとれることが望まれる。 また、学生が自発的に学んでいく姿勢を身につけることも望まれる。		
履修上の注意	受験技能の習得というよりもむしろ、TOEIC の教材を使いながら勉強法を学び、基本的な英語力を高めるという心構えで受講してください。受講希望者は評価にも加味されますので、長期休暇明け実施予定の団体用 TOEIC (4,230 円) の受験をできるだけ希望してください。また、宿題はほぼ毎回出ます。確実に解き、提出することが望まれます。		
オフィスアワー	木曜日 11 時～13 時 05 分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	実力診断・目標設定	TOEIC Part 1～7 見直し (1 時間)	
2	実力診断テスト解説 1	実力診断見直し (1 時間)	
3	実力診断テスト解説 2	名言に学ぶ動詞構文 Unit1, 2 (1 時間)	
4	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit1, 2 (1 時間)	
5	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit3 (1 時間)	
6	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit3 (1 時間)	
7	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit4 (1 時間)	
8	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit4 (1 時間)	
9	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit5 (1 時間)	
10	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit5 (1 時間)	
11	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit6 (1 時間)	
12	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit6.7 (1 時間)	
13	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit7 (1 時間)	
14	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 1-7 (1 時間)	
15	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit 8・9 (1 時間)	
16	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit8 (1 時間)	
17	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit10 (1 時間)	
18	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit9.10 (1 時間)	
19	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit11, 12 (1 時間)	
20	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit11.12 (1 時間)	
21	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit13 (1 時間)	
22	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit13.14 (1 時間)	
23	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit14, 1 (1 時間)	
24	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit15 (1 時間)	
25	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit16 (1 時間)	
26	前回の復習・宿題丸付け、解説	Word Review Unit 8-15 (1 時間)	
27	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit17, 18 (1 時間)	
28	前回の復習・宿題丸付け、解説	TOEIC Part 1～4 総復習 (1 時間)	
29	前回の復習・実践演習	名言に学ぶ動詞構文 Unit19, 20 (1 時間)	
30	まとめ・振り返り	今までの総復習 (1 時間)	
テキスト	小中秀彦著『5 分間 名言に学ぶ動詞構文』(南雲堂) Mark D. Stafford 著『Successful Keys to the TOEIC Listening and Reading Test Goal → 500 4 <sup>th</sup> Edition』(桐原書店) 主に教科書とプリントを配付して進めていきます。		
指定図書	あり (巻末参照)。授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。

自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科目名	Global Issues I		担当者	菅野 薫、近藤清兄
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	① 授業態度 50% ② リフレクションペーパー (近藤先生の講義3回分) 15% ③ 期末レポート 35%			
課題に対するフィードバック	適宜、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。			
目的	様々な角度から物事を考える方法を学ぶ 自分の考え英語と日本語を使って他者に伝える 他者との違いを理解する To learn about how to think critically To share your viewpoints on a variety of topics while using English and Japanese To develop an awareness of individual differences			
到達目標	東アジアの文化や世界で起きていることに関心を持ち、そのことについて自分自身の考えを表現できるようになる。 You will be able to express your thoughts and opinions on East Asian culture as well as various global topics.			
履修上の注意	授業は英語でのディスカッションがメインとなります。			
オフィスアワー	月曜日 13時05分～15時00分			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	オリエンテーション(Unit1)/菅野 薫 What is Critical thinking? How you organize your ideas in Japanese	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
2	Unit 2 Logic and organizes/菅野 薫	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
3	Unit 3 Strategy/菅野 薫	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
4	Unit 4 Culture/Rachel Youngblood	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
5	Culture Talk/近藤清兄	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
6	Unit 5 Communication/Rachel Youngblood	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
7	Unit 6 Perception/Rachel Youngblood	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
8	Unit 7 Values/菅野 薫	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
9	Unit 8 Creative Thinking/Rachel Youngblood	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
10	Culture Talk/近藤清兄	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
11	Unit 9 Business/菅野 薫	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
12	Unit 10 Personal issues/菅野 薫	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
13	Unit 11 Giving Opinions/Rachel Youngblood	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
14	Culture Talk/近藤清兄	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
15	Unit 12 Self-Awareness/Rachel Youngblood	習った項目の復習と次回項目の予習 (1時間)		
テキスト	Peter Vincent. Naoko Nakazato "Speaking of Critical Thinking" (Nan' un-do)			
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。			

科目名	ドイツ語Ⅰ		担当者	横溝眞理
区分等	1年次・前期〔演習〕4単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	①授業中の小テスト(75%) ②定期試験(25%)			
目的	ドイツ語の基礎力を身につけること。			
到達目標	①綴りと発音の関係を理解する。 ②動詞の現在人称変化をマスターする。 ③名詞・代名詞の格変化を理解する。 ④話法の助動詞の用法をマスターする。			
履修上の注意	①独和辞典が必要。初回の授業時に説明する。 ②教科書以外にも、プリント等で練習問題を補う予定。 ③授業時間の一部を使って、前期中に小テストを6回行う。出題範囲と形式はそのつど事前にプリントで知らせる。 ④授業外学習として教科書やプリントのわからない単語の意味をあらかじめ独和辞典で調べてくること。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	ドイツ語とはどんな言葉?	教科書6～7ページの地図を読み、欧州におけるドイツ語圏の国について調べる(2時間)。		
2	アルファベットと挨拶表現	付録のCDでアルファベットの発音を練習(2時間)。		
3	ドイツ語の綴りと発音の関係(1)	ドイツ語の綴りと発音の関係を練習(2時間)		
4	ドイツ語の疑問詞	補足疑問文の使い方を練習する(2時間)。		
5	動詞の現在人称変化(1)	教科書14～17ページの練習(2時間)。		
6	たずね方	教科書14～17ページの練習(2時間)。		
7	2人称のSieとdu	教科書14～17ページの練習(2時間)。		
8	ドイツ語の綴りと発音の関係(2)	教科書18～19ページの練習(2時間)。		
9	名詞の性と冠詞	教科書20～23ページの練習(2時間)。		
10	seinとhaben	教科書20～23ページの練習(2時間)。		
11	Ihrとmein	教科書20～23ページの練習(2時間)。		
12	定型第2位	教科書20～23ページの練習(2時間)。		
13	否定語nicht	教科書20～23ページの練習(2時間)。		
14	名詞の格	教科書24～27ページの練習(2時間)。		
15	定冠詞と不定冠詞の格変化	教科書24～27ページの練習(2時間)。		
16	名詞の複数形と男性弱変化名詞	教科書24～27ページの練習(2時間)。		
17	否定冠詞kein	教科書24～27ページの練習(2時間)。		
18	動詞の現在人称変化(2)	教科書30～33ページの練習(2時間)。		
19	前置詞	教科書30～33ページの練習(2時間)。		
20	数字(基数)	教科書34～35ページの練習(2時間)。		
21	冠詞グループの格変化	教科書36～39ページの練習(2時間)。		
22	人称代名詞の格変化	教科書36～39ページの練習(2時間)。		
23	形容詞の格変化	教科書40～43ページの練習(2時間)。		
24	形容詞の比較変化	教科書40～43ページの練習(2時間)。		
25	話法の助動詞(1)	教科書44～47ページの練習(2時間)。		
26	話法の助動詞(2)	教科書44～47ページの練習(2時間)。		
27	分離動詞	教科書44～47ページの練習(2時間)。		
28	副文	教科書44～47ページの練習(2時間)。		
29	補充問題(1)	プリントの予習・復習(2時間)。		
30	補充問題(2)	プリントの予習・復習(2時間)。		
テキスト	大谷弘道/Ursula Otani『問いかけるドイツ語 初級表現トレーニング』(三修社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	ドイツ語Ⅱ		担当者	横溝真理
区分等	1年次・後期〔演習〕4単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	①授業中の小テスト(75%) ②定期試験(25%)			
目的	ドイツ語の基礎力を身につけること。			
到達目標	①動詞の過去人称変化をマスターする。 ②現在完了時制の文が言えるようになる。 ③形容詞の活用や比較表現を理解する。 ④受動態や関係詞、接続法について、その用法を理解する。			
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ」(4単位)を履修済みであること。 ②教科書以外にも、プリント等で練習問題を補う予定。 ③授業時間の一部を使って、後期中に小テストを6回行う。出題範囲と形式はそのつど事前にプリントで知らせる。 ④授業外学習として教科書やプリントのわからない単語の意味をあらかじめ独和辞典で調べてくること。			
オフィスアワー	①授業中の小テスト(75%) ②定期試験(25%)			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	動詞の3基本形	教科書60～63ページの練習(2時間)。		
2	過去の人称変化	教科書60～63ページの練習(2時間)。		
3	接続詞	教科書60～63ページの練習(2時間)。		
4	現在完了	教科書64～67ページの練習(2時間)。		
5	話法の助動詞の完了形	教科書64～67ページの練習(2時間)。		
6	過去分詞にge-のつかない動詞	教科書64～67ページの練習(2時間)。		
7	分離動詞の過去分詞	教科書64～67ページの練習(2時間)。		
8	受動(1)	教科書68～71ページの練習(2時間)。		
9	受動(2)	教科書68～71ページの練習(2時間)。		
10	再帰動詞	教科書68～71ページの練習(2時間)。		
11	zu不定句	教科書72～75ページの練習(2時間)。		
12	zu不定句の用法	教科書72～75ページの練習(2時間)。		
13	現在分詞	教科書72～75ページの練習(2時間)。		
14	nichtの位置	教科書72～75ページの練習(2時間)。		
15	定関係代名詞	教科書76～79ページの練習(2時間)。		
16	指示代名詞	教科書76～79ページの練習(2時間)。		
17	不定代名詞	教科書76～79ページの練習(2時間)。		
18	命令形	教科書80～83ページの練習(2時間)。		
19	疑問代名詞	教科書80～83ページの練習(2時間)。		
20	不定関係代名詞	教科書80～83ページの練習(2時間)。		
21	接続法第Ⅱ式(1)	教科書84～87ページの練習(2時間)。		
22	接続法第Ⅱ式(2)	教科書84～87ページの練習(2時間)。		
23	接続法第Ⅰ式(1)	教科書88～91ページの練習(2時間)。		
24	接続法第Ⅰ式(2)	教科書88～91ページの練習(2時間)。		
25	数字(序数)	教科書92～94ページの練習(2時間)。		
26	時刻の表現	教科書92～94ページの練習(2時間)。		
27	語順、過去完了、過去分詞	教科書99ページと補充プリントの練習(2時間)。		
28	使役動詞、不定代名詞	補充プリントの練習(2時間)。		
29	補充問題	補充プリントの練習(2時間)。		
30	補充問題	補充プリントの練習(2時間)。		
テキスト	大谷弘道/Ursula Otani『問いかけるドイツ語 初級表現トレーニング』(三修社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	韓国語 I	担当者	John Thurlow
区分等	1年次・前期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	① 授業態度・小テスト (60%) ② 予習・復習 (20%) ③ 定期試験 (20%)		
課題に対するフィードバック	各課の理解できなかった点を復習する。随時アドバイスや提案をする。		
目的	韓国語の文字と発音を習得し、簡単な会話ができるようになる。		
到達目標	学生は次のことができるようになる。 ① 韓国語の発音を練習しながら、ハングルの読み書きを覚える。 ② 簡単な単語や文法を学んで、自己紹介や簡単な会話ができる。		
履修上の注意	新しい文字の習得には強い意思と根気が必要です。ハングルに慣れるまでは時間がかかります。授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業の前夜		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション・外国語習得について 韓国語の系統・ハングルの歴史	シラバスを確認する (30分) 韓国語・ハングルについて自由に調べる (30分)	
2	第1課 ハングルの構造 単母音・複合母音	母音を復習する (1時間)	
3	第1課 ハングルの構造 復習・二重母音	母音を復習する (1時間)	
4	第2課 ハングルの構造 子音 (その1)	学んだ子音を復習する (1時間)	
5	第2課 ハングルの構造 子音 (その2)	学んだ子音を復習する (1時間)	
6	第3課 ハングルの構造 終声・発音変化	終声を復習する (1時間)	
7	第3課 ハングルの構造 子音 (その他)	ハングルの文字を復習する (1時間)	
8	第4課 自己紹介	第4課を復習する。(1時間)	
9	第5課 挨拶	第5課を復習する (1時間)	
10	第6課 好きなもの	第6課を復習する (1時間)	
11	第7課 一緒に○○しましょう。	第7課を復習する (1時間)	
12	第8課 現在形を学ぶ。	第8課を復習する (1時間)	
13	第9課 助詞を学ぶ。	第9課を復習する (1時間)	
14	第10課 漢字語数詞を学ぶ。	第10課を復習する (1時間)	
15	復習、質疑応答、まとめ	定期試験を準備する (1時間)	
テキスト	金情浩・中西恭子『ふじのちゃんの韓国語入門(会話編)』(朝日出版)		
指定図書	あり (巻末参照)		

科目名	韓国語Ⅱ	担当者	John Thurlow
区分等	1年次・後期〔演習〕2単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	① 授業態度 (60%) ② 予習・復習・小テスト (40%)		
課題に対するフィードバック	小テスト後に解答と説明を行う。随時アドバイスや提案をする。		
目的	文法を学んで、単語や表現を増やし、簡単な日常会話を目指す。		
到達目標	学生は次のことができるようになる。 外食・ショッピングや道案内について、簡単な会話ができる		
履修上の注意	文字の読み書きは一通りマスターしていることを前提とする。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業の前後		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 韓国語Ⅰの復習	第11課を予習する。(1時間)	
2	第11課 固有語数字を学ぶ。	第12課を予習する。(1時間)	
3	第12課 疑問文・否定文を学ぶ。	第13課を予習する。(1時間)	
4	第13課 月日・曜日を学ぶ。	第14課を予習する。(1時間)	
5	第14課 これは何ですか?	第15課を予習する。(1時間)	
6	第15課 過去形を学ぶ。	第16課を予習する。(1時間)	
7	第16課 尊敬語を学ぶ (その1)	第17課を予習する。(1時間)	
8	第17課 尊敬語を学ぶ (その2)	第18課を予習する。(1時間)	
9	第18課 不規則活用に挑戦する。(その1)	第19課を予習する。(1時間)	
10	第19課 何年ですか? 干支を学ぶ。	第20課を予習する。(1時間)	
11	第20課 不規則活用に挑戦する (その2)	新しいプリントを読んでおく。(1時間)	
12	会話① 外食編	新しいプリントを読んでおく。(1時間)	
13	会話② ショッピング編	新しいプリントを読んでおく。(1時間)	
14	会話③ 道案内編	ノート・メモを確認する (1時間)	
15	まとめ・復習・質疑応答	なし	
テキスト	金情浩、中西恭子『ふじのちゃんの韓国語入門 (会話編)』(朝日出版)		
指定図書	あり (巻末参照)		

科目名	中国語 I	担当者	周 業欣
区分等	1年次・前期[演習] 2単位・選択/生活文化専攻		
評価基準	平常点(20%)、試験(80%)。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	中国語の発音記号(ピンイン)を始め、中国語の日常的な挨拶、自己紹介の表現、及び基本文型を学習することによって、入門中国語の基礎能力を養う。		
到達目標	1)中国語のアクセントや発音記号を聴き分けしたり、正しく発音したりすることができる。 2)日常的な挨拶や自己紹介をすることができる。 3)基本文型を理解し、簡単な文章が書ける。 4)日々の学習を通じて、中国の生活や文化を理解する。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	発音①(声調、単母音)	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
2	発音②(複母音)	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
3	発音③(子音)	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
4	発音④(鼻母音、声調の変化)	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
5	会話「こんにちは」；文法「挨拶、苗字や名前の言い方、人称代名詞」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
6	会話「私は日本人です」；文法「動詞“是”の文:A は B です」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
7	会話「これは辞書ですか」； 文法「指示代名詞；“~吗”を使う疑問文」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
8	会話「夏は暑い」； 文法「形容詞述語文；副詞“也”，～も」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
9	会話「何を買いますか」； 文法「動詞述語文；疑問詞を使った疑問文」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
10	会話「メニューがありますか」；文法「存在を表す“有”と“在”；場所代名詞」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
11	会話「今日は何月何日ですか」；文法「数字に関連する表現、日付、曜日の言い方」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
12	会話「いま何時ですか」； 文法「時刻の言い方」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
13	会話「テーブルの上に何がありますか」；文法「方位詞、~の上；量詞、ものの数え方」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
14	会話「あなたの家は学校まで遠いですか」； 文法「所有、所属を表す“~的”；前置詞」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
15	まとめ	前期で勉強した内容を復習し、定着させる。(2 時間)	
テキスト	山下輝彦著『入門中国語の小窓』(同学社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	中国語 II	担当者	周 業欣
区分等	1年次・後期[演習] 2単位・選択/生活文化専攻		
評価基準	平常点(20%)、試験(80%)。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	初級中国語の基礎表現や文法ポイントを学習することによって、中国語の基礎能力を養う。		
到達目標	1)発音記号(ピンイン)に慣れ、自分で綴りを読んだり、聴き分けしたりすることができる。 2)勉強した日常会話や表現を応用することができる。 3)初級中国語の文法について理解し、基本文を聴いたり、読んだり、書いたり、話したりすることができる。 4)日々の学習を通じて、中国の生活や文化を理解する。		
履修上の注意	「中国語 I」を履修済みであること。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	会話「コーヒー、それとも紅茶を飲みますか、」；文法「選択疑問文；助動詞その①、～がしたい」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
2	会話「あなたは中国に行ったことがありますか」；文法「過去の経験を表す；接続詞、～と」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
3	会話「王さんは来ましたか」；文法「動作の完了を表す；助動詞その 2、～できる」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
4	会話「明日、一緒にスキーに行きましょう」；文法「語気助詞、～でしょう；二重主語」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
5	会話「二か月間中国語を勉強しました」；文法「動作の量を表す；語気助詞、～は」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
6	会話「彼は卓球をやっています」；文法「動詞の進行形；様態補語」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
7	会話「私たちは映画を見に行きたい」；文法「目的を表す連動式；手段を表す連動式」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
8	会話「彼女にボーイフレンドがいますか」；文法「動詞の重ね型；反復疑問文」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
9	会話「張さんはまもなく結婚します」；文法「“まもなく～”；方向補語」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
10	会話「先生は王さんを行かせます」；文法「副詞の“都”；兼語(使役)式、～させる」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
11	会話「私の話、あなたは聞いてわかりましたか」；文法「結果補語；形容詞+“一点儿、少し～」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
12	会話「あなたはどこから来たのですか」；文法「“～したのです”」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
13	会話「私の自転車は彼に借りて行かれた」；文法「受け身の表現；存現文」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
14	会話「中国語は英語より難しい」；文法「比較の表現；やはり～」	教科書に付属した CD を聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。(1 時間)	
15	まとめ	後期で勉強した内容を復習し、定着させる。(2 時間)	
テキスト	山下輝彦著『入門中国語の小窓』(同学社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	Webプログラミング		担当者	米山修司
区分等	1 年次・後期 [演習] 2 単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	① 課題提出 (70%) ② 定期試験 (30%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。			
目的	① 簡単な Web ページを作成することを通して、Web ページの動作の基本を理解する。 ② 動的な Web ページを作成するための技術として、JavaScript の基礎的な知識を身につけ、プログラミングの考え方の基礎を習得する。			
到達目標	① Web ページの仕組みを理解し、説明することができる。 ② HTML 言語と CSS の基礎を理解し、簡単な Web ページを作成できる。 ③ JavaScript の基礎を習得し、簡単なプログラムを読んで理解することができ、必要に応じて変更することができる。			
履修上の注意	① PC の基本的な操作ができること。 ② 「プログラミング I」の単位を取得済みの学生は、履修不可。			
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	● ガイダンス ● Web の仕組み		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
2	● HTML① ～HTML の基本構文～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
3	● HTML② ～HTML による画像の表示と表の作成～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
4	● CSS による装飾とレイアウト		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
5	● JavaScript① ～変数・データ型・代入～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
6	● JavaScript② ～条件分岐～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
7	● JavaScript③ ～繰り返し処理 (for 文) ～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
8	● JavaScript④ ～繰り返し処理 (while 文) ～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
9	● JavaScript④ ～関数～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
10	● JavaScript⑤ ～配列～		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
11	● DOM		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
12	● イベント処理		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
13	● Canvas による描画		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
14	● 総合演習①		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
15	● 総合演習②		講義の総復習 (2 時間)	
テキスト	村上祐治『はじめての Web デザイン&プログラミング: HTML、CSS、JavaScript、PHP の基本』 (森北出版)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	表計算活用		担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・後期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	課題提出(30%)、授業内小テスト(70%)。			
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価を付けて返却する。			
目的	Excelの基本的利用技術を習得する。 Excelの活用法ならびに関数の利用法を学ぶ。			
到達目標	①情報処理技能検定(表計算)3級から1級までの問題を解析しながらExcelでの処理方法を学び、処理ができるようになること。 ②情報処理技能検定(表計算)準1級合格。			
履修上の注意	授業内容は段階を経て進めていくので、欠課した場合は担当者から内容を聞き、できるようにしておくこと。復習が必要。			
オフィスアワー	金曜日 13:00~16:30			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	情報処理技能検定(表計算)3級問題(1) 統計関数、端数処理、論理関数	授業の復習(1時間)		
2	情報処理技能検定(表計算)3級問題(2) 統計関数、端数処理、論理関数	授業の復習(1時間)		
3	情報処理技能検定(表計算)準2級問題(1) 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習(1時間)		
4	情報処理技能検定(表計算)準2級問題(2) 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習(1時間)		
5	情報処理技能検定(表計算)準2級問題(3) 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習と小テストのための練習(1.5時間)		
6	情報処理技能検定(表計算)2級問題(1) 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習(1時間)		
7	情報処理技能検定(表計算)2級問題(2) 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習(1時間)		
8	情報処理技能検定(表計算)2級問題(3) 論理関数、表検索、並べ替え、セル証明、グラフ	授業の復習と小テストのための練習(1.5時間)		
9	情報処理技能検定(表計算)準1級問題(1) データベース関数、文字列操作、端数処理	授業の復習(1時間)		
10	情報処理技能検定(表計算)準1級問題(2) データベース関数、文字列操作、端数処理	授業の復習(1時間)		
11	情報処理技能検定(表計算)準1級問題(3) データベース関数、文字列操作、端数処理	授業の復習と小テストのための練習(1.5時間)		
12	情報処理技能検定(表計算)1級(1) データベース関数、抽出、並べ替え	授業の復習(1時間)		
13	情報処理技能検定(表計算)1級問題(2) データベース関数、抽出、並べ替え	授業の復習(1時間)		
14	情報処理技能検定(表計算)1級問題(3) データベース関数、抽出、並べ替え	授業の復習と小テストのための練習(2時間)		
15	小テスト	授業の復習(1時間)		
テキスト	日本情報検定協会編・発行「情報処理技能検定試験表計算模擬問題集2級・準2級編」、同「1級・準1級編」			
指定図書	なし。			

科目名	ワードプロセッサ活用学A	担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・後期〔演習〕2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	課題提出(30%)、小テスト(70%)。		
課題に対するフィードバック	課題や小テストについては、評価を付けて返却する。		
目的	①Microsoft Office Wordの基本操作を学ぶ。 ②ビジネス文書に必要な、話しことばと口語体の書きことば、手紙文のことばなどについて学ぶ。 ③ビジネス文書を理解するために、多くの基本文例に触れる。また、的確で分かりやすいビジネス文書を理解するために、メモをもとにした、ビジネス文書の作成方法を学ぶ。 ④ワープロ検定試験2級程度の実力を身につける。		
到達目標	①タッチタイピングの習得を通して、自らのタイピングの問題点に気づき、課題を解決することで速度アップすることができる。 ②正しい書きことば(口語体)を使うことができる。 ③ビジネス文書の種類に応じた文書作成ができる。 ④ワープロ検定試験2級問題を制限時間内に完成できる。		
履修上の注意	授業開始時にログオンが完了していること。課題は期限内に提出し、教員のチェックを受けること。		
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:30		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	文書の基礎知識： 文の成り立ち、文章の構成、配置と基準	タッチタイピング練習。整理と確認。(1時間)	
2	社外文書：日本語ワープロ検定問題準2級 ページ設定、段落設定	タッチタイピング練習。準2級練習問題。(1時間)	
3	社外文書：日本語ワープロ検定問題準2級 タブ設定、罫線(表・レイアウト・デザイン)	タッチタイピング練習。準2級練習問題。(1時間)	
4	社外文書：日本語ワープロ検定問題準2級 1～3回目までの復習	タッチタイピング練習。準2級練習問題。(1時間)	
5	社外文書：日本語ワープロ検定問題2級 段落設定応用	タッチタイピング練習。2級練習問題。(1時間)	
6	社外文書：日本語ワープロ検定問題2級 罫線応用(表・レイアウト・デザイン)	タッチタイピング練習。2級練習問題。(1時間)	
7	社外文書：日本語ワープロ検定問題2級 5～7回目までの復習	タッチタイピング練習。2級練習問題。(1時間)	
8	社外文書：日本語ワープロ検定問題2級 小テスト2	タッチタイピング練習。準1級練習問題。(1時間)	
9	社外文書：日本語ワープロ検定問題準1級 ページ設定応用(グリッド線)、図形の挿入①	タッチタイピング練習。準1級練習問題。(1時間)	
10	社外文書：日本語ワープロ検定問題準1級 フォント応用、図形の挿入②	タッチタイピング練習。準1級練習問題。(1時間)	
11	社外文書：日本語ワープロ検定問題準1級 図形描画③	タッチタイピング練習。準1級練習問題。(1時間)	
12	社外文書：日本語ワープロ検定問題1級 図形の挿入④	タッチタイピング練習。1級練習問題。(1時間)	
13	社外文書：日本語ワープロ検定問題1級 図形の挿入⑤	タッチタイピング練習。1級練習問題。(1時間)	
14	社外文書：日本語ワープロ検定問題1級 9～13回目までの復習	タッチタイピング練習。1級練習問題。(1時間)	
15	文書の表現技能(表題、文体)	タッチタイピング練習。確認とまとめ。	
テキスト	講座でプリントを作成・配付。		
指定図書	なし。		

科目名	ICT基礎		担当者	米山修司
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	① 課題提出(50%) ② 定期試験(50%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。			
目的	① ネットワークとセキュリティに関する基本的な知識を養う。 ② ITパスポート試験のテクノロジ系の試験範囲のうち、ネットワークとセキュリティの範囲を理解することが出来る程度の知識を養う。			
到達目標	① ネットワークに関する基本的な知識を身につける。 ② セキュリティに関する基本的な知識を身につける。			
履修上の注意	① 前期開講の「情報科学入門」とセットで履修することが望ましい。			
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	● ガイダンス ● ネットワーク① ～ネットワークの構成～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
2	● ネットワーク② ～無線LAN～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
3	● ネットワーク③ ～通信プロトコル・WEBページ・ 電子メール～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
4	● ネットワーク④ ～インターネットの仕組み～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
5	● ネットワーク⑤ ～通信サービス～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
6	● セキュリティ① ～情報資産と脅威～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
7	● セキュリティ② ～サイバー攻撃～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
8	● セキュリティ③ ～情報セキュリティマネジメント～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
9	● セキュリティ④ ～リスクマネジメント～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
10	● セキュリティ⑤ ～利用者認証～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
11	● セキュリティ⑥ ～ネットワークセキュリティ～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
12	● セキュリティ⑦ ～暗号化技術～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
13	● セキュリティ⑧ ～デジタル署名と認証局～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
14	● セキュリティ⑨ ～セキュリティ関連法規～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
15	● 演習問題による総復習	講義の総復習（2時間）		
テキスト	栢木厚『令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』（技術評論社） ※ テキストは前期開講の「情報科学入門」と共通。 ※ 昨年度「情報科学入門」を履修しており、令和05年度版を所有している場合は、令和06年度版を買い直す必要はない。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	情報科学入門		担当者	米山修司
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	① 課題提出(50%) ② 定期試験(50%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。			
目的	① コンピュータに関する基本的な知識を養う。 ② ITパスポート試験のテクノロジ系の試験範囲のうち、半分程度を理解することが出来る程度の知識を養う。			
到達目標	① 情報の表現方法に関する基本的な知識を身につける。 ② コンピュータの構成や動作に関する基本的な知識を身につける。			
履修上の注意	① 後期開講の「ICT基礎」とセットで履修することが望ましい。 ② 計算問題を扱うため、基本的な計算能力を持ち合わせていることが望ましい。			
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガイダンス</li> <li>● N進数の考え方</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プログラミング言語</li> <li>● 言語処理系</li> <li>● 情報量の単位</li> <li>● 基数変換（10進数→N進数）</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文字コード</li> <li>● 基数変換（N進数→10進数）</li> <li>● N進数の加減乗除</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アナログとデジタル</li> <li>● 音声データのA/D変換</li> <li>● 画像データのA/D変換</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンピュータの5大装置①</li> <li>～制御装置と演算装置～</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンピュータの5大装置②</li> <li>～記憶装置～</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンピュータの5大装置③</li> <li>～入力装置と出力装置～</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アプリケーションソフトウェア</li> <li>● ユーザインタフェース</li> <li>● オープンソースソフトウェア</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オペレーティングシステム</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ファイルシステム</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンピュータの形態</li> <li>● システムの構成</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● システムの評価指標</li> <li>● システムの信頼性設計</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ソリューションビジネス</li> <li>● e-ビジネス</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AI（人工知能）</li> <li>● IoT（モノのインターネット）</li> <li>● ビッグデータとデータサイエンス</li> </ul>		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 演習問題による総復習</li> </ul>		講義の総復習（2時間）	
テキスト	栢木厚『令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる 栢木先生のITパスポート教室』（技術評論社） ※ テキストは後期開講の「ICT基礎」と共通。 ※ 昨年度「ICT基礎」を履修しており、令和05年度版を所有している場合は、令和06年度版を買い直す必要はない。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	Python I	担当者	米山修司
区分等	1年次・後期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	① 課題提出(60%) ② 定期試験(30%) ③ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。		
目的	① プログラミング言語 Python を用いた基本的なプログラミングを行う能力を養う。		
到達目標	① 基本的な Python のプログラミングの問題を解く能力を身に着ける。		
履修上の注意	① この科目は、プログラミングの演習科目である。それを理解した上で履修すること。 ② PC の基本的な操作ができること。 ③ 授業の後半でグループによる演習を行う。グループ演習では、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガイダンス</li> <li>● 環境構築</li> <li>● Hello World プログラムの実行</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指定された値の表示</li> <li>● 変数</li> <li>● キーボードからの値の入力</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データ型① ～整数型・浮動小数点型・文字列型～</li> <li>● 算術演算子</li> <li>● 型変換</li> <li>● 数値の文字列への埋め込み</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データ型② ～論理型～</li> <li>● 条件分岐① ～if 文～</li> <li>● コメントの記述</li> <li>● 比較演算子</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 条件分岐② ～else 節・elif 節～</li> <li>● 論理演算子</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 組み込み関数</li> <li>● ユーザ定義関数</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関数のモジュール化</li> <li>● 標準ライブラリ①（math モジュール）</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 繰り返し処理① ～for 文～</li> <li>● 複合代入演算子</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 繰り返し処理② ～while 文～</li> <li>● 変数の初期化</li> <li>● pass 文</li> <li>● 繰り返しの制御 ～break 文・continue 文～</li> <li>● 無限ループ</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リスト（list）</li> <li>● 標準ライブラリ②（random モジュール）</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
11	● 総合演習	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
12	● グループによるプログラミング演習 （カレンダーアプリの作成）①	必要に応じて授業時間外でグループ活動（2時間）	
13	● グループによるプログラミング演習 （カレンダーアプリの作成）②	必要に応じて授業時間外でグループ活動（2時間）	
14	● グループによるプログラミング演習 （カレンダーアプリの作成）③	発表資料の作成（2時間）	
15	● グループ演習の成果発表 （プレゼンテーション）	講義の総復習（2時間）	
テキスト	米山修司『初歩からはじめる Python プログラミング』（デザインエッグ）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	心理学A	担当者	織田栄子
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験でのテスト(30%)、中間まとめ(20%)、受講カードの提出と内容(20%)、受講取り組み態度(30%)。		
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	人間関係や集団の特徴、性格の成り立ちや心の持ち方、行動から捉える人間の特徴などを学ぶことにより、人間の心のしくみを理解する力を身に付ける。		
到達目標	①心的機能、心的過程を学ぶことにより、人間を理解できる。 ②自己理解、他者理解を深める。		
履修上の注意	なし。		
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・心理学とは何か	授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
2	社会的行動(社会心理学) 1 ・自己形成 ・対人認知	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
3	社会的行動(社会心理学) 2 ・非言語的コミュニケーション ・説得的コミュニケーション	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
4	社会的行動(社会心理学) 3 ・対人魅力 ・恋愛のスタイル	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
5	社会的行動(社会心理学) 4 ・リーダーシップ ・群集行動 ・普及と流行	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
6	パーソナリティと適応(臨床心理学) 1 ・パーソナリティ ・心理テスト ・知能検査	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
7	パーソナリティと適応(臨床心理学) 2 ・ストレスやフラストレーションと反応 ・防衛機制 ・コンフリクト(葛藤)	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
8	パーソナリティと適応(臨床心理学) 3 ・不適応や様々な心理的問題1 知的、発達、精神、パーソナリティの問題	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
9	パーソナリティと適応(臨床心理学) 4 ・不適応や様々な心理的問題2 ・中間まとめと解説	6～8回までの授業の復習、及び2冊以上「不適応や様々な心理的問題」に関連する参考文献を読み、要点をまとめる(2時間)	
10	パーソナリティと適応(臨床心理学) 5 ・心理的援助(心理的介入) ・様々な心理療法 精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
11	パーソナリティと適応(臨床心理学) 6 ・非行・犯罪 ・ダークトライアド	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
12	学習と動機づけ・情動(行動心理学) 1 ・様々な学習	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
13	学習と動機づけ・情動(行動心理学) 2 ・学習の応用	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
14	学習と動機づけ・情動(行動心理学) 3 ・動機づけ	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
15	学習と動機づけ・情動(行動心理学) 4 ・欲求	前回授業の復習(1時間) これまでの授業の復習(1時間)	
テキスト	金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説現代心理学入門 四訂版』(培風館)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	心理学B	担当者	織田栄子
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験でのテスト(30%)、中間まとめ(20%)、受講カードの提出と内容(20%)、受講取り組み態度(30%)。		
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	人間の成長に伴う心身の特徴、人間の物の見方や捉え方の特徴、記憶や思考、身体の特徴と心の働きなど学ぶことにより、人間のこころのしくみを理解する力を身に付ける。		
到達目標	①心的機能、心的過程を学ぶことにより、人間を理解できる。 ②自己理解、他者理解を深める。		
履修上の注意	なし。		
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・心理学とは何か	授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
2	成熟と成長(発達心理学) 1 ・発達とは何か	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
3	成熟と成長(発達心理学) 2 ・遺伝と環境	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
4	成熟と成長(発達心理学) 3 ・認知・言語・知能の発達	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
5	成熟と成長(発達心理学) 4 ・発達段階と発達課題 ピアジェ、エリクソン、フロイトの理論	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
6	成熟と成長(発達心理学) 5 ・社会的発達 ・中間まとめと解説	2～5回の授業の復習、及び2冊以上「発達」に関連する参考文献を読み、要点をまとめる(2時間)	
7	感覚と知覚(認知心理学Ⅰ) 1 ・感覚と知覚	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
8	感覚と知覚(認知心理学Ⅰ) 2 ・錯覚・空間知覚	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
9	感覚と知覚(認知心理学Ⅰ) 3 ・日常生活における応用	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
10	感覚と知覚(認知心理学Ⅰ) 4 ・アニメーションや映像における応用1	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
11	記憶・思考・言語(認知心理学Ⅱ) 2 ・アニメーションや映像における応用1	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
12	記憶・思考・言語(認知心理学Ⅱ) 3 ・記憶のしくみ ・忘却のしくみ	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
13	記憶・思考・言語(認知心理学Ⅱ) 4 ・思考のしくみ・心的イメージ ・言語とコミュニケーション	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
14	心的活動の生理学的基礎(生理心理学) 1 ・脳のしくみ	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
15	心的活動の生理学的基礎(生理心理学) 2 ・睡眠・夢のしくみ・夢分析について	前回授業の復習(1時間) これまでの授業の復習(1時間)	
テキスト	金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説現代心理学入門 四訂版』(培風館)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	哲学A	担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や感想をできる限り授業に反映する。		
目的	人間は「考える」生き物である。「哲学」は「考え方」を学ぶ学問であり、それによって「人間」や人生について考える学問である。ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』と映画『あん』を通して「哲学」を試みる。		
到達目標	「レポートの作成」によって上記の目的を自己評価する。		
履修上の注意	この科目は英語と日本語で開講します。英語と日本語の講義内容は同じです。		
オフィスアワー	授業紹介		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスと総論 Guidance and Introduction to Philosophy	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	「考える」ということ Philosophy of Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	「考える」ということ Philosophy of Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	「考える」ということ Philosophy of Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	「人生」について Philosophy of Life	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	「人生」について Philosophy of Life	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	「文明」と「歴史」について Philosophy of Culture and History	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	「文明」と「歴史」について Philosophy of Culture and History	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』を観る Ghibli Anime 「Only Yesterday」	前半8回までの講義資料をチェックしておく。	
10	ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』を観る Ghibli Anime 「Only Yesterday」	前半8回までの講義資料をチェックしておく。	
11	『おもひでぽろぽろ』を哲学する Philosophizing Movie 「Only Yesterday」	前半8回までの講義資料をチェックしておく。	
12	映画『あん』を観る Movie 「Ann」	前半8回までの講義資料をチェックしておく。	
13	映画『あん』を観る Movie 「ANN」	前半8回までの講義資料をチェックしておく。	
14	『あん』を哲学する Philosophizing Movie 「Ann」	前半8回までの講義資料をチェックしておく。	
15	世界の主な哲学 Various Philosophies of the World	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。		
指定図書	なし。		

科目名	哲学B	担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 1. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目的	「人がそれなしで生きていけないものについて考えるのが哲学である」という定義に基づいてそれぞれの思いを深める。		
到達目標	1. 「それなしで生きられないもの」とは何か、自分なりの答えを得る。 2. 人として、自分として・・・2つの視点に立つということ。		
履修上の注意	授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる(1200字以上)。		
オフィスアワー	毎週水曜日 12:15~14:40		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンスと総論	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	「食べる」について(1) Philosophy of Eating	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	「食べる」について(2) Philosophy of Eating	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	「住む」について(1) Philosophy of Living	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	「住む」について(2) Philosophy of Living	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	「着る」について(1) Philosophy of Wearing	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	「着る」について(2) Philosophy of Wearing	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	「家族」について(1) Philosophy of Family	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	「家族」について(2) Philosophy of Family	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	人間を考える Philosophy of Human Beings	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	個人としての人間 Man as Person	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	青年期と人間の目覚め Adolescence and Human Awakening	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	意識・思考の世界の人間 Human Beings in the World of Consciousness and Thinking	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	存在と命に対する基本的姿勢 Basic attitude towards existence and life	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	誠の愛を求めて In Search of True love	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし(テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する)。		
指定図書	なし。		

科目名	日本文学A		担当者	栗森 貢
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化・健康栄養専攻			
評価基準	定期テスト(50%)、授業に取り組む姿勢(20%)、授業で提出する課題(30%)により、総合的に評価する。			
課題に対するフィードバック	学生の進度に応じて個々にアドバイスをし、提出した学習シートにコメントを付して返却する。			
目的	古代から近世までの物語や日記、随筆などの解釈や音読を通して、当時の人々の考え方や日本人固有の情緒を感じ取るなどして、優れた作品を鑑賞する。			
到達目標	1. 作品に展開されている自然観や人間観などを捉えることができる。 2. 作中に織り込まれている心情や情景描写を味わったり、好きな表現箇所を積極的に自己の表現の中に取り入れようとしたりすることができる。			
履修上の注意	古語の意味確認や音読を積極的に行い、楽しみながら古文を読み味わうことに努めること。			
オフィスアワー	木曜日：14：00～17：00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 「竹取物語」を概観し、作品のよさに触れる。		授業計画に載っている作品を取り上げ、自分なりの鑑賞をする(2時間)	
2	「竹取物語」を作中人物の特徴を表す言葉を取り上げながら読み、音読の楽しさを味わう。		竹取物語の中から慣れ親しんでいる箇所を読み、作品の特徴を整理する(2時間)	
3	「土佐日記」を読み、京へ帰る喜びとともに世話になった土佐の人々と別れる寂しさ等を味わう。		土佐日記に紹介される各土地の地理的な特徴や紀貫之の業績等について調べる(2時間)	
4	「土佐日記」を読み、旅の途上に立ち寄った土地の情景や歌物語の叙情性を想像力豊かに味わう。		土佐日記を読み、そこから感じ取られる筆者の人生観を調べる(2時間)	
5	「枕草子」を読み、物事を機知的に捉える「をかし」を読み味わう。		中学や高校で学習してきた枕草子を読み返し、その特色をまとめる(2時間)	
6	「枕草子」を読み、随筆という新しい文学を開拓した清少納言の感性を味わう。		「をかし」を基本理念に据えた枕草子の特色をまとめる(2時間)	
7	「源氏物語」のおおよそのあらすじを知り、和歌的情緒の文体を味わう。		「源氏物語」の内容構成を登場人物を中心に調べる(2時間)	
8	「源氏物語」を読み、作り話の面白さや歌物語の叙情性を味わう。		帖の中から好きな箇所を取り上げ、何度か音読をする(2時間)	
9	「平家物語」を読み、戦いに生きる悲壮や仏教的無常観を基調としている特徴を理解する。		源氏と平家の興亡の様子や、軍記物語の特色を調べる(2時間)	
10	「徒然草」を読み、簡潔な和漢混合文や和文の美しさを感じ、平易で説得力のある文章を味わう。		中学や高校で学習で触れてきた徒然草を読み返し、その特色をまとめる(2時間)	
11	「徒然草」を読み、吉田兼好の人間観や仏教的無常観を味わう。		徒然草に表されている無常観や人間観などの特色をまとめる(2時間)	
12	「奥の細道」を読み、旅に心を寄せる思いや江戸を発つ心情を表現している和漢混合文を味わう。		中学や高校で学習してきた奥の細道を読み返し、その特色をまとめる(2時間)	
13	「奥の細道」の中で風光明媚な松島と象潟を読み、相違点や類似点等を対比しながら味わう。		松島と象潟について、地図や雑誌等から見えるそれぞれの特色や美しさを調べる(2時間)	
14	新潟以南の「奥の細道」を読み、芭蕉の風雅の世界が展開されている紀行文を味わう。		好きな箇所を詳しく読み、暗唱や視写などをして楽しむ(2時間)	
15	それぞれの文学の特色を振り返り、現代の日本人に深く通じる感性を中心にまとめる。		本科目を振り返り、それぞれの作品の特色を整理する(2時間)	
テキスト	授業時に文学に関する資料や記録のための用紙を配付。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	日本文学B		担当者	栗森 貢
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化・健康栄養専攻			
評価基準	定期テスト(50%)、授業に取り組む姿勢(20%)、授業で提出する課題(30%)により、総合的に評価する。			
課題に対するフィードバック	机間巡視の折に個々に応じたアドバイスをし、提出された学習シートに必要なコメントを付して返却する。			
目的	古代から近代までの詩歌、および近代の小説の鑑賞を通して、日本文学の特徴を理解する。			
到達目標	1. 古代から近代までの詩歌を読み、作品の特色を理解し味わうことができる。 2. 近代の優れた小説を鑑賞するとともに、特定の作家の特色をまとめることで、近代日本文学の特徴の一端を理解する。			
履修上の注意	多くの詩歌を詠じたり、作品集を編集したりすることを通して、日本文学の良さを体感的に味わうように努める。			
オフィスアワー	木曜日：14：00～17：00、金曜日：14：00～17：00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 「万葉集」のいくつかを読み味わう。		ジャンルの概要を調べ、それぞれの作品を読み自分の鑑賞を深める。(2時間)	
2	「万葉集」の中から歌を選び出し、情景や心情を味わい、様々な歌人の表現のよさを味わう。		万葉集の中から素朴さや雄大さの感じられる作品を取り上げて、声を出して詠む。(2時間)	
3	「万葉集」の中から東歌や防人歌など庶民の歌を選び出し、歌に込められた心情の昔と今の相違点を比較する。		万葉集の中から素朴さや雄大さの感じられる作品を取り上げて、声を出して詠む。(2時間)	
4	「古今和歌集」の調子や修辞の特徴を感じ取り、繊細で優美な作品の良さを味わう。		古今和歌集から好きな作品を取り上げ、朗読したり暗唱したりして楽しむ。(2時間)	
5	技巧的で幽玄な「新古今和歌集」に批評を添えて読み、独特な歌風を味わう。		新古今和歌集から好きな作品を取り上げ、朗読したり暗唱したりして楽しむ。(2時間)	
6	「小倉百人一首」を朗読し、情景や心情等の作品の特色を味わう。		百人一首から好きな作品群を取り上げ、朗々と詠う楽しさを味わう。(2時間)	
7	「小倉百人一首」を「かるた」の方法で親しみ、ゲームを楽しむ。		百人一首を「かるた」で楽しむために必要な基本的な知識や技法を身に付ける。(2時間)	
8	芭蕉の風雅や蕪村の絵画性、一茶の生活感などに代表される江戸の俳諧を読み味わう。		代表的な俳人や俳句について調べ、好きな俳句についての批評をまとめる。(2時間)	
9	明治以降の近代短歌や正岡子規にはじまる俳句を読み味わう。		近代短歌・俳句から好きな作家や作品について、その特色等を調べる。(2時間)	
10	近代短歌・俳句の中からテーマを決め、それに沿って批評を添えたアンソロジーを作る。		好きな作家や作品について、編集する小冊子の見通しをもつ。(2時間)	
11	「夏目漱石」の作品を読み、作者の描く人物像や心理描写に注目し、感想をまとめる。		明治から現代までの中から好きな詩を数点取り上げ、短い批評を加える。(2時間)	
12	「芥川龍之介」の作品を読み、心理描写の鮮やかな手法に関して感想をまとめる。		芥川龍之介の作品の何点かを読み、感想をもつ。(2時間)	
13	「宮沢賢治」の作品を読み、賢治の人生観に貫かれた作品の価値に触れ、感想をまとめる。		宮沢賢治の作品を読み、独特の言葉遣いや宗教的な価値観に対する感想をもつ。(2時間)	
14	自分が好きな近代作家を取り上げ、作品の特色や作家の功績について感想を添えてまとめる。		取り上げたい作家を決め、多方面について特色をまとめる。(2時間)	
15	取り上げた作家について、特色的な部分を取り上げて発表し合い、感想を交流する。		自分が紹介する作家について、発表の仕方を練習する。(2時間)	
テキスト	授業時に文学に関する資料や記録のための用紙を配付。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	日本国憲法	担当者	山本隆弘
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/全学		
評価基準	① 定期試験(80%)、②授業ごとの提出書類 (20%)		
課題に対するフィードバック	意見や質問に対し、随時助言や解説をする。		
目的	日本国憲法の条文解釈を通じて、人権感覚を養い、統治機構に関する知識を身に付けさせる。		
到達目標	どのような目的で憲法が制定されているのか、日常生活の中で憲法がどのように活かされているのかを理解し、日本国憲法の存在理由を知ることができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 16時15分～16時30分		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	憲法とは何か	日本国憲法の条文に目を通しておく (2時間)	
2	新しい人権と公共の福祉	講義資料の整理と確認 (2時間)	
3	表現の自由	講義資料の整理と確認 (2時間)	
4	精神的自由権と経済的自由権	講義資料の整理と確認 (2時間)	
5	自由権と社会権	講義資料の整理と確認 (2時間)	
6	労働と貧困	講義資料の整理と確認 (2時間)	
7	外国人の人権	講義資料の整理と確認 (2時間)	
8	人権と統治	講義資料の整理と確認 (2時間)	
9	日本国憲法成立の経緯	講義資料の整理と確認 (2時間)	
10	三権分立と法の支配	講義資料の整理と確認 (2時間)	
11	国民主権と国会の役割	講義資料の整理と確認 (2時間)	
12	裁判所の役割	講義資料の整理と確認 (2時間)	
13	国際法と国内法	講義資料の整理と確認 (2時間)	
14	日本国憲法の全体像	講義資料の整理と確認 (2時間)	
15	まとめ	これまでの復習 (2時間)	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科目名	法学	担当者	山本隆弘
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	① 定期試験(80%)、②授業ごとの提出書類 (20%)		
課題に対するフィードバック	意見や質問に対し、随時助言や解説をする。		
目的	社会生活において役立つ法に関する基礎知識を身に付けさせる。		
到達目標	日常生活の中で起こり得る種々の法律問題について理解し、解決するための基礎的能力を修得する。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 16時15分～16時30分		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	法とは何か	講義に関連した文献を読んでおく (2時間)	
2	家族と法Ⅰ 夫婦	講義資料の整理と確認 (2時間)	
3	家族と法Ⅱ 親子	講義資料の整理と確認 (2時間)	
4	家族と法Ⅲ 相続	講義資料の整理と確認 (2時間)	
5	契約について(契約責任)	講義資料の整理と確認 (2時間)	
6	交通事故と保険(不法行為責任)	講義資料の整理と確認 (2時間)	
7	労働と法	講義資料の整理と確認 (2時間)	
8	性的被害に巻き込まれたら	講義資料の整理と確認 (2時間)	
9	若年者の消費者被害	講義資料の整理と確認 (2時間)	
10	クレーム対応・民事介入暴力	講義資料の整理と確認 (2時間)	
11	企業・会社と法	講義資料の整理と確認 (2時間)	
12	犯罪と刑罰	講義資料の整理と確認 (2時間)	
13	少年事件	講義資料の整理と確認 (2時間)	
14	自己実現と自己統治	講義資料の整理と確認 (2時間)	
15	まとめ	これまでの復習 (2時間)	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科目名	人間関係論	担当者	野内友規
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/全学		
評価基準	到達目標1・2：レポートおよびシャトルカードにより評価する。(80%) 到達目標3：授業中の取り組み姿勢により評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目的	人間関係構築に関わる知識と技術、集団における人間関係のあり方についての基本的知識の習得および対人関係能力の向上を目的とする。		
到達目標	1. 人間関係構築に関わる基本的知識を身につける。 2. 基礎的なコミュニケーション・スキルを身につける。(コミュニケーション支援機器を使用しても可) 3. 他者を受け入れ、他者の感情に寄り添う態度をとることができる。		
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 2. グループワークでの最低限のコミュニケーション能力が備わっていること。 3. コミュニケーション等において合理的配慮が必要な場合は、第1回目に担当教員へ必ず相談をすること。		
オフィスアワー	月曜日 7・8限		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	自己理解：自己概念の確認	第1回の学習内容の振り返り(2時間)	
2	他者理解：多様な価値観の受容	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
3	他者理解と自己理解	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
4	ストレス・マネジメントの概要	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
5	ストレス・マネジメントの実践	第5回の学習内容の振り返り、 ストレス・マネジメントの実践・記録(2時間)	
6	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
7	共感と思いやりを意識したコミュニケーション	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
8	傾聴を意識したコミュニケーション	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
9	アサーションを意識したコミュニケーション	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
10	合意形成のプロセスとワーク	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
11	職場における人間関係	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
12	学校におけるクラス集団の理解	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
13	いじめを取り巻く人間関係	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
14	いじめ問題への支援 [視聴覚教材 映画「青い鳥」編集版]	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定の配付資料内容の確認(2時間)	
15	人間関係に関する基礎知識の言語化	第15回の学習内容の振り返り(2時間)	
テキスト	授業時に資料を配布するとともに、適宜、テキストを指示します。		
指定図書	適宜推薦図書を紹介します。		

科目名	リーダーシップのコーチング A セルフ・リーダーシップ (Self-Leadership)	担当者	Mathew Philip
区分等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業内での活動における達成度や参加姿勢 (20%) ② リアクションペーパーによるミニレポート (30%) ③ 仲間の自分を幸せにする力 (セルフ・リーダーシップ) スキルの評価 (50%)		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目的	① リーダーシップ・コーチングは、ロジャースの「人は誰でも自らの内部に、自己を成長させ、実現させる力を持っている」という考え方に基づいている。人には誰でも自分が望んでいる目標があり、その目標を自ら達成することができるように、自分が持っている個人的な特性と強みを活かして、自分がその能力と可能性を最大限に発揮し、自分で自分を幸せにするスキルを養成する。 ② 優しさと強さを兼ね備えた心を育成する。		
到達目標	① 高い自己認識・高い人格・夢・目標を持ち、主体的になりたい自分を実現させる力を感じる。 ② キャリア教育的視点を踏まえ、各々の夢を磨き、実現に向け目標の設定を行う。		
履修上の注意	リーダーシップ・コーチングは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンスと自己リーダーシップ論 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項		
2	自己リーダーシップって何・・・「自分を幸せにする力」What is Self-Leadership)	「Leadership」という英語の単語の日本語の意味を調べる 予習 (30分)	
3	自分を幸せにする力 (Self-Leadership) 私ってだれ(Who am I)	自分の事はどう思っているか家族に聞いてみる。 予習 (20分)	
4	① 人に私たちがどう見られていますか (How others see me)	「私ってだれ」というタイトルで 10 行の詩を書く。 予習 (30分)	
5	② 人間の意思決定の過程 (How do I make decisions)	自分の価値観のリストを作成する。予習 (30分)	
6	③ リーダーシップと関係性 (Relating to others) ジョハリの窓 自己開示・フィードバック	弱い立場に置かれている女性の話をテレビや新聞で収集する。 予習 (40分)	
7	④ 私の家族の事を知る (Knowing my family)	自分が思っている家族の良いところと嫌いなどのリストの作成。 予習 (20分)	
8	⑤ 自分が置かれている状況の確認 (Know your world)	「忘れられない友情」というタイトルで自分の友だちの話を 200 字で書く。 予習 (20分)	
9	⑥ 大切な私の使命 (Your mission)	自分が出来ることのリストを作成する。 予習 (20分)	
10	⑦ どうやって自分のキャリアを選ぶのか。 (How do I choose my career)	自分が良いと思うことのリストを作成する。 予習 (20分)	
11	⑧ 自分で自分を励ます能力 (Ability to encourage oneself)	自分のために自分が買った物のリストを作成する。 予習 (20分)	
12	⑨ 自分のモチベーションを意識する才能 (Motivation awareness)	授業内で紹介 (予習 40分)	
13	⑩ 自分を変えられるものと変えられないものを区別する能力 Talent to find what can be changed and cannot be changed	自分を変えられない自分のもののリストを作成する。 予習 (30分)	
14	⑪ 【リーダーシップに関するスキル】 「聴く」スキル・「伝える」スキル 実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」Listening, Hearing, and Speaking Skill	家でママの話を聞いてあげましょう。 予習 (40分)	
15	仲間のリーダーシップスキルを評価するリーダーシップ評価表の作成 How to Give Feedback	授業内で紹介 予習 (40分)	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科目名	リーダーシップのコーチング B サーバントとグローバル・リーダーシ ップ(Servant and Global Leadership)	担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業内での活動における達成度や参加姿勢 (20%) ② リアクションペーパーによるミニレポート (30%) ③ 仲間の (サーバントとグローバル・リーダーシップ) スキルの評価 (50%)		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目的	① 私たちは誰でも生まれながら、人の成長を支え、幸せにする力を持っている。自分の人を幸 せにする力 (サーバント・リーダーシップ) を認識し、日常生活の中で出会う人を幸せに し、会社や世界の舞台で活躍するスキルを育む。 ② 自ら規範を示し、周りや組織に奉仕しながら目標を成し遂げる力を身につける。 ③ 世界を幸せにする力を育成する。		
到達目標	① 社会の一員としての自覚を持ち、貢献する精神の自体験を行う。 ② 広い教養・国際性をもって異なる世界の文化や価値観を受容し、自らの考えをしっかりと伝 え、グローバル舞台で活躍し世界を幸せにする。 ③ 他者、会社、地域社会のために活躍する。 ④ 人を考えさせ、行動を促し、取るべき手段を引き出す。		
履修上の注意	リーダーシップ・コーチングは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じで す。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンスとグローバル地域リーダーシップ論 (Orientation) Global and Local Leadership) 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項	世界の有名なリーダーについて調べ、自分ロールモデルを 探す。(1時間)	
2	I. 人を幸せにする力 「サーバント・リーダーシ ップ」(Servant Leadership) って何。	人を幸せにした経験を 200 字で書く。(30分)	
3	① 自分と関わり合う人々を心得る (The people in my life)	最近自分と関わりのあるリストを作成する。 予習 (40分)	
4	② 友情 (Friendship)	聖書の良いサマリア人の話を読む。準備 (20分)	
5	③ 人間関係構築スキル(Some skills for relationship)	協力で成長した企業についての新聞記事を見つける。 予習 (50分)	
6	④ 自分が関わる組織や人を知る能力 (Getting to know your group) ①	自分が今秋田でしたいと思うことのリストを作成する。予 習 (40分)	
7	⑤ 会社や仲間を理解する能力 (Getting to know your group) ② ・交流分析・構造分析・ライフボディション	最近関わっている団体での自分の一つの経験を 200 字で書 く。予習 (40分)	
8	⑥ 役割分担能力 (Sharing responsibility)	家族内での役割分担について 100 字で書く。 予習 (40分)	
9	⑦ 情報収集能力(Understanding how the groups work)	学校の自分の部活動の経験を 100 字で書く。 予習 (40分)	
10	⑧ 問題解決能力(Dealing with problems in the group)	新聞の戦争についての記事を読む。 予習 (20分)	
11	⑨ 行動を起こす能力(Doing actions)	Zoom を使って海外の NGO と交流 予習 (30分)	
12	II. 世界を幸せにする力 (Global Leadership) (グロ ーバル・リーダーシップ) 情報分析能力 (How to look up information)	自分が世界のためにできることのリストを作成する。 予習 (20分)	
13	① グローバルに友情を育む才能 Ability to foster global friendship	外国に住んでいる友だちのリストを作成する。 予習 (20分)	
14	② 世界的な経験とリスクマネジメント能力 Global experience and risk management ability	自分のグローバル・リーダーシップの評価表を作る。予 習 (30分)	
15	③ 仲間の① (①グローバル②サーバント・リーダ ーシップ) 評価表の作成 How to Give Feedback	自分のサーバント・リーダーシップの評価表を作る。 予習 (40分)	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科目名	比較文化A		担当者	横溝眞理
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	前期講義の内容に関するレポート。			
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについては、学生の要望に応じて、添削箇所を開示し、教科内容についての理解をいっそう深められるようにする。			
目的	広い視野から紹介される日本・海外の様々な文化の特色について理解を深める。			
到達目標	①日本においては当たり前のことが海外では必ずしも当たり前でないことを知る。 ②海外の様々な文化について学ぶことにより、視野を広げる。 ③日本の文化を、今までとは異なった視点から見るができるようになる。			
履修上の注意	前期講義の中で2人の担当講師にレポートを提出する。課題の内容・分量は各担当講師が指示する。なお、レポートを作成するためには、その担当講師の授業に3回とも出席していることが条件である。座席は受講者が決定次第指定する。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45~16:15(横溝眞理)			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	4月17日 アジアと米 講師：佐藤光咲	事前：米や稲とは何かなど、その特色を、図書やネットで調べる。(1時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)		
2	4月24日 ヨーロッパと牧畜(肉食) 講師：佐藤光咲	事前：米を主食としない理由やヨーロッパの食事情について、図書やネットで調べる。(1時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)		
3	5月1日 世界を救ったジャガイモ 講師：佐藤光咲	事前：ジャガイモやその料理について、図書やネットで調べる。(1時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)		
4	5月8日 「横浜」における”郷土愛教育” 講師：米山修司	講義で紹介した地域・文化について、自らが住んでいる地域との違いを調査する。(2時間)		
5	5月15日 「横浜」の視点からみる日本の”鉄道文化” 講師：米山修司	講義で紹介した地域・文化について、自らが住んでいる地域との違いを調査する。(2時間)		
6	5月22日 「横浜」の中の”外国”——横浜中華街と米軍基地問題を中心に—— 講師：米山修司	講義で紹介した地域・文化について、自らが住んでいる地域との違いを調査する。(2時間)		
7	5月29日 比較言語学への招待(1) 講師：近藤清兄	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
8	6月5日 比較言語学への招待(2) 講師：近藤清兄	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
9	6月12日 比較言語学への招待(3) 講師：近藤清兄	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
10	6月19日 中国の製紙文化と日本和紙 講師：周業欣	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
11	6月26日 中国の庭園と日本の枯山水 講師：周業欣	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
12	7月3日 中国の食文化 講師：周業欣	講義で紹介したドキュメンタリー映像や番組を見る(2時間)。		
13	7月10日 ドイツの教育制度 講師：横溝眞理	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
14	8月28日 ドイツの職業教育 講師：横溝眞理	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
15	9月4日 ドイツの大学 講師：横溝眞理	教室で指示された参考書籍を読んでおく(2時間)。		
テキスト	なし。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	比較文化B	担当者	横溝眞理
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	後期講義の内容に関するレポート。		
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについては、学生の要望に応じて、添削箇所を開示し、教科内容についての理解をいっそう深められるようにする。		
目的	広い視野から紹介される日本・海外の様々な文化の特色について理解を深める。		
到達目標	①日本においては当たり前前かが海外では必ずしも当たり前でないことを知る。 ②海外の様々な文化について学ぶことにより、視野を広げる。 ③日本の文化を、今までとは異なった視点から見ることができるようになる。		
履修上の注意	後期講義の中で2人の担当講師にレポートを提出する。課題の内容・分量は各担当講師が指示する。なお、レポートを作成するためには、その担当講師の授業にすべて出席していることが条件である。座席は受講者が決定次第指定する。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45~16:15(横溝眞理)		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	9月25日 文化とは何か ― 文化のバリエーションを知る 講師:菅野 薫	講義の復習・日本とその他の国の文化の比較(2時間)	
2	10月2日 言語からみる文化 ― 日本語と英語の比較 講師:菅野 薫	講義の復習・日本語と英語の比較(2時間)	
3	10月9日 国際語としての英語 ― 世界で話される英語の比較 講師:菅野 薫	講義の復習・国際語としての英語と英語圏で話される英語の比較(2時間)	
4	10月16日 異文化理解とアメリカ合衆国 講師:佐藤光咲	事前:アメリカ合衆国について知っていること、イメージをまとめる。(1時間) 事後:授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)	
5	10月23日 世界の学校・日本の学校 講師:佐藤光咲	事前:外国の学校について、その特色を図書やネットで調べる。(1時間) 事後:授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)	
6	10月30日 ヨーロッパ文化の成立と歴史 講師:佐藤光咲	事前:ヨーロッパ文化の特色について、図書やネットで調べる。(1時間) 事後:授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)	
7	11月6日 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 講師:大曾基宣	事前:長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の中で、興味のある教会や集落ひとつについてインターネットを用いて調べる(1時間)。 事後:授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)	
8	11月13日 健康増進事業と生活習慣の国際比較 講師:大曾基宣	事前:中国、ソロモン諸島、タイ王国、日本の4カ国のうち、興味のあるひとつの国の生活習慣について書籍やインターネットを用いて調べる(1時間)。 事後:授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)	
9	11月20日 保育・幼児教育の国際比較 講師:大曾基宣	事前:アイスランド、韓国、ドイツ、日本の4カ国のうち、興味のあるひとつの国の保育・幼児教育の特徴について書籍やインターネットを用いて調べる(1時間)。 事後:授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1時間)	
10	11月27日 各国のインターネット利用状況 講師:佐藤 恵	(事前) インターネットの歴史を調べる。 (事後) まとめと確認(2時間)	
11	12月4日 インターネットショッピング 講師:佐藤 恵	(事前) ネットショッピングサイトを閲覧し、利便性を比較する。 (事後) まとめと確認(2時間)	
12	12月11日 ネットコミュニティ 講師:佐藤 恵	(事前) ネットを利用したコミュニケーションについて、自分の考えをまとめておく。 (事後) まとめと確認(2時間)	
13	12月18日 教会暦とクリスマス 講師:横溝眞理	教会暦に関する参考書籍を授業中に指示するので、目を通しておくこと(2時間)。	
14	1月22日 ドイツのクリスマスで飾るもの 講師:横溝眞理	ドイツ語圏のクリスマスに関する参考書籍を授業中に指示するので、目を通しておくこと(2時間)。	
15	1月29日 ドイツのクリスマスで食べるもの 講師:横溝眞理	3回分の講義に基づいて、ドイツにおける祝祭日の特徴を考察し、文章にまとめる(2時間)。	
テキスト	なし。		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	グローバル世界と地域文化B Global World and Local Culture B	担当者	Mathew PHILIP
区分等	1 年次・後期 [講義] 2 単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業への参加姿勢：20% ② 授業のテーマへのコメントペーパー：20% ③ プロジェクト作成：60%		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目的	講義の目的およびねらいは以下の3点です。 ① 地域と世界の文化・習慣・政治・経済を学び、日本にいる世界の人々と楽しく働き、暮らすスキルの取得。 ② 海外で日本企業や現地の企業で働き、生活を楽しむことや、国際公務員のキャリアに興味を持ち、必要なスキルを身につける。 ③ グローバル社会と日本(社会)との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得る。		
到達目標	講義の到達目標は以下の5点です。 ① 国際機関や日本の海外企業で働く意欲を示す。 ② 世界で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。 ③ 世界各地や日本国内で実践されているグローバル化の取り組みを知る。グローバル化によって各地がどのような課題を抱えているのかを理解し、わたしたちの身の回りの出来事に対して、グローバル精神の視点から考える。 ④ 表面化されていない秋田のグローバル化を調査して浮き彫りにし、コメントを新聞やネットに投稿ができる。 ⑤ グローバル精神の基礎知識をもって、グローバル化の日本社会の現状を論じる。人権を基調としたグローバル感覚やメディア・リテラシー情報を読み解く。		
履修上の注意	グローバル世界と地域文化Bは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション (Orientation)		
2	グローバル化によって繋がる地域文化 Globalization and Local Culture	日本で人気がある世界のお祝いごとを調べる。 予習 (40分)	
3	グローバル化による世界の女性の意識変化 Globalization and Women	最近自分が感じた自分自身の意識の変化を50字で書く。 予習 (40分)	
4	グローバル化がもたらした地域の働き方の変化 Globalization and Working Habit	最近自分が感じた自分自身の働き方の変化を50字で書く。 予習 (40分)	
5	グローバル化の中の人々の生き方 Human living and Globalization	アフリカのグローバル化の現状について新聞の記事を読む。予習 (30分)	
6	グローバル宗教文化 Global Religious Culture	授業内で紹介。予習 (40分)	
7	地域のもの作りと企業のグローバル化 Globalization of Local Business	グローバル化による日本企業のメリットをネットで調べる。予習 (40分)	
8	グローバルマナー (Global Manners)	Zoomでイ宗教的習慣についてイスラム教徒の家族のインタビュー予定 予習 (40分)	
9	グローバル文化 (Global Culture)	ネットで世界の最近の流行りごとを調べる。予習 (30分)	
10	世界の食文化のグローバル化	授業内で紹介。予習 (40分)	
11	グローバル化による世界の人の移動と課題	学生のブラジルに住んでいる日本人の家族と zoom インタビュー。予習 (30分)	
12	グローバル化の中で広がる子どもの可能性	日本にいる留学生についての新聞の記事を読む。	
13	Global Business グローバルビジネス企画方法	グローバル化について自分の考えを100字で書く。 予習 (20分)	
14	Global Migration and Women (グローバル移住労働者と女性)	外国から日本に来た宗教についてネットで調べる。 予習 (20分)	
15	グローバル・コミュニケーション・スキル Global Communication	英語で自己紹介。予習 (40分)	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科目名	日本文化史A	担当者	渡部育子
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	授業中に提出するミニレポート 40点、期末に提出するレポート 60点、合計 100点。合計 100点の 60点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	秋田に展開した生活・文化の歴史を中心に、歴史学の基礎的教養を修得する。		
到達目標	1. 秋田の文化史について自分自身の言葉で説明することができる。 2. 古代国際社会のなかの秋田について理解することができる。 3. 学舎が隣接する国指定史跡・秋田城跡の価値を理解できる。		
履修上の注意	1. 高校で日本史・世界史を履修していなくてもさしつかえない。 2. 授業中、復習のポイント（重要な点）と次回の内容（予習の方法）について指示する。 3. レポート作成に際しては必要に応じて個別指導も行い、目標達成に向けて努力する。		
オフィスアワー	水曜日 14:15～14:45 左記以外の時間帯は要アポイントメント		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	秋田のルーツを探る	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2時間)	
2	日本文化と東アジア	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。東アジアから伝来した日本文化について考える。(2時間)	
3	日本古代国家の国際化	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。当時の国際世界である東アジアとの外交における秋田の位置づけについて考える。(2時間)	
4	「あきた」の登場（『日本書紀』に見える「あきた」）	配付プリントの復習。7世紀半ばに秋田が歴史書に登場したことの意味について考える。(2時間)	
5	出羽国の成立	学歌の「出羽の国のおとめ吾」という歌詞を読んでみる。古代の出羽国の成立について授業の内容を復習する。(2時間)	
6	出羽柵の「秋田村高清水岡」への移転と秋田城東門の造営（学舎から見える奈良時代の建物です）	「秋田村高清水岡」の地名は733年、『続日本紀』に記される。復習としてノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2時間)	
7	秋田城下の多様な人びと	指定図書『図説秋田市の歴史』を利用して予習、復習をする。(2時間)	
8	天長の秋田大地震（830年にマグニチュード7.5）	配付プリントをチェックする。分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。(2時間)	
9	史跡・秋田城跡について	指定図書『図説秋田市の歴史』を利用して予習。秋田城跡の史跡としての価値を考える。(2時間)	
10	自分で興味をもつ秋田の文化に関するテーマを探す（テーマ設定）	現代の秋田がかかえる諸問題、秋田の文化の特質について考え、授業中に質問したいことをメモする。(2時間)	
11	インクルーシブをキーワードに日本文化を考える	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2時間)	
12	日本古代の社会に生きる人々	これまでの授業を振り返り、分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。古代の人びとの「生きる力」を想像してみる。(2時間)	
13	古代国家の北の玄関口（北方外交）・秋田の人びとの仕事と暮らし	ノートとこれまでの配付プリントの整理。秋田城が古代国家最北の行政機関であり、北方外交の拠点であったことから、古代の秋田について考える。(2時間)	
14	日本列島のなかでみる秋田の文化レポート、学術論文の書き方について	レポート作成内容について予測を立ててみる。分からないことについて質問をメモしておく。レポート作成のため図書館の蔵書を検索する。(2時間)	
15	まとめ	自分で興味を持つテーマを発展させる。(2時間)	
テキスト	授業中に参考文献を紹介する。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	日本文化史B		担当者	渡部育子
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	授業中に提出するミニレポート 40点、期末に提出するレポート 60点、合計 100点。合計 100点の 60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	日本文化・日本社会の歴史的特質について理解し、21世紀において歴史学が果たすべき役割について考察する力を養う。			
到達目標	1. 日本古代に生きた人々の生活・文化について理解し、説明することができる。 2. 日本列島に展開した文化の特徴について説明できる。 3. 自分自身が興味をもっているテーマについて、簡単なレポートを作成することができる。			
履修上の注意	1. 高校で日本史・世界史を履修していなくてもさしつかえない。 2. 授業中、復習のポイント（重要な点）と次回の内容（予習の方法）について指示する。 3. レポート作成に際しては必要に応じて個別指導も行い、目標達成に向けて努力する。			
オフィスアワー	水曜日 14:15～14:45 左記以外の時間帯は要アポイントメント			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	日本文化のルーツを探る	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2時間)		
2	歴史を読み直して分かること	中学校や高等学校で学んだ歴史についてわからないことはなかったか、思いかえしてみる。何のために歴史を学ぶのか、考えてみる。新たな発見があったかどうか、確認する。(2時間)		
3	奈良の都に住む多様な人々	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。現代都市と古代都市の共通点について考える。(2時間)		
4	古代の人びとの暮らしと文化	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2時間)		
5	古代の女性たちの生き方に見るインクルーシブ	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。古代の女性の生き方と政治・社会について考える。(2時間)		
6	女性天皇について考える。初めての女帝・推古天皇	「女帝」は律令の法律用語です。ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。(2時間)		
7	秋田に注目した斉明天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『図説秋田市の歴史』を見る。(2時間)		
8	激動の時代を生きた持統天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。皇位継承についてプリントを確認する。(2時間)		
9	奈良時代は女帝の世紀。平城京遷都をなしとげた元明天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『元明天皇・元正天皇』(2時間)		
10	自分で興味をもてる日本文化に関するテーマを探す(テーマ設定)	現代の日本がかかえる諸問題、日本の文化の特質について考え、授業中に質問したいことをメモする。図書館の蔵書を検索する。(2時間)		
11	母から娘への皇位継承。元正天皇	ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『元明天皇・元正天皇』(2時間)		
12	古代最後の女帝・称徳天皇とその時代	ノートの整理。天平文化の時代の政治・社会について復習する。華やかな文化財については、図書館の図録を参考にしてもよい。(2時間)		
13	女性と政治について考える	これまでの授業を振り返り、分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。(2時間)		
14	世界史的にみる日本文化 レポート、学術論文の書き方について	レポート作成内容について予測を立ててみる。分からないことについて質問をメモしておく。レポート作成のため図書館の蔵書を検索する。(2時間)		
15	まとめ	自分で興味をもつテーマを発展させる (2時間)		
テキスト	授業中に参考文献を紹介する。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	スポーツ科学A		担当者	大貫葉子
区分等	1年次・前期〔講義・実技〕1単位・選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	スキルテスト、レポートおよび、学習態度などを総合して評価する。			
課題に対するフィードバック	授業内で、個別に対応する。			
目的	健康を保持増進するためには、日常生活において身体活動・運動を取り込んだライフスタイルの形成が重要である。この時間では、積極的に身体活動・運動に取り組み、生涯を通してスポーツに関わることができる資質や能力を身につける。			
到達目標	<p>実技では、心と体を一体としてとらえ、身体活動・運動についての理解と実践を通して、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる資質や能力を育てることを目標とする。ゴール型球技では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開することができる。ネット型球技では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができる。ベースボール型球技では、「蹴る」「投げる」「捕る」などの基本的なボール操作技能に加え、ゲーム状況に応じた戦術的な行動判断を展開することができる。</p> <p>講義では、豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を中心に、スポーツの歴史と文化的特性や現代のスポーツの特徴、女性アスリートのコンディショニングについて知識を習得する。</p>			
履修上の注意	<p>スポーツシューズ、季節に見合ったトレーニングウェアを着用してください。(内履きでの受講は禁止です。) 怪我防止のため、アクセサリ類は外してください。各自筆記用具を持参してください。</p> <p>諸事情により欠席、もしくは見学する場合は、事前に担当教員に連絡してください。 ※受講者数により、開設科目について変更する場合があります。</p>			
オフィスアワー	16:20～16:30			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション・ストレッチ		種目の基本動作やルールを確認しておく。(1.5h)	
2	バスケットボール パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
3	バスケットボール パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
4	バスケットボール 総合練習、トーナメント・リーグの進め方		ゲームのポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
5	バスケットボール まとめ		技術のポイントを反省し、まとめておく。(1.5h)	
6	卓球 フォアハンド・バックハンドストロークの技術		技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
7	卓球 サーブ・スマッシュの技術		技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
8	卓球 総合練習 ダブルスゲームの進め方		ゲームのポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
9	フットサル パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
10	フットサル パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
11	フットサル 総合練習、トーナメント・リーグの進め方		ゲームのポイントを反省し、まとめておく。(0.5h)	
12	卓球・フットサル まとめ		技術のポイントを反省し、まとめておく。(1.5h)	
13	室内キックベース (※受講者数により科目に変更あり)		技術のポイントを反省し、まとめておく。(2h)	
14	スポーツの歴史と変遷・オリンピックと国際理解		講義ノートを整理しておく。(2h)	
15	女性アスリートのコンディショニングプログラム		講義ノートを整理しておく。(2h)	
テキスト	プリントを配付する。			
指定図書	なし。			

科目名	スポーツ科学B		担当者	渡邊和仁
区分等	1年次・後期 [講義・実技] 1単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	スキルテスト、レポートおよび学習態度などを総合して評価する。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案を行うことにより受講者へフィードバックする。			
目的	各種スポーツのルール・技術・戦術などを学習しながら、生涯に渡ってスポーツを実践できる能力や態度を身につける。また、現代社会におけるスポーツの意義や運動に関する科学的知識などを学び、心身ともに健康で豊かな生活を送るための基礎を培う。			
到達目標	実技では、打ち返し型のボールゲーム（バドミントン・バレーボール）の技術・戦術上の基本的な動きと簡易ゲームができること。また、講義ではスポーツの意義や運動が心身に及ぼす効果に関する知識を習得すること。			
履修上の注意	体育館シューズとスポーツウェアを準備してください。やむを得ない事情により見学または欠席する場合は、担当教員に連絡してください。 *受講者数などを考慮し、実施するスポーツ種目について変更する場合があります。			
オフィスアワー	月曜日 12:20～12:50			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および時間	
1	オリエンテーション		種目のルールを確認しておく（1.5時間）	
2	バドミントン オーバーアームストロークの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5時間）	
3	バドミントン サイドアームストロークの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5時間）	
4	バドミントン サーブ・クリア・ドライブ・スマッシュの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5時間）	
5	バドミントン 総合練習 ダブルスゲームの進め方		簡易ゲームのポイントを反省し、まとめておく（1時間）	
6	バドミントン 総合練習 トーナメントの進め方・リーグの進め方		トーナメントやリーグの仕方を反省し、まとめておく（1時間）	
7	バレーボール オーバーハンドパスの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5時間）	
8	バレーボール アンダーハンドパスの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5時間）	
9	バレーボール サーブ・アタックの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5時間）	
10	バレーボール グループ戦術の基本		戦術ポイントを反省し、まとめておく（1時間）	
11	バレーボール チーム戦術の基本 トーナメントの進め方・リーグの進め方		戦術ポイントを反省するとともに、トーナメントやリーグの仕方を反省し、まとめておく（1時間）	
12	現代におけるスポーツの意義		プリントを用いて講義内容を復習する（1.5時間）	
13	運動による肥満の予防・改善		プリントを用いて講義内容を復習する（1.5時間）	
14	運動による身体諸機能の向上		プリントを用いて講義内容を復習する（1.5時間）	
15	まとめ		これまでの実技と講義の内容を整理する（2時間）	
テキスト	プリントを配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	アメリカ文化A	担当者	Rachel Youngblood
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (50%) Homework (20%) Final Presentation (30%)		
課題に対するフィードバック	Classroom discussions and activities will expand on topics through encouraging students to utilize their own knowledge of Japanese culture, supported by teacher feedback and comments.		
目的	The aim of this course is to introduce students to important aspects of American culture and society through a variety of topics.		
到達目標	Students will be able to utilize critical thinking skills and expand their perspectives through comparisons of Japanese and American culture.		
履修上の注意	This course is taught in English.		
オフィスアワー	To be announced		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Introduction to the course, What is culture? / Associations	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 1 予習 (1 hour)	
2	American History I: Discovery & Settlement	Chapter 1 & PowerPoint 復習 (1 hour)	
3	American History II: Revolution & Independence	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
4	American History III: Bill of Rights & Gun Culture	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
5	Holiday Culture I: Columbus Day, Thanksgiving, & Halloween	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 5 予習 (1 hour)	
6	American History IV: Early Equality & Women	Chapter 5 & PowerPoint 復習 (1 hour)	
7	Viewing: <i>A League of Their Own</i>	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
8	Viewing: <i>A League of Their Own</i>	Reflection Writing 復習 (1 hour)	
9	Holiday Culture II: Christmas	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
10	Holiday Culture III: New Years	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 4 予習 (1 hour)	
11	American Society: The American Dream, Immigration, & American Families	Chapter 4 & PowerPoint 復習, Chapter 14 予習 (1 hour)	
12	American Food: Customs, Traditions, & Recipes	Chapter 14 & PowerPoint 復習 (1 hour)	
13	Final Presentation Preparation	Chapters 1, 4, 5, 14 & PowerPoints 復習	
14	Final Presentation Preparation	Chapters 1, 4, 5, 14 & PowerPoints 復習	
15	Final Presentations		
テキスト	Todd Rucynski & Yoko Nakagawa "American Vibes" (Kinseido)		
指定図書	None		

科目名	ドイツ語圏文化A		担当者	横溝真理
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	①レポート(80%) ②授業毎の課題(20%)			
課題に対するフィードバック	課題は添削し、講評をつけて返却する。			
目的	ドイツ語圏についての理解を深めること。			
到達目標	①ドイツ語圏に住む人々の文化・歴史・社会・生活習慣について知識を得る。 ②ドイツ語圏と日本との違いを考える。			
履修上の注意	①「ドイツ語 I・II」を履修していること。 ②冬休み前に提示されるテーマから一つを選んでレポート(2000字以上)を作成してもらう。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45~16:15			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および時間	
1	中欧とドイツ	教科書 10~16 ページを読む。「中欧」とはどのあたりなのか、教科書 177 ページの地図を見ながら考える。(2時間)		
2	ドイツという国	教科書 16~21 ページを読む。「連邦共和国」とは何か、考える。(2時間)		
3	同じ車社会であっても	教科書 26~27 ページを読む。日本との違いを調べる。(2時間)		
4	ドイツ的経済合理性	教科書 28~29 ページを読む。ドイツ人らしい「質実剛健」とはどのようなものなのか、考える。(2時間)		
5	清潔感あれこれ	教科書 29~30 ページを読む(2時間)。		
6	マイスター制度とドイツ・ブランド	教科書 30~35 ページを読み、ドイツを代表するブランドには何があるか、調べてみる。(2時間)		
7	ドイツの新聞・雑誌・放送	教科書 35~38 ページを読む。新聞発行部数について日独の違いを調べる。(2時間)		
8	「君よ知るや南の国」ードイツ人のイタリア憧憬	事前に配付された詩の対訳を読み、どのような季節感が描かれているのかを考える。(2時間)		
9	余暇先進国ドイツ	教科書 38~40 ページを読む。ドイツにおける労働時間短縮にはどのような背景があるのか、考える。(2時間)		
10	結婚と離婚、子育て事情	教科書 44~49 ページを読む。結婚と離婚、子育て事情について、日本との違いを考える。(2時間)		
11	ドイツのクリスマス	事前に配付された詩について、単語の意味を調べ、授業中に訳せるようにしておく。(2時間)		
12	ゴミ処理と環境問題	教科書 41~44 ページを読む。環境保護に関する先進的な取り組みが成功している背景について考える。(2時間)		
13	ドイツのショッピング事情	教科書 96~98 ページを読む。「商店閉店法」について調べるとともに、24時間営業のコンビニエンスストアがたくさんある日本との違いを考える。(2時間)		
14	ナチスドイツと、現代におけるヒトラー回帰	教科書 155~159 ページを読む。ナチスによる政権奪取の過程を調べるとともに、現代におけるネオナチ問題について考える。(2時間)		
15	ドイツのこれからの課題、そして日本	教科書 186 ページに列挙された課題から、レポートのテーマを選び、ドイツと日本の違いについてまとめる。(2時間)		
テキスト	高橋憲『最新版 ドイツの街角から』(郁文堂)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	地域リーダーシップ論	担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目的	「人がそれなしで生きていけないものについて考えるのが哲学である」という定義に基づいてそれぞれの思いを深める。		
到達目標	1. 「それなしで生きられないもの」とは何か、自分なりの答えを得る。 2. 人として、自分として・・・2つの視点に立つということ。		
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる(1200字以上)。		
オフィスアワー	授業で紹介		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1	Guidance and Theories of Local Leadership	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Leadership Styles as Determinant of Community Organization Effectiveness in a Local Community	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	Skills to Adaptable to Situations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Being Alert to Social Environment	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Skills to be Ambitious and achievement-oriented	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Skills to be Kind and Assertive	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	Skills to be Cooperative	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	Need to be Decisive and Giving	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	Skills to Become Dependable	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	Being Dominant (Human Desire to Influence Others)	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Skills to be Energetic (High Activity Level)	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	Goal and Persistence for Local Community Building	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	Self-confidence	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Tolerant of Stress	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	Willing to assume Responsibility	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし(テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する)。		
指定図書	なし。		

科目名	食生活論		担当者	熊谷昌則
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。			
目的	食の歴史や現代の食生活・食文化等について論じ、専門職であるフードスペシャリストとしての知識と心構えを身につけさせると同時に、食生活のあり方等についても考察させる。			
到達目標	生活文化専攻の学習成果の一つである、食に関する知的理解と実践的な力が身につく。健康栄養専攻の学習成果である、栄養士としての基本的知識を身につけることに関連し、次の到達目標を掲げる。 1. 食の歴史や現代の食生活・食文化等について習得する。 2. フードスペシャリストの概念、責務等を理解し、その特徴を正しく説明できる。 3. フードスペシャリストとして必要な食に関わる専門知識が身につく、その特徴を正しく説明できる。			
履修上の注意	1. フードスペシャリスト資格取得を目指す者は、必ず履修すること。 2. 予習と復習をしっかりと行うこと。 3. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 4. 健康栄養専攻の学生は特に、食品学総論、食品学各論、食品衛生学など、他の授業・実習科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	人類と食物(Ⅰ) 人類の歩みと食物	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 27～35頁の予習(2時間)		
2	人類と食物(Ⅱ) 食品加工・保存技術史	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 36～44頁の予習(2時間)		
3	世界の食 食作法、食の禁忌と忌避、世界各地の食事情	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 45～60頁の予習(2時間)		
4	日本の食(Ⅰ) 日本食物史	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 61～71頁の予習(2時間)		
5	日本の食(Ⅱ) 食の地域差	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 71～78頁の予習(2時間)		
6	現代日本の食生活(Ⅰ) 食生活の変化	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 79～93頁の予習(2時間)		
7	現代日本の食生活(Ⅱ) 食料自給率	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 94～102頁の予習(2時間)		
8	食品産業の役割 フードシステムと食品産業	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 103～122頁の予習(2時間)		
9	食品の品質規格と表示(Ⅰ) JAS	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 123～135頁の予習(2時間)		
10	食品の品質規格と表示(Ⅱ) 食品表示法	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 135～149頁の予習(2時間)		
11	食品の品質規格と表示(Ⅲ) 食品添加物	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 149～156頁の予習(2時間)		
12	食品の品質規格と表示(Ⅳ) 健康や栄養に関する表示制度	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 156～172頁の予習(2時間)		
13	食情報 発信と受容、濫用、情報管理	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 173～180頁の予習(2時間)		
14	消費者保護 食品の安全と安心	小テストの振り返り、前週の復習(2時間) テキスト 180～189頁の予習(2時間)		
15	フードスペシャリストとは	テキスト 1～26頁の予習(2時間)		
テキスト	『四訂フードスペシャリスト論 第7版』(建帛社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	食品と調理	担当者	豊嶋瑠美子
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	定期試験 (40%)、小テスト (30%)、提出物 (20%)、受講態度 (10%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題は適宜返却する。		
目的	健康な食生活を送るために必要な調理理論を習得する。		
到達目標	食品の調理特性、調理操作、調理機器の特徴を総合的に学び、食事設計の基本について理解できる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜日 15:00~16:00		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	調理の概念	講義の復習 (1時間)	
2	基礎調理操作 (1) 調理と温度 (2) 加熱方式・伝熱・熱媒体 (3) 食品の保存	講義の復習 (1時間)	
3	基礎調理操作: 加熱調理操作	講義の復習 (1時間)	
4	基礎調理操作: 非加熱調理	講義の復習 (1時間)	
5	食品の調理特性と調理 植物性食品 米、日本料理	指定図書および配付資料を参考にして授業内容を復習する。(2時間)	
6	日本料理のマナー・箸の使い方・中間まとめ等	該当する部分の指定図書を読み、概要を把握した上で授業に臨む。(2時間)	
7	アクティブラーニング (1)	講義の復習 (1時間)	
8	アクティブラーニング (2)	中間まとめに備え、授業スライドおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(2時間)	
9	正月料理 箸袋作製 中間まとめ等	オリジナル箸袋を作製する (2時間)	
10	アクティブラーニング (3)	該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
11	アクティブラーニング (4)		
12	フードコーディネーター (食卓の演出①)	テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(1時間)	
13	フードコーディネーター (食卓の演出②)	該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
14	テーブルコーディネーター	レポートを作成し、発表の準備をする。(2時間)	
15	テーブルコーディネーター発表	レポートを作成し、発表の準備をする。(2時間)	
テキスト	なし		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	調理演習A	担当者	松田律子
区分等	1年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	演習記録(60%)、レポート課題(40%)。		
課題に対するフィードバック	提出物は、コメントをつけて返却する。		
目的	調理理論に基づいた調理技術および手法を学ぶ。		
到達目標	1. 食品の扱い方、基本的な調理操作を身に付ける。 2. 調理手順どおり調理することができる。		
履修上の注意	材料費は別途で徴収する。 調理に適した服装で授業に臨むこと (エプロン・三角巾など着用)。		
オフィスアワー	火曜日 14時～15時		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	実習の目標と内容 調理の基本操作	授業内容の整理とまとめ (0.5時間)	
2	[日本料理]三色丼、麩のすまし汁、ほうれん草の朝地あえ	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
3	[西洋料理]コンソメジュリアン、プレーンオムレツ	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
4	[中国料理]鶏の中華風唐揚げ、かに玉、炒豆芽	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
5	[菓子]チョコレートケーキ、紅茶	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
6	[日本料理]厚焼き卵、グリーンアスパラガスの胡麻和え、夏みかんかん、	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
7	[西洋料理]鮭のムニエル、ニンジンのサラダ、コーンポタージュスープ	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
8	[中国料理]五目炒飯、酸辣湯、涼拌茄子	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
9	[日本料理]タコライス、スープ、ミルクプリン	演習した調理のふり返りと記 (0.5時間)	
10	[西洋料理]煮込みハンバーグ、ミネストローネ、ヨーグルトゼリー	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
11	[菓子]マフィン、紅茶	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
12	[韓国料理]ビビンバ丼、韓国風わかめスープ	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
13	[中国料理]涼拌麺、ザーサイと豚肉のスープ	演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
14	自由献立 (計画)	献立の確認と次回の予習	
15	自由献立 (調理演習)	献立作成・調理内容のふり返りとまとめ	
テキスト	資料を配付する。		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	調理演習B		担当者	松田律子
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	演習記録(60%)、レポート課題(40%)。			
課題に対するフィードバック	提出物は、コメントをつけて返却する。			
目的	調理理論に基づいた調理技術および手法を学ぶ。			
到達目標	基本的な調理操作を使い、日本料理・西洋料理・中国料理の日常食と行事食を作ることができる。			
履修上の注意	材料費は別途で徴収する。 「調理演習A」の履修、または同等の調理技術を必要とする。 調理に適した服装で授業に臨むこと (エプロン・三角巾など着用)。			
オフィスアワー	水曜日 10時～11時			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 調理の基本操作 実習計画		授業内容の記録 (0.5時間)	
2	[日本料理]秋刀魚の蒲焼丼、里いもと舞茸の味噌汁、白和え		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
3	[西洋料理]スパゲッティミートソース、シーザーサラダ		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
4	[中国料理]棒棒鶏、エビチリ、卵のスープ		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
5	[日本料理]だまご鍋、とんぶりの月見、茶巾しばり		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
6	[西洋料理]ピッツァ・マルゲリータ、鶏のマスタードパン粉焼き、イタリアンサラダ、フルーツヨーグルト		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
7	[中国料理]涼拌三絲、酢豚、豆腐皮湯		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
8	[菓子]フルーツケーキ、クッキー		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
9	[韓国料理]: キンパ、ブルコギ、チヂミ		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
10	[中国料理]あんかけ焼きそば、ワンタン		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
11	[行事食]クリスマス料理: フライドチキン、カボチャのポタージュ、カナッペ、ロールケーキ		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
12	[自由献立]弁当の献立作成		献立の確認と次回の予習 (0.5時間)	
13	[自由献立]行事食の献立作成		献立の確認と次回の予習 (0.5時間)	
14	[自由献立]弁当の調理		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
15	[自由献立]行事食の調理		演習した調理のふり返りと記録 (0.5時間)	
テキスト	資料を配付する。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	基礎デザイン論		担当者	周 業欣
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	①授業時のレポート (90%) ②授業の取り組み姿勢 (10%)			
課題に対するフィードバック	授業時のレポートは適宜返却し、授業内で講評する。			
目的	観点別のデザインとその試みを理解する力を養う。 デザインの目的、用途、成果を観点別にみる能力を身につける。 黄金比、人体や自然界、建築のプロポーションなどを理解する力を養う。			
到達目標	・デザインの目的、用途、成果の概要を理解できる。 ・生活の中のデザインに興味関心を持ち、生活に生かせることができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 12時15分～13時5分			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	情報を視覚化するデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
2	問題を解決するデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
3	生活を快適にするデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
4	目的別の椅子のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
5	文様のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
6	キャラクター、紹介のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
7	食のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
8	パッケージのデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
9	素材・ハンドクラフトのデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
10	文字・ポスター・色彩・形のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
11	ペーパークラフトのデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
12	こどものためのデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
13	景観・都市計画のデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
14	インテリア・アウトテリアのデザイン	授業で使われた用語等を調べておく。(1時間)		
15	人生のデザイン	デザインの可能性についてまとめ (1時間)		
テキスト	なし (授業時に資料プリントファイルを配布する)。			
指定図書	なし。			

科目名	色彩デザイン演習		担当者	周 業欣
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位・選択/生活文化専攻			
評価基準	・平常点(100点) 平常点等配点内訳:・授業振り返りシート(20点) ・授業内課題2回(40点・40点)			
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。			
目的	「価値をつくる力」を学ぶ。分野を問わずデザインの目的は問題解決を行い、新しい価値をつくりだすことにある。実践的な課題やワークショップなどを通して、激しく様変わりする世の中で求められるデザインの本質とは何か考える。			
到達目標	クリエイティブの仕事で必要とされる基本的な造形能力、物の考え方、コンセプトの立て方写真のディレクションなどの力を身につける。			
履修上の注意	Adobe Illustrator、Photoshopなどの基本的なスキルは必須。			
オフィスアワー	授業の前後 10 分間			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション、授業計画の概要		授業内容のまとめと確認(1時間)	
2	視覚言語と視覚メディア		授業内容の復習(1時間)	
3	問題提起と解決のワークショップ		授業内容の復習(1時間)	
4	[写真] カメラでの撮影方法1		授業内容の復習(1時間)	
5	[写真] カメラでの撮影方法2		授業内容の復習(1時間)	
6	視覚伝達表現 小冊子をつくる 概要		授業内容の復習(1時間)	
7	視覚伝達表現 小冊子をつくる 1		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)	
8	視覚伝達表現 小冊子をつくる 2		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)	
9	視覚伝達表現 小冊子をつくる 3		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)	
10	講評		まとめと振り返り(2時間)	
11	視覚伝達表現 ポスター 概要		授業内容の復習(1時間)	
12	視覚伝達表現 ポスター 1		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)	
13	視覚伝達表現 ポスター 2		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)	
14	視覚伝達表現 ポスター 3		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間)	
15	作品展示、最終講評		まとめと振り返り(2時間)	
テキスト	適宜、資料を配布			
指定図書	なし。			

科目名	コンピュータグラフィックス	担当者	坂本憲信
区分等	1年次・前期〔演習〕1単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	①授業への取り組み姿勢(40%) ②課題提出(60%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	PCツール(イラストレーター、フォトショップ)を用いて画像をデザインし計画的に作成するための基本的な操作について習得すること。		
到達目標	PCツールを用いて、意図する画像をデザインし計画的に作成することができる。		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	授業終了後		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション イラストレーター(1~7回) 基本機能について	授業内容の復習(1時間)	
2	「キャラクターマーク」の作図 (作図、トレース、描線、彩色、加工、文字入力等について学ぶ。)	授業内容の復習(1時間)	
3	「キャラクターマーク」の作図(継続)	授業内容の復習(1時間)	
4	「キャラクターマーク」の完成	授業内容の復習(1時間)	
5	「地図」の作図 (より複雑な作図やオブジェクトの加工、整列等について学ぶ。)	授業内容の復習(1時間)	
6	「地図」の作図(継続)	授業内容の復習(1時間)	
7	「地図」の完成	授業内容の復習(1時間)	
8	フォトショップ(8~12回) 基本機能について	授業内容の復習(1時間)	
9	画像の切り抜き・合成のレッスンと応用	授業内容の復習(1時間)	
10	レタッチ・色調補正のレッスンと応用	授業内容の復習(1時間)	
11	コラージュのレッスン	授業内容の復習(1時間)	
12	コラージュの作成	授業内容の復習(1時間)	
13	イラストレーターとフォトショップの複合操作 (13~15回) 課題「1ヶ月カレンダー」のテンプレート作成	授業内容の復習(1時間)	
14	「1ヶ月カレンダー」の作成	授業内容の復習(1時間)	
15	「1ヶ月カレンダー」の完成および講評 まとめ	授業内容の復習(1時間)	
テキスト	授業時に資料を配付する。		
指定図書	授業内で適宜紹介する。		

科目名	グラフィックデザイン演習		担当者	坂本憲信
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	①授業への取り組み姿勢 (40%) ②課題提出 (60%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	意図した内容を画面上に、具体的にデザイン表現できる能力を身につけること。			
到達目標	意図した内容を画面上に、具体的にデザイン表現することができる。			
履修上の注意	PCツール (イラストレーターおよびフォトショップ) の基本操作ができること。 「コンピュータグラフィックス」(前期) を履修していることが望ましい。			
オフィスアワー	授業終了後			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 「名刺」の課題説明 課題作成に向けてのレッスン (PCツール操作の振り返り)		自分の名刺のデザイン検討 (1時間)	
2	自分の名刺を作成する (タテ・ヨコ)		授業内容の復習 (1時間)	
3	「名刺」の講評 「ZINE (手作り雑誌)」の課題説明		「ZINE」の内容検討、画像素材の準備 (1時間)	
4	「ZINE」の素材作成・加工		「ZINE」のページ構成検討 (1時間)	
5	「ZINE」の作成		授業内容の復習 (1時間)	
6	「ZINE」の完成データ提出		授業内容の復習 (1時間)	
7	「ZINE」の製本および講評		授業内容の復習 (1時間)	
8	「カレンダー」の課題説明およびテンプレート作成		「カレンダー」の内容および構成の検討 (1時間)	
9	「カレンダー」の素材作成・加工		「カレンダー」の素材作成・加工 (1時間)	
10	「カレンダー」の作成		授業内容の復習 (1時間)	
11	「カレンダー」の完成データ提出		授業内容の復習 (1時間)	
12	「カレンダー」の製本および講評 「アニメーション」の課題説明		「アニメーション」の内容検討 (1時間)	
13	「アニメーション」のレッスン		「アニメーション」の素材準備 (1時間)	
14	「アニメーション」の作成		授業内容の復習 (1時間)	
15	「アニメーション」の講評 まとめ		授業内容の復習 (1時間)	
テキスト	授業時に資料を配付する。			
指定図書	授業内で適宜紹介する。			

科目名	基礎経済論		担当者	熊丸博隆
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	定期試験 70%、中間まとめ 30%			
課題に対するフィードバック	講義中に課題に取り組み、質問の回答などを次の回の授業にてフィードバックを行う。			
目的	経済学の基礎的知識の取得を通して、経済学的な思考様式を身につける。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準的な経済学が扱うトピックについて列挙できる。</li> <li>経済学的思考を身につけ、日々の新聞・ニュースで扱われる経済問題に対して、自分なりの見解を持つことができる。</li> </ul>			
履修上の注意	板書形式で行います。また予習・復習および日々のニュース・新聞記事等に関心を持って講義に臨んでください。			
オフィスアワー	講義終了後の時間			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	イントロダクション ———経済学的思考とは———		「経済学」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも1つ探し、経済学に対する自分なりのイメージを固めて（あるいは再構築して）みる（1時間）。	
2	市場と均衡：モノの価格はどのようにして決まる？		「市場」について、指定図書を参考にしつつ自らの考えをまとめてみる（1時間）。	
3	余剰分析：モノの最適な配分とは		指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2時間）。	
4	需要の価格弾力性：価格が下がると物はさらに売れる？		需要の価格弾力性が現実でどのように活かされているかを調べる（1時間）。	
5	課税：酒税や消費税は社会にどのような影響を与える？		指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2時間）。	
6	国際貿易：なぜ貿易を行うのか		指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2時間）。	
7	ゲーム理論：2人の行動はどのような結果を生み出すのか		「ゲーム理論」に関する状況を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる（1時間）。	
8	ミクロ経済学の復習・中間まとめ		これまでの経済学で学んだことが現実でどのように活かされているかを調べる（2時間）。	
9	国民所得：豊かさとは		「GDP」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる（2時間）。	
10	45度線分析（1）：有効需要の原理		指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2時間）。	
11	45度線分析（2）：均衡国民所得		指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2時間）。	
12	45度線分析（3）：乗数理論		指定図書を参考にしつつ、練習問題を解いてみる（2時間）。	
13	財政学：政府が持つ役割		「税金」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる（2時間）。	
14	金融：日本銀行が持つ役割		「日本銀行」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる（2時間）。	
15	国際マクロ経済学：為替レートとは		「為替レート」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる（2時間）。	
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	時事経済		担当者	熊丸博隆
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	定期試験 70%、受講態度 (小レポート課題含む) 30%			
課題に対するフィードバック	講義中に行う小レポート課題や質問の回答など次の回の授業にてフィードバックを行う。			
目的	現代社会が内包する多種多様な経済問題を適切に理解するためには、それらの歴史的な背景や内情をデータから知ることが非常に重要である。本講義では様々な公共問題や社会問題を経済学的な観点から概観し、現代の諸問題を自らの頭で考えていくための土台を築く。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本経済の歩みの中で、社会問題の背景や状況を説明できる。</li> <li>・近年の日本経済に生じている変化について列挙できる。</li> </ul>			
履修上の注意	予習・復習および、日々のニュース・新聞記事等に関心を持って講義に臨むこと。			
オフィスアワー	講義終了後の時間			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	イントロダクション ——— 経済学の概要 ———	「日本経済」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも1つ探し、これからの日本経済の展望について自分なりに見解をまとめてみる (1時間)。		
2	人口・労働政策	秋田の人口減少に関して自分なりに調べてみる (2時間)。		
3	食料政策	「フードロス」が現実でどのように対応されているかを調べる (1時間)。		
4	経済格差	経済格差の是正に関連して、授業で扱ったもの以外について自分なりに調べてみる (1時間)。		
5	財政学 (1) : 財政とは	「財政政策」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
6	財政学 (2) : 国債とは	「債務残高」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
7	公共事業	「公共財」に関して自分なりにまとめてみる (2時間)。		
8	公共福祉	「福祉」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
9	金融政策	「金融政策」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
10	貿易政策	自由貿易と保護貿易の違いに関して自分なりにまとめてみる (2時間)。		
11	為替レートの決定理論	「為替レート」の変動が与える影響について、自分なりにまとめてみる (2時間)。		
12	環境政策 (1) : 環境問題と外部性	「公害」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
13	環境政策 (2) : 地球温暖化	「地球温暖化」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
14	環境政策 (3) : 廃棄物問題	「廃棄物」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
15	エネルギー問題・生態系	「再生可能エネルギー」に関わるニュース記事を少なくとも1つ探し、自分なりに理解してみる (2時間)。		
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配付する。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	消費生活論		担当者	小野寺倫子
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位・選択／生活文化専攻 2年次・前期〔講義〕2単位・選択／生活文化専攻			
評価基準	期末レポート(40%)および授業ごとの提出物(ふりかえりシート)(60%)によって評価する。 60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスやコメントをする等によりフィードバックを行う。			
目的	現代の消費者に求められる基本的な知識を身に付け、健全な消費生活を実践できる力を養う。			
到達目標	①現代の消費社会の特徴を理解し、健全な消費生活を実践できるようになる。 ②消費者保護のための制度や相談窓口について知り、悪徳商法等から身を守ることができるようになる。 ③生産者の生活や環境に配慮することの大切さを理解し、消費者市民としての自覚を持つことができるようになる。			
履修上の注意	身近な生活の中で消費生活にかかわる問題に関心を払ってください。			
オフィスアワー	授業後10分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	イントロダクション:私たちの生活と消費、消費者問題		新聞やインターネットなどで最近、消費生活に関連してどのような問題が起きているのか調べる(2時間)	
2	日本における消費者問題・消費者政策の歴史		前回のノートの整理と確認、テキストでの予習、復習(2時間)	
3	市場競争と消費者保護		同上	
4	消費者の権利と消費者法		同上	
5	消費生活における未成年者、高齢者の保護		同上	
6	消費者契約の特色、クーリングオフ		同上	
7	消費者向け金融と消費者の保護		同上	
8	クレジットカード取引		同上	
9	欠陥商品被害からの消費者救済		同上	
10	食品、医薬品等の安全と消費者		同上	
11	環境問題と消費者(消費生活と環境配慮、ゴミ問題)		同上	
12	消費生活の向上における消費者運動、消費者団体の役割		同上	
13	消費者保護のための行政の仕組み		同上	
14	消費者を育てる:消費者教育		同上	
15	まとめ		これまでの授業全体の内容についてふりかえりを行い、自分自身の消費生活上の課題を検討する(2時間)	
テキスト	神山久美・中村年春・細川幸一『新しい消費者教育 これからの消費生活を考える〔第2版〕』(慶応義塾大学出版会)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	食料経済		担当者	佐藤 了
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①定期試験・レポート (70%) ②受講態度 (30%)			
課題に対するフィードバック	私たちの食卓からさかのぼって、食料の生産・流通・消費のつながりとその変遷、世界と日本の食料事情と安全性に関する課題などについて理解を深める。			
目的	授業を通して次のことができる力を養う。 1 『豊かな食卓』を支える仕組みの概要を理解する。 2 農場と食卓の距離拡大の実態と問題点の概要を理解する。 3 『安全な食料の安定的確保』に向けて、自覚的消費者として自らで調べ、行動していく能力を身に付ける。			
到達目標	1 教科書の予習・復習を欠かさず実行すること。 2 授業の中で取り上げる小演習問題等を活用して自らの調査力・行動力をきたえること。			
履修上の注意	講義の前後の時間			
オフィスアワー	講義の前後の時間			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	イントロダクション 食料経済で何を学ぶか 第1編 “豊かな食卓” の解析		事前に1時間、事後に1時間、教科書等を熟読し、自分を食生活のスペシャリストに育てるのに有益な食料経済情報を、自分から進んでノートすること。	
2	日本の食生活の変遷と特徴		(以下、同上)	
3	成熟期にきた食の需給			
4	すすむ食の外部化			
5	マーケティング基礎編			
6	マーケティング応用編			
7	第2編 遠ざかる農場から食卓への距離 農畜水産物の生産			
8	食品製造業の展開			
9	食品の流通			
10	増える食料・食品輸入			
11	第3編 国民食料の安定確保 世界の食糧問題			
12	日本の食料政策と食品政策			
13	食品の安全性と食をめぐる環境問題			
14	日本の食料問題			
15	討論：私たちが安全で安定した食生活を営むための課題			
テキスト	高橋正郎監修・清水みゆき編著『食料経済 (第6版)』(オーム社、2022.3.24)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	簿記		担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	①定期試験(80%)、②課題(20%)を総合して評価する。			
課題に対するフィードバック	課題については、評価をつけて返却する。			
目的	企業の経営成績および財政状態を把握するためには、簿記の知識が要求される。業務を遂行するための基礎的な複式簿記を学ぶ。			
到達目標	勘定科目や複式簿記の原理や実務が理解できる。			
履修上の注意	①簿記初学者を対象に日商簿記検定3級の基礎的な内容とする。 ②次回授業の予習ビデオを視聴し予め内容を理解しておく。授業では練習問題を解く。 ③講義・試験時に電卓を持参すること。			
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:30			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	簿記の意義としくみ		計算書の種類と、基本的な勘定科目を覚える	
2	仕分と転記		テキストの例題・練習問題の復習。(1時間)	
3	仕訳帳と元帳		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
4	決算		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
5	現金と預金		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
6	繰越商品・仕入・売上		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
7	仕入帳・売上帳		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
8	売掛金と買掛金		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
9	その他の債権と債務		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
10	受取手形と支払手形		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
11	有価証券		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
12	固定資産		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
13	貸倒損失と貸倒引当金・資本		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
14	収益と費用・税金		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
15	伝票		予習ビデオ視聴。プリントで復習。(1時間)	
テキスト	渡部裕亘他著『検定簿記講義 3級商業簿記』(中央経済社)			
指定図書	なし。			

科目名	秘書学概論		担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	・小テスト(80%) ・課題(20%)			
課題に対するフィードバック	提出物(レポート)については、随時コメントをつけて返却する。			
目的	秘書の仕事、組織での秘書の存在、秘書に求められる資質や能力など、秘書の役割全般について学習すると共に、その業務を通して企業組織についても学ぶ。			
到達目標	秘書とは実際どういう仕事をするのか、秘書の業務や役割について説明することができる。			
履修上の注意	①秘書士課程の必修科目である。 ②秘書検定問題集の解説を授業の中に取り入れる。 ③科目の特性上、生活行動面を含めたマナーも求める。			
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	秘書の定義と求められる基本能		ノートのまとめと確認(0.5時間)	
2	職務知識と職務内容・心構え①		ノートのまとめと確認。(1時間)	
3	職務知識と職務内容・心構え②		ノートのまとめと確認。(1時間)	
4	秘書に求められる資質		ノートのまとめと確認。(1時間)	
5	企業と経営① 組織		ノートのまとめと確認。(1時間)	
6	企業と経営② 職能		ノートのまとめと確認。レポート作成(2時間)	
7	企業活動と法律・税の知識① 企業会計		ノートのまとめと確認。(1時間)	
8	企業活動と法律・税の知識② 法律用語		ノートのまとめと確認。レポート作成(2時間)	
9	秘書と人間関係		ノートのまとめと確認。(1時間)	
10	秘書とコミュニケーション①接遇用語		ノートのまとめと確認。(1時間)	
11	秘書とコミュニケーション②話し方・聴き方		ノートのまとめと確認。(1時間)	
12	秘書と情報管理		ノートのまとめと確認。(1時間)	
13	秘書と国際化		ノートのまとめと確認。(1時間)	
14	秘書と異文化理解		ノートのまとめと確認。(1時間)	
15	秘書とプロトコール		ノートのまとめと確認。(1時間)	
テキスト	実務技能検定協会『秘書検定2級集中講義 改訂新版』(早稲田教育出版)			
指定図書	なし。			

科目名	秘書実務 I		担当者	小林紀子
区分等	1 年次・後期 [演習] 1 単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	①授業内演習 5 割 ②授業内まとめテスト 5 割			
課題に対するフィードバック	①提出課題については、随時解説をし返却する。 ②模擬試験などは、個別に添削指導する。			
目的	秘書士として職務を果たすのに必要な基礎的知識・技術を学び、円滑な人間関係を作れる資質やセンスのある人格育成、並びに、状況判断、問題解決、表現などの職能開発をする。			
到達目標	実務課題に対する知識を理解し、基礎的演習ができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 12 時 15 分～13 時 05 分			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	オリエンテーション オフィスワーカーの能力開発の方向づけ	秘書検定 2 級以上の合格を推奨していますので、各自計画的に学習すること。(2 時間以上)		
2	マナー・接遇 I 敬語、接遇用語基礎演習	問題集 (2 時間以上) 言葉づかい記述対策		
3	マナー・接遇 II 慶弔業務の知識と演習	問題集 (2 時間以上) 上書き学習		
4	技能 I ビジネス文書の作成	問題集 (2 時間以上) 文書用語学習		
5	技能 II 通信業務と文書取扱い業務演習	問題集 (2 時間以上) 一般知識用語学習		
6	ファシリティ・マネジメント オフィス環境とバーチャルファイリング	技能領域テキスト見直し (1 時間)		
7	話し方 人間関係をつくる話し方演習	マナー・接遇領域テキスト見直し (1 時間)		
8	来客応対 I 基本要領とパターントレーニング	振り返り (1 時間)		
9	来客応対 II 状況に応じたロールプレイング	振り返り (1 時間)		
10	サービスと接遇 ホスピタリティの理解と模擬演習	振り返り (1 時間)		
11	電話応対 I 基本要領を知るためのケース・スタディ	振り返り (1 時間)		
12	電話応対 II 状況に応じたロールプレイング	振り返り (1 時間)		
13	電話応対 III 異なるオフィス形態でのロールプレイング	振り返り (1 時間)		
14	検定対策 秘書検定 2 級対応	模擬試験 (2 時間)		
15	まとめ デスクワークと実技	テキスト・問題集の見直し (2 時間)		
テキスト	『秘書検定集中講義 2 級』(早稲田教育出版) 『秘書検定実問題集 2 級』(早稲田教育出版)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	ビジネス実務総論		担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	定期試験(60%)、レポート(20%)、課題(20%)を総合して評価する			
課題に対するフィードバック	提出物(課題・レポート)については、随時コメントをつけて返却する。			
目的	将来社会人となり仕事(ビジネス)に就いたとき、仕事(ビジネス)にはどのような知識や能力が求められるかを学ぶ。 ビジネス実務マナー検定問題を通して、基本的なビジネス実務マナーについて学ぶ。			
到達目標	ビジネス実務の概念、個人業務、協働業務、ビジネスの変化について説明することができる。 ビジネスの基本的なマナーを知ることができる。			
履修上の注意	ビジネス実務士課程の必修科目である。 遅刻・欠席の場合、事前に連絡をする。課題の提出期限を守る。			
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	オリエンテーション	「あいさつ」はなぜ必要か、自分の考えをまとめる。(1時間)		
2	ビジネス実務の定義	「仕事の責任」について、自分の考えをまとめる。 ノートの整理と確認。(1時間)		
3	ビジネス社会とは① ビジネスと経営資源	ふりかえり(1)。関心のある3業種×3社の「企業理念」を調べる。(2時間)		
4	ビジネス社会とは② 社会と企業	ふりかえり(2)。ノートの整理と確認(1時間)		
5	企業とは① 企業の目的・経営理念	ふりかえり(3)。関心のある3業種×3社の「社会貢献活動」を調べる。(2時間)		
6	企業とは② 企業の会計	ふりかえり(4)。関心のある3業種×3社の「財務諸表」を調べる。(2時間)		
7	経済の動きと日常生活① 経済主体と経済現象	ふりかえり(5)。市場価格調査。(2時間)		
8	経済の動きと日常生活② 貧困・格差社会	ふりかえり(6)。市場価格調査。(2時間)		
9	グローバル社会とビジネス グローバル化と新興国	ふりかえり(7)。普段使用している物の原材料や、製品の輸出入先を調べる(2時間)。		
10	さまざまな働き方 働く意義と働き方の変化	ふりかえり(8)。理想の働き方を考える。(2時間)		
11	税と社会保険 税の役割と社会保険	ふりかえり(9)(10)。税金について調べる。(2時間)		
12	地域連携とボランティア ボランティアの意義と地域連携の背景	ふりかえり(11)。ボランティアの必要性について考えをまとめる。(2時間)		
13	現代社会における情報管理 情報管理・インターネットとビジネス	ふりかえり(12)。これまでに起きた情報に関する事件を調べる。(2時間)		
14	協働業務とマネジメント	プリントを読む。ノートの整理と確認。(1時間)		
15	まとめ	ノートの整理と確認。(1時間)		
テキスト	水原道子・大島武 編著『新版 ビジネス実務総論』(樹村房)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	ビジネス実務演習 I		担当者	佐藤 恵
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	①プレゼンテーション・ロールプレイングなどの発表(70%) ②グループワークへの貢献(30%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をして学生にフィードバックする。			
目的	職場で役立つビジネス実務を身につけるために、ビジネス実務マナーやオフィスワークの理論を学ぶ。また、理論を実践に移すためにトレーニング学習を通して、ビジネス実務を学ぶ。			
到達目標	ロールプレイングによる実務訓練により、社会人としての基本的なマナーが身につき、実践できるようになる。			
履修上の注意	ビジネス実務士（全国大学実務教育協会）課程の必修科目である。 授業内の課題や演習問題は積極的に取り組むこと。			
オフィスアワー	月曜日 13:00～16:30			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ビジネスパーソンとマナー		テキストを読み、予習と復習を行う。（1時間）	
2	自己表現：言語表現と非言語表現		まとめと確認。ポイント学習。	
3	ビジネスの言葉遣い：敬語（1）		まとめと確認。	
4	ビジネスの言葉遣い：敬語（2）		まとめと確認。ポイント学習。	
5	電話応対：取り次ぎ①		まとめと確認。	
6	電話応対：取り次ぎ②		まとめと確認。	
7	電話応対：かけ方①		まとめと確認。	
8	電話応対：かけ方②		まとめと確認。ポイント学習。	
9	来客応対：受付		まとめと確認。	
10	来客応対：取り次ぎ・案内①		まとめと確認。	
11	来客応対：取り次ぎ・案内②		まとめと確認。ポイント学習。	
12	クレーム対応：原因・心構え・対応		まとめと確認。ロールプレイ準備。	
13	クレーム対応：ロールプレイ		まとめと確認。ポイント学習。	
14	自己理解とリフレーミング（プラスにとらえる）		まとめと確認。	
15	自己理解とプレゼンテーション（自己PR）		まとめと確認。	
テキスト	宮田篤編著『新ビジネスとオフィスワーク』（樹村房）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	グローバル経済		担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	1. 研究レポート(80%) 1. リアクションペーパー(20%)			
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。			
目的	1. 世界経済を理解し、参加し、地域経済の活性化の方法を学ぶ。 2. 文化のおよび言語的に多様な世界の中で経済の動きの知識を深める。			
到達目標	1. 地域のグローバル化を支えることができるようになる。 2. 地域住民として、グローバル市民として・・・2つの視点に立つということ。			
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる(1200字以上)。			
オフィスアワー	授業で紹介します。			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	Overview of the Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Does Globalization Promote Economic Growth? A Meta-analysis		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	How does the Global Economy Work?		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Global Supply Chain		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Global Production Chain		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Global Digital Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	Services and sustainable development.		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	Global Economics: Trade, Investment and Development		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	European Union in the Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	African Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Chinese Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	Japan in Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	China in Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Global Labor Market		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	World Economy - How Economic Policy can Help the World Recovery		研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし(テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する)。			
指定図書	なし。			

科目名	インドビジネス文化	担当者	Mathew Philip
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻 2年次・後期 [講義] 2単位 選択/健康栄養専攻		
評価基準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目的	文化はビジネスの重要な要素であり、ビジネスの戦略的方向性に影響を与える事を知る。企業で働き、インドや南アジアでビジネスを行う際の大切なビジネス文化とマナーを学ぶ。文化の違いがグローバルビジネスに与える影響を特定する。		
到達目標	1. 地域企業のグローバルビジネスの促進力なる。 2. 南アジアへの地元企業の進出を支えるに必要なスキルを身につく。		
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる(1000字以上)。		
オフィスアワー	授業で紹介		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1	Orientation, Concept of Indian Business	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Japanese Business in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	Indian Business Culture and Etiquette インドのビジネス文化とマナー	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Language and Communication in Indian Traditional Business	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Indian Global Companies Business Meetings and Negotiations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Understanding Business Relationships in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	The Role of Net Working with Local Communities in Indian Business	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	The Ways to Create Business Platforms in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	Cultural Differences and Similarity between Japan and India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	Indian Traditional Business Negotiations and Practices	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Understanding the Impact of Culture on Business in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	India's Economy, Its Challenges, Opportunities, and Impact	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	Business Opportunities in Indian Religious Practices and Festivals	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Starting a Business in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	Greater Business Opportunity in India for Japanese Companies	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし(テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する)。		
指定図書	なし。		

科目名	卒業研究		担当者	佐藤光咲
区分等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修/生活文化専攻			
評価基準	①論文(60%) ②発表や研究に取り組む姿勢(30%) ③履修カードの内容及び小レポートの提出(10%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題レポートや発表等を課し、発表の成果やレポートの返却時に評価を付し解説する。			
目的	世界の主な食べ物について、そのルーツや食生活の特色を風土や歴史との関連で研究を行い、論文を完成させることができるようにする。			
到達目標	①世界の主な食べ物について、そのルーツや食生活の特色を風土や歴史などとの関連で考察し、説明できる。 ②食べ物や食文化に関心を持ち、生活を豊かなものにしていこうという態度を身に付ける。 ③小論文をまとめ、発表できるようにする。			
履修上の注意	3時間の学習内容から各自小テーマを決め、発表、ディスカッションを行う。(前期3回)			
オフィスアワー	(前期) 火曜日 15時～16時、(後期) 金曜日 15時～16時			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	「世界の食文化」ガイダンス、米のルーツ	米や稲作に関する情報を図書やネットから調べ、まとめる。(0.5時間) 授業内容のまとめと確認(1.5時間)		
2	我が国への伝播と広がり、稲作(米)と日本人一年中行事、祭り	関連図書を読んでおく、授業のまとめと確認(1時間)		
3	米と秋田一ふるさと秋田の文化と祭り	関連図書を読んでおく。(1時間) 授業のまとめと確認(1時間)		
4	小テーマの設定と研究	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。(2時間)		
5	研究のまとめとディスカッション	研究のまとめと発表の準備(2時間)		
6	麦(パン)と西ヨーロッパ	関連図書を読んでおく。(1時間) 授業のまとめと確認(1時間)		
7	牧畜(肉)と西ヨーロッパ	関連図書を読んでおく。(1時間) 授業のまとめと確認(1時間)		
8	香辛料と西ヨーロッパ(大航海時代の歴史的背景)	関連図書を読んでおく。(1時間) 授業のまとめと確認(1時間)		
9	小テーマの設定と研究	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める(2時間)		
10	研究のまとめとディスカッション	研究のまとめと発表の準備(2時間)		
11	ジャガイモとヨーロッパ	関連図書を読んでおく。(1時間) 授業のまとめと確認(1時間)		
12	トマト、パスタとイタリア トウガラシと東アジア	関連図書を読んでおく。(1時間) 授業のまとめと確認(1時間)		
13	小テーマの設定と研究	これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。(2時間)		
14	研究のまとめとディスカッション	研究のまとめと発表の準備(2時間)		
15	後期ガイダンス、卒業研究及びテーマの設定	授業のまとめと研究の見直し(2時間)		
16	テーマの設定(1)	授業のまとめとテーマの絞込み(1時間)		
17	テーマの設定(2)	研究のまとめとテーマの設定(1時間)		
18	研究方法と進め方(1)	研究のまとめと研究計画(1時間)		
19	研究方法と進め方(2)	研究のまとめと執筆(2時間)		
20	論文・参考文献の書き方	研究のまとめと執筆(2時間)		
21	執筆作業と論文指導(1)	研究のまとめと執筆(2時間)		
22	執筆作業と論文指導(2)	研究のまとめと執筆(2時間)		
23	執筆作業と論文指導(3)	研究のまとめと執筆(2時間)		
24	執筆作業と論文指導(4)	研究のまとめと中間発表会の準備(2時間)		
25	中間発表会	中間発表会の準備と研究のまとめ(2時間)		
26	執筆作業と論文指導(5)	研究のまとめと執筆(2時間)		
27	執筆作業と論文指導(6)	研究のまとめと執筆(2時間)		
28	執筆作業と論文指導(7)	研究のまとめと執筆(2時間)		
29	研究発表会	研究のまとめと最終発表会の準備(2時間)		
30	総括・評価	論文のまとめと提出の準備(2時間)		
テキスト	教室でプリント配付(毎時間)。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	卒業研究		担当者	栗森 貢
区分等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修/生活文化専攻			
評価基準	①論文(50%) ②授業内における研究や発表に取り組む姿勢(30%) ③レポートやプレゼンテーションの出来映え(20%)			
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントして返却する。			
目的	①SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)について身近なことから関心を持ち、基礎知識を身に付ける。(オリエンテーションを通して、17の目標と169のターゲットを探る) ②身近な学生生活に目を向け、本学としての「SDGs行動指標」を作成し行動を促す。 ③秋田県内で「SDGs達成目標に挑む企業」にインタビューし、達成の成果と課題を調査し、レポートやプレゼンテーションにまとめてミニ発表会を実施する。 ④世界の国々の深刻な問題に目を向け、グローバルな視点で社会情勢を把握する。 ⑤「SDGsの認知度を高め、国際貢献や企業経営のためには何が必要か。」を共通テーマとして自分なりに課題を設定し、論文作成やプレゼンテーション資料を作成する。			
到達目標	①SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)について身近な問題に関心を持ち、理解する。 ②本学の学生として、「聖霊女子短大SDGs行動指標」を作成し、学生に働きかけることができる。 ③民間企業や行政の取材を体験し、挨拶の仕方や取材のノウハウを体得することができる。 ④秋田から日本、そして世界へとグローバルな視点で物事を俯瞰して見ることができる。 ⑤研究テーマを論文にまとめ上げる過程を大事にし、検証データや資料の収集の仕方を身に付けることができる。			
履修上の注意	特になし			
オフィスアワー	木曜日：14：00～17：00、金曜日：14：00～17：00			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	オリエンテーション、授業計画の概要	SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)についてアンケート(0.5時間) 授業計画を示し見直しをもつ。(0.5時間)		
2	基礎学習1(「10年後、20年後にどんな社会で暮らしていきたいか?」)	「2030年の未来を作るのは自分たちだ」という当事者意識をもたせ、17の目標が関わり合い、繋がりが合うことから、パートナーシップを取り合うことの重要性に気づく。		
3	基礎学習2[「私たちの身近にどんな課題があるか?(SDGsと関連させて)①」]	貧困、食料問題、温暖化対策、超高齢化社会など、私たちの社会を取り巻く身近な問題について考える。(1時間)		
4	基礎学習3[「私たちの身近にどんな課題があるか?(SDGsと関連させて)②」】【講話①】	貧困、食料問題、温暖化対策、超高齢化社会など、私たちの社会を取り巻く身近な問題について考える。(1時間)		
5	基礎学習を通して見えてきた課題①	関連図書を読んでおく。(1時間)		
6	基礎学習を通して見えてきた課題②	関連図書を読んでおく。(1時間)		
7	秋田県内の「SDGs達成目標に挑む企業」をチェック&リサーチをする。① 【講話②】	県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。		
8	秋田県内の「SDGs達成目標に挑む企業」をチェック&リサーチをする。②	県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。		
9	企業訪問の準備	取材が可能かどうかコンタクトを取る。(2時間)		
10	企業訪問取材①	訪問取材かリモート取材を行う。(2時間)		
11	企業訪問取材②	訪問取材かリモート取材を行う。(2時間)		
12	企業訪問等取材のまとめ①	取材を通して知ったことをレポートにまとめる。(2時間)		
13	企業訪問等取材のまとめ②…ミニ発表会	レポートにまとめ、ミニ発表会を行う。(2時間)		
14	「聖霊女子短大版SDGs行動指標作成」①	本学におけるSDGs行動指標を作成する。(1.5時間)		
15	「聖霊女子短大版SDGs行動指標作成」②	本学におけるSDGs行動指標を作成する。(1.5時間)		
16	研究テーマの設定① 基礎知識をもつ	研究テーマを決定する準備をする。(1時間)		
17	研究テーマの設定② 【講話③】	研究テーマを決定する準備をする。(1時間)		
18	研究論文作成の構想案①〔構想シートの作成〕	論文の構想案を構想シートに書いて持参する。(1時間)		
19	研究論文作成の構想案②〔構想案の決定〕	論文の構想を決定する。(1時間)		
20	手引きを基に論文の書き方を理解する。	論文作成の手引きを参考に書いてくる。(1.5時間)		
21	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導①	研究のまとめと執筆(2時間)		
22	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導②	研究のまとめと執筆(2時間)		
23	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導③	研究のまとめと執筆(2時間)		
24	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導④	研究のまとめと執筆(2時間)		
25	中間発表会・・・相互批評	中間発表会の準備と研究のまとめ(2時間)		
26	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑤	研究のまとめと執筆(2時間)		
27	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑥	研究のまとめと執筆(2時間)		
28	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑦	研究のまとめと執筆(2時間)		
29	研究発表会①と学習の振り返り(協議)	研究論文のまとめと研究発表会の準備(2時間)		
30	研究発表会②と学習の振り返り(協議・所感)	研究論文のまとめと研究発表会の準備(2時間)		
テキスト	教室でプリント配布(毎時間)			
指定図書	あり。(巻末参照)			

科目名	卒業研究		担当者	近藤清兄
区分等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修/生活文化専攻			
評価基準	(1) 小論文(前期は評価なし)(70%) (2) 授業態度(20%) (3) 提出物等(10%)			
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。また随時助言・提案を行う。			
目的	「方言の調査と記録」を通じて、ことばの科学を追求する。			
到達目標	秋田の方言をローマ字(近藤式「無補助記号型(プレーン)」で表記することを学び、それによる記録資料(ローマ字本文・標準語訳・解説)を作成できるようになる。			
履修上の注意	①電子メールでのレポート・草稿等の提出を求めることがある。 ②小論文の要旨を別途指示するメー切までに提出すること(『要旨集』掲載用原稿)。 ③卒業研究発表会のための発表原稿を別途作成し、口頭発表する。			
オフィスアワー	火 12 時限、金 78 時限			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ローマ字と音韻(1)母音と子音	方言ローマ字表記法に、プリントの練習問題を通じてよく習熟すること。		
2	ローマ字と音韻(2)アクセント			
3	ローマ字と音韻(3)	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。		
4	ローマ字と音韻(4)			
5	動詞(1) I類(1)イテ系・イデ系			
6	動詞(2) I類(2)ッテ系			
7	動詞(3) I類(3)ンデ系・シテ系			
8	動詞(4) II類{2}・{3+}/不規則動詞			
9	動詞(5) 助動詞(1)使役・受身			
10	動詞(6) 助動詞(2)否定・完了			
11	終助詞構造とその外側			
12	『日本言語地図』の中の秋田(1)			
13	『日本言語地図』の中の秋田(2)			
14	『日本言語地図』の中の秋田(3)			
15	執筆のガイドライン			
16	テーマ選定について(1)			
17	テーマ選定について(2)			
18	テーマ選定について(3)			
19	執筆作業(1)			
20	執筆作業(2)			
21	執筆作業(3)			
22	執筆作業(4)			
23	執筆作業(5)			
24	執筆作業(6)			
25	執筆作業(7)			
26	執筆作業(8)			
27	中間発表会			
28	執筆作業(9)			
29	執筆作業(10)			
30	卒業研究発表会			
テキスト	教室でプリント配付。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	卒業研究		担当者	菅野 薫
区分等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修/生活文化専攻			
評価基準	研究姿勢・参加態度(40%)、提出物等(30%)、作品(30%)			
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。			
目的	<p>課題①：秋田県内の伝統芸能や歴史を知り、秋田県活性化のために個人ができることを探し、SNS等を利用して実際に発信する。英語での発信時に翻訳ツールを利用し、分かりやすい表現を学ぶ。</p> <p>課題②：日本は海外からの旅行者招致に力を入れている。外国人旅行者訪問率の低い秋田県は秋田の魅力をもどのように世界へアピールしていけるのか、秋田の魅力について調査・研究を行い、最終的に調べ上げたことを外国人向けのパンフレット(英語版)としてまとめる。秋田市から予算を受け、年度末に各自が作成した英語版パンフレットを発行し、実際に施設内に設置する。</p>			
到達目標	<p>秋田のアピールポイントを探す。</p> <p>外国人の日本に対する興味・関心を知る。</p> <p>(外国人へインタビューにてアンケートを実施予定)</p> <p>テーマを選び、取材および情報収集し、パンフレットとしてまとめ上げる。</p> <p>簡単で分かりやすい英語を、自動翻訳機を効果的に使って英訳する。</p>			
履修上の注意	<p>英訳時は全面的にサポートしますので英語の能力は問いませんが、授業外での準備がかなり忙しくなることを覚悟して臨んでください。</p> <p>書類や作品の提出期限は厳守です。</p>			
オフィスアワー	木曜日 11時～13時05分			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	オリエンテーション	配付プリントの完成(2時間)		
2	ビジット ジャパン キャンペーンについて	秋田での取り組みについて調べる(2時間)		
3	秋田県/秋田市の外国人観光客招致事業について(1)	興味を持った部分について詳しく調べる(2時間)		
4	秋田県/秋田市の外国人観光客招致事業について(2)	秋田の観光分野について調べる(2時間)		
5	秋田の観光について(1)	授業で触れたこと以外の項目を調べる(2時間)		
6	秋田の観光について(2)	外国人目線からの観光項目を調べる(2時間)		
7	外国人への意識調査(準備1)	アンケートの項目を考える(2時間)		
8	外国人への意識調査(準備2)	アンケートの英訳(2時間)		
9	外国人への意識調査(結果集計)	アンケート実施後の集計結果をまとめる(2時間)		
10	外国人への意識調査(考察)	興味のある項目を調べる(2時間)		
11	フィールドワーク(予定)	テーマ決定のための準備(下調べ)(2時間)		
12	テーマの決定(1)	テーマ決定のための準備(2時間)		
13	テーマの決定(2)	テーマに関する調べ学習(2時間)		
14	研究の進め方について	進め方の説明に沿った計画準備(2時間)		
15	研究計画作成	計画書に沿った調べ学習(2時間)		
16	進捗状況の確認と発表(1)	テーマに関する調べ学習(2時間)		
17	進捗状況の確認と発表(2)	テーマに関する調べ学習(2時間)		
18	今後の進め方について	テーマに関する調べ学習(2時間)		
19	プレゼンテーション資料等のまとめ方について	テーマに関する調べ学習(2時間)		
20	プレゼンテーション資料等のまとめ方について	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
21	作品・プレゼンテーション資料の作成(1)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
22	作品・プレゼンテーション資料の作成(2)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
23	作品・プレゼンテーション資料の作成(3)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
24	進捗状況の確認	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
25	作品・プレゼンテーション資料の作成(4)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
26	作品・プレゼンテーション資料の作成(5)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
27	作品・プレゼンテーション資料の作成(6)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
28	作品・プレゼンテーション資料の作成(7)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)		
29	研究発表	研究発表準備(2時間)		
30	研究発表・総括・評価	まとめと振り返り(2時間)		
テキスト	授業の際にプリントを配付する。			
指定図書	あり(巻末参照)。 各自のテーマに応じて適宜紹介する。			

科目名	卒業研究		担当者	米山修司
区分等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修/生活文化専攻			
評価基準	① 調べ学習の成果発表(30%) ② 研究進捗報告(30%) ③ 成果物作成(40%)			
課題に対するフィードバック	授業時に直接フィードバックを行う。			
目的	① 自然言語（日本語など、人間が日常的に使用している言語）をコンピュータ上で処理する技術である「自然言語処理」について、理解を深める。 ② 自らの学習成果・研究成果を論理的に報告・発表する能力を養う。 ③ 自らが興味のある研究テーマを設定し、教員の指導のもと、その成果をまとめる。			
到達目標	① 基本的な「自然言語処理」に関する知識を身に着ける。 ② 進捗報告/研究発表を通して、自らの学習成果・研究成果を説明する能力を身に着ける。 ③ 研究を通して、研究テーマに関する課題を見つけ、それを解決する能力を身に着ける。			
履修上の注意	① 「Python I」の単位を取得済みであること。「Python I」を履修していない場合でも、「Python I」程度のプログラミングを自主的に学習可能と認められる学生については、本卒業研究の選択を特別に認める場合がある。その際は、登録前に事前の相談が必要。 ② 「Python II」を履修することが望ましい。 ③ グループ活動が多く存在する。グループ活動では、協調性のある行動が求められる。 ④ 授業外で多くの活動を必要とする。授業終了後にも活動することが想定されるため、「卒業研究」の直後のコマは、特段の事情が無い限り空きコマにしておくことが望ましい。			
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15			
	授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション、「自然言語処理」とは		講義の復習・調べ学習（2時間）	
2	調べ学習の成果発表・DVD視聴：かな漢字変換		講義の復習・調べ学習（2時間）	
3	調べ学習の成果発表：情報検索・レコメンド機能 プログラミング演習：Google Colaboratory		講義の復習・調べ学習（2時間）	
4	調べ学習の成果発表：機械翻訳・対話システム プログラミング演習：文字列の操作①		講義の復習・調べ学習（2時間）	
5	調べ学習の成果発表：大規模言語モデル・生成AI プログラミング演習：文字列の操作②		講義の復習・調べ学習（2時間）	
6	調べ学習の成果発表：コーパス・シソーラス プログラミング演習：ファイル処理		講義の復習・調べ学習（2時間）	
7	調べ学習の成果発表：LOD・正規表現 プログラミング演習：正規表現		講義の復習・調べ学習（2時間）	
8	調べ学習の成果発表：形態素解析・係り受け解析 プログラミング演習：形態素解析・係り受け解析		講義の復習・調べ学習（2時間）	
9	調べ学習の成果発表：ワードクラウド・TF-IDF プログラミング演習：ワードクラウド・TF-IDF		講義の復習・調べ学習（2時間）	
10	グループディスカッション：研究テーマ検討① プログラミング演習：単語分散表現		講義の復習・研究テーマの検討（2時間）	
11	グループディスカッション：研究テーマ検討② プログラミング演習：Web API		講義の復習・研究テーマの検討（2時間）	
12	研究テーマ案発表		進捗報告準備（2時間）	
13	研究進捗報告(1)		進捗報告準備（2時間）	
14	研究進捗報告(2)		進捗報告準備（2時間）	
15	研究進捗報告(3)		進捗報告準備（2時間）	
16	研究進捗報告(4)		進捗報告準備（2時間）	
17	研究進捗報告(5)		進捗報告準備（2時間）	
18	研究進捗報告(6)		進捗報告準備（2時間）	
19	研究進捗報告(7)		進捗報告準備（2時間）	
20	研究進捗報告(8)		成果物作成（2時間）	
21	成果物作成(1)		成果物作成（2時間）	
22	成果物作成(2)		成果物作成（2時間）	
23	成果物作成(3)		成果物作成（2時間）	
24	成果物作成(4)		成果物作成（2時間）	
25	成果物作成(5)		成果物作成（2時間）	
26	成果物作成(6)		成果物作成（2時間）	
27	成果物作成(7)		成果物作成（2時間）	
28	成果物作成(8)		発表会準備（2時間）	
29	研究発表会(1)		発表会準備（2時間）	
30	研究発表会(2)		まとめと振り返り（2時間）	
テキスト	森重湧太『一生使える 見やすい資料のデザイン入門 完全版』（インプレス）			
指定図書	あり（巻末参照）			

科目名	卒業研究	担当者	Rachel Youngblood
区分等	2年次・通年 [演習] 4単位 必修/生活文化専攻		
評価基準	Classroom Discussion (30%) Instagram (10%) Writings (15%) Interviews (15%) Final Project (30%)		
課題に対するフィードバック	Discussion comments and feedback during class will support students as they explore different topics. Feedback will also be given on work as needed.		
目的	The aim of this course is to highlight, appreciate, and deepen students' understanding of important aspects of Japanese food culture, from a variety of perspectives, within globalization.		
到達目標	Students will utilize critical thinking skills to discuss and analyze Japanese food through local and national focuses on customs, family, gender, memory, media and marketing, global fusion, and cultural exchange.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	"OPEN" sign or by appointment		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Introduction to course, What is food culture?	PowerPoint 復習, Chapter 1.1 予習 (1 hour)	
2	Japanese Food & the World	Chapter 1.1 復習, Chapter 1.2 予習 (1 hour)	
3	Japanese Food & Washoku	Chapter 1.2 復習, Chapter 2.1 予習 (1 hour)	
4	Japanese Food & Regions	Chapter 2.1 復習, Chapter 2.2 予習 (1 hour)	
5	Japanese Food & Akita	Chapter 2.2 復習, Chapter 6.1 予習 (1 hour)	
6	Japanese Food & Memory (I)	Chapter 6.1 復習, Chapter 7.1 予習 (1 hour)	
7	Japanese Food & Memory (II)	Chapter 7.1 復習, Chapter 6.2 予習 (1 hour)	
8	Japanese Food & Family (I)	Chapter 6.2 復習, Chapter 7.2 + Interview 予習 (2 hours)	
9	Japanese Food & Family (II)	Chapter 7.2 復習, Chapter 9.2 + Recipe 予習 (2 hours)	
10	Japanese Food & Industry (I)	Chapter 9.2 復習, Chapter 10.2 予習 (1 hour)	
11	Japanese Food & Industry (II)	Chapter 10.2 復習, Chapter 10.1 予習 (1 hour)	
12	Japanese Food & Industry (III)	Chapter 10.1 復習, Chapter 3.1 予習 (1 hour)	
13	Japanese Food & Industry (IV)	Chapter 3.1 復習, Chapter 5.1 + Interview 予習 (2 hours)	
14	Japanese Food & Gender	Chapter 5.1 復習, Chapter 5.2 予習 (1 hour)	
15	Japanese Food & Media (I)	Chapter 5.2 復習 (.5 hours)	
16	Japanese Food & Media (II)	PowerPoint 復習, Chapter 4.1 予習 (1 hour)	
17	Japanese Food & Every day (I)	Chapter 4.1 復習, Chapter 8.1 予習 (1 hour)	
18	Japanese Food & Every day (II)	Chapter 8.1 復習, Chapter 8.2 予習 (1 hour)	
19	Japanese Food & Every day (III)	Chapter 8.2 復習, Chapter 3.2 予習 (1 hour)	
20	Japanese Food & Fusion (I)	Chapter 3.2 復習, Chapter 4.2 予習 (1 hour)	
21	Japanese Food & Fusion (II)	Chapter 4.2 復習 (.5 hours)	
22	Japanese Food & Foreigners (I)	Interview 予習 (1 hour)	
23	Japanese Food & Foreigners (II) <i>Interview</i>	Interview 復習 (.5 hours)	
24	Final Project Preparation	Chapters 1-10, PowerPoints, Videos 復習	
25	Final Project Preparation	Chapters 1-10, PowerPoints, Videos 復習	
26	Final Project Preparation	Chapters 1-10, PowerPoints, Videos 復習	
27	Final Project Preparation	Chapters 1-10, PowerPoints, Videos 復習	
28	Final Project Preparation	Chapters 1-10, PowerPoints, Videos 復習	
29	Final Project Preparation	Chapters 1-10, PowerPoints, Videos 復習	
30	Final Project Presentation		
テキスト	Y. Prefume, A. Murata, & H. Tajima "Diving into Japanese Culture and Society through Food" (Kurosio)		
指定図書	None		

科目名	卒業研究	担当者	周 業欣
区分等	2年次・通年 [演習] 4単位・必修/生活文化専攻		
評価基準	①平常点(20%)、②授業中のプレゼンテーション(40%)、③卒業作品(40%)		
課題に対するフィードバック	研究の進行に応じて、適宜アドバイスを行う。 制作された作品や発表資料に対して評価を行い、それを返却する。		
目的	学生が、自らの将来目標や志向性を踏まえて、独自視点のデザイン開発と社会提案を行う。 研究計画に基づいて、卒業制作を行う。また、メディア映像表現の基礎となるアートワークやデザインワークの制作手法を学び、各ツールや機材使用方法を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の個性と社会性の両立を実現し、創造性豊かな思想や表現力を確立する。</li> <li>・メディア映像表現に関する様々な基礎技術を知り、それらの技術を習得し、映像デザインの基礎力を身につける。「コマ→ショット→シーン→シークエンス→1本の映像となる」という基本的な映像の構成を理解できる。</li> </ul>		
履修上の注意	卒業制作研究前期成果のポスター展示及び発表に参加しない場合は、評価の対象とならない。 卒業制作の提出、プレゼンテーションがない場合は、評価の対象とならない。 書類や作品の提出期限は厳守です。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション、授業計画の概要	授業内容のまとめと確認(1時間)	
2	映像の基礎 カメラの仕組み、映像技術の仕組みを理解する。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
3	撮影の基礎 練習課題として撮影を行う。構図のとり方、映像制作の流れなど。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
4	編集の基礎 前回撮影したデータを編集する。アプリケーションの説明、カット編集、書き出しを行う。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
5	コマ撮りの基礎 コマ撮りの技法紹介、練習を行う。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
6	既存のショートムービーおよび縦型ショート動画を鑑賞し、その構成や表現技法について考察する。また、各自で、日常の中で何か発見できるかを考えながら、身近な世界、様々なできごとをテーマとして15秒以内のショート動画を企画し、制作する。	授業外学習として、撮影と制作を完成させる。(90分)	
7	練習課題の講評とディスカッション	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
8	既存のドキュメンタリー映像作品を鑑賞し、その構成や表現技法について考察する。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
9	既存の物語映画(劇映画)作品を鑑賞し、その構成や表現技法について考察する。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	
10	ショートムービーの制作実習 受講生同士でグループを組み、前回授業の時に、鑑賞した映像作品の内容(自分の趣味 趣向や気に入った作品でも構わない)を模倣し、30秒以内のショートムービーを制作する。構成を考える上で必要な構成表・絵コンテの作成方法を学習する。	授業外学習として、ワークシートに従いショートムービーの内容を検討し、撮影と制作を進める。(90分)	
11	ショートムービーの講評 ショートムービーのプレゼンテーションを行う。	授業外学習として、ワークシート課題に取り組む。(90分)	

12	テーマの決定 (1)	テーマ決定のための準備 (2時間)
13	テーマの決定 (2)	テーマに関する調べ学習 (2時間)
14	研究のまとめとプレゼンテーション作成指導	テーマに関する調べ学習 (2時間)
15	前期の研究内容と成果をまとめ、ポスター展示、口頭発表を行う。	研究テーマを決定する準備をする。(1時間)
16	後期ガイダンス、卒業研究及びテーマの設定	進め方の説明に沿った計画準備 (2時間)
17	卒制展展示計画書	テーマに関する調べ学習 (2時間)
18	進捗状況の確認と発表(1)	テーマに関する調べ学習 (2時間)
19	進捗状況の確認と発表(2)	テーマに関する調べ学習 (2時間)
20	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
21	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
22	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
23	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
24	進捗状況の確認	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
25	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
26	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
27	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
28	作品制作	テーマに関する調べ学習・作品制作 (2時間)
29	研究発表	研究発表準備 (2時間)
30	総括・評価、卒業制作展	まとめと振り返り (2時間)
	テキスト	適宜、資料を配布
	指定図書	なし。

科目名	アメリカ語学セミナー		担当者	菅野 薫
区分等	2年次・集中〔実習〕2単位 選択/生活文化専攻、生活こども専攻			
評価基準	①セミナーへの参加態度 50% ②事前準備に対する取り組み方と事後の報告書作成など 50%			
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へフィードバックをし、返却する。			
目的	英語力を総合的に高めると同時に、英語圏の国での生活を通じてその国の文化や社会問題について学ぶ。			
到達目標	英語レッスンやその他体験をとおして、英語でのコミュニケーションができるようになる。英語圏の文化や社会問題について基礎的な知識を身につける。英語圏の国と日本との違いを考察し、地球家族の一員であることを自覚して、国際的視野を持つようになる。			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の1つとも言える英語に興味関心があり、語学はもとより人との交流を通して学ぶ意識の高い学生の参加が望ましいです。</li> <li>・必要最低限の英語の知識を身につけてもらう必要がありますので、積極的に英語の科目を受講するか、自分で英語学習をすることをお勧めします。</li> <li>・参加者確定後は空き時間や放課後、昼休みの時間を利用して事前指導を行いますので、単位取得のためには事前、事後の集まりへの出席も必要となります。</li> <li>・セミナー参加費には、航空券代金、現地滞在費、語学学校プログラム費が含まれます。パスポート申請費用、海外旅行傷害保険料金、その他現地活動費等は含まれませんのでご注意ください。</li> </ul> <p>※実施時期については確定し次第お知らせしますが、冬期休暇前後に実施の予定です。ただし、社会情勢等により、実施時期や内容の変更、やむを得ない中止の場合があります。</p>			
オフィスアワー	木曜日 11時～13時05分			
		<b>授業計画</b>	<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1	事前指導(日本) オリエンテーション 事前準備:パスポート申請・入国審査等 渡航に関する説明 英会話練習 現地学生との交流準備 等		現地で最低限の意思疎通ができるよう自分で英語学習を続ける。事前学習時に学んだことの復習・確認を随時行う。	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は、引率教員と共に語学研修プログラムに参加する。</li> <li>・主に平日は語学学校にて英語レッスンを実施し、現地学生との交流、近隣へのエクササイズが予定されている。</li> <li>・現地では各家庭に2～3名ずつホームステイもしくは寮での滞在となる。</li> </ul>		滞在中は毎日の予習・復習が必要。また、報告書作成のため、その日1日の振り返りと記録をつける。	
3	事後指導(日本) 反省会、ポスター・報告書作成		事前指導と同様、放課後や休み時間、週末などに主に学内外での作業が必要。	
テキスト	適宜プリントを配付します。			
指定図書	なし。			

科目名	Basic English Skills III		担当者	近藤清兄
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500語+α程度)、を養成します。漫画 <i>Peanuts</i> と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。			
到達目標	各課のテーマ動詞(make, give, run, come, get, take)の基本的意味を理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、いささかきついですが、がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	オリエンテーション	(1)[予習]Guess the words, Everyday Expressions を調べる。 (2)[予習]Reading(長文):1語ずつ頭から訳したりせず、必ず「句単位」「節単位」のかたまりで捉えてください。文中の動詞にすべてマーカーを引いてみましょう。文の流れがよくわかります。 (3)[復習]Listen and Repeat, Listen and Write は最も重要です。		
2	Lesson 1 Body Language(1) 【make】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。		
3	Lesson 1 Body Language(2) 【make】			
4	Lesson 2 Psychiatry Stand(1) 【give】			
5	Lesson 2 Psychiatry Stand(2) 【give】			
6	Lesson 3 Friends Forever(1) 【run】			
7	Lesson 3 Friends Forever(2) 【run】			
8	Lesson 4 Peanuts as a Social Group(1) 【come】			
9	Lesson 4 Peanuts as a Social Group(2) 【come】			
10	Lesson 5 Music Lover(1) 【get】			
11	Lesson 5 Music Lover(2) 【get】			
12	Lesson 6 Girls in Peanuts(1) 【take】			
13	Lesson 6 Girls in Peanuts(2) 【take】			
14	復習(Lesson 1-3)			
15	復習(Lesson 4-6)			
テキスト	Haruko Toyama: “Enjoy English with Charlie Brown and Friends” <Revised Edition>(Nan’ un-do)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	Basic English Skills IV		担当者	近藤清兄
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500語+α程度)、を養成します。漫画 <i>Peanuts</i> と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。			
到達目標	各課のテーマ動詞(put, set, see, turn, do, go)の基本的意味を理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、いささかきついです。がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle(1) 【put】	(1)[予習]Guess the words, Everyday Expressions を調べる。 (2)[予習]Reading(長文):1 語ずつ頭から訳したりせず、必ず「句単位」「節単位」のかたまりで捉えてください。文中の動詞にすべてマーカーを引いてみましょう。文の流れがよくわかります。 (3)[復習]Listen and Repeat, Listen and Write は最も重要です。		
2	Lesson 7 Sally and her Legal Beagle(2) 【put】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。		
3	Lesson 8 Linus' Blanket(1) 【set】			
4	Lesson 8 Linus' Blanket(2) 【set】			
5	Lesson 9 Crabby Lucy(1) 【see】			
6	Lesson 9 Crabby Lucy(2) 【see】			
7	Lesson 10 Religion and Faith(1) 【turn】			
8	Lesson 10 Religion and Faith(2) 【turn】			
9	Lesson 11 Valentine's Day(1) 【do】			
10	Lesson 11 Valentine's Day(2) 【do】			
11	Lesson 13 The Life and Work of Charles Schulz(1) 【go】			
12	Lesson 13 The Life and Work of Charles Schulz(2) 【go】 [完結]			
13	復習(Lesson7-8)			
14	復習(Lesson9-10)			
15	復習(Lesson11, 13)			
テキスト	Haruko Toyama: "Enjoy English with Charlie Brown and Friends" <Revised Edition>(Nan'un-do)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	Oral Communication III		担当者	Rachel Youngblood
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	Classroom participation (50%) Homework (Audio Reflection) (30%) Final Presentation (20%)			
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or written as needed on homework.			
目的	The aim of this course is to build and strengthen students' oral communication skills in English.			
到達目標	Students will be able to utilize speaking, listening, reading, and writing skills through developing and sharing their own ideas on various topics.			
履修上の注意	Students must have previously completed "Oral Communication I and II".			
オフィスアワー	To be announced			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Introduction to the course, Unit 1: Dogs or Cats?		Unit 1 + Audio Reflection 復習, Unit 2 予習 (1.5 hours)	
2	Unit 2: Dubbing or Subtitling?		Unit 2 + Audio Reflection 復習, Unit 3 予習 (1.5 hours)	
3	Unit 3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?		Unit 3 + Audio Reflection 復習, Unit 4 予習 (1.5 hours)	
4	Unit 4: Paper Bags or Plastic Bags?		Unit 4 + Audio Reflection 復習, Unit 5 予習 (1.5 hours)	
5	Unit 5: Do We Need TV Broadcasting or Not?		Unit 5 + Audio Reflection 復習, Unit 6 予習 (1.5 hours)	
6	Unit 6: Age-based or Performance-based?		Unit 6 + Audio Reflection 復習, Unit 7 予習 (1.5 hours)	
7	Unit 7: Buying Music Online or Buying CDs?		Unit 7 + Audio Reflection 復習, Unit 8 予習 (1.5 hours)	
8	Unit 8: Living with Family or Living Alone?		Unit 8 + Audio Reflection 復習, Unit 9 予習 (1.5 hours)	
9	Unit 9: Team Sports or Individual Sports?		Unit 9 + Audio Reflection 復習, Unit 10 予習 (1.5 hours)	
10	Unit 10: Online Shopping or In-store Shopping?		Unit 10 + Audio Reflection 復習, Unit 11 予習 (1.5 hours)	
11	Unit 11: Professional Training or Liberal Arts?		Unit 11 + Audio Reflection 復習, Unit 12 予習 (1.5 hours)	
12	Unit 12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?		Unit 12 + Audio Reflection 復習, Unit 13 予習 (1.5 hours)	
13	Unit 13: Boxed Lunch or School Cafeteria?		Unit 13 + Audio Reflection 復習 (1 hour)	
14	Final Project Preparation		Unit 1-13 復習	
15	Final Project Presentation			
テキスト	A. Iino, H. J. Satoh, A. Fujii, Y. Yabuta, Y. Nakamura, and K. Ohata "In My Opinion" (Kinseido)			
指定図書	None			

科目名	Oral Communication IV		担当者	Rachel Youngblood
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	Classroom Participation (50%) Homework (20%) Final Discussion/Debate (30%)			
課題に対するフィードバック	Comments, suggestions, and feedback will be given vocally during class or written as needed on homework.			
目的	The aim of this course is to build and strengthen students' oral communication skills in English.			
到達目標	Students will be able to utilize critical thinking skills to clearly communicate a variety of ideas, with examples and information, in English.			
履修上の注意	Students must have previously taken "Oral Communication I, II, and III".			
オフィスアワー	To be announced			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	Introduction to the course, Part I: Education & Sports		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
2	Part I <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
3	Part II: Lifestyle		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
4	Part II <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
5	Part III: Technology & Society		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
6	Part III <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
7	Part III <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
8	Part IV: Food & Culture		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
9	Part IV <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
10	Part IV <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
11	Part V: Appearance & Personality		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
12	Part V <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
13	Part V <i>continued</i>		Previous Unit 復習, Upcoming Unit 予習 (1 hour)	
14	Final Discussion/Debate Preparation		13 Units 復習	
15	Final Discussion/Debate			
テキスト	Jonathan Lynch & Kotaro Shitori "Two Sides to Every Discussion" (Seibido)			
指定図書	None			

科目名	TOEFL II	担当者	菅野 薫
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (30%)、宿題 (30%)、レポート (20%)、最終スピーチ (20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は海外の大学への留学や国内の編入に必要となる試験である。リスニング、リーディングのみならず、自分の意見を論じる技術も必要とされることから授業を通じて自分の意見をまとめ、述べる力を養成する。		
到達目標	<p>リスニング：シーンを思い浮かべて要旨を捉えられるようになる。  ライティング：自分の主張を論理的に書き表せるようになる。  (日本語、英語ともに)</p> <p>スピーキング：人前で話すときの立ち居振る舞いを身につける。  このような技能を通じて総合的な語学力を身につける。また、世の中で起きている出来事に関心を持ち、自分の意見を主張できるグローバル人材としてのスキルを身につけることを目標とする。</p>		
履修上の注意	実際の TOEFL は非常にレベルの高い試験ですが、まずは科目としての英語ではなく、コミュニケーションツールとしての英語力を身につけるような気持ちで受講してください。		
オフィスアワー	木曜日 11時～13時05分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション・実力診断 (日本語エッセイ)・目標設定	授業の振り返り (1時間)	
2	前回の振り返り、英訳の手順の説明 (分かりやすい日本語の文をつくるコツ)	日本語エッセイの文章の修正 (1時間)	
3	AI 翻訳を利用した英訳の実践	エッセイの英訳 (1時間)	
4	エッセイのスピーチ、ディスカッション	授業の振り返り・主張を英訳 (1時間)	
5	ディスカッション in Eng.	授業の振り返り・まとめ部分英訳 (1時間)	
6	ニュースについてディスカッション (Part II-6)	意見提示部分を英訳 (1時間)	
7	ディスカッション in Eng.	授業の振り返り・ (1時間)	
8	英文ニュース記事リーディング・ディスカッション	授業の振り返り (1時間)	
9	Part III・洋画鑑賞前プリント	授業の振り返り (1時間)	
10	洋画鑑賞 (文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	ニュースの abstract と Keyword について日本語で書く (1時間)	
11	洋画鑑賞 (文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	ニュースの abstract と Keyword について英語で書く (1時間)	
12	洋画鑑賞 (文化学習・リスニング・ディクテーション練習)・ニュースに関するライティング指導	ニュースに関する自分の考えを英語で書く (1時間)	
13	ライティング指導、スピーチ準備	鑑賞レポート作成・スピーチ練習 (1時間)	
14	ライティング指導、スピーチ準備	鑑賞レポート作成・スピーチ練習 (1時間)	
15	スピーチ準備	これまでの反省と復習 (1時間)	
テキスト	石谷由美子『Skills for Better Writing (初級編)』(南雲堂) いずれのテキストも TOEFL I と同じです。主に授業ではプリントを配付して進めていきます。必要に応じて授業中に数冊紹介し、受講生にとって最も使いやすいものを相談しながら選定することもあります。		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：リスニングやリーディングのみならず、自分の意見を述べる力を身につける。ディスカッションやスピーチを通して総合的な語学を実践的に学ぶ。

科目名	Essay and Speech		担当者	菅野 薫
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	授業への参加態度 (50%)、宿題 (30%)、最終プレゼンテーション (20%)			
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。			
目的	社会に出ると自分の考えを相手にわかりやすく伝える力ー話す力、説明し、表現する力が必要不可欠である。英語で表現する力をつける際にも母語のスキルを上達させることが大切であることから、プレゼンテーション法の学びを通して総合的な言葉の表現力を身に付ける。			
到達目標	英語でのコミュニケーションへ自信をつけてもらうことはもちろんだが、母語による考えの組み立て方の部分から指導していくので英語や母語の表現力が身につくことが望まれる。また身近な話題から社会問題まで幅広い題材を扱うことで社会人としての必要な知識と教養を養うことができる。当科目での最終目標は英語で自分の意見を書いたり伝えたりできるようになることだが、最低限、日本語でこのようなことができるスキルを身につける。さらに、自動翻訳機を利用した英訳の方法についても学んでいく。			
履修上の注意	履修する学生の英語レベルに応じた指導をしますが、英語でプレゼンテーションができるようになることを目標としていますので英語を話したい学生は受講して下さい。(TOEFL I・IIを受講することが望まれます。) また、スライドを使ったプレゼンテーションを行う機会がありますので、パワーポイントの簡単な操作はできることが望まれます。最終プレゼンテーションでは1人7分程度の英語のスピーチをしてもらう予定です。			
オフィスアワー	木曜日 11時～13時05分			
<b>授業計画</b>		<b>準備学習 (予習・復習) の内容および、時間</b>		
1	オリエンテーション・What Is a Presentation?・自動翻訳機を利用した英訳について	授業の復習・Pre-Unit・Phase 1-Unit 1 予習 (1時間)		
2	Pre-Unit・Unit 1 (プレゼンの構成)	授業の復習・Unit 2・3 予習 (1時間)		
3	Unit 2・3、Mission 1 (プレゼンの構成)	授業の復習・Mission 1 準備 (1時間)		
4	Mission 1・Unit 4・5 (スライドの作り方)	授業の復習・Unit 6 予習 (1時間)		
5	Unit 4・5・6、Mission 2 (スライドの作り方)	授業の復習・Unit 7・8 予習 (1時間)		
6	Unit 7・8 (話し方)	授業の復習・Unit 9・Mission 3 予習 (1時間)		
7	Unit 9・Mission 3 (話し方)	授業の復習 (1時間)		
8	プレゼン構成・スライドの作り方・話し方総復習	授業の復習・Unit 10 予習 (1時間)		
9	Unit 10・実践準備	授業の復習・プレゼン練習 (1時間)		
10	プレゼンテーション発表・反省・Unit 11 (どう修正するか)	授業の復習・原稿等修正・Unit 11 (1時間)		
11	修正版プレゼンテーション発表・Q&A	授業の復習・Unit 12 予習 (1時間)		
12	Unit 12・即興スピーチ・Q&A	授業の復習・プレゼン準備 (1時間)		
13	プレゼンテーション発表・Q&A・フィードバック	プレゼンの振り返り・プレゼン修正 (1時間)		
14	修正版プレゼンテーション・	プレゼンの振り返り・最終プレゼン準備 (1時間)		
15	総復習・最終プレゼン確認	最終プレゼン準備 (1時間)		
テキスト	JACET 関西支部教材開発研究会著『新・英語でプレゼンテーション』(三修社) 必要に応じて適宜プリントを用意して進めます。			
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：英語での会話を中心に、決められたトピックに関して時間内で組み立てて話すディスカッションやスピーチ等による実践形式の学習内容で総合的な言葉の表現力を身につける。

科目名	ドイツ語Ⅲ	担当者	横溝眞理
区分等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	①定期試験(80%) ②授業毎の課題(20%)		
課題に対するフィードバック	課題は添削して返却する。		
目的	1年次で学習した大まかなドイツ語の知識を確認しながら、中級用の教科書を使用し、ドイツ語運用能力を向上させる。		
到達目標	①関係詞、完了時制、再帰表現、助動詞など、1年次で学習した文法項目を復習しながら、とくに副文の構造について理解を深める。 ②聴き取り練習を毎回行って、聴解力を向上させる。 ③観光案内所、ホテル、レストラン、デパートなどにおける会話の基本表現を身につける。		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。 ②毎回、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を授業前にやっておくこと。付録のCDを聴いてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	「ドイツ人と知り合う」 [会話の基本]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
2	「到着」(1) [到着の挨拶表現]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
3	「到着」(2) [関係代名詞・不規則人称変化]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
4	「到着」(3) [完了の助動詞・再帰代名詞]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
5	「ホテル探し」(1) [前置詞・話法の助動詞]	教科書 18～23 ページの予習・復習(2時間)。	
6	「ホテル探し」(2) [フロントでの会話]	教科書 18～23 ページの予習・復習(2時間)。	
7	「ホテルにて」(1) [zu 不定詞句]	教科書 24～29 ページの予習・復習(2時間)。	
8	「ホテルにて」(2) [指示代名詞]	教科書 24～29 ページの予習・復習(2時間)。	
9	「ホテルにて」(3) [朝食での表現]	教科書 24～29 ページの予習・復習(2時間)。	
10	「レストランで」(1) [比較]	教科書 36～41 ページの予習・復習(2時間)。	
11	「レストランで」(2) [現在分詞と過去分詞]	教科書 36～41 ページの予習・復習(2時間)。	
12	「レストランで」(3) [注文の仕方]	教科書 36～41 ページの予習・復習(2時間)。	
13	「買物」(1) [序数・完了形]	教科書 42～47 ページの予習・復習(2時間)。	
14	「買物」(2) [おみやげを買う]	教科書 42～47 ページの予習・復習(2時間)。	
15	まとめ	定期試験へ向けて、復習(2時間)。	
テキスト	大谷弘道、Ursula Otani 著『新 ドイツ語話し方教室』(三修社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	ドイツ語Ⅳ		担当者	横溝真理
区分等	2年次・後期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	①定期試験(80%) ②授業毎の課題(20%)			
課題に対するフィードバック	課題は添削して返却する。			
目的	2年次前期までに学習したドイツ語の知識を確認しながら、ドイツ語運用能力をさらに向上させる。			
到達目標	①過去形、受動態、接続法など、1年次で学習した文法項目を復習しながら、とくに副文の構造について理解を深める。 ②聴き取り練習を毎回行って、聴解力をさらに向上させる。 ③食事や健康、人との交際の場面における会話の基本表現を身につける。			
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修済みであること。 ②毎回、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を授業前にやっておくこと。付録のCDを聴いてくること。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	「アパート探し」(1)[命令法・副文・前置詞]		教科書 42～47 ページの予習・復習(2時間)。	
2	「アパート探し」(2)[電話をかける]		教科書 42～47 ページの予習・復習(2時間)。	
3	「ハイキング」(1)[過去形]		教科書 48～53 ページの予習・復習(2時間)。	
4	「ハイキング」(2)[受動態]		教科書 48～53 ページの予習・復習(2時間)。	
5	「ハイキング」(3)[ハイキングに誘われて]		教科書 48～53 ページの予習・復習(2時間)。	
6	「招待される」(1)[接続法第Ⅱ式]		教科書 54～63 ページの予習・復習(2時間)。	
7	「招待される」(2)[前置詞と人称代名詞の融合形]		教科書 54～63 ページの予習・復習(2時間)。	
8	「招待される」(3)[訪問先での会話]		教科書 54～63 ページの予習・復習(2時間)。	
9	「医者にて」(1)[nicht と kein・間接話法]		教科書 64～71 ページの予習・復習(2時間)。	
10	「医者にて」(2)[過去分詞の形容詞化]		教科書 64～71 ページの予習・復習(2時間)。	
11	「医者にて」(3)[診察室/薬局にて]		教科書 64～71 ページの予習・復習(2時間)。	
12	「手紙」(1)[形容詞の名詞化]		教科書 72～79 ページの予習・復習(2時間)。	
13	「手紙」(2)[再帰動詞と前置詞の結びつき・方向を表す前置詞]		教科書 72～79 ページの予習・復習(2時間)。	
14	「手紙」(3)[手紙の書き方・カードの書き方]		教科書 72～79 ページの予習・復習(2時間)。	
15	まとめ		定期試験へ向けて、復習(2時間)。	
テキスト	大谷弘道、Ursula Otani 著『新 ドイツ語話し方教室』(三修社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	韓国語Ⅲ	担当者	John Thurlow
区分等	2年次・前期〔演習〕2単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	① 授業態度・予習と復習 (60%) ② 小テスト (40%)		
課題に対するフィードバック	小テスト後に解答と説明を行う。随時アドバイスや提案をする。		
目的	より高度の文法を学んで、単語・表現を増やし、自由に韓国語の運用を目指す		
到達目標	交通手段と観光等について、簡単な会話ができる。		
履修上の注意	発音することを恥ずかしがらないで、大きな声を出してください！		
オフィスアワー	授業の前後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 韓国語Ⅱの内容の復習	韓国語Ⅱの内容を復習する。(30分)	
2	第11課 過去形 その1	第11課を予習する。(1時間)	
3	第11課 過去形 その2	第11課の内容を確認して、第12課を予習する。(1時間)	
4	第12課 敬語 その1	第12課の内容を確認する。(1時間)	
5	第12課 敬語 その2	第12課を復習して、プリントを読む。(1時間)	
6	会話① バス・地下鉄の乗り方	プリントを復習する。(1時間)	
7	第13課 敬語の過去形 その1	第13課を復習する。(1時間)	
8	第13課 敬語の過去形 その2	第13課の内容を確認する。(1時間)	
9	第14課 新しい文法 その1	第14課を復習する。(1時間)	
10	第14課 新しい文法 その2	第14課を確認する。(1時間)	
11	会話② 観光編	プリントを復習する。(1時間)	
12	第15課 表現 ～したいです。	第15課の内容を確認する。(1時間)	
13	第11課～15課の復習	教科書の内容を確認する。(1時間)	
14	韓国語Ⅲの会話の復習・確認	会話のプリントを確認する。(1時間)	
15	復習、質疑応答、まとめ	なし	
テキスト	新大久保語学院・李志暎『できる韓国語 初級I<新装版>』(DEKIRU出版)2010		
指定図書	あり(巻末参照)		

科目名	韓国語Ⅳ	担当者	John Thurlow
区分等	2年次・後期〔演習〕2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	① 授業態度・予習と復習 (60%) ② 小テスト (40%)		
課題に対するフィードバック	小テスト後に解答と説明を行う。随時アドバイスや提案をする。		
目的	より高度の文法を学んで、単語・表現を増やし、自由に韓国語の運用を目指す		
到達目標	ホテルのチェックインとトラブルの時の会話ができるようになる。		
履修上の注意	自信をもって、韓国語の会話に挑戦してください。		
オフィスアワー	授業の前後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 韓国語Ⅲの内容の復習	韓国語Ⅲの内容を復習する (30分)	
2	第16課 理由・原因を説明する。	第16課を復習する。(1時間)	
3	第16課 不規則用言①	第16課の内容を確認する。(1時間)	
4	第17課 表現：してもいいですか。	第17課を復習する。(1時間)	
5	第17課 表現：すればいいですか	第17課の内容を確認する。(1時間)	
6	会話① ホテルのチェックイン	プリントを復習する。(1時間)	
7	第18課 表現：勧誘 ～しましょうか	第18課を復習する。(1時間)	
8	第18課 表現：目的 ～しに行く/くる	第18課の内容を確認する。(1時間)	
9	第19課 表現：～してください	第19課を復習する。(1時間)	
10	第19課 文型 ～ですが…	第19課の内容を確認する。(1時間)	
11	会話② トラブル編	プリントを復習する。(1時間)	
12	第20課 表現：能力～することができます	第20課を復習する。(1時間)	
13	第20課 表現：現在進行	第20課の内容を確認する。(1時間)	
14	Review 第16課～第20課	教科書の内容を確認する。(1時間)	
15	復習、質疑応答、まとめ	なし	
テキスト	新大久保語学院・李志暎『できる韓国語 初級 I<新装版>』(DEKIRU 出版) 2010		
指定図書	あり (巻末参照)		

科目名	データベース活用 (Microsoft Access)	担当者	周 業欣
区分等	2 年次・前期 [演習] 2 単位・選択/生活文化専攻・健康栄養専攻		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(100 点)</li> <li>【平常点等配点内訳】・授業振り返りシート(20 点)</li> <li>・授業内課題 2 回 (30 点・30 点)</li> <li>・タッチタイプ(20 点)</li> </ul>		
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。		
目的	データベースソフト、Microsoft Access の操作方法と活用方法およびタッチタイプを修得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Microsoft Access の基本的な操作ができるようになることを目標とする。</li> <li>・ 基本的なデータベースの概念が理解できることを目標とする。</li> <li>・ キーボードを見なくても正しい運指でタッチタイプができるようになることを目標とする。</li> </ul>		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	授業の前後 10 分間		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	講座ガイダンス、Microsoft Access の基礎知識	テキストを読む。身近なところで使われているデータベースを調べる(1 時間)	
2	テーブルの作成	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
3	リレーションシップの作成	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
4	クエリの概要と作成	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
5	テーブル・クエリの作成	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
6	【課題 1】授業内実施課題	提出課題の完成(1 時間)	
7	フォームの概要	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
8	フォームの作成	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
9	クエリの活用 (複合条件)	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
10	クエリの活用 (演算子)	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
11	クエリの活用(集計)	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
12	レポートの概要	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
13	レポートの作成	授業内容の復習と練習課題の完成(1 時間)	
14	総合演習	基本機能についての総復習(1 時間)	
15	まとめと【課題 2】授業内実施課題	前期で勉強した内容を復習し、定着させる。提出課題の完成(1 時間)	
テキスト	『誰でも使えるデータベース!Access』(noa 出版)、 『よくわかる Microsoft Access 2019 基礎』(FOM 出版)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	プログラミングⅡ		担当者	米山修司
区分等	2年次・後期〔演習〕2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	① 課題提出(70%) ② 定期試験(30%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。			
目的	① JavaScript で書かれたプログラムを理解する力を養う。 ② プログラミングの基礎的な知識を身につけ、活用する技術を習得することを目指す。			
到達目標	① DOM 操作やイベント処理の基礎を理解し、利用することができる。 ② 簡単なアプリケーションを作成するためのアルゴリズムを考えることができる。 ③ JavaScript を利用して動的な Web ページを作成することができる。			
履修上の注意	① 「プログラミングⅠ」の単位を取得済みであること。			
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	● ガイダンス ● HTMLとCSSの復習		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
2	● JavaScriptの復習 ● CSSとJavaScriptの外部ファイル作成方法とその読み込み方法		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
3	● 複雑な条件分岐		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
4	● 複雑な繰り返し処理		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
5	● 関数の応用		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
6	● 文字列		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
7	● 日付オブジェクト		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
8	● 配列を用いた繰り返し処理		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
9	● 連想配列		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
10	● DOM① ～要素の取得～		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
11	● DOM② ～要素の追加と削除～		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
12	● Form		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
13	● jQuery		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
14	● 総合演習①		講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
15	● 総合演習②		講義の総復習（2時間）	
テキスト	村上祐治『はじめての Web デザイン&プログラミング：HTML、CSS、JavaScript、PHP の基本』（森北出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	データサイエンス入門		担当者	米山修司
区分等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択/全学			
評価基準	① 課題提出(60%) ② 定期試験(30%) ③ プレゼンテーション(10%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。			
目的	社会の中で生ずる様々な課題に対して、データを基に正しく状況を理解し、分析して、課題解決に向かうという姿勢を身につけることが大切である。本講義ではデータ分析に必要な基礎となる知識を習得するとともに、表計算ソフト EXCEL を利用してデータを加工し、分析して、その特徴を説明する能力を養う。			
到達目標	① 分析に必要な形にデータを加工・整形することができる。 ② データの基本的な特徴を調べ、説明することができる。 ③ 分析の内容に応じてデータを視覚化して説明することができる。 ④ 基礎的なデータ分析について理解し、EXCEL 等を利用して実践できる。			
履修上の注意	① PC の基本的な操作ができること。 ② 基本的な EXCEL の知識・利用技術を身につけていることが望ましい。 ③ 授業の後半で行うグループ演習では、協調性のある行動が求められる。			
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガイダンス</li> <li>● 基本的な EXCEL の利用方法の復習</li> <li>● データの形と種類</li> <li>● 母集団と標本</li> <li>● データの前処理 ～欠損・重複・異常値の検出～</li> <li>● データの加工・整形 ～フィルターによる抽出・並び替え～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの傾向の把握 ～基本統計量(代表値・散布度)の算出～</li> <li>● 分析ツールの使い方</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの可視化① ～ピボットテーブルによるクロス集計表の作成～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの可視化② ～目的に応じたグラフの作成～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの可視化③ ～度数分布表とヒストグラム～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの分析① ～相関係数と散布図～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの分析② ～単回帰分析～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>● データの分析③ ～重回帰分析～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シミュレーションによる最適化 ～ゴールシークとソルバーによるシミュレーション～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オープンデータの取得方法</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実データを使ったデータの集計と可視化① ～実データの収集、前処理、加工～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実データを使ったデータの集計と可視化② ～CSV と JSON の取り扱い～</li> </ul>	講義の復習と演習問題による確認（2時間）		
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループワークによる実データの分析① ～テーマの選択、データの収集、データ分析の計画立案～</li> </ul>	必要に応じて授業時間外でグループ活動（2時間）		
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループワークによる実データの分析② ～データの分析と発表資料の作成～</li> </ul>	発表資料の作成（2時間）		
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループワークによる実データの分析③ ～発表とまとめ～</li> </ul>	講義の総復習（2時間）		
テキスト	富士通ラーニングメディア『Excel ではじめるデータ分析』（FOM 出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

※ 実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容  
 実務経験：民間の金融系シンクタンクにて、研究員としてデータ分析業務に携わる。  
 教育内容：オープンデータ等の実データを用いた演習により、実践的なデータ分析能力を養う。

科目名	ワードプロセッサ活用学B	担当者	佐藤 恵
区分等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	タッチタイピング(20%) …正確性、ワープロ検定試験基準による速度レベル 課題提出(40%)、授業内での小テスト(40%)		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価をつけて返却する。		
目的	①Microsoft Office Word 応用機能について学ぶ。 ②各種文書の基本文例を学ぶ。 ③目的を達成するために必要な Word の機能をあげ、効率的な方法を考える。 ④操作上のトラブルの原因を考え、その対処方法を学ぶ。		
到達目標	①タッチタイピングの習得を通して、自らのタイピングの問題点に気づき、課題を解決することで速度アップすることができる。 ②目的に応じた文書を的確で分かりやすくするための機能を提示することができる。また、その機能を十分に活用することができる。 ③文書の種類に応じた文書作成ができる。		
履修上の注意	授業開始時にログオンが完了していること。課題は期限内に提出し、教員のチェックを受けること。		
オフィスアワー	金曜日 13:00～16:30		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション、文字書式	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
2	受講申込書：表作成とページ罫線	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
3	旅行行程表：レイアウトを重視した罫線	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
4	タブとリーダーの効果的な利用(1)	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
5	チラシ：タブとリーダーの効果的な利用(2)	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
6	チラシ：段組み	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
7	チラシ：段落スタイルの作成と変更	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
8	チラシ：組み込みスタイルの利用とスタイルの変更・更新	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
9	表紙の挿入：セクション区切り	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
10	表紙の挿入：ヘッダー・フッター	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
11	報告書：SmartArtの作成	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
12	チラシ：テキストボックスのリンク	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
13	宛名ラベル：差し込み印刷	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
14	表紙の挿入：目次作成	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
15	報告書：EXCELデータの貼り付け	タッチタイピング練習。課題の復習。(1時間)	
テキスト	Word 実習問題集—ステージアップ編—Microsoft Word 2019 対応(ムゲンダイ出版)		
指定図書	なし。		

科目名	Web ページ作成 I	担当者	ベ ジンソク
区分等	2 年次・前期 [演習] 2 単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	授業への取り組み姿勢 (20%)、課題提出 (80%)		
課題に対するフィードバック	課題については、授業内で行います。		
目的	この授業では、グラフィックデザイン、インフォメーションデザイン、UI デザインによる正確な情報伝達の方法や、それら 3 つの要素を機能的、かつ効果的にサイトに取り込んでいく手法や考え方を習得し、ユーザーが WEB ブラウジングする際の快適な情報認識・理解を促すインターフェースデザインの制作を目指す。Web ユーザーインターフェースを想定した画面デザインの提案を課題とし、Adobe XD のデザインツールを利用しプロトタイプを作成する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Dreamweaver のソフトを利用し簡単な web サイトが制作できるようになる。</li> <li>・ Adobe XD のデザインツールを利用しプロトタイプの WEB サイトが制作できるようになる。</li> </ul>		
履修上の注意	コンピュータグラフィックス、グラフィックデザイン履修済みが望ましい。 Adobe Photoshop または Adobe Illustrator が使えること。 毎回行う授業の内容が異なるために欠席しないこと。		
オフィスアワー	未定		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス、および演習課題の説明	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
2	インターネットの仕組み、ウェブサイトの基本知識	講義の復習 (1 時間)	
3	Dreamweaver ソフトウェアの使い方	演習の復習 (1 時間)	
4	テキスト入力、リンク張り	演習の復習 (1 時間)	
5	画像の貼り付け	演習の復習 (1 時間)	
6	Top ページ画面デザイン	演習の復習と演習の画面制作 (2 時間)	
7	Sub ページ画面デザイン	演習の復習 (1 時間)	
8	GIF アニメーション制作	演習の復習 (1 時間)	
9	Adobe XD ソフトウェアの使い方	演習の復習 (1 時間)	
10	テキスト入力、リンク張り	演習の復習 (1 時間)	
11	画像の貼り付け	演習の復習 (1 時間)	
12	課題テーマ設定	演習の復習と演習の課題制作 (2 時間)	
13	プロトタイプサイト作成	演習の課題制作 (2 時間)	
14	課題制作	演習の課題制作 (2 時間)	
15	課題提出・講評	講評	
テキスト	授業時に資料配付		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	Web ページ作成Ⅱ	担当者	ベ ジンソク
区分等	2 年次・後期 [演習] 2 単位 選択 / 生活文化専攻		
評価基準	授業への取り組み姿勢 (20%)、課題提出 (80%)		
課題に対するフィードバック	課題については、授業で行います。		
目的	Web ページ作成Ⅰ で学んだ Dreamweaver の基本操作や CSS と HTML の仕組みに対する理解をもとに、Web サイトを制作する。		
到達目標	本授業は、自分でゼロから Web サイトを完成させられる技術を身につけることを目標とする。見る人に優しいデザイン、使いやすいデザインをテーマとし、これらを実現するために必要な要素技術を、演習を通して習得する。Web サイトのコンテンツの企画から設計、画面デザインとそれを実現する CSS や HTML 作成、サイトの公開、評価までの一連のプロセスを演習による制作を通じて Web サイト制作を学ぶ。		
履修上の注意	Web ページ作成Ⅰ の履修をしていること		
オフィスアワー	未定		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス、および演習課題の説明	演習の復習 (1 時間)	
2	CSS の仕組みや HTML でサイト作成 1	演習の復習 (1 時間)	
3	CSS の仕組みや HTML でサイト作成 2	演習の復習 (1 時間)	
4	CSS の仕組みや HTML でサイト作成 3	演習の復習 (1 時間)	
5	CSS の仕組みや HTML でサイト作成 4	演習の復習 (1 時間)	
6	CSS の応用や動きを実現する仕組み (JavaScript) 1	演習の復習 (1 時間)	
7	CSS の応用や動きを実現する仕組み (JavaScript) 2	演習の復習 (1 時間)	
8	課題のテーマ設定、調査、分析	演習の復習 (1 時間)	
9	ページデザインの検討・制作	演習の復習 (1 時間)	
10	ユーザーインタフェースデザイン	演習の復習 (1 時間)	
11	サイトの全体設計	個人課題制作 (2 時間)	
12	サイト制作	個人課題制作 (2 時間)	
13	サイト制作	個人課題制作 (2 時間)	
14	サイト制作	個人課題制作 (2 時間)	
15	課題提出・講評	講評	
テキスト	授業時に資料配付。		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	Python II	担当者	米山修司
区分等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	① 課題提出(60%) ② 定期試験(30%) ③ プレゼンテーション(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、採点を行った上で返却する。		
目的	① プログラミング言語 Python を用いた基本的なプログラミングを行う能力を養う。		
到達目標	① Python に関する自らが必要とする情報を書籍やインターネット上から参照し、それを理解した上で、簡単なプログラムを作成する能力を身に着ける。		
履修上の注意	① 「Python I」の単位を取得済みであること。 ② 授業の後半でグループによる演習を行う。グループ演習では、協調性のある行動が求められる。		
オフィスアワー	金曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	● ガイダンス ● 基本的な Python プログラミングの復習	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
2	● 繰り返し処理の応用 ～多重ループ・フラグ～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
3	● 例外処理 ～try 文と except 節・finally 節・else 節～	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
4	● 辞書 (dict)	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
5	● JSON ● 標準ライブラリ① (json モジュール)	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
6	● リスト (list) の応用 ～2次元リスト・内包表記～ ● 標準ライブラリ② (pprint モジュール)	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
7	● CSV ● 標準ライブラリ③ (csv モジュール)	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
8	● 標準ライブラリ④ (Tkinter モジュール)	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
9	● 総合演習	講義の復習と演習問題による確認（2時間）	
10	● グループによるプログラミング演習 (GUI アプリの作成) ①	必要に応じて授業時間外でグループ活動（2時間）	
11	● グループによるプログラミング演習 (GUI アプリの作成) ②	発表資料の作成（2時間）	
12	● グループ演習の中間発表 (プレゼンテーション)	必要に応じて授業時間外でグループ活動（2時間）	
13	● グループによるプログラミング演習 (GUI アプリの作成) ③	必要に応じて授業時間外でグループ活動（2時間）	
14	● グループによるプログラミング演習 (GUI アプリの作成) ④	発表資料の作成（2時間）	
15	● グループ演習の成果発表 (プレゼンテーション)	講義の総復習（2時間）	
テキスト	米山修司『初歩からはじめる Python プログラミング』（デザインエッグ）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	グローバル世界と地域文化A Global World and Local Culture A	担当者	Mathew Philip
区分等	2 年次・前期 [講義] 2 単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	① 授業への参加姿勢：20% ② 授業のテーマへのコメントペーパー：20% ③ 地域で自分が出来るプロジェクト作成：60%		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目的	① 「地域文化」のグローバル化を学ぶ中で、日本に滞在をしている世界の人々を大切に、一緒に働き地域で暮らす日本人の現状と課題を研究し、学ぶことで、「地域」と「グローバル」社会をさまざまな視点から考察する力を養い、世界の舞台で活躍するスキルを習得する。 ② 表面化されていない地域文化のグローバルな広がりや秋田のグローバル化を調査し、浮き彫りにして行く中で、調査能力を育む。 ③ 地域や世界のグローバル化への関心を高め、関連する新聞記事や資料を受講前よりも深く読めるようになる。 ④ グローバル化（および世の中の出来事）の分析能力を養う。 ⑤ グループ・ディスカッションに慣れる。		
到達目標	① 秋田で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。 ② グローバル社会と日本（社会）との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得る。 ③ グローバル化や地域文化を評価し、グローバルマナーを身につけ、世界で活躍できるようになる。 ④、地域社会においてもグローバル社会でも恥じないマナーをもってコミュニケーションを出来るようになる。		
履修上の注意	グローバル世界と地域文化Aは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・グローバル世界論(Orientation) Theories of Globalization		
2	グローバル化って何 History of Globalization	Global という言葉の意味を辞書で調べてノートに書く。予習（20分）	
3	日本の可能性を広げるグローバル化 Globalization that expands the possibilities of Japan	外国で活躍している日本人についての新聞記事を読む。予習（30分）	
4	グローバル化によって広がる秋田地域の絆 Bonds in the Akita region that are expanding due to globalization	秋田市に住んでいる外国人の数と国籍を調べる。 予習（30分）	
5	秋田における教育のグローバル化	秋田でグローバルな教育をしている学校のリストを作る。予習（30分）	
6	近所付き合いや生活のグローバル化における変化 Globalization of life and Changes in neighborhood relationships	(Zoom 使用) 在日外国人の話を聞く予習（30分）	
7	地域家庭生活のグローバル化 Globalization of local family life	(Zoom 使用) 国際結婚について話を聞く（30分）	
8	グローバル化によって世界に広がる日本の文化 Globalization of Japanese Culture	外国で流行りの日本の文化についての新聞記事を読む。予習（30分）	
9	グローバル化による日本人とお金の移動変化 Changes in the movement of Japanese people and money in globalization	日本が外国でできる事業のリストを作成する。 予習（30分）	
10	世界政治にグローバル化がもたらした変化 Changes brought about by globalization in world politics	アメリカの大統領選挙について新聞記事を読む。	
11	グローバル化を支える国際機関 International organizations that support globalization	ネットで国連について調べる。予習（30分）	
12	世界の地域文明を豊かにするグローバル化 Globalization that enriches the world's regional civilization	世界で人気のある日本料理のリストを作成する。	
13	グローバル化の中で世界に広がる秋田 Akita that spreads around the world in the midst of globalization	秋田の世界に誇れる地域文化や食べ物を探し、リストを作成する。予習（30分）	
14	秋田の食習慣のグローバル化 Globalization of Akita's Culinary Traditions	秋田で人気のある外国料理や外国ツアーのリストを作成する。予習（30分）	
15	グローバル化の中で広がる人の夢 Growing Dreams of People in the midst of globalization	世界で行ってみたい国、やってみたいことのリストを作成する。予習（30分）	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科目名	アメリカ文化B	担当者	Rachel Youngblood
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻		
評価基準	Classroom participation (50%) Homework (20%) Final Presentation (30%)		
課題に対するフィードバック	Classroom discussions and activities will expand on topics through encouraging students to utilize their own knowledge of Japanese culture, supported by teacher feedback and comments.		
目的	The aim of this course is to introduce students to important aspects of American culture and society through a variety of topics.		
到達目標	Students will be able to utilize critical thinking skills and expand their perspectives through comparisons of Japanese and American culture.		
履修上の注意	This course is taught in English.		
オフィスアワー	Monday-Wednesday 9:00-12:15		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習（予習・復習）の内容および、時間</b>	
1	Introduction to the course, Perceptions & Stereotypes	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
2	American History I: Native Americans	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 10 予習 (1 hour)	
3	American History II: Westward Expansion	Chapter 10 PowerPoint 復習, Chapter 6 予習 (1 hour)	
4	American History III: Slavery & Civil War	Chapter 6 & PowerPoint 復習, Chapter 7 予習 (1 hour)	
5	American History IV: Civil Rights Movement & BLM	Chapter 7 & PowerPoint 復習	
6	Viewing: <i>Hidden Figures</i>	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
7	Viewing: <i>Hidden Figures</i>	Reflection Writing 復習 (1 hour)	
8	American Education I: School Life	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
9	American Education II: University	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
10	American Music I: Music Roots	Vocabulary & PowerPoint 復習 (1 hour)	
11	American Music II: Modern Music	Vocabulary & PowerPoint 復習, Chapter 12 予習 (1 hour)	
12	American Tourism: History & Locations	Chapter 12 & PowerPoint 復習 (1 hour)	
13	Final Presentation Preparation	Chapter 6, 7, 10, 12 & PowerPoints 復習	
14	Final Presentation Preparation	Chapter 6, 7, 10, 12 & PowerPoints 復習	
15	Final Presentations		
テキスト	Todd Rucynski & Yoko Nakagawa “American Vibes” (Kinseido)		
指定図書	None		

科目名	国内インターンシップ		担当者	Mathew Philip
区分等	2年次・後期 [講義・実習] 2単位		選択/生活文化専攻	
評価基準	実習記録 (40%) 企業実習レポート (40%) プレゼンテーション (20%)			
課題に対するフィードバック	提出物について、適宜コメントする。			
目的	国内における民間のインターンシップを通じて地域リーダーシップ、経営力を磨くことである。			
到達目標	インターンシップ体験を通じて『生産』、『販売』を企業の立場から理解し、自分の地域リーダーシップ力、経営力を磨くことを目標とする、また、短大の授業から学んだビジネス、経済、リーダーシップの『理論』などを現場体験によって『確認』することも、授業目標となる。			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講人数に制限がある (6人)。</li> <li>三回に分けて企業実習を行う。</li> <li>事前授業で企業実習にとって最低限必要な業界研究・企業研究の仕方などを解説し、ワークショップ形式で実施する。</li> <li>事後授業は、企業実習後の体験学習を通して気づき、体験を通じて得られた知見などを最終的にはプレゼンテーションできるよう指導していく。その一環として実習レポートの作成と提出がある。</li> <li>70時間以上のインターンシップができる。</li> </ul>			
オフィスアワー				
	授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス: インターンシップとは何かを説明し、今後の授業の在り方、特に『企業体験』について説明する。		事前学習: インターンシップ、生産についてその意義を調べておく。(2時間) 事後学習: 『企業体験』の意義、特に労働、リーダーシップ、生産、販売の目的・意義・倫理に関して調べ、確認する。(2時間)	
2	業界研究と企業研究の仕方、インターンシップ企業の選定をする。		事前学習: インターンシップに関連する企業等の業界研究や企業研究の仕方を調べておく(2時間) 事後学習: 実習企業の事業内容や組織概要等に関して復習する。(2時間)	
3	インターンシップ企業を決定、販売・生産の理論		事前学習: 実習企業に関する情報をできる限り詳しく調査し、また『自己PR』の準備をする。(2時間) 事後学習: 自己PR活動に関わるリーダーシップ力、言葉遣いやマナーなどを復習する。(2時間)	
4	自己紹介書の作成、インターンシップに向けての諸注意、生産、販売についての理解を深める。		事前学習: 『インターンシップ』に関わる契約の意義と就業上の倫理に関して調べ、理解する。(2時間) 事後学習: インターンシップにおける『企業実習』期間中、実習企業のコンプライアンス(法令遵守や労働倫理等の遵守)販売、生産について理解し復習する。(2時間)	
5	『企業実習』の実施		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
6	実習企業の実習計画に従って学習する。		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
7	実習企業の実習計画に従って学習する。		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
8	企業実習のふりかえり		事前学習: 企業実習(就業体験)を振り返り、文章化する。(2時間) 事後学習: 企業実習レポートの作成準備(2時間)	
9	企業実習レポートの作成の仕方を説明する。		事前学習: 配布プリントを読み、企業実習レポートの作成の仕方を予習する。(2時間) 事後学習: 企業実習レポートの作成(2時間)	
10	『企業実習』の実施		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
11	実習企業の実習計画に従って学習する。		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
12	『企業実習』の実施		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
13	企業実習のふりかえり 各人の企業実習での体験を総括し、体験から学んだことを文章化できるようにする		事前学習: 企業実習(実習体験)を振り返り、文章化する。(2時間) 事後学習: 企業実習レポートの作成準備(2時間)	
14	『就業体験』についてのプレゼンテーションの仕方		事前学習: 『就業体験』に関する発表ができるよう必要な資料や体験記録をまとめておく。(2時間) 事後学習: 企業実習レポートの提出準備と発表用PPTの作成。(2時間)	
15	企業実習レポートの提出とプレゼンテーション		事前学習: 企業実習レポートの提出準備と発表用PPTの作成。(2時間) 事後学習: インターンシップで体験したことから、労働の意義と倫理を理解する。(2時間)	
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	海外インターンシップ (シンガポール or オーストリア)		担当者	Mathew Philip
区分等	2年次・後期 [講義・実習] 1単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	実習記録 (40%) 企業実習レポート (40%) プレゼンテーション (20%)			
課題に対するフィードバック	提出物について、適宜コメントする。			
目的	シンガポールにおける民間のインターンシップを通じてグローバルリーダーシップ、グローバル教養、経営力を磨くことである。			
到達目標	海外のインターンシップ体験を通じてグローバル『生産』、『販売』を経営者の立場から理解し、自分のグローバルリーダーシップ力、グローバル教養、経営力を磨くことを目標とする、また、短大の授業から学んだグローバルビジネス、経済、リーダーシップの『理論』などを現場体験によって『確認』することも、授業目標となる。			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講人数に制限がある (4人)。</li> <li>・ 事前授業で海外企業実習にとって最低限必要な文化、言葉、業界研究・企業研究の仕方などを解説し、ワークショップ形式で実施する。</li> <li>・ 事後授業は、海外企業実習後の体験学習を通して気づき、体験を通じて得られた知見などを最終的にはプレゼンテーションできるよう指導していく。その一環として実習レポートの作成と提出がある。</li> <li>・ 45時間のインターンシップができる。</li> </ul>			
オフィスアワー	授業で紹介			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス：海外インターンシップとは何かを説明し、今後の授業の在り方、特に『海外の企業体験』について説明する。		事前学習：インターンシップ、生産についてその意義を調べておく。(2時間) 事後学習：『企業体験』の意義、特に労働、リーダーシップ、生産、販売の目的・意義・倫理に関して調べ、確認する。(2時間)	
2	業界研究と企業研究の仕方、インターンシップ企業の選定をする。		事前学習：インターンシップに関連する企業等の業界研究や企業研究の仕方を調べておく (2時間) 事後学習：実習企業の事業内容や組織概要等に関して復習する。(2時間)	
3	グローバル販売・生産の理論		事前学習：実習企業に関する情報をできる限り詳しく調査し、また『自己PR』の準備をする。(2時間) 事後学習：自己PR活動に関わるリーダーシップ力、言葉遣いやマナーなどを復習する。(2時間)	
4	自己紹介書の作成、海外インターンシップに向けての諸注意、グローバル生産、販売についての理解を深める。		事前学習：海外『インターンシップ』に関わる契約の意義と就業上の倫理に関して調べ、理解する。(2時間) 事後学習：海外インターンシップにおける『企業実習』期間中、実習企業のコンプライアンス (法令遵守や労働倫理等の遵守) 販売、生産について理解し復習する。(2時間)	
5	『海外企業実習』の実施		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
6	実習企業の実習計画に従って学習する。		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
7	実習企業の実習計画に従って学習する。		実習企業の指示に従う。また、実習記録をまとめる。	
8	企業実習のふりかえり 海外企業実習レポートの提出とプレゼンテーション		事前学習：企業実習(就業体験)を振り返り、文章化する。(2時間) 事後学習：企業実習レポートの作成準備 (2時間) 事前学習：企業実習レポートの提出準備と発表用PPTの作成。(2時間) 事後学習：海外インターンシップで体験したことから、グローバルに働くことの意義と倫理を理解する。(2時間)	
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	現代家族論	担当者	寺谷直輝
区分等	2年次・後期〔講義〕2単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	<p>毎回、ゼミ形式で、授業前の報告・議論の準備、授業中の報告・討論、授業後のまとめ、など、全て受講生が主体的に行う授業です。  <b>レポーターを担当する回で一度も遅刻・欠課しないことが単位認定の前提です（報告者不在だと授業が成立しないためです）。</b></p> <p>①毎回の受講生としての準備学習状況（指定した学術論文の読み込み等）【25%】  ②報告者としての報告内容とその準備（報告者以外はゼミでの討論）【25%】  ③毎回授業日の翌日 21:00 までに提出してもらった感想文（600 字以上）【25%】  ④期末レポート（2,000 字以上）【25%】</p>		
課題に対するフィードバック	ゼミ形式で実施しますから、皆さんの準備学習の成果をフィードバックする体制は構築できています。感想文や報告内容は受講生と教員で議論します。		
目的	現代家族に関わる論点の1つに、「障害者の自立」があります。例えば、「障害のある子どものケアは親が行って当たり前である」「障害者も一般就労してタックスペイヤー（納税者）となるように教育すべし」という言説や、「親亡き後」「自立」という概念はこの論点に関わります。 <b>本授業では担当教員が専門にしている「知的障害のある青年の特別支援学校高等部卒業後における学習機会」について、受講生と徹底的に考えることが目的です。</b> この延長線上に、「障害者の自立をどのように考えるべきか」という答えがあります。この答えを学術論文の講読と議論を手掛かりに、一緒に探っていきましょう。		
到達目標	①知的障害のある青年の特別支援学校高等部卒業後における学習機会に関する学術動向や実践動向を説明できるようになること。 ②卒業後もデジタル・グローバル・地域社会で活躍するために、「学び方を学ぶ」技法を身につけていること。		
履修上の注意	毎回、ゼミ形式で、授業前の報告・議論の準備、授業中の報告・討論、授業後のまとめ、など、全て受講生が主体的に行う授業です。かなり授業内容は高度ですし（皆さんが理解できるようにサポートはします）、1回の授業につき、1・2本の学術論文（各10頁程度）や基本文献の1章分を講読します。 履修条件①：毎回、指示された準備学習〔準備学習（予習・復習）の内容および、時間〕を参照を行った上で授業に参加できること。 履修条件②：2024年度は1・2校時開講のため、レポーターを担当している回は遅刻や欠課を一切しないこと（報告担当の学生が不在だと授業が成立しなくなるため）。		
オフィスアワー	火曜日 15時00分～16時00分（C B O 7 研究室）		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ●受講生の関心チェック・卒業研究のテーマ報告(1名 10分) ●講読論文の選定・レポーターの分担 ●成績評価と履修上の注意に関する説明 ●Google Classroom への招待と参加確認 問題提起：知的障害のある青年の特別支援学校高等部卒業後における学習機会の現状と課題	受講動機及び卒業研究のテーマを10分間自己PRできるように準備すること。（4時間）	
2	導入：障害者の生涯学習政策の現状と課題	①指定した論文または基本文献の抜粋を読み込むこと、同時に、卒業研究の進捗状況を報告できるように研究を進めておくこと（毎回予習1.5時間） ②報告を担当する学生はプレゼンテーションできるようにPowerPointの作成準備をすること、報告を担当しない学生は議論したいことを400字でまとめておくこと（毎回予習1.5時間） ③毎回の授業後21:00までに感想文を600字以上で提出すること（毎回復習1.0時間）	
3	実践動向2—学校型専攻科—		
4	実践動向3—オープンカレッジ・大学公開講座— 受講生による卒業研究の進捗状況報告（1）		
5	実践動向4—福祉事業型専攻科—		
6	実践動向5—法定外大学（見晴台学園）—		
7	理論研究1 —糸賀一雄による「発達保障」概念—		
8	理論研究2 —障害者の生涯学習に関する2つの視点— 受講生による卒業研究の進捗状況報告（2）		
9	理論研究3 —「学校から社会への移行期」と二重の移行支援—		
10	理論研究4 —専攻科に進学することの意義（役割と課題）—		
11	理論研究5 —生涯学習支援を通じた学習能力等の課題—		
12	諸外国の動向1—アメリカ		
13	諸外国の動向2—イギリス		
14	諸外国の動向3—韓国		
15	まとめ（半期の授業で学んだことの振り返り）		
テキスト	二本柳覚編『図解でわかる障害福祉サービス』（中央法規出版）を指定します。その他、毎回の授業で学術論文や基本文献（2点各10頁以上）をデータで共有します。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	保育学		担当者	石井美和子
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活文化専攻			
評価基準	① 課題提出 (40%) ② レポート提出・発表 (50%) ③ 授業への取り組み姿勢 (10%)			
課題に対するフィードバック	提出物 (レポート) については、随時コメントをつけて返却する。			
目的	核家族化、少子化、ライフスタイルの多様化、幼児教育、新たな子育てが求められる時代に、育つ子どもを理解し、子どもを育てる大人や親になるとはどういうことなのかを理解できるようにする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児を取り巻く社会情勢の変化の中で、どんな子育てが求められているのかを知ることができる。</li> <li>・子どもを健やかに産み、心身ともに健康に成長させるために必要な知識や技術を知ることができる。</li> </ul>			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・出産・育児についての知識を学び、自分なりの考え方をきちんと持てるように、積極的な態度で授業に臨むこと。</li> <li>・欠席した場合には授業の内容を確認する。</li> <li>・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。</li> </ul>			
オフィスアワー	木曜日 16時30分～17時30分			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	オリエンテーション 保育学とは	・新聞などに掲載されている保育に関する記事に積極的に目を通し、コピーまたは書き出しておく。(1時間)		
2	赤ちゃん学を学ぶ① 妊娠と出産 DVD (生まれる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・課題に取り組む。(1時間)</li> </ul>		
3	赤ちゃん学を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・課題に取り組む。(1時間)</li> </ul>		
4	赤ちゃん学を学ぶ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・課題に取り組む。(1時間)</li> </ul>		
5	赤ちゃん学を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・課題に取り組む。(1時間)</li> </ul>		
6	赤ちゃん学を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・課題に取り組む。(1時間)</li> </ul>		
7	赤ちゃん学を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・課題に取り組む。(1時間)</li> </ul>		
7	ライフスタイルを考える	・自分のライフスタイルについて考える。(1時間)		
8	子どもの養育の意義・目標	・育児雑誌について調べる。(1時間)		
9	子育てとは①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・育児雑誌を調べてまとめる (グループ)。(1時間)</li> </ul>		
10	子育てとは②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・育児雑誌を調べて発表の準備をする。(1時間)</li> </ul>		
11	子育てとは③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・育児雑誌のメリット・デメリットを考える。(1時間)</li> </ul>		
12	具体的な育児方法① 子育てに必要な用品の選択と準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。</li> <li>・おもちゃについて調べる・作成する。(2時間)</li> </ul>		
13	具体的な育児の方法 ② DVD (抱っこの仕方・赤ちゃんのお風呂の入れ方・安全な調乳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に体験する。</li> <li>・体験したことのポイントを捉えてまとめる。(1時間)</li> </ul>		
14	保育学についてのレポート作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成 (自分の課題を持ってまとめる) (3時間)</li> </ul>		
15	乳幼児を取り巻く社会情勢を知り、妊娠出産、育児についてまとめ、課題などについて考える。	・これまでの学習の復習 (2時間)		
テキスト	なし。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	秘書実務Ⅱ	担当者	小林紀子
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①授業内演習5割 ②授業内まとめテスト5割		
課題に対するフィードバック	①提出課題は、随時解説をつけ返却する。 ②秘書検定面接試験については個別指導をする。		
目的	秘書士として職務を果たすのに必要な実践的知識・技術を学び、円滑な人間関係を作る資質やセンスのある人格育成、並びに、コミュニケーション能力、状況判断、問題解決などの職能開発をする。		
到達目標	①説得力のあるプレゼンテーションができる。 ②ビジネスタスクをシミュレーションできる。 ③自分で考え、スキルを使って仕事を処理することができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜日 12時15分～13時05分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	プレゼンテーション 聴き手に判断や意思決定させるための実践	企画シート作成と自己評価（1時間）	
2	タスク・ベース・シミュレーション オフィスコミュニケーション	話し方と人間関係復習（1時間）	
3	タスク・ベース・シミュレーション 受付（午前）	来客応対・電話応対復習（1時間）	
4	タスク・ベース・シミュレーション 受付（午後）	秘書英語復習（1時間）	
5	タスク・ベース・シミュレーション スケジューリング（午前）	言葉づかい復習（1時間）	
6	タスク・ベース・シミュレーション スケジューリング（午後）	言葉づかい復習（1時間）	
7	タスク・ベース・シミュレーション 出張準備	時刻表の見方復習（1時間）	
8	タスク・ベース・シミュレーション 出張後の仕事	伝票の復習（1時間）	
9	タスク・ベース・シミュレーション 会議（取締役会）	文書の復習（1時間）	
10	タスク・ベース・シミュレーション ビジネスメール	電子メール復習（1時間）	
11	総合演習 イン・バスケットⅠ オフィスの仕事（第1回）	演習ふりかえり（1時間）	
12	総合演習 イン・バスケットⅡ オフィスの仕事（第2回）	演習ふりかえり（1時間）	
13	総合演習 イン・バスケットⅢ オフィスの仕事（第3回）	演習ふりかえり（1時間）	
14	検定対策 秘書検定準1級対応	秘書検定準1級合格を目指す学習を継続すること。 （2時間以上）	
15	まとめ イン・バスケットと実技	これまでの復習（1時間）	
テキスト	自作教材使用。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	ビジネス実務演習Ⅱ		担当者	佐藤 恵
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	①プレゼンテーション・ロールプレイングなどの発表(70%) ②グループワークへの貢献(30%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をして学生にフィードバックする。			
目的	職場で役立つビジネス実務を身につけるために、ビジネス実務マナーやオフィスワークの理論を学ぶ。また、理論を実践に移すためにトレーニング学習を通して、ビジネス実務を学ぶ。			
到達目標	ロールプレイングによる実務訓練により、社会人としての基本的なマナーが身につき、実践できるようになる。			
履修上の注意	ビジネス実務士(全国大学実務教育協会)課程の必修科目である。 授業内の課題や演習問題は積極的に取り組むこと。			
オフィスアワー	金曜日 13:00~16:30			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション: ビジネスゲームで考える「チームワーク」		(事前)自分の経験からチームワークを高める方法をまとめておく。 (事後)気づきのまとめる	
2	交際業務		ポイント学習	
3	総務業務		ポイント学習	
4	報告・連絡・相談①		(事前)伝達方法について調べる。(0.5時間) ノートのまとめと確認(1時間)	
5	報告・連絡・相談②		ノートのまとめと確認。(1時間)	
6	コミュニケーショントレーニング アサーション① 理論・基礎		(事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
7	コミュニケーショントレーニング アサーション② 交渉		(事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
8	ビジネスゲームで考える「調整と交渉」		(事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
9	会議の技術: 準備と心構え・意見の述べ方		(事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
10	会議の技術: 司会進行		(事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
11	総合演習: 会議の実際		(事前)「会議のテーマ」について自分の考えをまとめておく。(0.5時間) (事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
12	情報収集: データの読み方、まとめ方		(事前)新聞・ネットから、現在話題になっていること、自身が気になっているニュースを集め、発表準備をする。(2時間) (事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
13	発表の仕方: 資料作成と立ち居振る舞い		発表準備 (事後)ノートのまとめと確認。(1時間)	
14	総合演習: プレゼンテーション		(事前)プレゼンテーション準備 (事後)プレゼンテーションの振り返り(1時間)	
15	交際のマナー		(事前)冠婚葬祭のマナーについて知っていることをまとめておく。(0.5時間) (事後)ノートのまとめと確認(1時間)	
テキスト	『新ビジネスとオフィスワーク』(樹村房)			
指定図書	なし。			

科目名	英語A	担当者	菅野 薫
区分等	1年次・前期 [演習] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	学習態度 (20%)、課題発表 (20%)、宿題 (30%)、定期試験 (30%)		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目的	英語教育低年齢化に伴い、保育現場でも活かせる実用的な英会話や最低限の英語のルールを身につけることを目指す。英語のアクティビティを学び、活かせるようになることを目指す。		
到達目標	英語圏の文化や文法なども学びながら、現場で英語の絵本の読み聞かせなどができるようになる。 現場で外国籍の子どもと話すための実践的な英会話力を身につける。		
履修上の注意	予習・復習は確実にを行うこと。英会話が中心の授業もあるため、授業中は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	水・金曜日 12時15分～13時		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション・自己紹介	(S.C.) Unit 1 予習 (1時間)	
2	(S.C.) Unit 1	(S.C.) Unit1 復習・Unit2 予習 (1時間)	
3	(S.C.) Unit 1 振り返り、Unit2	(S.C.) Unit2 復習・文法 Unit 1 予習 (1時間)	
4	文法 Unit1	品詞の復習・文法 Unit 2・3 予習 (1時間)	
5	文法 Unit 2・3 (be 動詞)	文法 Unit 2・3 復習・文法 Unit 4・5 予習 (1時間) 課題への取り組み	
6	文法 Unit 4・5 (be 動詞・There 構文)	文法 Unit 4・5 復習・文法 Unit 7・8 予習 (1時間) 課題への取り組み	
7	文法 Unit 7・8 (一般動詞1)	文法 Unit 7・8 復習・文法 Unit 9・10 予習 (1時間)・課題への取り組み	
8	文法 Unit 9・10 (一般動詞2)	文法復習 (1時間)	
9	文法総復習・課題の発表	(S.C.) Unit 3・4 予習 (1時間)	
10	(S.C.) Unit 3・4	(S.C.) Unit 3・4 復習・Unit 5 予習 (1時間)	
11	(S.C.) Unit 5	(S.C.) Unit 5・Unit 6 予習 (1時間)	
12	(S.C.) Unit 6	(S.C.) Unit 6・Unit 7 予習 (1時間)	
13	(S.C.) Unit 7	(S.C.) Unit 7 復習 (1時間)	
14	文法を活用した会話練習	授業内容の復習 (1時間)	
15	総まとめ	文法と英会話復習 (1時間)	
テキスト	Peter Vincent 『Speaking Of Childcare』 南雲堂 佐藤誠司 『5分間 基本英文法確認トレーニング』 南雲堂		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

科目名	英語B	担当者	菅野 薫
区分等	1年次・後期 [演習] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	学習態度 (20%)、課題発表 (20%)、宿題(30%)、定期試験 (30%)		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目的	英語教育低年齢化に伴い、保育現場でも活かせる実用的な英会話や最低限の英語のルールを身につけることを目指す。英語のアクティビティを学び、活かせるようになることを目指す。		
到達目標	英語圏の文化や文法なども学びながら、現場で英語の絵本の読み聞かせなどができるようになる。 現場で外国籍の子どもと話すための実践的な英会話力を身につける。		
履修上の注意	予習・復習は確実にを行うこと。英会話が中心の授業もあるため、授業中は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	水・金曜日 12時15分～13時		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	文法・英会話の確認	(S.C.) Unit 8 予習 (1時間)	
2	(S.C.) Unit 8	(S.C.) Unit8 復習・Unit 9 予習 (1時間)	
3	(S.C.) Unit 8 振り返り、Unit 9	(S.C.) Unit9 復習・文法 Unit 11 予習 (1時間)・課題への取り組み	
4	(S.C.) Unit 9 振り返り、文法 Unit 11	品詞の復習・文法 Unit 14・15 予習 (1時間)・課題への取り組み	
5	文法 Unit 14・15 (疑問詞)	文法 Unit 14・15 復習・文法 Unit 16・17 予習 (1時間)・課題への取り組み	
6	文法 Unit 16・17 (助動詞1)	文法 Unit16・17 復習・文法 Unit 18 予習 (1時間)・課題への取り組み	
7	文法 Unit 18 (助動詞2)	文法 Unit18 復習・文法 Unit 19・20 予習 (1時間)・課題への取り組み	
8	文法 Unit 19・20 (不定詞・動名詞)	文法復習 (1時間)・課題への取り組み	
9	文法総復習・課題発表	(S.C.) Unit 10・11	
10	(S.C.) Unit 10・11	(S.C.) Unit10・11 復習・Unit 12・13 予習 (1時間)・課題への取り組み	
11	(S.C.) Unit 12・13	(S.C.) Unit 12・13 復習・Unit 14 予習 (1時間)・課題への取り組み	
12	(S.C.) Unit 14	(S.C.) Unit 14 復習・Unit 15 予習 (1時間)・課題への取り組み	
13	(S.C.) Unit 15	(S.C.) Unit 15 復習・会話練習 (1時間)・課題への取り組み	
14	文法を活用した会話練習	授業内容の復習 (1時間)・課題への取り組み	
15	総まとめ・課題発表	文法と英会話復習 (1時間)	
テキスト	Peter Vincent 『Speaking Of Childcare』 南雲堂 佐藤誠司 『5分間 基本英文法確認トレーニング』 南雲堂		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

科目名	体育講義	担当者	松本奈緒
区分等	1年次・後期 [講義] 1単位 必修/生活こども専攻		
評価基準	定期試験、学習態度などを総合して評価する。60点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	生涯スポーツの視点から人間の一生と健康な生活、運動について理解する。		
到達目標	健康な生活と運動、運動の行い方、人間の発達段階と運動についての知識を得る。これに関連する用語を覚え、また、資料やVTRから自分の考えをまとめることができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	授業の前後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション、講義1「子どもの発達と運動1」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
2	講義2「子どもの発達と運動2」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
3	講義3「運動のしくみと技能」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
4	講義4「高齢者と運動」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
5	講義5「薬物乱用、飲酒、喫煙と健康」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
6	講義6「運動の重要性と体力トレーニング、運動処方」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
7	講義7「戦後スポーツ史」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
8	講義のまとめ	プリントを用いて講義内容を復習する。(30分)	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科目名	体育実技		担当者	松本奈緒
区分等	1年次・前期、後期 [実技] 1単位 必修/生活こども専攻			
評価基準	スキルテスト、学習態度などを総合して評価する。60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	運動に親しみ、スポーツに必要なスキルを身につける			
到達目標	運動に親しむ態度、スキル、ルール、マナー、運動に関する知識を身につける。具体的には、バスケットボール、バドミントン、バレーボールの基本的な技術・マナーを身につけ、簡易なルールで試合を行うことができる。			
履修上の注意	運動にふさわしい服装（ジャージ、体育館シューズ等）着用。			
オフィスアワー	授業の前夜			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション、グルーピング		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)	
2	バスケットボール1		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)	
3	バスケットボール2		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる(30分)	
4	バスケットボール3		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる(30分)	
5	バスケットボール4		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
6	バスケットボール5		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
7	バスケットボール6		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
8	バスケットボール7		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
9	バドミントン1		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)	
10	バドミントン2		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)	
11	バドミントン3		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる(30分)	
12	バドミントン4		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる(30分)	
13	バドミントン5		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
14	バドミントン6		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
15	バドミントン7		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
16	バドミントン8		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
17	バレーボール1		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)	
18	バレーボール2		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。(30分)	
19	バレーボール3		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる(30分)	
20	バレーボール4		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる(30分)	
21	バレーボール5		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
22	バレーボール6		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
23	バレーボール7		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。(30分)	
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	保育原理	担当者	大曾基宣
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位 必修／生活こども専攻		
評価基準	到達目標1・2・3：定期試験およびレポートにより評価する。(70%) 到達目標4：シャトルカードにより評価する。(30%)		
課題に対するフィードバック	定期試験、レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目的	保育の考え方や方法の基礎を知ることが目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の理念、思想、歴史の変遷を理解し、保育の基礎となる子ども観、保育観を自身の言葉で説明できる。</li> <li>2. 保育所保育指針等における保育に関する基礎知識を身につける。</li> <li>3. 保育の現状と課題について理解し、保育者としての役割と専門性を説明できる。</li> <li>4. 保育の現状や保育観などについて自身の考えをまとめるにあたり、他者の考えを取り入れて改善することができる。</li> </ol>		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。</li> <li>2. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。</li> </ol>		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	保育の理念と意義	第1回の学習内容の振り返り（2時間）	
2	保育の基盤としての子ども観	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
3	保育における子ども理解	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
4	子どもが育つ環境の理解	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
5	保育内容・方法の原理	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
6	保育の計画と実践の原理	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
7	保育における健康・安全の原理	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
8	多様な子どもと共に育つ保育	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
9	子どもを中心とする保育を導いた思想家	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
10	日本における保育の歴史	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
11	諸外国における保育の動向	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
12	保育者の専門性	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
13	現代の子育てと子育て支援	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
14	保育の現状と課題	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
15	「保育原理」の再考	第15回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	渡邊英則ほか『保育原理』（ミネルヴァ書房）。		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	社会的養護 I		担当者	野内友規
区分等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 必修/生活こども専攻			
評価基準	到達目標 1・2：小テスト(70%)、レポート (20%)、 到達目標 3：受講態度 (グループ発表を含む) (10%)。			
課題に対するフィードバック	ニュース発表への感想・助言。			
目的	子育て環境の著しい変化や子ども虐待の増加など、子どもの人権を擁護し保護するための社会的養護の重要性は増している。このような現状を理解するとともに、支援する保育士として、関わるための考え方や姿勢また制度、資源等について学ぶ。			
到達目標	①社会的養護を必要とする子どもたち及び取り巻く環境を理解すると共に社会的養護の制度について理解する。 ②社会的養護に関わる保育士としての役割を理解する。			
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設けるので最低限のコミュニケーション能力が備わっていること。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 2. 授業において合理的配慮が必要な時は第 1 回目の授業時に必ず担当教員に相談すること。			
オフィスアワー	月曜日 7・8 限			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷(1) 社会的養護の理念と概念		第 1 回の学習内容の振り返り (2 時間)	
2	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷(2) 社会的養護の歴史の変遷		第 2 回の学習内容の振り返り、 第 3 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
3	社会的養護の基本(1) 子どもの人権擁護と社会的養護		第 3 回の学習内容の振り返り、 第 4 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
4	社会的養護の基本(2) 社会的養護の基本原則		第 4 回の学習内容の振り返り、 第 5 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
5	社会的養護の基本(3) 社会的養護における保育士等の倫理・責務		第 5 回の学習内容の振り返り、 ストレス・マネジメントの実践・記録 (2 時間)	
6	社会的養護の制度と実施体系(1) 社会的養護の制度と法体系		第 6 回の学習内容の振り返り、 第 7 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
7	社会的養護の制度と実施体系(2) 社会的養護の仕組みと実施体系		第 7 回の学習内容の振り返り、 第 8 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
8	社会的養護の対象・形態・専門職(1) 社会的養護の対象		第 8 回の学習内容の振り返り、 第 9 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
9	社会的養護の対象・形態・専門職(2) 家庭養護と施設養護		第 9 回の学習内容の振り返り、 第 10 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
10	社会的養護の対象・形態・専門職(3) 社会的養護に関わる専門職		第 10 回の学習内容の振り返り、 第 11 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
11	社会的養護の現状と課題(1) 社会的養護に関する社会的状況		第 11 回の学習内容の振り返り、 第 12 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
12	社会的養護の現状と課題(2) 施設等の運営管理		第 12 回の学習内容の振り返り、 第 13 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
13	社会的養護の現状と課題(3) 被措置児童等の虐待防止		第 13 回の学習内容の振り返り、 第 14 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
14	社会的養護の現状と課題(4) 社会的養護と地域福祉		第 14 回の学習内容の振り返り、 第 15 回で学習予定の配付資料内容の確認 (2 時間)	
15	まとめと振り返り 社会的養護に関する補足説明とまとめ レポート試験のフィードバック		第 15 回の学習内容の振り返り (2 時間)	
テキスト	相澤譲治・今井慶宗編著『子どもと社会的養護の基本』(学文社)			
指定図書	適宜推薦図書を紹介しします。			

科目名	教育原理	担当者	寺谷直輝
区分等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修/生活こども専攻		
評価基準	<b>授業への「参加」</b> (単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う) <b>が単位認定の前提です。</b> ①定期試験 (50%) ②200 字以上の感想文 (30%) ③プレゼンテーション (±20%)		
課題に対するフィードバック	①定期試験は、希望があれば、個別にフィードバックします。 ②感想文は、匿名化処理を行った上で、受講生全員に PDF 形式で配信 (共有) します。 ③プレゼンテーションは、授業時間中に、講評と助言をします。		
目的	教育の制度や意義・方法の基礎を知ることが目的とする。		
到達目標	1. 教育の意義、目的、歴史の変遷を理解し、教育の基礎となる子ども観、教育観を自身の言葉で説明できる。 2. 教育制度、教育実践の基礎理論について説明できる。 3. 教育の現状と課題について理解し、解決に向けた方略を提案できる。 4. 教育の現状や教育観などについて自身の考えをまとめるにあたり、他者の考えを取り入れて改善することができる。		
履修上の注意	1. <u>授業時間中に使用しますので、①75mm×75mm 以上の付箋 (テキストに直接書き込むことに抵抗のある場合のみ)、②スマートフォンを必ず持参してください。</u> 2. <u>学習内容が現実社会に関係していることを視覚でイメージできるようにするため、授業時間の一部を映像作品の鑑賞に充てることがあります。</u>		
オフィスアワー	火曜日 15 時 00 分～16 時 00 分 (C B 0 7 研究室)		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション ●成績評価と履修上の注意に関する説明 ●Google Classroom への招待と参加確認 導入：教育の類型 (公教育と私教育) ●近代教育制度の成立と展開 ●教育制度の基礎/教育法規・教育行政の基礎	授業後にテキスト第 2 章を読み自学すること (2 時間) (学校制度と教育法規)	
2	発達を支える要因とは？ (生態学的システム理論) ●教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係 ●人間形成と家庭・地域・社会等との関連性	授業後に配付資料を読み自学すること (2 時間)	
3	教科書を使わない授業は可能か？ ●学校や学習に関わる教育の思想 ●教育法規・教育行政の基礎/教育実践の基礎理論	授業後にテキスト第 11 章を読み自学すること (2 時間) (教育課程と教科書・教材)	
4	学校だけが学ぶ場なのか？ ●家族と社会による教育の歴史/現代社会における教育課題 ●教育実践の多様な取り組み	授業後にテキスト第 4 章を読み自学すること (2 時間) (さまざまな義務教育のすがた)	
5	学校は何をする場なのか？ ●教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標/近代教育制度の成立と展開 ●教育の意義/教育の目的	授業後にテキスト第 10 章を読み自学すること (2 時間) (学校経営・学級経営と児童生徒の管理)	
6	後期中等教育と「特別支援学校高等部」の異同 ●現代社会における教育課題/学校や学習に関わる教育の思想 ●日本の教育の思想と歴史/教育制度の基礎	授業後にテキスト第 5 章を読み自学すること (2 時間) (後期中等教育と高等教育)	
7	教えることはマニュアル化できるか？ ●教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標 ●子ども観と教育観の変遷/教育実践の基礎理論	授業後に配付資料を読み自学すること (2 時間)	
8	就労の実現だけが教育の目的なのか？ ●教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標/現代社会における教育課題 ●子ども観と教育観の変遷/現代の教育課題	授業後にテキスト第 5 章を読み自学すること (2 時間) (後期中等教育と高等教育)	
9	学校は全ての子どもを受け入れることができるか？ ●代表的な教育家の思想/学校や学習に関わる教育の思想 ●日本の教育の思想と歴史/教育実践の基礎理論/現代の教育課題	授業後に配付資料を読み自学すること (2 時間)	
10	障害者の生涯学習推進に関わる政策と実践動向 ●家族と社会による教育の歴史/現代社会における教育課題 ●人間形成と家庭・地域・社会等との関連性/生涯学習社会と教育	授業後にテキスト第 7 章を読み自学すること (2 時間) (社会教育と生涯学習振興行政)	
11	学校と家庭以外で生活する場とは？ (子ども食堂) ●家族と社会による教育の歴史/家庭や子供に関わる教育の思想 ●教育と子ども家庭福祉の関連性/生涯学習社会と教育	授業後にテキスト第 14 章を読み自学すること (2 時間) (児童福祉と教育)	
12	歴史上の教育家の業績と思想・当時の社会の整理 ●代表的な教育家の思想/学校や学習・家庭や子供に関わる教育の思想 ●諸外国の教育思想と歴史/諸外国の教育制度/乳幼児期の教育の特性	プレゼンテーションを担当する歴史上の幼児教育に関わる教育家の業績と思想、その人物が当時生きていた社会について 10 分程度で報告できるような内容を整理すること。(2 時間)	
13	プレゼンテーションの準備 ●代表的な教育家の思想/学校や学習・家庭や子供に関わる教育の思想 ●諸外国の教育思想と歴史/諸外国の教育制度/乳幼児期の教育の特性	プレゼンテーションを担当する歴史上の幼児教育に関わる教育家の業績と思想、その人物が当時生きていた社会について 10 分程度で報告できるような内容を整理すること。(2 時間)	
14	プレゼンテーションの実施 (前半 5 グループ) ●代表的な教育家の思想/学校や学習・家庭や子供に関わる教育の思想 ●諸外国の教育思想と歴史/諸外国の教育制度/乳幼児期の教育の特性	他のグループが報告した幼児教育に関わる教育家の思想と当時の社会について、内容を整理すること。(2 時間)	
15	プレゼンテーションの実施 (後半 5 グループ) ●代表的な教育家の思想/学校や学習・家庭や子供に関わる教育の思想 ●諸外国の教育思想と歴史/諸外国の教育制度/乳幼児期の教育の特性	他のグループが報告した幼児教育に関わる教育家の思想と当時の社会について、内容を整理すること。(2 時間)	
テキスト	梨本加菜『生涯学習時代の教育制度』(樹村房)を指定します。また、適宜、授業資料を配付します。なお、このテキストは 2 年次後期に開講する【教育制度論】でも使用します。		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	教育心理学		担当者	織田栄子
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/生活こども専攻			
評価基準	定期試験でのテスト (30%)、中間まとめ (20%)、受講カードの提出と内容 (20%)、受講取り組み態度 (30%)。			
課題に対するフィードバック	提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	子どもの学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴に応じた教育的対応を身に付ける。			
到達目標	①子どもの心身や人間関係等、発達的特徴や個人差に応じた教育的対応方法がわかる。 ②自己理解を通して、保育者としての心構えができ、子どもや保護者等への理解が深まる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	オリエンテーション 保育と教育心理学1 ・教育心理学とは何か	授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
2	保育と教育心理学2 ・教育心理学の研究法	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
3	保育と教育心理学3 ・様々な児童観と教育観	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
4	発達と教育1 ・発達を規定するもの ・発達段階と発達課題	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
5	発達と教育2 ・思考の発達と教育 ・言葉の発達と教育	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
6	学習のしくみ1 ・条件づけ ・洞察学習	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
7	学習のしくみ2 ・記憶	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
8	やる気を育てる1 ・内発的動機づけ、外発的動機づけ	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
9	やる気を育てる2 ・内からの「やる気」を育てる ・中間まとめと解説	2～8回の授業の復習、及び2冊以上「やる気」についての参考文献を読み、要点をまとめる (2時間)		
10	個人差の理解1 ・知能とは何か ・知能の測定	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
11	個人差の理解2 ・性格とは何か ・性格の測定	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
12	個人差の理解3 ・適応	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
13	個人差の理解4 ・一人一人の違いを捉える	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
14	人間関係と社会化 ・親子関係と友だち関係	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
15	特別な支援を要する子どもたち 親の理解と子育て支援	前回授業の復習 (1時間) これまでの授業の復習 (1時間)		
テキスト	石井正子、松尾直博編著『教育心理学－保育者をめざす人へ』（樹村房）			
指定図書	『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） その他（巻末参照）。			

科目名	こどもの保健	担当者	佐々木澄子
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/生活こども専攻		
評価基準	①定期試験 (70%) ②課題レポート (30%)		
課題に対するフィードバック	提出物 (レポート) については、必要時コメントをつけて返却する。また、口頭でアドバイスする。		
目的	子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、子どもの健康状態とその把握、疾病とその予防・対応など保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学ぶ。		
到達目標	①子どもと家族を取り巻く環境について理解できる。 ②子どもの発育・発達の理解が出来、子どもの生理機能を知ることができる。 ③子どもの疾病や予防及び適切な対応等基礎的知識をもつことが出来る。 ④現代社会における課題と問題を考え、理解できる。		
履修上の注意	母子手帳を持参する 事前に家族から子ども時代の状況を収集する。		
オフィスアワー	授業終了後		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	子どもと家族を取り巻く社会	歴史と環境 (世界・日本) 家族とは 親とは 母親 (養育者) とは (4時間)	
2	子どもと家族を取り巻く社会	子どもの権利と法律・政策 社会保障制度 (4時間)	
3	子どもの成長・発達	発達理論 遊びと教育 (4時間)	
4	子どもの成長・発達	成長・発達の原則 (4時間)	
5	子どもの成長・発達	形態・機能的発達 (4時間)	
6	子どもの成長・発達	幼児期の発達 (4時間)	
7	子どもの成長・発達 子どもの病気	成長・発達に影響を与える因子 成長・発達の評価 健康問題: 幼児期 (4時間)	
8	子どもの病気	先天的な病気 (4時間)	
9	子どもの病気	感染性の病気 (4時間)	
10	子どもの病気	脱水になりやすい状況 (4時間)	
11	子どもの病気	心身障害について (4時間)	
12	子どもの病気	発達障害について (4時間)	
13 14	現代社会における課題と問題	虐待の現状とGW (8時間)	
15	救急処置と受診	救急処置 子どもの受診の目安 (4時間)	
テキスト	二宮啓子・今野美紀 編集「小児看護学Ⅰ」子どもと家族を理解し力を引き出す (改訂第4版) 南江堂		
指定図書	なし。		

科目名	こどもの健康と安全	担当者	大曾基宣
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	①課題レポート (50%) ②受講態度と演習におけるグループ活動 (50%)		
課題に対するフィードバック	提出物 (レポート) については、随時コメントをつけて返却する。		
目的	保健的観点に基づき、活動の計画及び評価、心身の保健に関する保健活動や環境、体調不良等に対する適切な対応、救急時の対応や事故防止、衛生管理並びに安全管理等について学ぶ。また、感染症の発生対策及び予防と適切な対応についてより実践的な力を身につける。		
到達目標	①子どもの心身の発育、発達、健康管理を促す健康活動について理解できる。 ②子どもの疾病と予防、緊急時の対応や事故防止、安全管理について知識と技術を習得できる。 ③子どもの養育環境、精神保健、地域活動について理解できる。		
履修上の注意	1. 授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。 2. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
	<b>授業計画</b>	<b>準備学習 (予習・復習) の内容および、時間</b>	
1	オリエンテーション (ルールから考える子どもの健康と安全)	第1回の学習内容の振り返り (2時間)	
2	乳幼児の心身の発育発達	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
3	乳幼児の基本的生活習慣	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
4	乳幼児の怪我や事故の特徴	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
5	園におけるリスクと安全管理	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
6	散歩と安全管理 (散歩・発表準備)	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
7	散歩と安全管理 (発表・授業内レポート作成)	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
8	傷病時の応急手当	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
9	個別な配慮を必要とする子どもへの対応	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
10	感染症予防と衛生管理	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
11	感染症予防に関する掲示物作成	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
12	虐待への気づきと対応	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
13	子どもの保健における連携と協働	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
14	保健だよりの作成	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
15	保健だよりの共有と省察	第15回の学習内容の振り返り (2時間)	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科目名	保育内容総論		担当者	大曾基宣
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	定期試験(50%)、グループ討議・発表(30%)、課題レポート(20%)			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題等は随時コメントをつけて返却する。			
目的	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら環境の構成や情報機器及び教材の児童文化材の活用及び実践に必要な知識や技能を身に付ける。 保育内容5領域について、幼児の生活や遊びを通して総合的にとらえる能力を養う。			
到達目標	幼児教育は生活全体を通して総合的に指導するというを理解し、実践できるようになる。保育内容と具体的な幼児の姿を関連付けながら教材研究を行い、実践するために必要な知識や技能が身につく。			
履修上の注意	授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション 保育内容の意味		第1回の学習内容の振り返り(2時間)	
2	保育内容の歴史の変遷		第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
3	保育内容と子どもの発達		第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
4	遊びの分析から考える子どもの経験と遊びの意義		第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
5	環境の分析から考える子どもの経験のレパートリーを広げる環境構成		第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
6	保育内容と子どもの生活		第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
7	幼児教育における5領域のねらいと内容のつながり		第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
8	入園前の子ども理解と子どもの生活		第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
9	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり		第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
10	幼児教育におけるカリキュラム・マネジメント		第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
11	幼児教育における指導計画		第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
12	模擬保育に向けた指導計画の立案		第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
13	模擬保育に向けた教材研究		第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
14	模擬保育の実践と相互評価		第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認(2時間)	
15	模擬保育の省察		第15回の学習内容の振り返り(2時間)	
テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』(フレーベル館) 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(フレーベル館)			
指定図書	なし。			

科目名	保育内容・人間関係	担当者	野内友規
区分等	1年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標1：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標2：グループワーク、実践発表および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標3：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目的	人間関係を中心とした幼児の育ちを理解し、それを踏まえて自らの保育を構想・改善できるようにすることを目的とする。		
到達目標	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人間関係を中心とした幼児の育ちに関する専門的事項について説明できる。 2. 人間関係に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育まれる心情認識、思考および動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。(コミュニケーションにおいてコミュニケーション支援機器の使用は担当教員の許可のもと可とする。コミュニケーションにおける人的支援の配置は基本的に不可とする。)		
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設けるので最低限のコミュニケーション力を持ち合わせていること。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。 2. 授業において合理的配慮が必要な際は、第1回目の授業時に必ず担当教員へ相談すること。		
オフィスアワー	月曜日7・8限		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	領域「人間関係」の全体像	第1回の学習内容の振り返り(1時間)	
2	領域「人間関係」のねらいと内容	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
3	乳幼児期の発達と領域「人間関係」：他者との出会い(事例検討)	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」：友だちとのぶつかり(事例検討)	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
5	子どもと保育者の関わり：信頼関係を築く・自己主張を支える(事例検討)	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
6	子どもと保育者の関わり：子ども同士の関係をつなぐ(事例検討)	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
7	子どもと保育者の関わり：自立心と自己調整力の育ち(事例検討)	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
8	遊びの発達と人間関係	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定の配付資料内容の確認(1時間)	
9	「人間関係」の指導内容・方法：教材研究・指導計画の作成(情報機器の活用含む)	第9回の学習内容の振り返り、 第10回のための発表準備(1時間)	
10	「人間関係」の指導内容・方法：きまりに関する幼児の葛藤と援助(発表・ロールプレイ)	第10回の学習内容の振り返り、 第11回のための発表準備(1時間)	
11	「人間関係」の指導内容・方法：ルールのある遊びと援助(発表・ロールプレイ)	第11回の学習内容の振り返り、 第12回のための発表準備(1時間)	
12	「人間関係」の指導内容・方法：協同的な遊びの中で育ちあう保育の展開(発表・ロールプレイ)	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
13	家庭生活・園生活における人との関わり	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
14	社会生活における多様な人々との関わり	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定のテキスト内容の確認(1時間)	
15	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題	第15回の学習内容の振り返り(1時間)	
テキスト	近喰晴子、小泉裕子編著『保育内容「人間関係」と指導法』ISBN：978-4-8058-8944-2(中央法規出版)		
指定図書	幼稚園教育要領 文部科学省(フレーベル館) 保育所保育指針 厚生労働省(フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育保育要領 内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)		

科目名	保育内容・言葉A	担当者	栗森 貢
区分等	1年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	授業に参加する姿勢(60%)、課題レポート(40%)		
課題に対するフィードバック	学生の達成度に応じてアドバイスをし、回収した学習シートや課題レポートに必要なコメントを付して返却する。		
目的	話し言葉や書き言葉の意義と機能や、乳幼児期の言葉の獲得や発達の過程について、成長する子供の姿と合わせて理解できるようにする。		
到達目標	①乳幼児における言語の発達の概要を説明できる。 ②言葉の発達とそれを促進する具体的な方法を説明できる。 ③言語発達の促進要因や阻害要因を知ることができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後、金曜日：午後		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンス 幼児の言葉の発達に関するおおよそを知る。	学習計画を見通し、「幼稚園教育要領」の「言葉」について読んでおく。(1時間)	
2	言葉の機能とコミュニケーションの関係を言葉の発達の側面から概観する。	言葉をコミュニケーションの視点から調べる。(1時間)	
3	0歳～2歳前後の言葉の発達について、大人の乳幼児への関わりの仕方を中心に学ぶ。	喃語や乳幼児の身振りに関することを調べる。(1時間)	
4	0歳～2歳前後の言葉の発達を促す保育の方法について、わらべ歌との関係から学ぶ。	膝の上でスキンシップをしながらのわらべ歌を調べる。(1時間)	
5	2歳～3歳前後の言葉の発達について、大人との会話や幼児の文構造を中心に学ぶ。	テキストで、2歳～3歳児前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1.5時間)	
6	2歳～3歳前後の言葉の発達を促す保育の方法について、かぞえ歌を参考にして学ぶ。	テキストで、2歳～3歳児前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1.5時間)	
7	3歳～4歳前後の言葉の発達について、自我意識の成長との関係から学ぶ。	仲間意識の芽生えや、この年代の人間関係の特徴を調べる。(1時間)	
8	3歳～4歳前後の言葉の発達を促す保育方法について、ことば遊びを例に実践的に学ぶ。	3歳～4歳前後にふさわしいことば遊びを調べる。(1時間)	
9	4歳～5歳前後の言葉の発達について、因果関係に応じた言語表現の観点から学ぶ。	テキストで、4歳～5歳前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1.5時間)	
10	4歳～5歳前後の言葉の発達を促す保育の仕方について、読み聞かせの方法を素材にして学ぶ。	4歳～5歳前後にふさわしい絵本をいくつか選択する。(1時間)	
11	5歳～6歳前後の言葉の発達について、特徴的な生活場面を例に学ぶ。	テキストで、4歳～5歳前後の言葉の発達の特徴について調べてくる。(1.5時間)	
12	5歳～6歳前後の言葉の発達を促す保育について、ひらがなを中心に具体的な方法を考える。	この年代に即応した、ひらがなを使ったことば遊びを調べる。(1時間)	
13	幼児期の言語障害の現れ方の特徴やメカニズムを理解する。	言語障害に応じた現れ方の状況を調べる。(1.5時間)	
14	言語障害を負う子への様々な働きかけを実践的に理解する。	言語障害に応じた現れ方の状況を調べる。(1.5時間)	
15	年齢に応じた言語発達の特徴をまとめ、その発達に応じた適切な保育の仕方を整理する。	年齢に応じた言語発達の特徴について調べてくる。(1.5時間)	
テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説(最新版)』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説(最新版)』(フレーベル館) 授業時に資料や記入用のプリントを配付する。		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	保育内容・表現（音楽A）		担当者	佐藤真由子
区分等	1年次・後期〔演習〕1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	発表とレポート(30%)、授業に対する姿勢(70%)			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された表現活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「表現（音楽）」について学習し、子どもの表現する姿やその発達を理解する。</li> <li>・保育現場での音楽活動に必要な基礎的な知識、技能を学ぶことによって、子どもの表現力を導き出す感性を豊かにし、子どもたちと一緒に表現を楽しめる保育者を育てるような授業を目指す。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディパーカッションやリズム遊びや合唱等を通して、リズム感、発声、音感等を身につけ、音楽表現の楽しさや喜び、アンサンブルの楽しさを味わう。</li> <li>・スケッチブックシアターを製作することによって、既製絵本の読み聞かせとは違う独自のシアター発表ができる。</li> </ul>			
履修上の注意	「母とおさなごの歌」、授業時に渡したプリント、筆記用具を持参する。			
オフィスアワー	金曜日 14時40分～15時30分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス（科目内容、授業内容の紹介、子どもの表現とは何か）		領域「表現（音楽）」について	
2	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ① スケッチブックシアターの製作		スケッチブックシアターの演目を決めるために楽曲を選ぶ。材料・道具をそろえる。	
3	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ② スケッチブックシアターの製作		スケッチブックシアターの演目を決めるために楽曲を選ぶ。材料・道具をそろえる。	
4	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ③ スケッチブックシアターの製作		遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌（20分） スケッチブックシアターの製作（1時間）	
5	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ④ スケッチブックシアターの製作と歌の練習と発表練習		遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌（20分） スケッチブックシアターの製作（1時間）	
6	遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌 ⑤ スケッチブックシアターの製作と歌の練習と発表練習		遊び歌・季節の歌・手遊び・わらべ歌（20分） スケッチブックシアターの製作（1時間）	
7	⑥ スケッチブックシアターの発表練習と発表		スケッチブックシアターの発表練習と発表	
8	季節の歌・合唱・遊び歌・ボディパーカッション		季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション（20分） 合唱曲を決め、女声合唱の練習（1時間）	
9	季節の歌・合唱・遊び歌・ボディパーカッション		季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション（20分） 合唱曲を決め、女声合唱の練習（1時間）	
10	季節の歌・合唱・遊び歌・ボディパーカッション		季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション（20分） 合唱曲を決め、女声合唱の練習（1時間）	
11	季節の歌・合唱・遊び歌・ボディパーカッション		季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション（20分） 合唱曲を決め、女声合唱の練習（1時間）	
12	季節の歌・合唱・遊び歌・ボディパーカッション		季節の歌・遊び歌・ボディパーカッション（20分） 合唱曲を決め、女声合唱の練習（1時間）	
13	次年度のミュージカルに向けて 学生（聖霊短大の先輩）が演じたミュージカルのDVD鑑賞		ミュージカルとは何か・どんなミュージカルがあるか・どんな演目を演じてみたいか等を調べる	
14	次年度のミュージカルに向けて 学生（聖霊短大の先輩）が演じたミュージカルのDVD鑑賞		ミュージカルとは何か・どんなミュージカルがあるか・どんな演目を演じてみたいか等を調べる	
15	これまでの授業の振り返りとまとめ 次年度のミュージカルに向けて		ミュージカルとは何か・どんなミュージカルがあるか・どんな演目を演じてみたいか等を調べる	
テキスト	神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 全日本私立幼稚園連合会編『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説（最新版）』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）』（フレーベル館）			

科目名	乳児保育 I		担当者	石井美和子
区分等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 選択 / 生活こども専攻			
評価基準	① 定期試験 (40%) ② 課題提出 (40%) ③ 授業への取り組み姿勢 (20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。			
目的	乳児保育は人格の基礎を作る時期であることを理解し、一人一人子どもの発達を保障する保育内容、乳児保育に関する現状や課題について理解を深める。そのうえで、3 歳未満児の発達を踏まえた保育を理解するために必要な知識を身につける。また、職員間の連携・協働、及び保護者や地域の関係機関との連携を通して、保育に携わる意義を学ぶ力を養う。			
到達目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変換及び役割などについて理解する。 2. 多様な保育の場における乳児保育の現状や課題について理解する。 3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。			
履修上の注意	・欠席した場合には授業の内容を確認する。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。			
オフィスアワー	金曜日 16 時 00 分～17 時 00 分			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	オリエンテーション —授業の進め方についての理解— —乳児保育とは—	・保育所保育指針、保育所保育指針解説書の乳児保育の関連部分について熟読し、理解を深める。(1 時間) ・事前にテキストを読み予習を行う。(1 時間)		
2	<b>乳児保育の意義・目的と役割</b> —乳児保育の意義・目的と歴史— —乳児保育の役割と機能—	・テキスト①②・該当単元の予習・復習する。 (1 時間)		
3	—乳児保育における養護及び教育—	・テキスト①・該当単元の予習・復習する。 (1 時間)		
4	<b>乳児保育の現状と課題</b> —保育所における乳児保育—	・テキスト①・該当単元の予習・復習する。 (1 時間)		
5	—乳児院等における乳児保育—	・テキスト②・該当単元の予習・復習する。 (1 時間)		
6	—家庭的保育等における乳児保育—	・テキスト②・該当単元の予習・復習する。 (1 時間)		
7	—乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題—	・テキスト②⑬・該当単元の予習・復習する。 (1 時間)		
8	<b>3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育</b> —3 歳未満児の生活と環境—	・テキスト④⑤⑥⑦⑨・該当単元の予習・復習する。 ・指示された課題に取り組む。(1 時間)		
9	—3 歳未満児の遊びと環境—	・テキスト④⑤⑥⑦⑨・該当単元の予習・復習を行う。 ・指示された課題 (遊びの教材研究) に取り組む。 (2 時間)		
10	—3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり—	・テキスト③④⑤⑥・該当単元の予習・復習を行う。 ・指示された課題に取り組む。(1 時間)		
11	—3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮—	・テキスト③④⑤⑥・該当単元の予習・復習を行う。 ・指示された課題に取り組む。(1 時間)		
12	—乳児保育における計画・記録・評価とその意義—	・テキスト⑩の該当単元を読んで予習・復習を行う。 ・指示された課題に取り組む。(1 時間)		
13	<b>乳児保育における連携・協働</b> —職員間の連携・協働—	・テキスト⑫・該当単元を読んで予習・復習を行う。 (1 時間)		
14	—保護者、地域の関係者等との連携・協働—	・テキスト⑪⑫・該当単元の予習・復習を行う。 (1 時間)		
15	乳児保育を支える保育者の役割と乳児保育に携わる意義について考える	・授業内で作成した教材研究課題を整理する。 ・これまでの復習・まとめ (2 時間)		
テキスト	① 講義で学ぶ乳児保育 (わかば社) ② 演習で学ぶ乳児保育 (わかば社) ③ 厚生労働省編 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』 (フレーベル館)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	乳児保育Ⅱ		担当者	石井美和子
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	①定期試験(40%) ②課題提出(40%) ③授業への取り組み姿勢(20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解を深め、養護や教育の一体化を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実践について、具体的に理解する力を身につけること。</li> <li>・「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をもとに、実践的な知識と技術を身につけることを目指す。</li> <li>さらには、3歳未満児にかかわる保育者の役割、生活の環境などをどのように望ましいものにしていくべきか探求できるようにする。</li> </ul>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わり、基本的な考え方について理解する。</li> <li>2. 養護や教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの遊びと保育方法及び環境について、具体的に理解する。</li> <li>3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。</li> <li>4. 上記の1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</li> </ol>			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席した場合には授業の内容を確認する。</li> <li>・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。</li> </ul>			
オフィスアワー	火曜日 16時30分～17時30分			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	乳児保育の基本 —養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について—事例を通して学ぶ	・事前にテキストを読み予習を行う。		
2	—子どもと保育士等との関係の重要性— —子どもの体験と学びの芽生え—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト①⑨⑩⑪の該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・配布資料を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む。(1時間)</li> </ul>		
3	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた遊びの実践① —子どもの一日の流れと保育環境—演習1	・テキストの③④⑤⑥⑦⑨⑩該当単元の予習・復習を行う。(1時間)		
4	—一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践—演習2	・テキストの③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪該当単元の予習・復習を行う。(1時間)		
5	—発達の特性と望ましい保育— ・発達の特徴をまとめる	・テキストの②該当単元の予習・復習を行う。(1時間)		
6	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活の実践②—食事の援助と環境—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの③該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・課題に取り組む(1時間)</li> </ul>		
7	—排泄の援助と環境—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの④該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・課題に取り組む(1時間)</li> </ul>		
8	—着脱・清潔の援助と環境—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの⑥⑦該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・課題に散り組む(1時間)</li> </ul>		
9	—睡眠・休息の関する援助と環境—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの⑤該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・課題に取り組む(1時間)</li> </ul>		
10	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた遊びの実践 —3歳未満児の遊びを支える環境の構成—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの⑨⑩該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・課題に取り組む(1時間)</li> </ul>		
11	乳児保育における配慮の実践① —子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮—	・配布資料を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む。(1時間)		
12	乳児保育における配慮の実践② —2歳児の発達に合わせた行事のあり方—	・2歳児の発達を踏まえた配慮についての事前学習をする。(2時間)		
13	乳児保育の計画の実践—グループワーク①— —模擬保育の実践①—	・模擬保育の準備を行う。(指導案作成なども含む)(2時間)		
14	—グループワーク②— —模擬保育実践②—振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育の準備を行う。(指導案作成なども含む)(2時間)</li> <li>・授業終了時に振り返りをまとめる(1時間)</li> </ul>		
15	乳児保育を支える連携について考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの該当単元の予習・復習を行う。(1時間)</li> <li>・授業内で作成した教材研究課題を整理する。</li> <li>・これまでの復習(2時間)</li> </ul>		
テキスト	① 演習で学ぶ乳児保育(わかば社) ② 厚生労働省編『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	社会的養護Ⅱ		担当者	小野寺恵子
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	授業内試験 (30%)、レポート (50%)、授業態度 (20%)。			
課題に対するフィードバック	随時。アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	<p>第一に、社会的養育の中の「社会的養護」を理解できるようにする。  時代と共に変化してきた子どもを取り巻く環境が、子育てにどう影響してきたか、それに伴って変化する制度・政策の内容も合わせて理解し、社会的養護の子どもに関わる大人として何ができるかを考えられる力をやしなう。  また、児童虐待や子どもの貧困についての理解を深め、子どもの人権や最善の利益について考えながら「子ども時代」を支援することの大切さを学ぶ。</p>			
到達目標	児童福祉施設における支援の実際とその中における保育士としてのあり方を理解する。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	木曜日 16時15分～16時45分			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	子どもの養護と保育士	自分の子ども時代を思い出し、まとめられるようにしていただくこと (1時間)		
2	家庭養護の現状と課題	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
3	施設養護のプロセスの理解	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
4	保育士の基本的な社会的養護支援	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
5	施設見学 (感恩講児童保育院)	事前に配布されるパンフレットで、施設の構造や形態を知っておく。(1時間)		
6	こころの支援	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
7	子どもとのコミュニケーション	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
8	演習 (グッドコミュニケーション)			
9	これまでの復習	配付されたプリントを見返し、振り返りをして質問事項等をまとめてくる (2時間)		
10	親子関係の支援	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
11	地域・学校との関係づくり・整備の支援	指定した教科書を事前に読み、ロールプレイを体験する心構えを持つこと (2時間)		
12	自己実現・自立支援への支援	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
13	児童福祉施設の運営管理	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
14	児童福祉施設における保育士の資質と倫理	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)		
15	授業内レポート提出	事前に出された複数の課題の中から2つ選び、事前に予習等をしてレポートをまとめること (2時間)		
テキスト	『改訂 保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』(みらい)			
指定図書	なし。			

科目名	保育内容・表現(身体A)	担当者	藤田洋子
区分等	1年次・前期[演習]1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	課題(40%)、発表(40%)、創作過程における主体的な姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の表現する具体的な姿勢から、子どもの「表現したい」の心が動き出す要因を多角的に見出し、十分に楽しめるような言葉かけや動機付けなどを理解する力を養う。</li> <li>・子どもの心と体の総合的な発達を知るとともに、見て、聴いて、感じて表現することの楽しさを共感する力を養う。</li> </ul>		
到達目標	①身体表現をすることの楽しさを実感するとともに楽しさを生み出す要因について理解することができる。 ②幼児の総合的な身体表現を支えるための感性を豊かにすることができる。		
履修上の注意	運動にふさわしい服装(ジャージ、体育館シューズ等)を着用すること。 7月以降は体育館の室温が高くなるため、水分補給できるように準備すること。		
オフィスアワー	金曜日昼休み		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	はじめの1歩(表現とは何か) 領域「表現」のねらい及び内容と幼児の具体的な姿	幼稚園教育要領領域「表現」を熟読する。(1時間)	
2	表現の源に出会う 子どもの遊び心と身体表現が生まれる要因 (*子どものためのダンス)	アクティブ・ラーニング(主体的で・対話的で・深い学び)の実現のために、子どもの遊ぶ姿をイメージする。(1時間)	
3	自然とともだち(協働・即興) 自然との関わりで生まれる身体表現 (* )	領域「表現」の内容を熟読する。 身近な自然について調べる。(1時間)	
4	自然とともだち 自然や素材から感じる「音」発見 音・オノマトペ・身体表現の響きあい (* )	「音日記」をつける。(土・日) 「オノマトペ」について調べる。(1時間)	
5	素材とともだち①(協働・創作) 「素材の質感」を活かした身体表現遊び	身近な素材(自然・もの・音・動き・質感など)に関心を向ける。*アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする(1時間)	
6	素材とともだち②(発表・共有) 「素材の質感」を活かした身体表現遊びの共有 (* )	協同して発表に生かせるように準備をする。(1時間)	
7	楽しみからの発展 手遊びから身体表現への発展 (* )	身体表現に発展できそうな手遊びを調べる。(1時間)	
8	ともだちと一緒に①(協働・創作) 身体表現の楽しさを生み出す要因 (* )	普段から、様々な環境から生まれる身体表現を想像してみる。(1時間)	
9	ともだちと一緒に②(発表・共有) 身体表現の楽しさを生み出す要因の共有 (* )	発表に備えて準備をする。(1時間)	
10	ともだちと一緒に わらべうた遊びにおいて育まれる音楽的感性と身体表現 (△わらべうたあそび)	保育現場で楽しんでいるわらべうた遊びを調べる(1時間)	
11	乳幼児の身体表現から読み取る総合的な育ち 「育みたい資質・能力の3つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(*、◇民謡、△)	要領「育みたい資質・能力の3つの柱」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を熟読する。(1時間)	
12	身近な教材の活用(協働・即興創作・発表) 絵本から身体表現への発展 (◇民謡、△)	様々な絵本を見て身体表現あそびを想像する。(1時間)	
13	郷土文化から見えてくる身体表現①(調べる) 郷土文化への愛着と身体表現の豊かさ(郷土の踊り)	郷土文化に関心をむけICT等で調べる。(1時間)	
14	郷土文化から見えてくる身体表現②(発表・共有) 郷土文化への愛着と身体表現の豊かさ(郷土の踊り) 昔の遊び体験(まりつき、けん玉、)	発表に向けて準備をする (分かり易さ内容の伝わりを重視した説明と郷土の踊り) (1.5時間)	
15	学びの振り返りとキーワードに沿ったまとめ (*、△)	これまでの学びを自分なりに整理する。(1時間)	
テキスト	『幼稚園教育要領及び解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針及び解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説』(フレーベル館)		
指定図書	なし。		

科目名	保育内容・表現(身体B)	担当者	藤田洋子
区分等	1年次・後期[演習]1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	課題(40%)、発表(40%)、創作過程における主体的な姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目的	保育内容・表現(身体A)との連続性・系統性を重視させながら、保育者に求められる感性の豊かさや、知識・技能に支えられたより豊かな表現力・創造力を養う。		
到達目標	①幼児の総合的な身体表現を支えるための感性を豊かにすることができる。 ②協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、知識・技能に支えられた豊かな創造力や表現力を身につけることができる。		
履修上の注意	運動にふさわしい服装(ジャージ、体育館シューズ等)を着用すること。		
オフィスアワー	水曜日昼休み		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション 領域「表現」のねらい及び内容	幼稚園教育要領領域「表現」を熟読する。 授業の学びを継続的に活かせるように記録を視覚的に分かりやすく整理する。 (1時間)	
2	幼児の身体表現の発達の理解(共感) 幼児の表現の芽生えと発達 (*子どものためのダンス△わらべうたあそ)	身体表現発達過程を調べる。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする (1時間)	
3	環境との出会い 身体表現が生まれる遊び環境 (*、△)	明治・大正・昭和中期の子どもの遊びを調べる。 世界にも目を向けて調べる。 (1時間)	
4	豊かな身体表現のために①(協働・創作) ストーリー、オノマトペ、身体表現の組み合わせ (*、△)	絵本を読み、子どもの喜ぶ内容展開を考える。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする (1時間)	
5	豊かな身体表現のために②(発表) ストーリー、オノマトペ、身体表現の組み合わせ (*、△)	発表に向けて各自でシミュレーションをする。 (1時間)	
6	幼児のあそび心を感じて①(協働・創作) じゃんけん・まねっこ・身体表現 (動作・隊形・オノマトペ)	保育現場で楽しんでいるダンスを調べる。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする (1時間)	
7	幼児のあそび心を感じて②(発表・共有) じゃんけんとまねっこと身体表現 (動作・隊形・オノマトペ)	発表に向けて各自でシミュレーションをする。 (1時間)	
8	身体表現遊びと指導計画①(グループワーク) 教材を活用した身体表現遊びの立案	作成のポイントや手順などを考える。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする (1時間)	
9	身体表現遊びと指導計画②(発表・共有) 教材を活用した身体表現遊びの立案	発表に向けて各自でシミュレーションをする。 (1時間)	
10	身体表現のおもしろさを感じて(視聴・共有) 擬音・音楽・身体表現のハーモニー	冬の自然や事柄から生まれる身体表現を想像する。(1時間)	
11	未来につながる今(小学校教育へのつながり) 身体表現・幼児期の終わりまでに育ってほしい 10の姿・小学校教育につながる育ち	幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10の姿」と領域「表現」の内容を熟読する。 (1時間)	
12	身体表現のおもしろさを感じて(即興創作、発表) 指タップと身体表現	指や手でリズム打ちを実践する。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする。 (1時間)	
13	身体表現のおもしろさを感じて(即興創作、発表) 拍の活用と動作の工夫	自分なりに身体表現を考える。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする。 (1時間)	
14	身体表現のおもしろさを感じて(即興創作、発表) 歌遊びと身体表現 (オノマトペ・ボディーパーカッション)	子どもが楽しむボディーパーカッションを調べる。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする。 (1時間)	
15	今を未来につなげるために 学びの振り返りと自己肯定感や自己課題	これまでの学びを整理する。 (1時間)	
テキスト	『幼稚園教育要領及び解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針及び解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説』(フレーベル館)		
指定図書	なし。		

科目名	保育内容・表現（造形A）	担当者	鈴木 司
区分等	1年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コラージュでは自由な発想で表現できる。作品（30%）</li> <li>・ステンシルでは手順を理解し、イメージ通りに制作することができる。作品（30%）</li> <li>・色彩表現では基礎的な知識を理解し、課題の配色ができる。作品（30%）</li> <li>・授業の取り組み姿勢、課題提出。（10%）</li> </ul>		
課題に対するフィードバック	・授業課題は撮影して展示し、授業内で講評する。		
目的	保育所や幼稚園の現場で子どもの表現活動を支援できるように、各種の材料や用具の使い方、材料の加工方法を身に付けること。また、色彩の基本的な知識を理解すること。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面コラージュでは自由な表現ができるように、立体コラージュではいろいろな形の立体を作れるようになる。</li> <li>・ステンシルでは作り方の手順を理解し、イメージ通りに制作することができるようになる。</li> <li>・色彩表現では基礎的な色彩の知識を理解し、表現の配色を生かせるようになる。</li> </ul>		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 12時15分～13時5分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 紙コップで鯉のぼりをつくる (1) 本体工作・ウロコ作り	コラージュ、色彩表現の資料調べ。アイデアスケッチ。（1時間）	
2	(2) 貼り付け、描画、撮影、展示	材料収集とアイデアスケッチ（1時間）	
3	シンメトリーで動物の顔をつくる (1) 顔型作り、下絵、色紙ちぎり	ちぎり絵の資料調べ（1時間）	
4	(2) 色紙ちぎり、貼り付け	ちぎり絵の資料調べ（1時間）	
5	(3) 貼り付け、撮影、展示	ちぎり絵の資料調べ（1時間）	
6	ステンシルでキャラクター作る (1) 型づくり	キャラクターの資料調べ（1時間）	
7	(2) 型のトレース、下絵	キャラクターの資料調べ（1時間）	
8	(3) 描画、貼りつけ	キャラクターの資料調べ（1時間）	
9	動く行事お面をつくる (1) 型づくり本体をつくる	動く工作の資料調べ（1時間） なまはげ、節分、動物など	
10	(2) 色紙切り、貼り付け	動く工作の資料調べ（1時間）	
11	(3) 描画、貼りつけ、撮影、展示	動く工作の資料調べ（1時間）	
12	色彩表現 (1) 色彩の基礎知識 色の三属性とトーンの概念・カップケーキ等の配色描画	色彩の効果資料調べ（1時間）	
13	(2) カップケーキ等の配色描画 ① 色の見え方 色の進出と後退、膨張と収縮	色イメージの配色練習（1時間）	
14	(3) 切り絵の表現 ② 対比による色の見えの変化ほか	色イメージの配色練習（1時間）	
15	(4) 切り絵の表現・講評	表現活動の可能性について（1時間）	
テキスト	なし（授業時に資料プリントを配付する）。		
指定図書	なし。		

科目名	保育内容・表現（造形B）	担当者	鈴木 司
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	①紙の加工では説明どおり、正しい手順で加工できる。作品（45%） ②切り絵の造形は、イメージ通りに作品ができる。作品（45%） ③授業の取り組み姿勢、課題提出。（10%）		
課題に対するフィードバック	授業課題は撮影して展示し、授業内で講評する。		
目的	保育所や幼稚園の現場で子どもの表現活動を支援できるように、各種の材料や用具の使い方、材料の加工方法を身に付けること。		
到達目標	①紙の加工（折り方、切り方、つなぎ方）ができる。 ②造形の技法、着色の方法を理解し、いろいろな形に応用できる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 12時15分～13時5分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション。参考作品解説。 (1)「バランストイ工作」について説明。本体の工作。アイデアスケッチ。	紙工作や立体造形の資料調べ。（1時間）	
2	(2) バランストイの制作。部品作り。	紙工作の資料調べ（1時間）	
3	(3)部品作り、貼り付け、撮影。	紙工作の資料調べ（1時間）	
4	(1) スノーマンスチロール工作。装飾、撮影。	スチロール工作の資料調べ（1時間）	
5	(2) スノーマンスチロール工作。装飾、撮影。	スチロール工作の資料調べ（1時間）	
6	(1)両面お面工作。アイデアスケッチ。部品作り。作品撮影。	お面の資料調べ（1時間）	
7	(2)顔型作り、部品作り。	お面の資料調べ（1時間）	
8	(1)2本指人形の工作。箱工作、部品作り。	指人形の資料調べ（1時間）	
9	(2)部品作り。貼り付け、描画、撮影。	指人形の資料調べ（1時間）	
10	(1)紙皿工作。部品作り、描画、作品撮影。	紙皿工作の資料調べ（1時間）	
11	(2)紙皿工作。部品作り、描画、作品撮影。	紙皿工作の資料調べ（1時間）	
12	(1)「切り絵で作る装飾工作」の説明。 カッティング制作。	切り絵の資料調べ（1時間）	
13	(2)カッティング制作。切り絵作品紹介。	切り絵の資料調べ（1時間）	
14	(3)カッティング制作。作品撮影。	切り絵の資料調べ（1時間）	
15	(4)カッティング制作。作品撮影。	切り絵の資料調べ（1時間）	
テキスト	なし（授業時に資料プリントを配付する）。		
指定図書	なし。		

科目名	こどもの音楽A	担当者	佐藤真由子、山田朗子、柏屋千秋、田代友美
区分等	1年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活子ども専攻		
評価基準	演奏技術(50%)、授業に対する姿勢(50%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノレッスン活動記録用紙、講義活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を通じて保育現場で生かせる以下のような実践力を身につけることを目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読めるようにする。</li> <li>子どもの歌、季節の歌を歌うことによって、表現する楽しさを体験させる。</li> <li>手遊び歌、手合わせ歌を覚え、子どもにわかりやすく表情豊かに歌う。</li> <li>ミサ曲・合唱曲等の歌唱を通して、アンサンブルをする楽しさを味わう。</li> <li>簡易楽器の奏法を習得し、様々な楽器の特徴を理解し合奏を楽しむ。</li> <li>ミュージックベル・トーンチャイム・ハンドベルの奏法を習得し、子どもの歌などのアンサンブルを楽しむ。</li> </ul> </li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアノ初心者の方はテキスト『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』のステップⅠまでと「2年間で必ず弾いてほしい曲」(一覧表)の中の赤字の曲10曲を弾けることを目標にする。それ以外の方は、ステップⅡまでと、「2年間で必ず弾いてほしい曲」(一覧表)の中の曲20曲を弾けることを目標にする。</li> <li>様々な楽器(簡易楽器やハンドベルなど)の特徴を理解し、奏法を習得し、楽しく演奏できる。</li> <li>正しい音程・発声・発音・リズム・ハーモニーで、子どもの歌・季節の歌・ミサ曲・合唱曲を意欲的に楽しんで歌うことができる。</li> <li>季節の歌や子どもの年齢に応じた手遊びを覚え、表情豊かに歌うことができる。</li> </ul>		
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。		
オフィスアワー	月曜日の14時40分～15時30分		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を45分ずつ受講する。			
1	ガイダンス (授業内容、楽譜の説明、個々の練習曲の選択) クラス分け 季節の歌、手話ソング・手遊び	ピアノや手遊びの練習を行う	
2	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典①、リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
3	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典②・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
4	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典③・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
5	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典④・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う。手遊びの復習	
6	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑤・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手遊び・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
7	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑥・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
8	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑦・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
9	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑧・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
10	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑨・リズム打ち・季節の歌・手話ソング・手合わせ遊び・簡易楽器の説明	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
11	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑩・季節の歌・手遊び・手話ソング・合奏	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
12	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑪・季節の歌・手遊び・手話ソング・合奏	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
13	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑫・季節の歌・手遊び・手話ソング・トーンチャイム&ミュージックベル・ハンドベルの合奏	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
14	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑬「楽典まとめ」手遊び復習、手話ソング復習、ダンストーンチャイム&ミュージックベル・ハンドベルの合奏	ピアノの練習を毎日30分行う。楽典・手遊びの復習	
15	ピアノ試験	ピアノ試験	
テキスト	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社)、『母とおさなごの歌』(全音楽譜出版社)、神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	こどもの音楽B	担当者	佐藤真由子、山田朗子、柏屋千秋、田代友美
区分等	1年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	演奏技術(50%)、授業に対する姿勢(50%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノレッスン活動記録用紙、講義活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こどもの音楽A」と同様に、音楽を通じて保育現場で生かせる以下のような実践力を身につけることを目的とする。</li> <li>・音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読めるようにする。</li> <li>・子どもの歌、季節の歌を歌うことによって、表現する楽しさを体験させる。</li> <li>・手遊び歌、手合わせ歌を覚え、子どもにわかりやすく表情豊かに歌う。</li> <li>・ミサ曲・合唱曲等の歌唱を通して、アンサンブルをする楽しさを味わう。</li> <li>・簡易楽器の奏法を確実に習得し、様々な楽器の特徴を理解し合奏を楽しむ。</li> <li>・ミュージックベル・トーンチャイム・ハンドベルの奏法を習得し、子どもの歌や、クリスマスの曲などのアンサンブルを楽しむ。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初級の人にはテキスト『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』のステップⅡまでと、「2年間で必ず弾いてほしい曲」(一覧表)の中の赤文字の曲を20曲弾けることを目標とする。</li> <li>それ以外の人には、ステップⅢまでと、「2年間で必ず弾いてほしい曲」(一覧表)の中の赤文字の曲をすべて弾けることを目標とする。</li> <li>・様々な楽器(簡易楽器やハンドベルなど)の特徴を理解し、奏法を習得し、楽しく演奏できる。</li> <li>・正しい音程・発声・発音・リズム・ハーモニーで、子どもの歌・季節の歌・ミサ曲・合唱曲を意欲的に楽しんで歌う。</li> <li>・季節の歌や子どもの年齢に応じた手遊びを覚え、表情豊かに歌うことができる。</li> </ul>		
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。		
オフィスアワー	月曜日の14時40分～15時30分		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を45分ずつ受講する。			
1	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑭・季節の歌・手話ソング・手遊び	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
2	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑮・季節の歌・手遊び・振付創作(グループごと)	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
3	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑯・季節の歌・手遊び・振付創作(グループごと)	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
4	ピアノ：個人レッスン 講義：季節の歌・手遊び・振付創作発表(グループごと)	ピアノの練習を毎日30分行う グループごとに振付の創作の練習	
5	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑰・クリスマスの歌・手遊び・ミュージックベル合奏	ピアノの練習を毎日30分行う グループごとの振付創作の練習と発表	
6	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑱・クリスマスの歌・手遊び・ミュージックベル合奏	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
7	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑲・クリスマスの歌・手遊び・トーンチャイム合奏	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
8	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑳・クリスマスの歌・手遊び・ハンドベル合奏	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
9	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉑・クリスマスの歌・手遊び・ハンドベル合奏	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
10	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉒・クリスマスの歌・手遊び・ハンドベル合奏	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習・合唱パートの譜読みと練習	
11	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉓・コードについて・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習・合唱パートの譜読みと練習	
12	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉔・コードの勉強・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習	
13	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉕・コードの勉強・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う 手遊びと楽典の復習・合唱パートの譜読みと練習	
14	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉖・コードの勉強・合唱	ピアノの練習を毎日30分行う。 手遊びと楽典の復習・合唱パートの譜読みと練習	
15	ピアノの試験		ピアノの試験
テキスト	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社)、『母とおさなごの歌』(全音楽譜出版社)、神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	保育実習指導 I		担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	1 年次・通年 [演習] 2 単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	指導内容の理解 (50%)、課題 (30%)、実習のまとめと発表 (20%)。			
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをして学生にフィードバックする。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義・目的・実習内容を学び自らの実習の課題を明確にする力を養う。</li> <li>・実習施設における子どもの生活を学び人権や子どもの最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務の遵守を理解する力を養う。</li> <li>・事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では実習の成果と課題等を省察するとともに資格取得に向け習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して保育実習の意義を総合的に理解する。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義や目的・内容を理解し、保育者としての使命感や倫理観が身につく。</li> <li>・実習を通して守秘義務などの理解がより深まる。</li> <li>・実習において技術や知識を活かして実践する力が身につく</li> </ul>			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み期間にエプロンシアターを作成する課題がある。</li> <li>・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。</li> </ul>			
オフィスアワー	木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分 (石井)・火曜日 15 時 00 分～16 時 00 分 (寺谷)			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	オリエンテーション	実習する保育所の理解を深める。配付資料の整理をする。作成した保育教材を保育の中で行えるように自主練習をする。(1 時間)		
2	実習の概要 (保育所・施設)	テキスト①②Part1-1 を読む。(1 時間)		
3	実習の内容 (保育所)	テキスト①Part1-3 を読む。(1 時間)		
4	実習の内容 (施設)	テキスト②Part1-2 を読む。(1 時間)		
5	実習の心構え (保育所・施設)	テキスト①②Part1-4・5 を読む。(1 時間)		
6	実技指導①絵本・紙芝居・素話など	テキスト①Part1-11 を読む。課題に取り組む。(1 時間)		
7	実技指導②壁面製作	教材研究・課題に取り組む。(1 時間)		
8	実技指導③「手作り絵本」の作成	教材研究・課題に取り組む。(1 時間)		
9	実践①絵本・紙芝居・素話	教材研究・課題に取り組む。(1 時間)		
10	実践②絵本・紙芝居・素話	教材研究・課題に取り組む。(1 時間)		
11	実技指導④シアターについて	エプロンシアターについて事前学習する。(1 時間)		
12	エプロンシアターの原案作成	エプロンシアターについて事前学習する。(1 時間)		
13	エプロンシアター製作	製作の仕方を理解して準備をする。(1 時間)		
14	実習先の理解 (保育所)	テキスト①Part2-1・2 を読む。(1 時間)		
15	児童福祉施設の利用 (施設)	テキスト②Part2-1・2 を読む。(1 時間)		
16	実習の概要と書類の準備 (保育所)	テキスト①Part1-6・7・8 を読む。(1 時間)		
17	実技指導①: エプロンシアターを演じる	事前に練習をする (1 時間)		
18	実技指導②: エプロンシアターを演じる	事前に練習をする (1 時間)		
19	実習課題について	テキスト①Part1-8・9 を読む。(1 時間)		
20	オリエンテーション	テキスト①Part1-8・9 を読む。(1 時間)		
21	オリエンテーションのまとめ	テキスト①Part2-4・5 を読む。(1 時間)		
22	実習日誌の書き方①目標・概要	テキスト①Part2-4・5 を読む。(1 時間)		
23	実習日誌の書き方②日の記録	テキスト①Part2-3 を読む。(1 時間)		
24	実習日誌の書き方③所感 (保育所・施設)	テキスト①②Part2-4・5 を読む。(1 時間)		
25	実習日誌の書き方④課題・まとめ	テキスト③を読む。(1 時間)		
26	実習にあたっての諸注意・確認	テキスト③を読む。(1 時間)		
27	手作り絵本「自己紹介絵本」の発表	手作り絵本について事前学習と必要な準備をする。(1.5 時間)		
28	実習後の自己評価とまとめ 礼状の書き方	テキスト①Part3-1・2 を読む。指示された課題に取り組む。(1.5 時間)		
29	実習の共有	実習後の整理、発表 (まとめ・課題) 内容準備する。(1 時間)		
30	実習する施設の概要と理解 (施設)	日誌・自己評価記入表		
テキスト	①小櫃智子ほか『【改訂版】幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』(わかば社) ②守巧ほか『【改訂版】施設実習パーフェクトガイド』(わかば社) ③聖霊女子短期大学『保育実習の手引き (保育所 1 年次)』			
指定図書	あり (巻末参照)。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得 (石井美和子)

教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い実践的な指導力を身につける。

科目名	保育実習 I A	担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	1年次・後期[実習]2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	実習評価(50%)、実習日誌の内容(40%)、実習のまとめ(10%)。		
課題に対するフィードバック	必要に応じて随時アドバイスをする。		
目的	実習を通して保育所の役割や保育士としての職務を理解する力を養う 子どもとのかかわりを通して子どもの姿や発達を理解し実践力が身に付く。		
到達目標	保育所の役割や機能、保育士の職務内容について理解が深まる。 実習において実践的を通して、子どもや保育についてより具体的に理解できるようになる。 体験的学習を通して部分指導計画案の作成の仕方がより理解でき、実践力が身に付く。		
履修上の注意	・事前指導の内容を繰り返し確認し身に付くようにする。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	木曜日 16時20分～16時50分(石井)・火曜日 15時00分～16時00分(寺谷)		
	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
	実習段階：観察・参加実習 実習期間：12月下旬10日間(80時間) 実習内容 ・配属クラスにおいて観察・参加実習を行う。 ・保育を通して子どもの発達や保育者の役割、援助の方法など、実践を通して学ぶ。 ・実習日誌(日の記録)を通して子ども理解を深める。	・『保育実習の手引き』を読み、実習の心構えを持つ。 ・実習における自己課題をしっかり持つ。 ・実習開始までに子どもの発達を理解する。 ・健康的な生活を心がけ健康管理をしっかり行う。 ・学生間においては特にマナーや言葉遣いに気をつけて生活をする。	
テキスト	・小櫃智子ほか『【改訂版】幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』(わかば社) ・厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) ・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(フレーベル館) ・聖霊女子短期大学『保育実習の手引き(保育所1年次)』		
指定図書	なし。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得(石井美和子)

教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い実践的な指導力を身につける。

科目名	教職概論(幼稚園・保育所)		担当者	藤田洋子
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	定期試験(50%)、授業内課題(50%)			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスしたり授業で取りあげたりして、学生にフィードバックする。			
目的	教職の意義、幼稚園教諭及び保育者の役割、職務内容などの理解を図るとともに、職業への尊さを知り意欲の高まりに繋ぐ。また、学生一人一人の主体的・対話的な学びのもと、教職員の協働の必要性を認識するとともに、保護者・地域・小学校・専門家・専門機関との連携及びチーム対応における重要性と必要性について、実践と結びついた理解を深める。			
到達目標	①公教育の性質を有する幼児教育の目的や目標を認識するとともに、幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての職務の普遍的な重要性を理解することができる。 ②教職員の協働や専門家及び専門機関等との連携及び必要性について理解する。 ③幼稚園教諭・保育士・保育教諭の専門性について理解することができる。 ④求められる資質能力について理解を深めるとともに、実践的指導力の基礎を学び、教職や保育職に対する意思や意欲を高めることができる。			
履修上の注意	保育者(幼稚園教諭・保育教諭・保育士)への夢を強く持ち将来に向けて進むようにする。			
オフィスアワー	金曜日昼休み			
	授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション:「保育者への扉を開けよう」 保育者になるということ・子どもの目から見る保育者		保育者になりたいと思う理由を整理する。 授業の学びを継続的に活かせるように記録を視覚的にわかりやすくまとめる。(1時間)	
2	乳幼児期の教育・保育の現状 ・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の制度的位置づけ ・環境を通して行う教育・保育		教育基本法第1条と第2条に掲げる目標及び、幼稚園教育要領解説第1章総則第1の1・2を熟読する。 全国倫理綱領を熟読する。(1時間)	
3	保育者の仕事と役割 ・保育者の1日・1年と役割、行事における仕事 ・職員間の連携・協働		ICTなどを活用して調べる。(1時間)	
4	保育者の仕事と役割 ・養護的・教育的なかわり、保護者・家庭・地域との連携・協働		幼稚園教育要領解説第1章総則第6節2と認定こども園教育保育要領第1章総則第1(2)と第3の5を熟読する。(1時間)	
5	保育者に求められる資質・能力 ・保育者に期待される資質・能力と学生時代に学ぶこと		幼稚園教育要領の該当箇所を熟読する。 ICTなどを活用して調べ整理する。(1時間)	
6	子どもの内面や発達を理解する保育者(協働) ・子どもの思いや学びを感じる		仲間との語り合いから学んだことを整理する。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする(1時間)	
7	遊びを援助する保育者(協働) ・子どもの興味や関心から次の姿の予想		幼稚園教育要領第1章総則第1の3(1)～(3)を熟読する。 *アクティブ・ラーニングが可能となる準備をする(1時間)	
8	教材などを通して学びを深める保育者 ・教材研究の大切さと子どもの心を揺さぶる教材発見		幼稚園教育要領第1章総則第1を熟読する。 子どもの興味・関心を誘う教材を調べる。(1時間)	
9	保育者に求められる専門性 ・グループ活動(保育を構想する力)		課題となる絵本を読み内容を理解する。 グループ活動における多様な見方、考え方を整理する。(1時間)	
10	保育者に求められる専門性 ・グループ活動(保育を構想する力)		課題となる絵本を読み内容を理解する。 グループ活動における多様な見方、考え方を整理する。(1時間)	
11	グループ活動(発表:連携・協働) ・得意分野が生かされた教職員チームの協働のあり方と必要性		保育者の語り合いがなぜ大切なのか考えを整理する。(1時間)	
12	幼児期に育成すべき資質・能力 ・幼児期の具体的な姿を通じた資質・能力の育ち		幼稚園教育要領第1章総則を熟読する。(1時間)	
13	保育者の専門性 ・子どもを見る眼、幼児理解と保育の展開 ・記録を通して気づく子どもの心もち		保育現場における保育者の振り返りについて調べる。(1時間)	
14	保育者の専門的成長 ・成長する保育者と豊かな同僚性 ・「こどもまんなか社会」の保育・教育		幼稚園教育要領解説第1章の第1節5と第4節(7)を熟読する。(1時間)	
15	保育者になる人へのメッセージ ・先輩保育者からのメッセージを自分の力に ・目指す保育者に向けた自己課題や目標の明確化		振り返りながら記録を整理する。(1時間)	
テキスト	『幼稚園教育要領および解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針および解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(フレーベル館)			
指定図書	なし。			

科目名	幼稚園教育実習指導（1年次）		担当者	藤田洋子
区分等	1年次・2年次 通年 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	授業内課題等（60%）、実習報告（30%）、授業態度（10%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目的	幼稚園教育実習に臨むにあたり必要とされる基本的事項を理解する力を養う。 実習日誌の書き方、求められる実践力について理解する力を養う。 今後の課題を見出しながら教育者・保育者として必要となる事柄を習得するための力を養う。 各自の体験を他の学生とも共有し合い、幼児教育にあたって必要な環境構成や援助のあり方について理解する力を養う。			
到達目標	1年次 ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。 ②実習日誌の意義や役割を理解し記録する力を身につける。 ③実習に参加するために必要な知識や技能の基礎を身につける。 ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。 2年次 ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。 ②実習日誌や指導案の意義や役割を理解し記録する力や作成する力を身につける。 ③実習に向け必要な実践力を身につける。 ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。			
履修上の注意	実習に向けて自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。幼稚園実習のための指導なので、欠課した場合は必ず担当者のところに行き、指導を受けること。			
オフィスアワー	水曜日昼休み、金曜日放課後4時25分から			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	幼稚園教育実習の意義や目的	幼稚園教育要領を読む。（1時間）		
2	教育実習の概要 幼稚園・認定こども園（幼保連携型、幼稚園型）	幼稚園・認定こども園のホームページをみて概要をとらえる。（1時間）		
3	教育実習の心構え、観察・参加実習	『幼稚園教育実習の手引き』を理解する。（1時間）		
4	子どもの発達過程	日常的に子どもの姿の実際に関心持ち調べる。ICT等を活用して調べる。（1時間）		
5	子どもの発達過程	日常的に子どもの姿の実際に関心持ち調べる。ICT等を活用して調べる。（1時間）		
6	実習目標・方法	実習目標、目標達成のための方法を考える。（1時間）		
7	実習準備 実習オリエンテーション・必要書類	『幼稚園教育実習の手引き』を理解する。（1時間）		
8	実習日誌の書き方	実習日誌の書き方を調べる。（日誌・手引き）（1時間）		
9	実習日誌の書き方 実習日誌に沿って・エピソード記録	子ども・保育者・自分の視点で、いつ・どんな場面で・どうして・どんなことを・どのようにしていたか・その事実の意味をどう考えたか、の一連を写真などから予想して記録する。（1時間）		
10	実習日誌の書き方を学ぶ 実習日誌に沿って・エピソード記録			
11	実習日誌の書き方を学ぶ 実習日誌に沿って・エピソード記録			
12	実習日誌の書き方を学ぶ 室内や園庭の環境・保育の1日の流れ	実習園のホームページやパンフレットなどで調べる。（1時間）		
13	実習の振り返り 実習目標に向けた成果と課題、他の学び	実習について振り返る。（1時間）		
14	実習を振り返り（発表） 実習の評価・実習体験の共有	発表に向けた準備をする。（1時間）		
テキスト	「幼稚園教育要領」及び解説（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説（フレーベル館）			
指定図書	なし。			

\*実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：幼稚園教諭を経て園長として保育園、幼保連携型認定こども園に勤務

教育内容：保育現場での経験を基に、実習の心構え、幼児の発達過程、保育者の援助、実習日誌の書き方など、保育の実際に即した指導を行い、実習への意欲を高める。

科目名	幼稚園教育実習		担当者	藤田洋子
区分等	1年次・後期、2年次・後期 [実習] 4単位		選択/生活こども専攻	
評価基準	事前の書類提出、実習中の状況、実習先からの実習評価、実習日誌の記録内容など (100%)			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目的	幼稚園教諭、保育教諭としての職務を理解すること。 教育・保育現場での実践を通して必要な資質・能力及び実践力を身につけること。			
到達目標	1年次の実習 ① 幼児の遊びや生活及び教育や保育の実際を理解することができる。 ② 学習で学んだ知識や技能を基盤に、意欲的に教育実習を行うことができる。  2年次の実習 ① 学習で学んだ知識や技能を活かしながら幼児の思いに沿った関わりができる。 ② 教育や保育を試み、幼稚園教諭としての、資質・能力の基礎を体得することができる。			
履修上の注意	普段から品位ある行動とマナーを心がけること。 事前指導の内容を確認すること。			
オフィスアワー	金曜日昼休み			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
	『1年次実習』  ① 実習期間 9月中旬：2週間  ② 実習計画 ・配属クラスにおいて、観察実習及び参加実習を行う。 ・実習において、子ども・保育者・自分の視点で、いつ・どんな場面で・どうして・どんなことを・どのようにしていたか・その事実の意味をどう考えたか、の一連を記録する。 ・教育や保育後の準備、清掃、園業務などを体験する。	・詳細については教育実習の手引きや資料を繰り返し読む。  ・毎日の実習を振り返り、翌日の準備をする。		
	『2年次実習』  ① 実習期間 10月下旬：2週間  ② 実習計画 ・配属クラスにおいて、保育を行う。 ・指導案や教材等を作成し、それを基に教育や保育を試みる。 部分実習、責任実習 ・保育を振り返り、幼児観、保育観、教材観を形成する。	・詳細については教育実習の手引きや資料を繰り返し読む。  ・毎日の実習を振り返り、翌日の準備をする。		
テキスト	聖霊女子短期大学「幼稚園教育実習の手引き」			
指定図書	なし。			

\*実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容  
実務経験：幼稚園教諭を経て園長として保育園、幼保連携型認定こども園に勤務  
教育内容：保育現場での経験を基に、実習の心構え、幼児の発達過程、保育者の援助、実習日誌の書き方など、保育の実際に即した指導を行い、実習への意欲を高める。

科目名	情報処理演習		担当者	周 業欣
区分等	2年次・後期[演習]2単位・選択/生活こども専攻			
評価基準	演習内容の達成度および課題の提出状況で総合的に判定します(100%)。 受験資格喪失の判定は欠席数または課題提出数で行う。			
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。			
目的	この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、PCの映像編集アプリケーションを使用した編集の基礎技術も習得する。映像作品の計画、撮影、編集、公開といった一連のプロセスを課題を通して体験する。			
到達目標	大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としている。Word、Excel、PowerPointの基礎レベルを修了する。 映像の仕組みを理解し、撮影方法や編集方法などの映像に関する基礎的な知識と技術を身につける。計画、撮影、編集、公開といった一連の制作プロセスを踏まえて、映像メディアを用いた表現の特性や可能性を知り、作品制作で活用できる表現力を身につける。			
履修上の注意	身近にある映像表現に興味を持ち、積極的に作品鑑賞を行うこと。また、PCを使用して制作するため、PCの操作が問題なく行える程度のリテラシーは必要。			
オフィスアワー	授業の前後 10 分間			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	この授業の内容を把握する。 動いて見える仕組みや、そもそも映像とはどういった技術なのかを知る。		テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。 課題に基づき、90分程度復習。	
2	IMEの概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト。		課題に基づき、90分程度復習	
3	ワープロソフト1 文字の書式設定、段落の書式設定、グラフィックスの利用		課題に基づき、90分程度復習	
4	表計算ソフト基礎 表作成の基礎、数式と関数、グラフの作成		課題に基づき、90分程度復習	
5	パワーポイント基礎 プレゼンテーションを作成		課題に基づき、90分程度復習	
6	映像の基礎、カメラの仕組み、映像技術の仕組みを理解する。様々な映像作品を鑑賞し、コマ撮りの技法紹介。		課題に基づき、90分程度復習	
7	撮影の基礎、練習課題として撮影を行う。構図のとり方、映像制作の流れ、絵コンテ、字コンテの作成など。		課題に基づき、90分程度復習 (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)	
8	練習課題として撮影を行う。編集の準備として動画ファイルの取り込みも行う。		課題に基づき、90分程度復習 (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)	
9	前回撮影したデータを編集する。アプリケーションの説明、動画ファイルの仕組み、エフェクトの使い方。カット編集、書き出しを行う。		授業内容の復習と練習課題の完成(1時間) (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)	
10	「クレショフ効果」の説明を行う。クレショフ効果に基づいた編集を行う。		課題に基づき、90分程度復習 (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)	
11	BGM、効果音の使い方について。課題のアイデア出し、絵コンテ制作。		課題に基づき、90分程度復習 (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)	
12	課題の撮影を行う。		課題に基づき、90分程度復習 (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)	

13	課題の撮影を行う。	課題に基づき、90分程度復習 (授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)
14	課題の編集を行う。	課題に基づき、90分程度復習。(授業内に完成しない場合90分程度の宿題となる)
15	まとめ、プレゼンテーションを行う。	全体の振り返り、90分程度事後学習
	テキスト	なし。
	指定図書	なし。

科目名	リーダーシップのコーチング	担当者	Mathew Philip
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	①授業内での活動における達成度や参加姿勢 (20%) ②リアクションペーパーによるミニレポート (30%) ③レポート (50%)		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目的	①リーダーシップ・コーチングは、ロジャースの「人は誰でも自らの内部に、自己を成長させ、実現させる力を持っている」という考え方に基づいている。人には誰でも自分が望んでいる目標があり、その目標を自ら達成することができるように、自分が持っている個人的な特性と強みを活かして、自分がその能力と可能性を最大限に発揮し、自分で自分を幸せにするスキルを養成する。 ②優しさと強さを兼ね備えた心を育成する。 ③自己成長や気づきを促すことで、リーダーシップ能力を高める		
到達目標	①高い自己認識・高い人格・夢・目標を持ち、主体的になりたい自分を実現させる力を感じるようになる。 ②キャリア教育的視点を踏まえ、各々の夢を磨き、実現に向け目標の設定を行うことが出来るようになる。 ③自身を取り巻く人や環境からよい点や優れた点を見出すことが出来るようになる。 ④自分で自分自身を幸せにすることが出来るようになる。 ⑤隣人・仲間を愛することが出来るようになる。		
履修上の注意	授業の形式はコーチング形式		
オフィスアワー	授業で紹介		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンスと自己リーダーシップ論 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項		
2	「自分を幸せにする力」である自己リーダーシップについて	「Leadership」という英語の単語の日本語の意味を調べる 予習 (30分)	
3	私ってだれ	「私ってだれ」というタイトルで10行の詩を書く。予習 (30分)	
4	自分からみた自己・誰も知らない自己を知ることによる自己リーダーシップの開発	自分の事はどう思っているかを家族に聞いてみる。予習 (20分)	
5	他人から見た自己と公開された自己を知ることによる自己リーダーシップの開発	仲間のリーダーシップスキルを評価するリーダーシップ評価表の作成。(20分)	
6	自己超越による幸せの創造	自分の価値観のリストを作成する。予習 (30分)	
7	与えることによる自己の幸せの創造	自分のボランティア活動について感想を書く。予習 (20分)	
8	家族・隣人愛による自己の幸せの創造	自分が思っている家族の良いところと嫌いなところのリストの作成。予習 (20分)	
9	自己改善による自己の幸せの創造	「忘れられない友情」というタイトルで自分の友だちの話を200字で書く。予習 (20分)	
10	地域社会やグローバル世界と関ることによる自己の幸せの創造	自分の憧れの有名人について調べる。(40分)	
11	リーダーシップスキルによる自己の幸せの創造 「聴く」スキル・「伝える」スキル	家でママの話を聞いてあげましょう。予習 (40分)	
12	キャリア選択による自己幸せの創造	自分が良いなと思うことのリストを作成する。予習 (20分)	
13	自分で自分自身を励ますことによる自己幸せの創造	自分のために買った物のリストを作成する。予習 (20分)	
14	自分のモチベーションを意識する才能	授業内で紹介 (予習 40分)	
15	自分を変えられるものと変えられないものを区別する能力	自分を変えられないことのリストを作成する。予習 (30分)	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科目名	グローバル教養		担当者	Mathew Philip
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	①授業への参加姿勢：20% ②授業のテーマへのコメントペーパー：20% ③レポート：60%			
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。			
目的	①「地域文化」のグローバル化を学ぶ中で、日本に滞在をしている世界の人々を大切に、一緒に働き地域で暮らす日本人の現状と課題を研究し、学ぶことで、「地域」と「グローバル」社会をさまざまな視角から考察する力を養い、世界の舞台で活躍するスキルを習得する。 ②表面化されていない地域文化のグローバルな広がりや秋田のグローバル化を調査し、浮き彫りにして行く中で、調査能力を育む。 ③地域や世界のグローバル化への関心を高め、関連する新聞記事や資料を受講前よりも深く読めるようになる。 ④グローバル化（および世の中の出来事）の分析能力を養う。 ⑤世界のすべての人々自分の愛する精神を養う。			
到達目標	①秋田で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。 ②グローバル社会と日本（社会）との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得ることが出来るようになる。 ③グローバル化や地域文化を評価し、グローバルマナーを身につけ、世界で活躍できるようになる。 ④地域社会においてもグローバル社会でも恥じないマナーをもってコミュニケーションを出来るようになる。			
履修上の注意	なし			
オフィスアワー	授業で紹介			
	授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・グローバル世界論			
2	グローバル化って何		Global という言葉の意味を辞書で調べてノートに書く。予習（20分）	
3	自分の可能性を広げるグローバル化		外国で活躍している日本人についての新聞記事を読む。予習（30分）	
4	グローバル化によって広がる秋田地域の絆		秋田市に住んでいる外国人の数と国籍を調べる。予習（30分）	
5	教育におけるグローバル化		秋田でグローバルな教育をしている学校のリストを作る。予習（30分）	
6	近所付き合いや生活のグローバル化における変化		外国人と話してみる。（30分）	
7	地域家庭生活のグローバル化		国際結婚について調べる。（30分）	
8	世界の地域文明を豊かにするグローバル化		世界で人気のある日本料理のリストを作成する。	
9	グローバル化の中で広がる人の夢		世界で行ってみたい国、やってみたいことのリストを作成する。予習（30分）	
10	グローバル化の中の人々の生き方		アフリカ人の生き方について調べる。（40分）	
11	グローバル化の中で広がる子どもの可能性		アジアのこどもの生き方について調べる。（40分）	
12	超大国に成長する我が国日本		日本の国際協力について調べる。（40分）	
13	グローバル世界と地域ユーモア		日本のお笑い業界について調べる。（40分）	
14	グローバル化による女性の意識変化		日本の女性活動家について調べる。（40分）	
15	グローバルマナーと地域文化		レポートのテーマを決める。	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。			
指定図書	授業で紹介。			

科目名	社会福祉		担当者	寺谷直輝
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 必修/生活こども専攻			
評価基準	<b>授業への「参加」</b> （単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う）が <b>単位認定の前提です。</b> ①定期試験（記号選択式・40%） ②確認テスト（15%） ③200字以上の感想文（45%）			
課題に対するフィードバック	①定期試験は、希望があれば、個別にフィードバックします。 ②確認テストは、次の授業開始時に復習を兼ねて解説します。 ③感想文は、匿名化処理を行った上で、受講生全員にPDF形式で配信（共有）します。			
目的	保育士資格養成課程において、本科目は、①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、②社会福祉の制度と実施体系、③社会福祉における相談援助、④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み、⑤社会福祉の動向と課題について学ぶことが目的です。			
到達目標	目的で示した①～⑤に関する基礎的な知識を習得していることを目標とします。			
履修上の注意	1. 授業時間中に使用しますので、①75mm×75mm以上の付箋（テキストに直接書き込むことに抵抗感のある場合のみ）、②スマートフォンを必ず持参してください。 2. 限られた時間では要点のみを扱うに留まりますので、自主自学が基本です。 3. 学習内容が現実社会に関係していることを視覚でイメージできるようにするため、授業時間の一部を映像作品の鑑賞に充てることがあります。			
オフィスアワー	火曜日 15時00分～16時00分（C B O 7 研究室）			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ●座席の確定（座席表の作成） ●成績評価と履修上の注意に関する説明 ●Google Classroomへの招待と参加確認 ●感想文と確認テストの提出方法の説明・確認  導入：子ども家庭支援と社会福祉		授業後にテキスト第3章を読み自学すること（2時間）	
2	社会福祉の理念と概念		授業後にテキスト第1章を読み自学すること（2時間）	
3	社会福祉の専門職・協力者		授業後にテキスト第7章を読み自学すること（2時間）	
4	社会福祉の施設と事業所		授業後にテキスト第5章を読み自学すること（2時間）	
5	社会保障及び社会福祉の制度と法体系		授業後にテキスト第4章を読み自学すること（2時間）	
6	相談援助・支援の基本		授業後にテキスト第8章を読み自学すること（2時間）	
7	相談援助・支援の展開		授業後にテキスト第9章を読み自学すること（2時間）	
8	児童を取り巻く多様な課題と地域ネットワーク		授業後にテキスト第12章を読み自学すること（2時間）	
9	社会福祉における情報の扱い方		授業後にテキスト第10章を読み自学すること（2時間）	
10	社会福祉の行財政と実施機関		授業後にテキスト第5章を読み自学すること（2時間）	
11	インクルーシブ社会の実現		授業後にテキスト第14章を読み自学すること（2時間）	
12	地域共生社会の構築と子育て支援の総合施策		授業後にテキスト第13章を読み自学すること（2時間）	
13	権利擁護のための評価制度と苦情解決		授業後にテキスト第11章を読み自学すること（2時間）	
14	社会福祉の歴史の変遷		授業後にテキスト第2章を読み自学すること（2時間）	
15	まとめ：本授業で学んだことの振り返り		定期試験に向けて学習内容を振り返ること（2時間）	
テキスト	立花直樹ほか編『社会福祉（プラクティス/保育・福祉のはじまり）』（ミネルヴァ書房）を指定します。			
指定図書	あり（巻末参照）			

目 名	こども家庭福祉	担当者	寺谷直輝
区 分 等	2年次・前期【講義】2単位 必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	<b>授業への「参加</b> （単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う） <b>が単位認定の前提です。</b> ①定期試験（記号選択式・40%） ②確認テスト（15%） ③200字以上の感想文（45%）		
課題に対するフィードバック	①定期試験は、希望があれば、個別にフィードバックします。 ②確認テストは、次回の授業開始時に復習を兼ねて解説します。 ③感想文は、匿名化処理を行った上で、受講生全員にPDF形式で配信（共有）します。		
目 的	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、②子どもの人権擁護、③子ども家庭福祉の制度と実施体系、④子ども家庭福祉の現状と課題、⑤子ども家庭福祉の動向と展望について学びます。		
到達目標	目的で示した①～⑤に関する基礎的な知識を習得していることを目標とします。		
履修上の注意	1. 授業時間中に使用しますので、①75mm×75mm以上の付箋（テキストに直接書き込むことに抵抗感のある場合のみ）、②スマートフォンを必ず持参してください。 2. 限られた時間では要点のみを扱うに留まりますので、自主自学が基本です。 3. 学習内容が現実社会に関係していることを視覚でイメージできるようにするため、授業時間の一部を映像作品の鑑賞に充てることがあります。		
オフィスアワー	火曜日 15時00分～16時00分（C B O 7研究室）		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ●座席の確定（座席表の作成） ●成績評価と履修上の注意に関する説明 ●Google Classroomへの招待と参加確認 ●感想文と確認テストの提出方法の説明・確認  導入：子ども家庭福祉の施設と専門職	授業後にテキスト第5講を読み自学すること（2時間）	
2	子どもの人権擁護	授業後にテキスト第3講を読み自学すること（2時間）	
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	授業後にテキスト第4講を読み自学すること（2時間）	
4	障害のある子どもへの対応	授業後にテキスト第12講を読み自学すること（2時間）	
5	社会的養護	授業後にテキスト第11講を読み自学すること（2時間）	
6	地域における連携・協働とネットワーク	授業後にテキスト第15講を読み自学すること（2時間）	
7	子ども家庭福祉の理念と概念	授業後にテキスト第1講を読み自学すること（2時間）	
8	母子保健と子どもの健全育成	授業後にテキスト第7講を読み自学すること（2時間）	
9	多様な保育ニーズへの対応	授業後にテキスト第8講を読み自学すること（2時間）	
10	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスの防止	授業後にテキスト第9講を読み自学すること（2時間）	
11	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	授業後にテキスト第10講を読み自学すること（2時間）	
12	少子化と地域子育て支援	授業後にテキスト第6講を読み自学すること（2時間）	
13	少年非行等への対応	授業後にテキスト第13講を読み自学すること（2時間）	
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進	授業後にテキスト第14講を読み自学すること（2時間）	
15	子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向	授業後にテキスト第2講を読み自学すること（2時間）	
テキスト	今年度は新保幸男・小林理編『子ども家庭福祉』（中央法規出版）を指定します。		
指定図書	あり（巻末参照）		

科目名	こども家庭支援論	担当者	野内友規
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 必修/生活こども専攻		
評価基準	到達目標1・2：定期試験(50%)、レポート(30%)、 到達目標3：受講態度(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートなどの課題については随時コメントをつけて返却する。		
目的	現代の子育て家庭の現状を理解し、子育て家庭に対する支援の考え方、方法、課題について考察する。子どもの発達・成長を支援する専門職である保育士として期待されている家庭支援に関する専門性について学びを深め実践する力を養う。 特に子育て家庭のニーズを理解し、他機関・多職種との連携を図ることや多様な支援が必要なことを認識して支援体制の在り方について理解する。		
到達目標	1. 子育て家庭に対して保育士が行う支援の意義や役割について説明することができる。 2. 受容的かつ共感的な態度と姿勢で模擬実践(ロールプレイ)を行うことができる。 3. 子育て支援に関するグループワークに参加し、自分の意見を伝えるとともに他者の意見を受容的に聞くことができる。		
履修上の注意	1. グループワークには積極的に参加すること。保育現場を推定してグループ活動が行われるため、最低限のコミュニケーション能力を求めます。 2. 授業において合理的配慮が必要な際は、第1回目の授業時に必ず担当教員へ相談すること。		
オフィスアワー	月曜日 7・8限		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション 授業概要の説明	テキストと保育所保育指針を読む	
2	子ども家庭支援の意義と必要性 家族を取り巻く社会の変化	テキストと保育所保育指針を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
3	子ども家庭支援の目標と機能 子ども家庭支援の意義と目標・原則	テキストと保育所指針を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
4	子ども家庭支援における保育士等の役割 社会の変化と保育士の専門性から求められる子育て家庭への支援	テキストと保育所保育指針を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
5	保育士に求められる基本的態度 保育士と保護者の協働、バイステックの7原則	テキストと保育所保育指針を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
6	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援と子ども理解、保護者理解の視点	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
7	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係の構築	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
8	家庭の状況に応じた支援 子どもの発達に応じた支援	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
9	地域の活用と関係諸機関との連携協力 子どもや子育て家庭の支援を行う機関	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
10	子育て家庭の福祉を図るための社会資源とその役割 保護者・家庭・地域と連携した子育て支援	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
11	子ども家庭支援の内容と対象 個別・地域・環境を通じた支援	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
12	保育所等利用児童の家庭支援 保育所における支援の実際	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
13	地域の子育て家庭への支援 地域の中で子どもを育てる	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
14	要保護児童及びその家庭に対する支援 障害や慢性疾患を持つ保護者への対応	テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。(1時間)	
15	「ママたちは非常事態」のDVDを見て考察する	これまでの復習をする(1時間)	
テキスト	村原康雄・村田典子・南野奈津子編集『子ども家庭支援論』ISBN：978-4-8058-5785-4(中央法規出版)		
指定図書	なし。		

科目名	子ども家庭支援の心理学		担当者	織田栄子
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 選択/生活子ども専攻			
評価基準	定期試験でのテスト (30%)、中間まとめ (20%)、受講カードの提出と内容 (20%)、受講取り組み態度 (30%)。			
課題に対するフィードバック	提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	人間の一生の発達の特徴を踏まえ、ライフコースを概観する。そのうえで、人間を取り巻く環境と個の特徴、特に、子どもと家族との関係性や子どもの心の問題についての理解を深めながら対応方法を身に付ける。			
到達目標	①子どもと家族との関係性について、子どもの視点、家族の視点、それぞれから理解できる。 ②子どもと家族の発達の特徴を踏まえたライフコースという視点から、子どもの心の問題、家族の問題について理解し、対応方法を考えることができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 乳幼児期から幼児期の発達の特徴		授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
2	学童期の発達の特徴		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
3	思春期から青年期の発達の特徴		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
4	成人期から高齢期の発達の特徴		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
5	家族システムと家族発達		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
6	親としての養育スタイルの形成と世代間伝達		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
7	子育て環境の社会状況的变化 ライフコースとワーク・ライフ・バランス		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
8	多様な子育て家庭への支援1 ・多様な家庭における子どもとは ・中間まとめと解説		5～8回までの授業の復習、及び2冊以上「子育て家庭への支援」に関連する参考文献を読み、要点をまとめる (2時間)	
9	多様な子育て家庭への支援2 ・多様な家庭における子どもへの対応		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援1 ・特別な配慮が必要な家庭とは		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援2 ・背景や子どもと家庭の特徴を考える		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
12	特別な配慮を必要とする家庭への支援3 ・支援方法を考える		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
13	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康1 ・基本的な生活習慣 ・事故防止と安全確保 ・災害、事件、事故等予期せぬ事態と子どもと家族への対応		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
14	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康2 ・子どもの心と健康		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
15	障害のある子どもの理解と対応		前回授業の復習 (1時間) これまでの授業の復習 (1時間)	
テキスト	本郷一夫、神谷哲司編著『子ども家庭支援の心理学』(建帛社)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	こどもの理解と援助		担当者	織田栄子
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	小テスト (30%)、中間まとめ(20%)、受講カードの提出と内容 (20%)、受講取り組み態度 (30%)。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	子どもの発達過程、及び学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴を把握する方法、また、教育的対応、及び養護的対応について、実践力を身に付ける。			
到達目標	①ワークや事例検討等を通して、子どもと保護者の理解が深まることで、具体的援助方法が分かり、実践に結びつけることができる。 ②子どもと保護者を理解する過程を通し、保育者となる自分自身を振り返ることで、保育者としての態度や基本的考え方が分かる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義		授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
2	子どもに対するかかわり方と共感的理解 1 ・保育者となる自分自身の特徴を知る		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
3	子どもに対するかかわり方と共感的理解 2 ・共感的理解とは何か		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
4	子どもを理解する視点 1 ・子どもの生活や遊び、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (グループワーク)		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
5	子どもを理解する視点 2 ・子ども相互のかかわりと関係づくり ・集団における経験と育ち ・発達における葛藤やつまずき		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
6	子どもを理解する視点 3 ・保育の環境の理解と構成 ・環境の変化や移行 ・中間まとめと解説		4～5回までの授業の復習、及び2冊以上「環境の変化や移行」についての参考文献を読み、要点をまとめる (2時間)	
7	子どもを理解する方法 1 ・観察と記録		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
8	子どもを理解する方法 2 ・省察と評価		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
9	子どもを理解する方法 3 ・保護者との情報共有 (グループワーク)		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
10	子どもを理解する方法 4 ・職員間の対話 (グループワーク)		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
11	子ども理解に基づく発達援助 1 ・発達課題に応じた援助とかかわり①		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
12	子ども理解に基づく発達援助 2 ・発達課題に応じた援助とかかわり② (事例検討)		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
13	子ども理解に基づく発達援助 3 特別な配慮を要する子どもの理解と援助① ・子どもの特徴をつかむ		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
14	子ども理解に基づく発達援助 4 特別な配慮を要する子どもの理解と援助② ・周囲のかかわり方 ・発達援助の振り返り 発達の連続性と就学への支援 1 ・幼保でできること、小学校でできること		前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)	
15	発達の連続性と就学への支援 2 ・幼保・小学校のつながり ・これまでの授業についての振り返りと小テスト		前回授業の復習 (1時間) これまでの授業の復習 (1時間)	
テキスト	なし。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	こどもの食と栄養	担当者	高山裕子
区分等	2年次・通年 [演習] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	課題 (50%)、定期試験 (50%)		
課題に対するフィードバック	課題はコメントをつけて返却する。		
目的	食を通しての健全な心身の発育と小児期における好ましい食習慣の意義と必要性を理解する。保育者として保育との関連の中で、小児期に適切な食事を提供することの意義、食生活が心の健康にも影響することを理解する。		
到達目標	①子どもの発育・発達の特徴、摂食機能や摂食行動を理解できる。 ②各発育段階における栄養、食生活の重要性を理解できる。 ③食育の演習を通して食育を計画し、実践できる。 ④食生活指導及び食を通じた保護者への支援について理解できる。		
履修上の注意	調理の際は白衣またはエプロン、三角巾を着用のこと。 調理の食材料費を徴収する。		
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の 16:20～16:50		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	子どもの健康と食生活の意義	テキストをよく読んでくる (1時間)	
2	子どもの食生活の現状と課題	テキストをよく読んでくる (1時間)	
3	子どもの心身の発達と食生活	テキストをよく読んでくる (1時間)	
4	栄養に関する基礎知識(1)	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
5	栄養に関する基礎知識(2)	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
6	乳幼児期の食と食生活	テキストをよく読んでくる (1時間)	
7	子どもの食事[調乳・授乳]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
8	子どもの食事[調乳・授乳]演習	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
9	子どもの食事[離乳初期]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
10	子どもの食事[離乳初期]演習	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
11	子どもの食事[離乳中期～完了期]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
12	子どもの食事[離乳中期～完了期]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
13	食育に関する指針	テキストをよく読んでくる (1時間)	
14	食事環境の配慮[食育掲示物]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
15	食事環境の配慮[食育掲示物]作成・前半のまとめ	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
16	子どもの食事[幼児食]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
17	子どもの食事[幼児食・おやつ]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
18	子どもの食事[幼児食・おやつ]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
19	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 [食物アレルギー]	テキストをよく読んでくる (1時間)	
20	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 [食物アレルギー]演習と評価	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
21	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 [小児のやせ・肥満]	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
22	保護者支援・地域支援	テキストをよく読んでくる (1時間)	
23	子どもの食事[幼児食]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
24	子どもの食事[幼児食・1食献立]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
25	子どもの食事[幼児食・1食献立]調理演習	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
26	健康危機管理・緊急時対応	テキストをよく読んでくる (1時間)	
27	食育[食育指導]理論・計画	ワークシートをまとめて理解する (1時間)	
28	食育[食育指導]演習と評価	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
29	食育[食育指導]演習と評価	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
30	授業全体のまとめ	演習内容をワークシートにまとめる (1時間)	
テキスト	太田百合子、堤ちはる編『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本』(羊土社)		
指定図書	あり。(巻末参照)		

科目名	保育指導法		担当者	石井美和子
区分等	2 年次・前期 [講義] 2 単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	①定期試験 (40%) ②課題提出・発表 (40%) ③授業への取り組み姿勢 (20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領に基づき、幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、5 領域のねらい及び内容の関連について、情報機器及び教材の活用を実践的に学び、具体的な保育を想定した指導計画を作成する能力を身につけること。</li> <li>・幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて教材研究などを行い、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけること。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を理解している。</li> <li>②幼児期の発達をふまえ、幼稚園教育において育みたい資質能力を理解並びに全体構造を理解している。</li> <li>③幼稚園教育要領の各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を理解し保育構想に活用することができる。</li> <li>④幼稚園教育の指導計画の構想を理解し、模擬保育を行い具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>⑤幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解している。</li> </ul>			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席した場合には授業の内容を確認する。</li> <li>・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。</li> </ul>			
オフィスアワー	月曜日 16 時 30 分～17 時 30 分			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	オリエンテーション (授業の進め方) —幼稚園教育とは— —保育方法とは—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定図書などの実践記録の本を読んで、実践記録について学ぶ習慣をつける。</li> <li>・自分で時間を作ってボランティアなどを行い、幼児の理解・保育方法について自ら探究する。教材研究について。</li> </ul>		
2	「幼稚園教育要領」と保育内容 ①—保育内容に関する理解、具体的な教材を使って環境構成を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教育要領」第 1 章・第 2 章を読む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) 作成する。(1 時間)</li> </ul>		
3	「幼稚園教育要領」と保育内容 ②—5 領域の趣旨や特質について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教育要領」第 1 章・第 2 章を読む。(1 時間)</li> </ul>		
4	幼稚園教育の基盤となる幼児の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 2 章を読む。(1 時間)</li> </ul>		
5	環境を通しての教育① 環境を通しての学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 5 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
6	環境を通しての教育② 環境構成の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 5 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
7	遊びを通しての指導① 幼児期の発達と遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 6 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
8	遊びを通しての指導② 幼児の遊びの展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 6 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
9	遊びを通しての指導② 幼児の遊びに対する援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 6 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
10	保育内容の指導法① 発達の時期に応じた指導のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 8.9 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
11	保育内容の指導法② 協同的遊びの展開と援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 9 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
12	保育内容の指導法③ 行事を生かした保育の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 7 章を読む。振り返り課題に取り組む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) に関連事項を調べて記入する。(1 時間)</li> </ul>		
13	保育計画の実際 (アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 12 章を読む。(1 時間)</li> </ul>		
14	情報機器の活用と課題 (視聴覚教材の活用法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト第 14 章を読む。(1 時間)</li> <li>・教材研究 (遊びノート) をまとめ、発表用の PowerPoint 作成</li> </ul>		
15	具体的な指導場面を想定した保育の構想を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの復習・課題をまとめる。(2 時間)</li> <li>・発表に向けて準備する (3 時間)</li> </ul>		
テキスト	保育方法・指導(大豆生田啓友、渡辺英則、編著ミネルヴァ書房) フォトランゲージで学ぶ—子どもの育ちと実習日誌・指導計画— (萌文書林) 幼稚園教育要領および解説 (最新版) (文部科学省著、フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説 (最新版) (内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	保育内容・健康	担当者	大曾基宣
区分等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標1：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標2：グループワーク、実践発表および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標3：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目的	心身の発育・発達、基本的生活習慣の獲得、運動発達、安全などに関する幼児の育ちを理解し、それらを踏まえて自らの保育を構想・改善できるようになることを目的とする。		
到達目標	1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、幼児の心身の発育・発達、基本的生活習慣の獲得、運動発達、安全などに関する専門的事項について説明できる。 2. 領域「健康」に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育くまれる心情認識、思考および動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。		
履修上の注意	授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション（健康の定義）	第1回の学習内容の振り返り（1時間）	
2	領域「健康」のねらい及び内容の理解－保護者の想いから考える－ 〔視聴覚教材：はなちゃんのみそ汁〕	第2回の学習内容の振り返り、 出生体重などに関する家族へのインタビュー（1時間）	
3	乳幼児の心身の発育発達	第3回の学習内容の振り返り、 幼児期の睡眠習慣などに関する家族へのインタビュー（1時間）	
4	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（生活リズム・睡眠） －教材研究：生活リズムかるた－	第4回の学習内容の振り返り、 幼児期の食における困りごとなどに関する家族へのインタビュー（1時間）	
5	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（食習慣の形成・食育） －教材研究：おはしゲーム、食べ物クイズ－	第5回の学習内容の振り返り、 幼児期の衣服着脱や衛生習慣における困りごとに関する家族へのインタビュー（1時間）	
6	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（衣服着脱・衛生習慣・排泄） －教材研究：生活習慣すごろく－	第6回の学習内容の振り返り、 保育者から受けた言葉に関する家族へのインタビュー（1時間）	
7	基本的生活習慣の形成に関する相談支援 －事例検討・プレゼンテーション－	第7回の学習内容の振り返り、 幼児期のリスクプレイに関する家族へのインタビュー（1時間）	
8	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －新聞紙・タオルを使った運動遊びの実践－	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
9	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －ボールを使った運動遊びの実践－	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
10	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －サーキット遊びの考案と実践－	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
11	具体的な保育場面を想定した領域「健康」の指導計画	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
12	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －教材研究－	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
13	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －発表と相互評価：グループ1・2－	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
14	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －発表と相互評価：グループ3・4－	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
15	多様な動きの経験を促す環境構成と援助 －発表と相互評価：グループ5・6－	第15回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（フレーベル館） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（最新版）（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（フレーベル館）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	保育内容・環境A	担当者	大曾基宣
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	定期テスト (50%)、観察記録、(30%)、課題 (レポートなど) (20%)		
課題に対するフィードバック	観察記録や課題については適時アドバイスするなどフィードバックする。		
目的	保育における「環境」の位置づけやねらい、内容、捉え方について『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』や事例、映像、体験を通して具体的、実践的に学ぶ。 幼児をとりまく様々な環境や、環境にかかわる力の発達について学びを深め実践力を養う。 適切な指導について実践できる力を養う。		
到達目標	幼児期の特性を踏まえて、幼稚園教育の内容、方法を学び実践力が養われる。 幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、子どもが興味や関心を持てるような保育を構想することができ、指導の方法が身に付く。		
履修上の注意	自然の変化に興味や関心を持つ。植物の栽培など、グループで協力し合って行う。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション ー幼児教育の基本と保育内容「環境」ー	第1回の学習内容の振り返り (2時間)	
2	野外活動 (光・影・水を感じる体験) を通じた遊びと経験	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
3	野外活動 (風・音を感じる体験) を通じた遊びと経験	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
4	野外活動 (土どろウォーキング・穴掘り・土盛り) を通じた遊びと経験	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
5	野外活動 (自然物の採集・比較) を通じた遊びと経験	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
6	野外活動の振り返りを通じた環境の枠組み探求	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
7	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 ー指導計画立案 (野菜の栽培) ー	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
8	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 ー玩具・遊具を用いた遊びー	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
9	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 ー玩具・遊具を用いた遊びの発展ー	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
10	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 ー絵本を用いた遊びー	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
11	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 ー教材研究：絵本の世界の表現ー	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
12	領域「環境」のねらい、内容の展開の実際 ー発表：絵本の世界の表現ー	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
13	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 ー模擬保育・実践の省察・改善：野菜の栽培ー	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
14	子どもの成長を祝う日本文化の探求 ー命の大切さについて考える調査研究ー	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
15	子どもの成長を祝う日本文化の共有 ー調査結果の発表・共有ー	第15回の学習内容の振り返り (2時間)	
テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』(最新版) (フレーベル館) 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』(最新版) (フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』 (最新版) (フレーベル館)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	保育内容・環境B	担当者	大曾基宣
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	定期試験 (50%)、課題等提出 (40%)、授業態度 (10%)		
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。		
目的	子どもの発達の特徴を理解して園や家庭での生活を理解し、より良い生活や育ちが保障される生活環境を総合的に学ぶ。特に人的環境と子どもの自主性や社会性の育ちを映像や事例を通してグループワークを中心に学び合う。また、自然環境、社会環境について目をむけ、子どもの興味や発見、地域とのかかわりを通して育つことの重要性を学ぶ。さらには自然物を利用して教材研究を行う力を養う。		
到達目標	子どもの生活と環境の重要性を理解し、実践力が身に付く。 子どもの社会性や自立の課題を考えることができるようになる。 子どもの発達の特徴を理解し、遊びを豊かに展開できる力が身に付く。		
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション ー仕組みや法則を探求する遊び体験ー	第1回の学習内容の振り返り (2時間)	
2	数量に関わる保育の実際 ー遊びの中で数量への関心を豊かにする活動ー	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
3	図形に関わる保育の実際 ー遊びの中で図形への関心を豊かにする活動：つながる迷路、ドット・トンネルー	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
4	図形に関わる保育の実際 ー遊びの中で図形への関心を豊かにする活動：図形を使った生き物づくり、線のタイルづくりー	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
5	図形に関わる保育の実際 ー遊びの中で図形への関心を豊かにする活動：ゆれる図形、図形スタンプー	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
6	標識や国旗に親しむ保育の実際 ー遊びの中で標識や国旗に触れる活動：クラスの標識づくり、つながる国旗ー	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
7	文字に関わる保育の実際 ー遊びの中で文字や情報に触れる活動：文字の本づくりー	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
8	文字に関わる保育の実際 ー遊びの中で文字や情報に触れる活動：文字の収集と再構成ー	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
9	自然物を用いた教材研究 ー野外での自然物採取ー	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
10	自然物を用いた教材研究 ー自然物を使った表現活動のための教材準備ー	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
11	自然物を用いた模擬保育と相互評価 (グループ1・2・3) ー自然物を使った表現活動ー	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
12	自然物を用いた模擬保育と相互評価 (グループ4・5・6) ー自然物を使った表現活動ー	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
13	保育の中で子どもが楽しむ伝統行事 ーグループによる調査研究ー	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
14	保育の中で子どもが楽しむ伝統行事 ー調査結果の発表・共有ー	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認 (2時間)	
15	環境に関わる現代的課題 ーESD、インクルーシブ保育ー	第15回の学習内容の振り返り (2時間)	
テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』(フレーベル館) 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』(フレーベル館) 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)(フレーベル館)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	保育内容・言葉B	担当者	栗森 貢
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	授業に対する姿勢 (60%)、課題レポート (40%)		
課題に対するフィードバック	課題別の実演に応じてアドバイスをし、課題レポートに必要なコメントを付して返却する。		
目的	ことば遊びのリズムや響き体感したり、幼児期における言葉の獲得方法を理解したりして、いくつかの基本的な言葉に関する保育技法等を身に付けるようにする。		
到達目標	①わらべ歌やことば遊びなど、日本語のもつリズムや響きの良さを理解し表現できる。 ②読み聞かせの基本的な知識や方法を理解し、実践的に行うことができる。		
履修上の注意	保育現場で役立つように、様々な手法を実践的に学ぼうとすること。		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後 金曜日：午後		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	「幼稚園教育要領」に示されている言葉の領域を言語発達の視点から理解する。	これからの学習計画を見通し、「幼稚園教育要領」の「言葉」に関する事項を読んでくる。(1時間)	
2	ペープサートの良さを理解し、模擬保育をイメージしたペープサート制作の計画を立てる。	お話の世界に誘うにふさわしい、ペープサートの作り方や演じ方を考える。(1時間)	
3	ペープサートの効果を十分に生かせるように、小集団で工夫しながら作成する。	よりよいペープサートについて、実物や資料を参考に調べる。(1時間)	
4	ペープサートの効果を十分に生かせるように、部分的に実演しながら作成する。	各自が知っている手遊び歌の実例の何通りかを演じて感想をもつ。(1時間)	
5	ペープサートの効果を十分に生かした模擬保育を演示し、他グループの模擬保育の良さに気付く。	ペープサートの効果を生かした模擬保育の練習をしてくる。(1時間)	
6	幼児が楽しむことば遊びのいろいろを知り、一通り実演する。	幼児が喜びそうなことば遊びにどのようなものがあるか調べる。(1時間)	
7	「早口言葉」やひらがなを使ったことば遊びの方法を知り、実演する。	ことば遊びの中から数例を取り上げ、実演できるように練習する。(1時間)	
8	「数え歌」や「名前の中に何がある」などのことば遊びを知り、演示できるようになる。	「数え歌」や「名前の中に何がある」などの言葉遊びの演示の仕方を練習してくる。(1時間)	
9	ひらがなを使うカルタ遊びの方法を知り、互いに模擬保育を提示するなどして技法を習熟する。	導入段階のカルタ遊びから、遊びに慣れてきたいろいろなカルタ遊び等について実演する。(1時間)	
10	「文字ビンゴ」による遊び方を知り、自作の文字ビンゴを制作する。	「文字ビンゴ」を使った保育の方法を習熟する。(1時間)	
11	「文字ビンゴ」と「名前の中に何がある」を使った模擬保育をする。	「文字ビンゴ」を使った保育の方法を習熟する。(1時間)	
12	いくつかの「えかき歌」を知り、「えかき歌」を使った保育の方法を実践する。	「えかき歌」を使った保育の方法を習熟する。(1時間)	
13	パネルシアターの方法や保育場面の有効性を知り、数名で題材を決めて制作する。	お話の世界に誘う、様々なパネルシアターの良さを調べる。(1時間)	
14	自作のパネルシアターの演示方法を練習し、互いに発表して鑑賞し合う。	自作のパネルシアターの演示方法を練習してくる。(1時間)	
15	これまで取り扱ったことば遊びの中から選択し、模擬保育の方法で紹介し合う。	自分が選んだ遊びを通して保育の仕方を練習してくる。(1時間)	
テキスト	幼稚園教育要領および解説 (最新版) (文部科学省著、フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説 (最新版) (内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館) 授業時に資料プリントを配付する。		
指定図書	あり。(巻末参照)		

科目名	保育内容・表現（音楽B）		担当者	佐藤真由子
区分等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生主体の授業となるので、準備学習の意欲と取り組み方が70%、</li> <li>・発表実技（踊り・演奏・歌唱力・演技力・セリフやナレーションなどの滑舌）が30%</li> </ul>			
課題に対するフィードバック	・授業時に提出された表現活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージカルという総合芸術を体験させることによって、子どもたちと一緒に表現を楽しめる保育者を育てる授業を目指す。</li> <li>・学生主体でミュージカルを創り上げることによって、音楽表現や演技を楽しむことは勿論のこと、「保育者としての必要な力」、すなわちコミュニケーション能力、自主性、問題を解決する力、協力、団結力、創造力を養うことを目的とする。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 滑舌よくセリフを話し、表情豊かにのびのびと歌うことが出来る。</li> <li>② 音楽への関心・意欲を培い、演じながら歌う、踊るなどの表現によって積極性を身に付ける。</li> <li>③ 歌って、踊って、作って、演じてという総合芸術であるミュージカルによって、豊かな感性と表現力、創造力、感動体験、達成感を体験し、保育者としての必要な力と自信を身に付ける。</li> </ul>			
履修上の注意	表現活動記録用紙、筆記用具、ノート持参			
オフィスアワー	金曜日の14時40分～15時30分			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	ガイダンス（授業内容、ミュージカルについて） グループごとにミュージカル計画を立てる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールと授業の流れの確認</li> <li>・今後の予定を立てて書き込む</li> </ul>		
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにミュージカル計画を立てる。</li> <li>・題材の理解・絵本を読む・内容の把握</li> <li>・台本製作、題材の中の曲決め、踊り振付創作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表までの計画表を作る</li> <li>・役割分担、台本の製作、題材の中の曲決め、踊り振付創作</li> </ul>		
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとにミュージカル計画を立てる。</li> <li>・台本製作、題材の中の曲決め、踊り振付創作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表までの計画表を作る</li> <li>・役割分担、台本の製作、題材の中の曲決め、踊り振付創作</li> </ul>		
4	・グループごとの計画で進める①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習</li> </ul>		
5	・グループごとの計画で進める②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
6	・グループごとの計画で進める③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習のための準備（季節の歌・手遊びなどの確認）</li> <li>・グループごとの計画で進める④</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
8	・グループごとの計画で進める⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
9	・グループごとの計画で進める⑥ （立ち稽古・舞台構成・演出・舞台作り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
10	・グループごとの計画で進める⑦ （立ち稽古・舞台構成・演出・舞台作り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
11	・グループごとの計画で進める⑧ （立ち稽古・舞台構成・演出・舞台作り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
12	・グループごとの計画で進める⑨ （立ち稽古・舞台構成・演出・舞台作り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
13	・グループごとの計画で進める⑩ （立ち稽古・舞台構成・演出・舞台作り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台本の読み合せ・歌の練習・踊り振付創作・</li> <li>・自分の役の理解と練習・セリフ練習</li> </ul>		
14	・稽古仕上げ	・稽古仕上げ		
15	まとめ	まとめ		
テキスト	『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社） 随時プリント配付。			
指定図書	なし。			

科目名	特別支援教育		担当者	野内友規
区分等	2年次・通年〔演習〕2単位 選択／生活こども専攻			
評価基準	到達目標1・2：テスト(30%)、授業内提出物(30%) 到達目標3：受講態度(40%)			
目的	保育・教育現場の現状を踏まえ、特別な支援を要する子どもの多様なニーズに対する理解を深めるとともに、グループディスカッション等を通し、必要な支援の在り方を具体的に考える力を培う。			
到達目標	1. 特別支援に関する保育・教育現場の現状を理解し、重要な基本的用語について説明することができる。 2. 特別な支援を要する子どものニーズを理解し、周囲と協力しながら主体的に適切な支援を考えることができる。 3. インクルーシブマインドをもって保育教育の在り方について考えることができる。 4. グループワークに参加し、自らの意見の発言、他者の意見への傾聴をすることができる。(コミュニケーションにおいてコミュニケーション支援機器の使用は担当教員の許可のもと可とする。コミュニケーションにおける人的支援の配置は基本的に不可とする。)			
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設けるため、最低限のコミュニケーションを求める。 2. 授業において合理的配慮が必要な際は、第1回目の授業時に必ず担当教員へ相談すること。			
オフィスアワー	月曜日7・8限			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	特別支援教育とは 特別支援教育の理念と歴史	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
2	特別支援教育とは ICFとICIDH/合理的配慮と基礎的環境整備	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
3	障害の理解と支援 視覚障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
4	障害の理解と支援 聴覚障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
5	障害の理解と支援 知的障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
6	障害の理解と支援 肢体不自由の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
7	障害の理解と支援 病弱・身体虚弱の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
8	発達障害の理解と支援 発達障がいとは何か	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
9	発達障害の理解と支援 学習障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
10	発達障害の理解と支援 注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
11	発達障害の理解と支援 自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
12	発達障害の理解と支援 発達性協調運動症/発達性協調運動障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
13	多様な教育的ニーズの理解と支援 言語障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
14	多様な教育的ニーズの理解と支援 情緒障害の理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
15	多様な教育的ニーズの理解と支援 障害はないが多様なニーズのある子どもの理解と支援(外国にルーツを持つ子ども、貧困家庭や虐待環境下にある子ども)	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
16	多様な教育的ニーズの理解と支援 障害が重い子どもの理解と支援	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		
17	連続性のある多様な学びの場と特別支援教育 連続性のある多様な学びの場と教育課程 自立活動と各教科を合わせた指導 就学先決定の仕組み	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む(1.5時間)。		

18	通級による指導と特別支援学級 通級による指導の実際 特別支援学級における指導の実際 交流・共同学習の実際	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
19	特別支援教育コーディネーターと園内支援 体制 特別支援教育コーディネーターの役割	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
20	特別支援教育コーディネーターと園内支援 体制 特別支援教育コーディネーターとセンター 的機能 幼稚園・保育所における園内支援体制の 構築	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
21	「個別の指導計画」・「個別の教育支援計画」 の策定とアセスメント 気になる子の教育・保育とアセスメント 個別の指導計画の策定及び活用	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
22	関係機関や保護者との連携 就学へ向けた関係機関や保護者との連携の 必要性 保護者支援・子育て支援 関係機関との連携	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
23	気になる子の発達に応じた実際 各領域 (健康 人間関係 環境 言葉 表 現) における指導の留意点	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
24	子どもの遊びと感覚統合	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
25	子どもの発達と気になる行動	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
26	子どもの教育的⑨ニーズに応じた ICT 機器の 意義と活用	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
27	保育におけるアダプテッド	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
28	愛着障害	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
29	トラウマが発達に与える影響	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
30	まとめと小テスト	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む (1.5時間)。
テキスト	野内友規・綿引清勝編著『気になる子のインクルーシブ教育・保育』(中央法規出版)	
指定図書	適宜推薦図書を紹介します。	

科目名	子育て支援	担当者	藤田洋子
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	定期試験・課題 (90%)、授業態度(10%)		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスをしたり授業で取りあげたりして学生にフィードバックする。		
目的	保育現場における子育て支援の具体的な事例を通して、保護者や家族とともに子どもの成長の喜びを共有することの意義や、保育者に求められる支援の内容と基本的な方法、関係機関との協働や専門職との連携等も視野に入れた支援の実践を学ぶことを目的とする。		
到達目標	①保育の場や保育者に求められる支援の在り方を理解することができる。 ②実際に保育現場で見られる相談内容をもとにして、子育て支援・相談支援の基礎知識及び技術を身に付けることができる。		
履修上の注意	長期の休みを活用し、地域の子育て広場などにおいて自主的にボランティア活動を行うこと。		
オフィスアワー	水曜日昼休み		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション 子育て支援が求められる背景と制度の概要	日ごろから子どもたちや子育て家庭のニュース等に関心を持つ。 保育所保育指針の第4章を熟読する。(1時間)	
2	保育の場における子育て支援 ・保育所などが行う子育て支援	保育所保育指針の第4章を熟読する。 子どもの権利条約を調べる。(1時間)	
3	保護者支援と子育て支援 ・日常における継続的なかかわりを通じた保護者との信頼関係づくり	保育所保育指針の第4章を熟読する。(1時間)	
4	保育者に求められている子育て支援 ・地域に開かれた地域と共に取り組む子育て支援	保育所保育指針の該当箇所を熟読する。 プリントを振り返り整理する。(1時間)	
5	保護者に対する多面的な子育て支援① ・親子で楽しむ遊び発見	保育所保育指針の該当箇所を熟読する。 ICTを活用して親子の遊びをべる。(1時間)	
6	保護者に対する多面的な子育て支援② ・親子で楽しむ遊びの発見と工夫	課題を完成させる。(1時間)	
7	保護者に対する多面的な子育て支援③ ・親子で楽しむ遊びの発表と共有	主体的な発表を意識してプリントを振り返り整理する。(1時間)	
8	子育て支援の展開 ・職員間及び専門機関や専門職との連携・協働	子育て家庭を支える社会資源を調べる。(1時間)	
9	配慮を要する子ども及び家庭に対する支援 ・発達障害のある子どもと家庭への理解と支援	保育所保育指針、認定こども園教育保育要領の該当箇所を熟読する。(1時間)	
10	子どもの虐待予防と対応 子ども虐待についての理解と組織的対応	ICTなどを活用して児童虐待現状を調べる。 プリントを整理する。(1時間)	
11	子どもの虐待予防と対応 ・子ども虐待についての理解と連携機関との協働	ICTなどを活用して児童虐待現状を調べる。 プリントを整理する。(1時間)	
12	保護者に対する相談支援の実践 ・バイスティブの7原則・コミュニケーションスキル ・子どもや保護者の状態に基づいた相談技術のみがき	主体的に演習に参加し、活発に伝え合いができるように授業内容の振り返りをする。(1時間)	
13	保護者に対する相談支援の実践 ・子どもや保護者の状態に基づいた相談技術のみがき	主体的に演習に参加し、活発に伝え合いができるように授業内容の振り返りをする。(1時間)	
14	保護者に対する相談支援の実践 ・相談技術の磨き ・海外に学ぶ子育て支援	授業を振り返り、活発に演習できるようにする。(1時間)	
15	保育現場における子育て支援の課題と日常の保育との関連性	これまでの学びを振り返り自分なりの考えを整理する。(1時間)	
テキスト	『保育所保育指針および解説』(フレーベル館)『幼稚園教育要領および解説』(フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(フレーベル館)		
指定図書	なし。		

目 名	こどもの英語	担当者	Rachel Youngblood
区 分 等	2年次・後期 [演習] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	Class participation (30%) Readings (10%) Writing (10%) Assessment (20%) Final Exam (30%)		
課題に対するフィードバック	Feedback will be given orally during class and comments will be written on work as needed.		
目 的	The aim of this course is to familiarize and strengthen students' English skills when working with international students and families in childcare settings.		
到達目標	Students will be able to utilize English speaking, writing, and reading skills to convey important information to both international students and parents.		
履修上の注意	None		
オフィスアワー	To be announced		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Introduction to the course, Unit 1: Please Speak More Slowly	Unit 1 復習, Unit 2 予習 (1時間)	
2	Unit 2: Hi, I'm Yuri Tanaka	Unit 2 復習, Unit 3 予習 (1時間)	
3	Unit 3: Good Morning. How Are You Today?	Unit 3 復習, Unit 4 + Assessment 予習 (2時間)	
4	Unit 4: What Color Do You Like?	Unit 4 復習, Unit 5 予習 (1時間)	
5	Unit 5: There's a Ladybug on the Leaf	Unit 5 復習, Unit 6 予習 (1時間)	
6	Unit 6: It's Time to Play Outside	Unit 6 復習, Unit 7 + Assessment 予習 (2時間)	
7	Unit 7: She is Allergic to Eggs	Unit 7 復習, Unit 8 予習 (1時間)	
8	Unit 8: You Should Go to the Bathroom	Unit 8 復習, Unit 9 予習 (1時間)	
9	Unit 9: We Made Masks Today	Unit 9 復習, Unit 10 + Assessment 予習 (2時間)	
10	Unit 10: If it Rains, What Happens?	Unit 10 復習, Unit 11 予習 (1時間)	
11	Unit 11: What Shall We Do Today?	Unit 11 復習, Unit 12 予習 (1時間)	
12	Unit 12: I Feel Feverish	Unit 12 復習, Unit 13 + Assessment 予習 (2時間)	
13	Unit 13: This Is Yuri from Cosmos Day Care Center	Unit 13 復習, Unit 14 予習 (1時間)	
14	Unit 14: Thank You Very Much for Everything	Unit 1-14 復習	
15	Final Exam		
テキスト	Maiko Tsuchiya "Happy English for Childcare" (Kinseido)		
指定図書	None		

科目名	教職実践演習(幼稚園・保育所)		担当者	織田栄子、藤田洋子、寺谷直輝
区分等	2年次・後期 [演習] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	発表内容・提出物(40%)、受講態度・取り組み、課題(30%)。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	卒業後幼稚園教諭・保育士として活動できるように、保育・教育の実践例を数多く知るとともに、それぞれの実践の意義と方法について詳しく学ぶ。またグループ学習を通して保育・教育実践における保育者の連携の重要性を体得し、将来の保育・教育実践力を身に付ける。			
到達目標	①3名の担当教員別に学生をグループに分け、少人数指導を行う。各グループにおいて、指導案や教材作成のほか、ロールプレイングや模擬授業の発表・討論等を通して、現場での実践力を養うことを目標とする。 ②学生個々の学習状況等を把握できる「履修カルテ」の作成することで、学生が自己の学習状況を振り返り、目的を持つことで、主体的に演習に取り組むことができる。			
履修上の注意	初回の授業時に詳しく説明する。 寺谷の授業はMicrosoft Officeに関わるITスキルの再確認が目的となるため、ICTについて理解を深めたい学生は【ICT教育演習】も併修することを推奨する。			
オフィスアワー	火曜日 16:20~16:50 (織田)		金曜日 昼休み (藤田) 火曜日 15:00~16:00 (寺谷)	
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・授業の概要と進め方について ・教職実践演習のねらいについて ・求められる資質・能力について ・授業テーマについての説明(各担当教員)		事前に授業に関連した文献を読んでおく(1時間) 次回課題作成に関連した文献を読んでおく(1時間)	
2	1 課題作成についての説明(各担当教員) 2 課題作成		前回授業の講義内容をまとめる(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
A(織田) B(藤田) C(寺谷)のグループごとに、学生を3班に分けて指導する。				
(グループ別授業開始)				
	Aグループ	Bグループ	Cグループ	
3	1班 自己理解 性格検査を用い、理想の保育者像の目標設定をする	2班 子ども理解 絵本に登場する人物・生き物の内面を場面に沿って読みとる	3班 課題1 プレゼンテーションソフトの活用—保育実習に関するプレゼン資料の作成—	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)
4	1班 協力体験 グループワークを通し、事例検討ができる準備する	2班 子ども理解 絵本に登場する人物・生き物の内面を場面に沿って読みとる	3班 課題2 表計算ソフトの活用—「1日の指導計画」の作成—	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)
5	1班 事例検討 子どもの心理を様々な視点から見て対応策を考える	2班 子ども理解 子どもの遊び体験に必要な教材を作成する	3班 課題3 文書作成ソフトの活用—園だよりの作成—	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)
6	1班 実践 表現療法の体験を通し、子どもへの関わり方を学ぶ	2班 子ども理解 直接体験を通して、子どもと保護者の思い及び育ちを感じとる	3班 まとめ 保育におけるICTの可能性	前回授業の復習(1時間) 次回の授業に関連した文献を読んでおく。(1時間)
7	2班 自己理解 性格検査を用い、理想の保育者像の目標設定をする	3班 子ども理解 絵本に登場する人物・生き物の内面を場面に沿って読みとる	1班 課題1 プレゼンテーションソフトの活用—保育実習に関するプレゼン資料の作成—	3~6回授業をまとめる(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)
8	2班 協力体験 グループワークを通し、事例検討ができる準備する	3班 子ども理解 絵本に登場する人物・生き物の内面を場面に沿って読みとる	1班 課題2 表計算ソフトの活用—「1日の指導計画」の作成—	前回授業の復習(1時間) 次回授業に関連した文献を読んでおく(1時間)

9	2班 事例検討 子どもの心理を 様々な視点から見 て対応策を考える	3班 子ども理解 子どもの遊び体験に 必要な教材を作成す る	1班 課題3 文書作成ソフトの活 用一園だよりの作成 —	前回授業の復習 (1時間) 次回授業に関連した文献を読んでお く (1時間)
10	2班 実践 表現療法の体験を 通し、子どもへの 関わり方を学ぶ	3班 子ども理解 直接体験を通して、子 どもと保護者の思い 及び育ちを感じとる	1班 まとめ 保育における ICT の可 能性	前回授業の復習 (1時間) 次回授業に関連した文献を読んでお く (1時間)
11	3班 自己理解 性格検査を用い、 理想の保育者像の 目標設定をする	1班 子ども理解 絵本に登場する人物・ 生き物の内面を場面 に沿って読みとる	2班 課題1 プレゼンテーション ソフトの活用一保育 実習に関するプレゼ ン資料の作成—	7～10回授業をまとめる (1時間) 次回授業に関連した文献を読んでお く (1時間)
12	3班 協力体験 グループワークを 通し、事例検討が できる準備する	1班 子ども理解 絵本に登場する人物・ 生き物の内面を場面 に沿って読みとる	2班 課題2 表計算ソフトの活用 —「1日の指導計画」 の作成—	前回授業の復習 (1時間) 次回授業に関連した文献を読んでお く (1時間)
13	3班 事例検討 子どもの心理を 様々な視点から見 て対応策を考える	1班 子ども理解 子どもの遊び体験に 必要な教材を作成す る	2班 課題3 文書作成ソフトの活 用一園だよりの作成 —	前回授業の復習 (1時間) 次回授業に関連した文献を読んでお く (1時間)
14	3班 実践 表現療法の体験を 通し、子どもへの 関わり方を学ぶ	1班 子ども理解 直接体験を通して、子 どもと保護者の思い 及び育ちを感じとる	2班 まとめ 保育における ICT の可 能性	前回授業の復習 (1時間) 次回課題作成に関連した文献を読ん でおく (1時間)
(グループ別授業終了)				
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修カルテ記入</li> <li>まとめの課題作成「保育者に必要な力、身に付けたい力を卒業してからどのように取り組んでいくか。」</li> </ul>			課題作成に関連した文献を読んでお く (1時間) これまでの授業内容をまとめる (1時 間)
テキスト	寺谷の授業回では、小野目如快『Office2019で学ぶコンピュータリテラシー』(実教出版)を必ず持参し、各自で参照できるようにしておいてください。※既に【情報システム論】で購入しているはずですので、改めて購入する必要はありません。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	保育実習 I B	担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	2年次・前期 [実習] 2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	①実習の評価 (50%) ②実習日誌の内容 (30%) ③実習のまとめ (20%)		
課題に対するフィードバック	必要に応じて随時アドバイスや提案をする。		
目的	①児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 ②子どもや利用者を観察したり関わったりする中で、子どもや利用者への理解を深める。 ③これまでに習った教科目の内容を踏まえて、施設における子どもや利用者の生活と環境を理解する。 ④専門職としての施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。		
到達目標	①児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解できている。 ②子どもや利用者への理解を深めることができている。 ③施設における子どもや利用者の生活と環境を理解できている。 ④専門職としての施設保育士の業務内容や職業倫理を身につけている。		
履修上の注意	・事前指導の内容を確認すること。 ・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	木曜日 16時20分～16時50分 (石井)・火曜日 15時00分～16時00分 (寺谷)		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
実習段階：観察・参加実習 実習期間：第1回 5月下旬から6月上旬(10日間) 第2回 7月下旬から8月上旬(10日間) ・実習施設で事前のオリエンテーションを行う。 ・施設の生活を観察したり活動に参加したりして、子どもや利用者の生活やニーズを理解する。 ・職員の方々による指導・助言から、子どもや利用者との関わり方や援助技術を学ぶ。 ・部分実習やレクリエーションを行い、子どもや利用者への理解を深める。		・施設実習の目的と意義、実習への心構えやマナーについて理解する。 ・これまでの教科目で得た知見を整理しつつ、実習先のホームページ等で理念・養護方針や活動を参照する中で、明確な実習目標を設定する。 ・実習日誌の書き方を学ぶ。 ・部分実習・レクリエーションといった子どもや利用者と一緒に楽しく行う活動を、実際に試作・試演しながら構想を具体化する (部分実習指導案の作成)。	
テキスト	・守巧ほか『施設実習パーフェクトガイド』(わかば社) <u>※改訂版が2023年11月に刊行されていますが、改めて購入する必要はありません。</u> ・聖霊女子短期大学『保育実習の手引き (児童福祉施設)』		
指定図書	なし。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得 (石井美和子)

教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い実践的な指導力を身につける。

科目名	保育実習指導ⅡA		担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	2年次・前期[演習]1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	指導案作成・提出(30%)、実習日誌の内容(30%)、実習のまとめ(10%)、指導内容の理解(30%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスをするなど学生にフィードバックをする。			
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次の保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び実践力を養う。</li> <li>・既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育士の専門的知識と技術を身に付ける。</li> <li>・実習の事後指導を通して、自己評価を行い、保育士を目指すための課題を明確にする。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所や施設の理解を深め、目標を明確に持ち、積極的に実習に臨むことができる。</li> <li>・子どもの姿を読み取り、指導案を作成する力が身につく実践できる。</li> <li>・実習日誌の書き方や内容がより明確になり、観察力や表現力が身に付く。</li> </ul>			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席した場合には授業の内容を確認する。</li> <li>・連絡は Google Classroom 経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。</li> </ul>			
オフィスアワー	火曜日 16時20分～16時50分(石井)・火曜日 15時00分～16時00分(寺谷)			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	実習の理解、実習先確認、発送書類の準備	『幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』を読み実習の概要を理解する 課題に取り組む。(1時間)		
2	実習に関する心構えと諸注意	実習を振り返り、課題を明らかにする。(1時間)		
3	保育指導計画立案の考え方	テキスト Part2・3を読む。教材研究に取り組む。 (1時間)		
4	保育指導計画の立案	教材研究に取り組む。課題に取り組む。(1時間)		
5	保育指導計画の立案	教材研究に取り組む。課題に取り組む。(1時間)		
6	実習日誌の書き方	テキスト Part1を読む。課題に取り組む。(1時間)		
7	自己評価とまとめ、発送書類の準備	課題に取り組む。(1時間)		
8	実習に関する心構えと諸注意	実習を振り返り自分の課題を明らかにする。(1時間)		
9	保育指導計画立案の考え方	テキスト Part・3を読む。教材研究に取り組む。 (1時間)		
10	保育指導計画の立案	教材研究に取り組む。課題に取り組む。(1時間)		
11	保育指導計画の立案	教材研究に取り組む。課題に取り組む。(1時間)		
12	実習日誌の書き方	テキスト Part1を読む。(1時間)		
13	保育指導計画立案	教材研究、課題に取り組む。(1時間)		
14	実習の振り返り、自己評価と課題の明確化	課題に取り組む。(1時間)		
15	実習のまとめと共有	実習のまとめと発表の準備をする。(1時間)		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小櫃智子編『【改訂版】実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』(わかば社)</li> <li>・厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館)</li> <li>・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(フレーベル館)</li> <li>・聖霊女子短期大学『保育実習の手引き(保育所2年生)』</li> </ul>			
指定図書	なし。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得(石井美和子)

教育内容：保育士の専門性と職業倫理について指導し、実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。

科目名	保育実習指導ⅡB		担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	2年次・前期[演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	授業内容の理解(30%)、実習指導計画案作成・提出(40%)、日誌の記述内容(30%)。			
課題に対するフィードバック	提出課題については適宜アドバイスをしてフィードバックする。			
目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能を学ぶ。</li> <li>2. 施設における支援の実際を学ぶ。</li> <li>3. 保育士の多様な業務と職業倫理を理解する。</li> <li>4. 保育士としての自己課題を明確化する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解できている。</li> <li>2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につけている。</li> <li>3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。</li> <li>4. 実習における自己の課題を理解できている。</li> </ol>			
履修上の注意	・連絡はGoogle Classroom経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。			
オフィスアワー	火曜日 16時20分～16時50分(石井)・火曜日 15時00分～16時00分(寺谷)			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	実習の理解、実習先確認、発送書類の準備	施設に関する情報・や資料を収集し理解を深める。新聞やニュースなどの関連記事に関心を持って読む。(1時間)		
2	実習に関する心構えと諸注意	テキストを読み、実習の課題を持ちノートにまとめる。(1時間)		
3	実習施設の役割と機能	テキストを読みさらに理解を深める。(1時間)		
4	実習目標の明確化	テキストなどで事前に現状を把握する。(1時間)		
5	実習先とのオリエンテーション	事前に実習に必要な準備をする。(1時間)		
6	ニーズの把握と子ども理解	各実習先によるニーズの違いを把握する。(1時間)		
7	実践力の育成	イメージを持ち指導計画作成のための資料を準備する。(1時間)		
8	指導計画の立案①	指導計画を立案する際のポイントを再確認する。(1時間)		
9	指導計画の立案②	活動、教材を選ぶポイントを確認する。(1時間)		
10	実習日誌の書き方①	実習日誌を読み返し、書き方などを確認する。(1時間)		
11	実習日誌の書き方②	所感(考察)の書き方についてテキストで復習する。(1時間)		
12	実習の振り返り(自己評価・まとめ・反省)	課題をまとめる。(1時間)		
13	実習の振り返りの共有	課題をまとめる。(1時間)		
14	実習課題の明確化	今後の学習にどのように繋いでいくのかをまとめる。(1時間)		
15	自己評価と実習先からの評価に基づく個別指導	個別指導の内容をまとめ整理する。(1時間)		
テキスト	守巧ほか『改訂版 施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)			
指定図書	なし。			

科目名	保育実習ⅡA	担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	2年次・前期[実習]2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	実習評価(50%)、実習日誌の内容(20%)、指導計画書の作成提出(30%)。		
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをするなど学生にフィードバックする。		
目的	子どもの観察やかかわりの視点を明確にして、実習日誌を的確に書くことができるようにする。 子どもの日々の姿を読み取り、必要な環境構成ができる力を身に付けること。 指導計画の作成の仕方を理解し実践できるようにする。 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 自己の課題を明確にして実習に臨むようにする。		
到達目標	子どもの理解が深まり子どもへのかかわり方が身につく。 保育士としての職務や役割の理解が深まり意識をもって実習に臨む力が養われる。 一日の指導案の作成の仕方を身に付け、実際の保育を体験することでより力が身に付く。		
履修上の注意	事前指導の内容を確認すること。		
オフィスアワー	火曜日 16時20分～16時50分(石井)・火曜日 15時00分～16時00分(寺谷)		
	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
	実習段階：参加実習 実習期間：第1回 5月中旬から6月下旬。(10日間) 第2回 7月下旬から8月上旬。(10日間) 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において実習指導担当者の指導のもとで実習を行い、子どもとのかかわり、保育士の援助、職務などを学ぶ。	・「実習の手引き」をしっかりと読む。 ・教材研究を行い、実践力を高める。 ・健康的な生活をして実習中に体調を崩すことのないようにする。	
テキスト	・小櫃智子編『【改訂版】実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』(わかば社) ・厚生労働省『保育所保育指針』(フレーベル館) ・厚生労働省編『保育所保育指針解説』(フレーベル館) ・聖霊女子短期大学『保育実習の手引き(保育所2年次)』		
指定図書	なし。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士として保育園勤務、保育実習指導者認定証取得(石井美和子)

教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い実践的な指導力を身につける。

科目名	保育実習ⅡB	担当者	石井美和子、寺谷直輝
区分等	2年次・前期[実習]2単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	実習評価(50%)、指導案作成・提出(30%)、実習日誌の記述内容(20%)。		
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをするなど学生にフィードバックする。		
目的	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能を学ぶ。 2. 施設における支援の実際を学ぶ。 3. 保育士の多様な業務と職業倫理を身につける。 4. 保育士としての自己課題を明確にする。		
到達目標	1. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。		
履修上の注意	・連絡はGoogle Classroom経由で行うこともあるため、確認できるようにしておくこと。		
オフィスアワー	火曜日 16時20分～16時50分(石井)・火曜日 15時00分～16時00分(寺谷)		
	授業計画	準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
	実習時期：2年次 前期(10日間/80時間) 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において指導担当者のもとで実習を行う。 実習期間中に訪問担当教員が施設を訪問し指導する。	それぞれの実習施設に応じて、課題や準備を行う。	
テキスト	守巧ほか『【改訂版】施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)		
指定図書	なし。		

科目名	教育制度論	担当者	寺谷直輝
区分等	2年次・後期〔講義〕1単位 選択/生活こども専攻		
評価基準	<p><b>授業への「参加</b>（単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う）」が<b>単位認定の前提</b>です。</p> <p>①まとめのテスト（44%） ②確認テスト（21%） ③感想文（35%）</p>		
課題に対するフィードバック	<p>①まとめのテストは、希望があれば、個別にフィードバックします。</p> <p>②確認テストは、次回の授業開始時に復習を兼ねて解説します。</p> <p>③感想文は、匿名化処理を行った上で、受講生全員にPDF形式で配信（共有）します。</p>		
目的	日本における教育制度の法的・制度的仕組みを把握した上で、教育制度における課題について考察しながら、学校と地域の連携や学校安全への対応について理解できるようにする。		
到達目標	<p>1. 教育に関わる制度的事項の基礎的な知識を身につけている。</p> <p>2. 学校と地域との連携や学校安全への対応を含めた様々な教育課題に対する自分の考え方を論理的に説明できる。</p>		
履修上の注意	<p>1. 7.5回の開講科目ですので、<b>欠課を2回してしまうと失格（D評価）</b>となります。</p> <p>2. <b>授業時間中に使用しますので、①75mm×75mm以上の付箋（テキストに直接書き込むことに抵抗感のある場合のみ）、②スマートフォンを必ず持参してください。</b></p> <p>3. 限られた開講回数では要点のみを扱うに留まりますので、自主自学が基本です。</p> <p>4. 学習内容が現実社会に関係していることを視覚でイメージできるようにするため、授業時間の一部を映像作品の鑑賞に充てることがあります。</p>		
オフィスアワー	火曜日 15時00分～16時00分（CB07研究室）		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	<p><b>オリエンテーション</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●座席の確定（座席表の作成）</li> <li>●成績評価と履修上の注意に関する説明</li> <li>●Google Classroomへの招待と参加確認</li> <li>●感想文と確認テストの提出方法の説明・確認</li> </ul> <p><b>導入：子どもの教育を受ける権利を保障する法制度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公教育の原理及び理念</li> <li>●公教育制度を構成する教育関係法規</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第1章</b> を読み自学すること（2時間）	
2	<p><b>現代日本の義務教育制度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公教育制度を構成する教育関係法規</li> <li>●教育制度をめぐる諸課題</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第3章</b> を読み自学すること（2時間）	
3	<p><b>幼稚園と幼児教育に関わる制度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育制度を支える教育行政の理念と仕組み</li> <li>●教育制度をめぐる諸課題</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第6章</b> を読み自学すること（2時間）	
4	<p><b>国と地方の教育行財政</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公教育の原理及び理念</li> <li>●教育制度を支える教育行政の理念と仕組み</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第7章</b> を読み自学すること（2時間）	
5	<p><b>学校の教職員に関わる制度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教育制度を支える教育行政の理念と仕組み</li> <li>●公教育制度を構成している教育関係法規</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第9章</b> を読み自学すること（2時間）	
6	<p><b>学校安全の必要性和学校に関わる安全上の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性</li> <li>●学校を取り巻く安全上の課題への具体的な理解</li> <li>●教育制度をめぐる諸課題</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第12章</b> を読み自学すること（2時間）	
7	<p><b>学校と地域との連携に関わる制度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域との連携を基とする開かれた学校づくりの展開</li> <li>●学校と地域との連携による学校教育活動の意義と方法</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第13章</b> を読み自学すること（2時間）	
8	<p><b>まとめ（教育制度の現在）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●公教育の原理及び理念</li> <li>●教育制度に関する諸課題</li> </ul>	授業後に <b>テキスト第15章</b> を読み自学すること（2時間）	
テキスト	梨本加菜『生涯学習時代の教育制度』（樹村房）を指定します。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	教育課程総論	担当者	寺谷直輝
区分等	2年次・前期【講義】2単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	<p><b>授業への「参加」</b>（単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う）<b>が単位認定の前提です。</b></p> <p>①小テスト（2回）【30%】※保育実習ⅡA・保育実習ⅠBに参加する直前の授業回に実施します。 ②定期試験（記述式・『幼稚園教育要領解説』のみ持込可）【70%】</p>		
課題に対するフィードバック	<p>①小テストは、授業時間内に解説します。翌週の授業で答案のコピーを返却します。 ②定期試験は、希望があれば、個別にフィードバックします。</p>		
目的	<p>・改訂された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する力を養う。 ・教育課程の編成について理解し、教育要領と教育課程と指導計画の関連のもとで、カリキュラム・マネジメントを理解する力を養う。</p>		
到達目標	<p>①幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の学びに主体的に取組み、理解することができる。 ②学生同士の主体的な伝え合いから、教育課程の編成や指導計画作成の理解を深めることができる。 ③カリキュラム・マネジメントの必要性や、柔軟的な取り組みを知ることができる。</p>		
履修上の注意	<p>1. 保育現場の実践課題に応じて、あるいは、補講日や実習期間により、授業で取り扱う内容や順番は変更する可能性があります。 2. 指導計画の作成は「頭で考える」だけでなく、「手を動かす」ことが大事なので、授業時間の1/3程度は指導計画を（批判的に）検討したり実際に作成したりする時間とします。</p>		
オフィスアワー	火曜日 15時00分～16時00分（C B O 7 研究室）		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	カリキュラムの基礎理論と「指導計画」 —「指導計画」の種類（長期の指導計画と短期の指導計画）—	<p>テキストや配布資料を用いて学習内容を整理してください【毎回復習2時間】（以下、第15回まで授業内容に応じて取り組んでください）。</p> <p>事前にテキスト①96-99・105-106頁、テキスト②66-67・76-77・102・122-123頁を通読してください【予習2時間】。</p>	
2	指導計画の作成上の基本的事項① —発達の理解（発達過程）／具体的なねらいや内容の設定—	事前にテキスト①100-101頁、テキスト②68-77・96-101・108-109（責任実習指導案例②）頁を通読してください【予習2時間】。	
3	指導計画の作成上の基本的事項② —環境の構成（保育の環境）・活動の展開・教師の役割と援助—	事前にテキスト①102-103・116-118頁、テキスト②86-87頁（部分実習指導案例⑤）を通読してください【予習2時間】。	
4	「養護と教育の一体性」と年齢に応じた保育内容① —1歳以上3歳未満児の保育のねらい及び内容—	事前に『保育所保育指針解説』の121-181頁、テキスト①80-81（部分実習指導案例②）頁を通読してください【予習2時間】。	
5	「養護と教育の一体性」と年齢に応じた保育内容② —3歳以上児の保育のねらい及び内容—	事前に『保育所保育指針解説』の182-284頁、テキスト①88-89（部分実習指導案例⑥）頁を通読してください【予習2時間】。	
6	中間まとめ①（第1～5回の振り返り） —第1回小テストの実施と解説—	中間テストに向けて、第1回から第5回で学習した内容を整理すること【予習2時間】	
7	「養護と教育の一体性」と年齢に応じた保育内容③ —乳児保育のねらい及び内容—	事前に『保育所保育指針解説』の86-120頁を通読してください【予習2時間】。	
8	幼児教育において育みたい資質・能力 —領域を横断して教育内容を選択・配列する方法—	事前にテキスト①50-73頁、テキスト②124-127（実例①）頁を通読してください【予習2時間】。	
9	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 —幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景—	事前にテキスト①50-73頁、テキスト②128-131（実例②）頁を通読してください【予習2時間】。	
10	指導計画と幼児理解に基づいた評価（保育所における保育の評価） —評価を活かした指導計画の改善及びカリキュラム評価の基礎的な考え方の理解—	事前にテキスト①104・121-123頁を通読してください【予習2時間】。	
11	教育課程の役割と編成 —カリキュラム・マネジメントの意義や重要性の理解—	事前にテキスト①74-89頁を通読してください【予習2時間】。	
12	中間まとめ②（第7～11回の振り返り） —第2回小テストの実施と解説—	小テストに向けて、第7回から第11回で学習した内容を整理すること【予習2時間】	
13	小学校教育との接続（「幼保小の架け橋プログラム」） （生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録）	事前にテキスト①84-87頁を通読してください【予習2時間】。	
14	「全体的な指導計画」の作成と事例分析①（保育所） 全体的な計画と指導計画の関係性	配付資料を読み返して、「週の指導計画」を作成できるようにすること【復習2時間】	
15	「全体的な指導計画」の作成と事例分析②（幼稚園） 全体的な計画の作成	配付資料を読み返して、「週の指導計画」を作成できるようにすること【復習2時間】	
テキスト	<p>①文部科学省編『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） ②小櫃智子編『【改訂版】実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』（わかば社）</p>		
指定図書	<p>①文部科学省『幼稚園教育要領』（フレーベル館） ②内閣府他『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（フレーベル館）他（巻末参照）</p>		

科目名	教育方法論		担当者	栗森 貢、佐藤 恵
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	授業に臨む積極性(30%)、グループ作業時のコミュニケーション (20%)、課題レポート (50%)			
課題に対するフィードバック	学生の達成度に応じてアドバイスをし、発表等については学生の感想や指導者の意見をその場で伝える。			
目的	○幼稚園教育要領に示されている保育理念を踏まえ、幼児の発達に応じた指導方法や、家庭や小学校と幼稚園との連携のあり方を身に付けること。 ○情報機器を活用して保育のねらいに合った教材を作成し、模擬保育を通して効果的な活用技術を身に付けること。			
到達目標	①幼児教育における基本的な教育原理や方法を理解し、実践的に活用できるようになる。 ②情報機器を用いて幼児の興味を引きつける教材を作成し、模擬保育を通して効果的な使い方ができるようになる。			
履修上の注意	教材作成を通して、情報機器の具体的な活用に習熟すること。			
オフィスアワー	栗森：月曜日～木曜日は放課後・金曜日は午後、佐藤：金曜日の午前と放課後			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	【1～6回目担当：栗森貢】 ガイダンス 幼児教育の概要を知る	幼稚園教育要領を読み、概要を把握し不明な事項を整理する（2時間）		
2	幼児教育の基礎的理論① 育むべく資質や能力について理解を深める	幼稚園教育要領や各園要覧等から、幼稚園教育の目標を調べておく（2時間）		
3	幼児教育の基礎的理論② 多様な環境の中で育まれる幼児の成長を理解する	様々な環境が幼児の体験を豊かにし、成長を促していることを整理する（2時間）		
4	幼児教育の基礎的理論③ 遊びの重要性を生かした保育を理解する	育てて欲しい姿と関連しながら、具体的な様々な保育場面を整理する（2時間）		
5	情報機器を活用した教材作成の実際① 「電子紙芝居づくり」 ねらいに即したテーマや手法を考え、決定する	保育の領域ごとに求められている内容を確認しながら具体的な手法を整理する（2時間）		
6	情報機器を活用した教材作成の実際② 「電子紙芝居づくり」 目的に応じたストーリーや画面の基本形を作成する	ねらいや展開に応じた複数の画面を簡単なスケッチで表す（2時間）		
7	【7～9回目担当：佐藤恵】 情報機器を活用した教材作成の実際③ 役割分担に応じて教材を作成する	グループ内で分担した作業を進める（2時間）		
8	情報機器を活用した教材作成の実際④ 役割分担に応じて教材を作成する	グループ内で分担した作業を進める（2時間）		
9	情報機器を活用した教材作成の実際⑤ 作成した教材を実演をしながら修正等をする	グループ内で分担した作業を進める（2時間）		
10	【10～15回目担当：栗森貢】 自作教材を使用した模擬保育の実際① 前半グループの発表、感想交流、評価	保育のねらいを達成できるように、分担に応じて各自が何度もリハーサルをする（2時間）		
11	自作教材を使用した模擬保育の実際② 後半グループの発表、感想交流、評価	自グループや他グループの発表から、よりよい模擬保育のあり方を整理する（2時間）		
12	小学校教育との連携から主体的・対話的な保育のあり方を理解する	小学校教育と幼稚園教育との似ている点や異なっている点を整理する（2時間）		
13	育みたい資質能力の視点で、幼児教育の評価のあり方を理解する	個々の幼児の良さを伸ばす視点で評価のあり方を整理する（2時間）		
14	幼児の評価を生かした保護者との連携や家庭教育支援のあり方を理解する	具体的な場面を想定し、各家庭への支援に通じる方法を整理する（2時間）		
15	評価を生かした幼児の成長記録や指導要録の役割、そしてそれらの記載方法の概要を理解する	個々の幼児の具体的な園生活を想定し、成長の足跡となるように、仮定した記録を書く（2時間）		
テキスト	『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） 授業に使用するプリントや学習資料を配付する。			
指定図書	あり。（巻末参照）			

科目名	幼児理解		担当者	野内友規
区分等	2年次・後期 [講義] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	到達目標1・2：レポート(60%) 授業内提出物(20%) 到達目標3：授業参加態度、演習でのグループへの貢献度(20%)			
課題に対するフィードバック	1. 毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 2. レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	子どもの心身の発達の特徴や諸問題について理解させるとともに、子ども一人ひとりの理解を踏まえた適切な支援方法を身に付けさせ、実践意欲を高める。			
到達目標	1. 発達段階を見通した幼児理解と子どもの特性に応じた援助の重要性を説明できる。 2. グループワークを通して、メンバーとともに「子どもの理解」について考えを深め、自分の意見を発表することができる。(コミュニケーションにおいてコミュニケーション支援機器の使用は担当教員の許可のもと可とする。コミュニケーションにおける人的支援の配置は基本的に不可とする。)			
履修上の注意	1. 必要に応じてグループワークを取り入れるので、最低限のコミュニケーション能力は求めます。 2. 授業において合理的配慮が必要な際は、第1回目の授業時に必ず担当教員へ相談すること			
オフィスアワー	月曜日 7・8限			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ガイダンスー幼児理解の意義と目的、一般的理解と個別的理解		子ども(幼児)を理解するとはどういうことか、考えをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
2	発達とは何かー遺伝か環境か		人の発達は遺伝によるか、その後の環境によるか考える。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
3	発達理論1ーフロイトの理論(幼児期における人格形成への影響)、エリクソンの理論(8つの発達段階と発達課題)		フロイトやエリクソンについて、その人物像、研究業績などについて調べまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
4	発達理論2ー幼児教育に影響を与えたピアジェとヴィゴツキーの理論		ピアジェやヴィゴツキーについて、その人物像、研究業績などについて調べまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
5	ライフサイクルと子ども臨床1ー生涯発達、胎児期・乳児期・幼児期の特徴と心理的問題		胎児期から幼児期の特徴についてテキストを読んで、その概要をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
6	ライフサイクルと子ども臨床2ー児童期・青年期の特徴と心理的問題		児童期から青年期の特徴についてテキストを読んで、その概要をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
7	幼児教育における幼児理解1ー幼児教育に生きる幼児理解(理解の方法とその記録)、「理解と実践のPDCAサイクル」、実践記録の分析		保育実習で困ったこと、うれしかったことなどをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
8	幼児教育における幼児理解2ー幼児理解を深めるカンファレンス(個と集団、保護者の心情等の視点を通した幼児理解)、実践記録の分析		保育実習のカンファレンスから学んだことをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
テキスト	清水益治・森俊之編集『子ども理解と援助』(ISBN:978-4-8058-5709)(中央法規出版)			
指定図書	適宜推薦図書を紹介します。			

科目名	教育相談		担当者	織田栄子
区分等	2年次・後期 [講義] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	テスト(30%)、中間まとめ(20%)、受講カードの提出と内容(20%)、受講取り組み態度(30%)。			
課題に対するフィードバック	① 提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ② 課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	保育士・教員として子どもの心の問題等へ対応するために、心の問題等の捉え方、子どもや保護者への対応方法、教職員間や他機関等との連携方法を身に付ける。			
到達目標	①子どもの心の問題等について、発達段階、発達課題を踏まえた臨床心理学的な捉え方ができる。 ②子どもの心の問題等に対する心理的支援方法を学び、子どもの自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、自己成長を促す関わりができる。 ③子どもの心の問題等に、教職員間や他機関等と連携ができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・教育相談とは何か ・子どもの心の問題の捉え方と臨床的なかわりについて1		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
2	教育相談に生かす心理学的基礎1 ・教育相談の実際と事例検討 ・人間観、性格論、関わり方1(精神分析理論)		前回授業の復習(1時間) 授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
3	教育相談に生かす心理学的基礎2 ・人間観、性格論、関わり方2(行動理論、自己理論)		前回授業の復習(1時間) 授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
4	教育相談の技法1 ・カウンセリングとは(カウンセリングマインド、相談や心理療法との違い等) ・カウンセリングの領域と対象及び幼児期のカウンセリング ・中間まとめと解説		1～3回までの授業の復習(1時間)、及び2冊以上「カウンセリングマインド」についての参考文献を読み、要点をまとめる(2時間)	
5	教育相談の技法2 ・カウンセリングの基本(ラポール、共感的理解、自己一致、無条件の肯定的配慮、受容、面接の構造と契約等)		前回授業の復習(1時間) 授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
6	教育相談の進め方 ・カウンセリングの過程(傾聴、主な技法、質問の仕方、転移と逆転移等)		前回授業の復習(1時間) 授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
7	子ども臨床と心理アセスメント ・発達段階・発達課題と子どもの心の問題(登園拒否、虐待等) ・子どもや保護者を客観的に理解する方法(面接、各種検査、行動観察等)		前回授業の復習(1時間) 授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
8	子ども臨床と心理アセスメント ・教職員間、園内体制の組織的整備、地域や他機関等との連携の仕方		前回授業の復習(1時間) これまでの授業の復習(1時間)	
テキスト	伊藤健次編著『子ども臨床とカウンセリング』(みらい)			
指定図書	『幼稚園教育要領および解説』(最新版)(文部科学省著、フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)(内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館) その他(巻末参照)。			

科目名	幼稚園教育実習指導（2年次）		担当者	藤田洋子
区分等	1年次・2年次 通年 [演習] 1単位		選択/生活こども専攻	
評価基準	課題（60%）、実習報告（40%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目的	幼稚園教育実習に臨むにあたり必要とされる基本的事項を理解する力を養う。 実習日誌の書き方、求められる実践力について理解する力を養う。 今後の課題を見出しながら教育者・保育者として必要となる事柄を習得するための力を養う。 各自の体験を他の学生とも共有し合い、幼児教育にあたって必要な環境構成や援助のあり方について理解する力を養う。			
到達目標	1年次 ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。 ②実習日誌の意義や役割を理解し記録する力を身につける。 ③実習に参加するために必要な知識や技能の基礎を身につける。 ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。 2年次 ①教育実習の意義や目的をよく理解することができる。 ②実習日誌や指導案の意義や役割を理解し記録する力や作成する力を身につける。 ③実習に向け必要な実践力を身につける。 ④実習の反省を踏まえて課題を明確にするとともに必要な知識・技能を身につける。			
履修上の注意	実習に向けて自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。幼稚園実習のための指導なので、欠課した場合は必ず担当者のところに行き、指導を受けること。			
オフィスアワー	金曜日の放課後4時25分から			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
15	1年次の実習を振り返り 2年次の教育実習の意義や目的についての理解	1年次の実習課題を確認する。 『幼稚園教育実習の手引き』を熟読する。（1時間）		
16	幼児の発達過程・実習日誌の書き方	ICTや専門図書などで調べる。（1時間）		
17	指導案の意義や内容、作成方法	事前に実習の手引きを読む。（1時間）		
18	実習時期の子どもの育ちの姿と遊びや教材	実習時期の子どもの姿と遊びや必要な教材について調べる。（1時間）		
19	指導案の作成（部分実習）	指導案について調べ知識を得る。 実践してみたい内容を考える。（1時間）		
20	指導案の作成（責任実習）	実践してみたい内容を考える。（1時間）		
21	グループワーク（指導計画の作成：活動のねらいと展開）	必要な知識を得る。資料を準備する。（1時間）		
22	グループワーク（指導計画の作成：保育者の援助）	必要な知識を得て自分なりの考えを整理する。（1時間）		
23	グループワーク（保育の実践）	必要な教材や資料を準備する。（1時間）		
24	指導案の作成（責任実習）	実践内容：主な活動を定める。（1時間）		
25	指導案の作成（責任実習）	作成した指導案を見直す。（1時間）		
26	グループワーク（活動のねらいと保育の展開）	必要な教材準備をする。（1.5時間）		
27	グループワーク（保育の展開と保育者の援助）	前回の学びを指導案に活かす。（1時間）		
28	実習確認（実習の手引き、指導案と教材）	実践に必要な指導案や教材の確認をする。（1時間）		
29	教育実習の振り返り 実習目標に対する自己評価、その他の学び	実習を振り返り自己課題や成果に繋げる。（1時間）		
30	教育実習の振り返り 実習体験の共有と今後に向けた学び	実習の成果や反省を今後活かせるよう整理する。（1時間）		
テキスト	「幼稚園教育要領」及び解説（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説（フレーベル館） 聖霊女子短期大学「幼稚園教育実習の手引き（2年次）」			
指定図書	なし			

\*実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：幼稚園教諭を経て園長として保育園、幼保連携型認定こども園に勤務

教育内容：保育現場での経験を活かし、保育者の援助、子ども主体の指導案作成等の指導を行い、実践的な力を身につける。

科目名	地域・遊び実践演習	担当者	大曾基宣、藤田洋子、石井美和子
区分等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	到達目標1：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標2：遊び実践および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標3：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントをつけて返却する。		
目的	様々な遊びの経験および地域の親子を対象とした遊びの計画・実践・評価を通して、子どもが主体的に関わり、自発的に遊び、居心地の良さを感じる環境について、学習することを目的とする。		
到達目標	1. 子どもが主体的に関わり、自発的に遊び、居心地の良さを感じる環境構成について、自らの意見を踏まえて説明できる。 2. 子どもが主体的に関わり、自発的に遊び、居心地の良さを感じる環境について、具体的な計画を立案し、実践・評価・改善を行うことができる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。		
履修上の注意	第13回・第14回は、通常的时间割外で週末などの地域の親子が参加しやすい時間帯に実施する。日程は、授業の中で報告する。グループ活動を行う際は、協力して進めること。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	遊びの定義と意義（大曾）	第1回の学習内容の振り返り（2時間）	
2	世界の遊び体験（大曾）	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
3	科学遊び体験：空気・風（大曾）	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
4	科学遊び体験：形態の変化（大曾）	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
5	「子どもたちの100の言葉」からの遊び 体感：色と音の風景（藤田）	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
6	「子どもたちの100の言葉」からの遊び 体感：素材の風景（藤田）	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
7	「子どもたちの100の言葉」からの遊び 体感：光の風景（藤田）	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
8	「作って遊ぶ意義」 （石井）	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
9	廃材遊び体験：素材そのものを生かして （石井）	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
10	廃材遊び体験：変化を楽しむ （石井）	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
11	地域の親子を対象とした遊び実践のための計画立案（大曾・藤田・石井）	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
12	地域の親子を対象とした遊び実践のための教材研究（大曾・藤田・石井）	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
13	地域の親子を対象とした遊びの実践：遊具を用いた遊び（大曾・藤田・石井）	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
14	地域の親子を対象とした遊びの実践：ワークショップ（大曾・藤田・石井）	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認（2時間）	
15	遊び実践の振り返り（大曾）	第15回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	おもちゃインストラクター入門（1年次に購入済み）		
指定図書	なし。		

科目名	ICT教育演習		担当者	大曾基宣、野内友規、周 業欣
区分等	2年次・後期 [演習] 1単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	到達目標1: レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標2: 授業における取組状況および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標3: ショートカードの内容に基づき評価する。(20%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントをつけて返却する。			
目的	保育における ICT の活用に関わる知識と技術を習得し、自らの保育に生かすことができるようになることを目的とする。			
到達目標	1. 保育における ICT の活用方法について説明できる。 2. ICT を活用した保育を構想し、それを実践することができる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。			
履修上の注意	グループ活動を行う際は、協力して進めること。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	保育における ICT 活用の可能性(事例紹介)(大曾)	第1回の学習内容の振り返り(2時間)		
2	タブレットを活用した保育: 人間関係(大曾)	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
3	タブレットを活用した保育: 環境(大曾)	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
4	Web 会議システムを用いたオンライン保育交流: 計画(大曾)	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
5	Web 会議システムを用いたオンライン保育交流: 教材研究(大曾)	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
6	Web 会議システムを用いたオンライン保育交流: 実践・評価(大曾)	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
7	動画撮影の基礎: カメラの仕組み、映像技術の仕組みを理解する。コマ撮りの技法紹介、練習を行う。(周)	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
8	動画編集の基礎: 映像制作の流れを説明し、前回撮影したデータを編集する(周)	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
9	編集動画の共有方法: PC と移動端末のアプリケーションの説明、カット編集、書き出しを行う。(周)	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
10	保育における AR の活用: AR の概要(野内)	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
11	保育における AR の活用: AR 作成(野内)	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
12	保育における AR の活用: AR 体験(野内)	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
13	保育現場で用いられる ICT システム(大曾)	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
14	保育現場における ICT 活用の実際(大曾)	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定資料内容の確認(2時間)		
15	保育における ICT 活用方法の考案(大曾)	第15回の学習内容の振り返り(2時間)		
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	海外保育実習		担当者	大曾基宣
区分等	2年次・前期 [実習] 2単位 選択/生活こども専攻			
評価基準	到達目標1：報告書の内容に基づき評価する。(30%) 到達目標2：報告書の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標3：海外保育実習への取組状況に基づき評価する。(20%)			
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントをつけて返却する。			
目的	海外保育実習の事前・事後活動および現地での実習を通して、訪問する国の保育・教育の制度や保育者の保育観について学び、自らの保育観を養うことを目的とする。			
到達目標	1. 訪問する国の保育・教育の制度や実習で関わった保育者の保育観について説明できる。 2. 海外保育実習で学んだ多様な保育観を自らの保育構想に生かすことができる。 3. 多様な文化や価値観を受け入れながら、協働して取り組むことができる。			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要最低限の英語の知識を身につけてもらう必要がありますので、積極的に英語学習をすることをお勧めします。</li> <li>参加者確定後は空き時間・放課後・昼休みの時間を利用して事前指導を行います。</li> <li>海外保育実習参加費には、航空券代金、現地滞在費が含まれます。パスポート申請費用、海外旅行傷害保険料金、その他現地活動費等は含まれませんのでご注意ください。</li> </ul> ※実施時期については確定し次第お知らせします(夏季休暇中を予定しています)。ただし、社会情勢等により、実施時期や内容の変更、やむを得ない中止の場合があります。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	<事前指導(日本)> ・事前準備：パスポート申請・入国審査等 ・渡航に関する説明 ・現地の子どもの交流準備 ・英会話練習 等		・現地の子どもと関わる際に、日本の遊びを共有できるよう準備を進める。 ・現地で最低限の意思疎通ができるよう自分で英語学習を続ける。	
2	・滞在中は、主に幼稚園での保育に参加する。		・滞在中は毎日の予習・復習が必要。 ・報告書作成のため、その日1日の振り返りと記録をつける。	
3	<事後指導(日本)> 反省会、報告書作成。		・空き時間・放課後・昼休みの時間を利用して事後指導を行う。	
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	総合基礎（教職）A		担当者	佐藤光咲
区分等	1年次・後期〔演習〕1単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	①授業及び授業外の取り組み（70%）、履修カード・授業内のミニ試験（30%）			
課題に対するフィードバック	授業内での講評、履修カードや提出物にコメントをつけて返却する。			
目的	教職全般（栄養教諭）に関心を持ち、栄養教諭として必要な基礎的、実践的な知識や技能を身に付ける。			
到達目標	これまで学修した教職科目などを基に、栄養教諭として必要な基礎的、実践的な知識や技能を身につけ、将来の栄養教諭としての意欲を培う。			
履修上の注意	①栄養教諭に向けての教職科目履修者を対象とする。 ②毎時間の演習課題の予習や準備に取り組む。 ③栄養教諭として採用試験に向かう基礎的、実践的な学力を身に付ける。			
オフィスアワー	授業の前後、及び月～水曜日の12:30～14:00			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	ガイダンス、学ぶ立場と教える立場（栄養教諭として何が必要か）	栄養教諭（教師）になるためには何が必要か、まとめる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
2	栄養教諭の仕事（1）－食育を通して子どもの成長にかかわる～「食育基本法」「学校給食法」	栄養教諭の魅力について考えをまとめる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
3	子ども理解と教師の働きかけ	子ども理解とは何か。なぜそれが必要か考えをまとめる。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
4	困っている子への支援（発達障害その他）	学校生活に困り感をもつ子どもの内面を予想する。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
5	栄養教諭の仕事（2）学校給食管理と健康安全教育	学校給食における安全とは何か、自身の経験から考える。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
6	保護者との付き合い方	保護者とのトラブルの原因等について考えをまとめる。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
7	栄養教諭の仕事（3）食育コーディネーター～管理職や他の教員、家庭や地域との連携	食育コーディネーターとしての栄養教諭の役割とは何か、調べておく。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
8	外国の教育史（1）	世界の教育の歴史や人物について調べておく。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
9	外国の教育史（2）	世界の教育の歴史や人物について調べておく。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
10	日本の教育史（1）	日本の教育の歴史や人物について調べておく。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
11	日本の教育史（2）	世界の教育の歴史や人物について調べておく。（1時間）授業のまとめと確認（1時間）		
12	学習指導方法と理論1（学習理論）	習得した学習理論をまとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
13	学習指導方法と理論2（学習評価と心理学）	学習評価方法について、自身の経験をもとにまとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
14	全国、秋田における栄養教諭の採用と配置	本県教員採用試験についての特色や疑問についてまとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
15	授業のまとめ－採用試験に向けて	これまでの学習内容のまとめと確認。（1時間） 採用試験に向かう準備や心がまえについてまとめる。（1時間）		
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	英語A	担当者	近藤清兄
区分等	1年次・前期 [演習] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。		
目的	漫画 <i>Peanuts</i> を題材にして基礎的な表現や文法を学び、(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力(2)食品・健康・医療の英語を理解するための基礎力の再構築、を目指す。英語圏の文化的背景についても解説します。		
到達目標	常用表現 30、常用語 80 を習得し、実際に運用できるようになる。		
履修上の注意	時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。英和辞書は必ず持参すること。		
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション	(1) [予習] 漫画 3本を読んだ上で VOCABULARY の見当をつけましょう。 (2) [予習] GRAMMAR(文法)をざっと読み、EXERCISE をみておきましょう。 (3) [予習] 余力があれば並べ替え作文をやっておきましょう。 (4) [復習] VOCABULARY は重要なのでよく定着させること。 (5) [復習] 並べ替え作文の構成をよく見直しておくこと。 (6) 学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用してください。	
2	UNIT 1/ 【品詞と句・節】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3	UNIT 2/ 【文と 5 文型】		
4	UNIT 3/ 【自動詞と他動詞】		
5	UNIT 4/ 【句動詞】		
6	UNIT 5/ 【基本時制】		
7	UNIT 6/ 【進行形】		
8	UNIT 7/ 【完了形】		
9	UNIT 8/ 【名詞】		
10	UNIT 9/ 【冠詞】		
11	UNIT 10/ 【代名詞】		
12	応用 (UNIT 1～3 の復習)		
13	応用 (UNIT 4～6 の復習)		
14	応用 (UNIT 7～8 の復習)		
15	応用 (UNIT 9～10 の復習)		
テキスト	Hidehiko Konaka, “ <i>Fun English with Snoopy</i> ” (CENGAGE Learning)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	英語B	担当者	近藤清兄
区分等	1年次・後期 [演習] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。		
目的	(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力。 (2)食品・健康・医療の英語を理解するための基礎力の再構築。		
到達目標	常用表現 30、常用語 80(英語 A からの合計で常用表現 60、常用語 160)を習得し、実際に運用できるようになる。		
履修上の注意	時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。英和辞書は必ず持参すること。		
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	UNIT 11/【助動詞】	(1)[予習]漫画3本を読んだ上で VOCABULARY の見当をつけましょう。 (2)[予習]GRAMMAR(文法)をざっと読み、EXERCISE をみておきましょう。 (3)[予習]余力があれば並べ替え作文をやっておきましょう。 (4)[復習]VOCABULARY は重要なのでよく定着させること。 (5)[復習]並べ替え作文の構成をよく見直しておくこと。 (6)学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用してください。	
2	UNIT 12/【受動態】	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3	UNIT 13/【不定詞】		
4	UNIT 14/【動名詞】		
5	UNIT 15/【分詞】		
6	UNIT 16/【形容詞・副詞】		
7	UNIT 17/【比較】		
8	UNIT 18/【否定】		
9	UNIT 19/【間接疑問・関係詞】		
10	UNIT 20/【接続詞】		
11	復習(Unit 11- Unit 12)		
12	復習(Unit 13- Unit 14)		
13	復習(Unit 15- Unit 16)		
14	復習(Unit 17- Unit 18)		
15	復習(Unit 19- Unit 20)		
テキスト	Hidehiko Konaka, “Fun English with Snoopy” (CENGAGE Learning)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	解剖生理学 I		担当者	齋藤 謙
区分等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	試験 (80%)、授業への取り組み・態度 (20%) により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所 の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の 説明をする。			
目的	生命、健康維持についての理解を深めるために、人体の構造と機能を学ぶ。			
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官を系統的に学習し、それらの働きについても理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時			
授業計画			授業外学習	
1	学習の動機付け (栄養士・管理栄養士の役割) : DVD 「食べて治す」 視聴。	感想文提出 (1 時間)		
2	細胞の構造と機能。	生理 2-3, プリント (リン脂質二重膜構造) (1 時間)		
3	生体の恒常性。体液の区分と組成	生理 5, 156, 12-13 (1 時間)		
4	細胞膜の性質と働き。	プリント (半透膜、浸透圧、能動輸送・受動輸送) (1 時間)。		
5	毛細血管領域での体液の交流 (スターリングの仮説)。血液の成分。	生理 12-3, 病理 59-60, プリント (血圧勾配)。生理 13-4 (1 時間)		
6	血液量、血漿の組成。上皮組織。	生理 14-5, 臨栄 93-4, 解剖 5-7, 病理 16 (1 時間)		
7	中間のまとめ。結合組織、軟骨組織。	解剖 7-10 (1 時間)		
8	骨組織、筋組織。	解剖 28-30, 11-2, 12-14, 生理 191 (1 時間)		
9	神経組織。	解剖 14-17, 253, 272, 260, 生理 204 (1 時間)		
10	神経細胞の静止膜電位と活動電位。	生理 205-8 (1 時間)		
11	神経細胞の興奮の伝導	生理 208-11 (1 時間)		
12	消化器系。消化管の構造。 機械的消化と化学的消化。	解剖 153, 170, 172. 解剖 151-4, 臨栄 15-7 (1 時間)		
13	唾液腺、咽頭、食道、胃。	解剖 162-8, 生理 85 (図 5-6), 170, 174-5 (1 時間)		
14	胃 (続き)、小腸。	解剖 168-77, 生理 80 (下 5 行), 86-7, 臨栄 23-5, 34, 解剖 177-9 (1 時間)		
15	小腸 (続き)、大腸。	解剖 179-85, 生理 81 (図 5-3), 臨栄 33-7 (1 時間)		
テキスト	藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』(南江堂) 高橋 徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	解剖生理学Ⅱ		担当者	齋藤 謙
区分等	1年次・後期〔講義〕2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	定期試験(80%)、授業への取り組み・態度(20%)により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。			
目的	人体の構造と機能を学ぶ。			
到達目標	「解剖生理学Ⅰ」に続き人体の諸器官について学習し、それらの構造と機能を理解する。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13時～14時			
	授業計画		授業外学習	
1	DVD「眠りの科学」視聴。		感想文提出(1時間)	
2	循環(血管)。		解剖 103-107, 119, 121, 生理 40-2, 47(1時間)	
3	循環(心臓)。		解剖 107-19(1時間)	
4	呼吸。		解剖 196-208, 生理 56-65(1時間)	
5	泌尿器系の構成。		解剖 213-20(1時間)	
6	尿の生成。		臨床栄養 147-51, 生理 102-3(1時間)	
7	血漿浄化値、腎臓による体液の調節。		臨栄 150-2, 180-1(1時間)	
8	中間のまとめ。内分泌系(下垂体前葉)。		解剖 241-4(1時間)	
9	内分泌系(下垂体後葉、甲状腺、副甲状腺)。		解剖 245-6, 246-9, プリント(サイロキシンの合成)、生理 166-7, 臨栄 193(1時間)。	
10	内分泌系(副腎皮質・髄質)		解剖 249-51, 生理 163-4(1時間)	
11	内分泌系(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系)。		臨栄 127, 解剖 217, 臨栄 149, 解剖 249-50, 臨栄 181.	
12	内分泌系(松果体、膵島)。		解剖 246, 251-2, 生理 164-6(1時間)	
13	卵巣、卵管、子宮。		解剖 228-33, 生理 173-8(1時間)	
14	神経系の構成、自律神経。		解剖 253-4, 300-305, 生理 224, 227(1時間)	
15	免疫。		解剖 147-9, 臨栄 241-4, プリント(免疫学への招待)(1時間)	
テキスト	藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』(南江堂) 高橋 徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	生化学	担当者	浅野純平
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目的	生体物質の構造とエネルギー代謝、生体の恒常性維持機構を理解させる。		
到達目標	生体を構成する物質、栄養素の代謝を理解できる。		
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 解剖生理学、栄養学、臨床栄養学と共通する内容が多いので、これらと関連付けて学習すること。 3. 栄養学総論で使用した教科書「栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)」を持参すること。 4. 生化学は一朝一夕に理解できるものではない。時間をかけて学習する必要がある。 5. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	序論 (細胞の構造と機能、有機化学の一般原理)	日頃から教科書・配付テキストを読み自学すること(2時間)	
2	糖質 (単糖類、少糖類、多糖類)	〃	
3	脂質 (脂肪酸、単純脂質、複合脂質、複合脂質、誘導脂質)	〃	
4	アミノ酸とタンパク質 (アミノ酸の構造と分類、タンパク質の構造形成) 第1回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
5	第1回小テストの解説 核酸(DNA、RNA、転写、RNA プロセッシング、翻訳)	〃	
6	酵素 (酵素の働きによる分類、酵素の性質、補因子) 第2回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
7	第2回小テストの解説 ビタミンとミネラル (ビタミンの定義と種類、ミネラルの定義と分類)	〃	
8	生体のエネルギー源と代謝 (エネルギーの種類、ATPの役割、電子伝達系)	〃	
9	糖質代謝-(1) (解糖系、クエン酸回路) 第3回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
10	第3回小テストの解説 糖質代謝-(2) (酸化リン酸化、グリコーゲンの分解・合成、糖新生)	〃	
11	糖質代謝-(3) (ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路、血糖値の調整) 第4回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
12	第4回小テストの解説 脂質代謝-(1) (脂肪酸、トリグリセリドの代謝)	〃	
13	脂質代謝-(2) (ケトン体、胆汁酸、コレステロールの代謝) 第5回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
14	第5回小テストの解説 アミノ酸代謝 (アミノ酸のタンパク質の分解、アミノ基転移反応、尿素回路、炭素骨格の代謝、アミノ酸の生合成)	〃	
15	核酸代謝 (プリン及びピリミジンの分解・合成)	〃	
テキスト	健康・栄養科学シリーズ 『生化学』-人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(南江堂)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	食品学総論		担当者	熊谷昌則
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。			
目的	栄養士に求められる業務内容において必要不可欠な、食品についての幅広く、深く、かつ確かな基礎知識を身に付けさせ、食品そのものを理解させることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食品の成分について科学的に理解し、その特徴を正しく説明できる。</li> <li>2. 食品の成分が調理や加工、保存によってどのように変化するか理解し、その特徴を正しく説明できる。</li> <li>3. 食品学の知識を、栄養学などの他の分野の学問とも関連付けて、健康の維持・増進のため役立てることができる。</li> </ol>			
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習と復習をしっかりと行うこと。</li> <li>2. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。</li> <li>3. 食生活論、食品学各論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。</li> </ol>			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 緒論、食品成分表		テキスト 1～ 19 頁の予習（2時間）	
2	食品の一般成分（Ⅰ） 炭水化物		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 20～ 38 頁の予習（2時間）	
3	食品の一般成分（Ⅱ） 脂質		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 38～ 48 頁の予習（2時間）	
4	食品の一般成分（Ⅲ） タンパク質		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 48～ 59 頁の予習（2時間）	
5	食品の一般成分（Ⅳ） ミネラル		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 59～ 64 頁の予習（2時間）	
6	食品の一般成分（Ⅴ） ビタミン、核酸		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 64～ 75 頁の予習（2時間）	
7	食品の一般成分（Ⅵ） 水		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 76～ 78 頁の予習（2時間）	
8	食品の嗜好成分、他（Ⅰ） 色		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 79～ 88 頁の予習（2時間）	
9	食品の嗜好成分、他（Ⅱ） 味		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 88～ 94 頁の予習（2時間）	
10	食品の嗜好成分、他（Ⅲ） 香り、食感		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 94～104 頁の予習（2時間）	
11	食品の嗜好成分、他（Ⅳ） 機能成分		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 104～109 頁の予習（2時間）	
12	食品の嗜好成分、他（Ⅴ） 有害成分		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 109～114 頁の予習（2時間）	
13	食品の加工、調理による変化（Ⅰ） タンパク質、デンプン		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 115～118 頁の予習（2時間）	
14	食品の加工、調理による変化（Ⅱ） 油脂		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 118～120 頁の予習（2時間）	
15	食品の加工、調理による変化（Ⅲ） 褐変、微生物		小テストの振り返り、前週の復習（2時間） テキスト 120～129 頁の予習（2時間）と復習（2時間）	
テキスト	『最新食品学 ー総論・各論ー』（講談社） 『日本食品成分表 2024』（八訂）（医歯薬出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	食品学各論		担当者	熊谷昌則
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。			
目的	栄養士に求められる業務内容において必要不可欠な、食品についての幅広く、深く、かつ確かな基礎知識を身に付けさせ、食品そのものを理解させることを目的とする。			
到達目標	1. 個々の食品そのものを科学的に理解し、その特徴を正しく説明できる。 2. 食品を利用する立場からその食品がもつ性状や機能を把握し、正しく説明できる。 3. 食品学の知識を、栄養学などの他の分野の学問とも関連付けて、健康の維持・増進のため役立てることができる。			
履修上の注意	1. 予習と復習をしっかりと行うこと。 2. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3. 食品学総論、食生活論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション 植物性食品 (I) 穀類		テキスト 130~137 頁の予習 (2 時間)	
2	植物性食品 (II) いも類、豆類、種実類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 138~145 頁の予習 (2 時間)	
3	植物性食品 (III) 野菜類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 145~155 頁の予習 (2 時間)	
4	植物性食品 (IV) 果実類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 155~159 頁の予習 (2 時間)	
5	植物性食品 (V) きのこと類、藻類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 159~166 頁の予習 (2 時間)	
6	動物性食品 (I) 食肉類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 166~174 頁の予習 (2 時間)	
7	動物性食品 (II) 乳および乳製品		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 174~183 頁の予習 (2 時間)	
8	動物性食品 (III) 卵類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 183~188 頁の予習 (2 時間)	
9	植物性食品 (IV) 魚介類		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 188~197 頁の予習 (2 時間)	
10	食用油脂		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 197~201 頁の予習 (2 時間)	
11	冷凍食品、冷蔵食品		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 202~205 頁の予習 (2 時間)	
12	缶詰、瓶詰、レトルトパウチ食品		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 205~207 頁の予習 (2 時間)	
13	調味料、香辛料		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 213~217、222~224 頁の予習 (2 時間)	
14	嗜好飲料		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 224~226 頁の予習 (2 時間)	
15	微生物利用食品、発酵食品		小テストの振り返り、前週の復習 (2 時間) テキスト 217~221、226~229 頁の予習 (2 時間) と復習 (2 時間)	
テキスト	『最新食品学 ―総論・各論―』(講談社) 『日本食品成分表 2024』(八訂)(医歯薬出版)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	食品衛生学		担当者	熊谷昌則
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの結果にコメントをつけて返却する。			
目的	食物中に含まれる生体にとって有害となる様々な微生物、物質について理解し、その危険性を防ぐために個人レベル、社会レベルで行う方法について習得する。			
到達目標	下記の5項目について理解し、その特徴を正しく説明できる。 1. HACCPによる衛生管理 2. 食中毒(自然毒、微生物性、ウイルス性、感染症・寄生虫症など) 3. 環境から食品に取り込まれる可能性のある毒性物質 4. 食品添加物 5. 食品衛生行政と法規			
履修上の注意	1. 予習と復習をしっかりと行うこと。 2. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3. 食生活論、食品学総論、食品学各論などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	食品衛生の概念、食中毒の概念		テキストP.1~5、P.53~62の予習(2時間)	
2	微生物学の基礎		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.35~50の予習(2時間)	
3	細菌性食中毒(Ⅰ) サルモネラ、他		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.63~78の予習(2時間)	
4	細菌性食中毒(Ⅱ) セレウス、他		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.79~88の予習(2時間)	
5	ウイルス性食中毒、動物性自然毒食中毒		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.89~100の予習(2時間)	
6	植物性自然毒食中毒		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.100~109の予習(2時間)	
7	食品による感染症・寄生虫症		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.115~140の予習(2時間)	
8	食品中の有害物質(Ⅰ)		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.145~160の予習(2時間)	
9	食品中の有害物質(Ⅱ)		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.161~176の予習(2時間)	
10	食品の変質と防止(Ⅰ)		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.181~189の予習(2時間)	
11	食品の変質と防止(Ⅱ)		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.195~197の予習(2時間)	
12	食品添加物(Ⅰ)		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.201~214の予習(2時間)	
13	食品添加物(Ⅱ)		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.215~218の予習(2時間)	
14	食品の器具と容器包装		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.225~240の予習(2時間)	
15	食品衛生管理、法規		小テストの振り返り、前週の復習 テキストP.243~266、P.7~31の予習(2時間)	
テキスト	栄養管理と生命科学シリーズ「食品衛生学」第2版(理工図書)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	栄養学総論	担当者	浅野純平
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。		
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。		
目的	栄養学の基本概念を理解させる。		
到達目標	栄養素が体内に吸収されるプロセス、各栄養素が身体に及ぼす影響を理解できる。		
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 解剖生理学、食品学、生化学、臨床栄養学と共通する内容が多いので、これらと関連付けて学習すること。 3. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	栄養の概念、消化・吸収と栄養素の体内動態-(1) (栄養の定義、消化器系の構造と機能、消化過程)	日頃から教科書・配付テキストを読み自学すること(2時間)	
2	消化・吸収と栄養素の体内動態-(2) (管腔内消化の調節、膜消化・吸収)	〃	
3	食物の摂取、栄養と健康・疾患 (摂食量の調節、欠乏症と過剰症、遺伝子多型) 第1回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
4	第1回小テストの解説 炭水化物の栄養-(1) (糖質の分類、血糖とその調節)	〃	
5	炭水化物の栄養-(2) (糖質の体内代謝、食物繊維、生物学的利用度)	〃	
6	脂質の栄養-(1) (脂質の分類、脂質の臓器間輸送、脂質の体内代謝) 第2回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
7	第2回小テストの解説 脂質の栄養-(2) (脂質の体内代謝、脂肪酸由来の生理活性物質)	〃	
8	タンパク質の栄養-(1) (アミノ酸・タンパク質の構造・機能と体内代謝) 第3回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
9	第3回小テストの解説 タンパク質の栄養-(2) (アミノ酸の臓器間輸送と他の栄養素との関係)	〃	
10	ビタミンの栄養-(1) (ビタミンの構造と栄養学的機能)	〃	
11	ビタミンの栄養-(2) (生物学的利用度と他の栄養素との関係) 第4回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
12	第4回小テストの解説 ミネラルの栄養-(1) (ミネラルの構造と栄養学的機能)	〃	
13	水・電解質の栄養学的意義-(1) (生体内の水、水の出納) 第5回小テストの実施(中間まとめ)	〃	
14	第5回小テストの解説 水・電解質の栄養学的意義-(2) (脱水・浮腫、電解質代謝と栄養)	〃	
15	エネルギー代謝 (エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定方法)	〃	
テキスト	栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	ライフステージ栄養学	担当者	高山裕子
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	小試験 (40%)、定期試験 (60%)		
課題に対するフィードバック	授業のリフレクションシート、小試験の結果の解説をする。		
目的	ヒトの各ライフステージの「食」に焦点をあて、健康の保持・増進・疾病予防のための栄養の理論と実践を学ぶ。		
到達目標	ヒトの各ライフステージの特徴を理解でき、健康の保持・増進のためにどのようなことに留意すべきかを習得する。		
履修上の注意	基礎栄養学で学んだ内容を復習しておくこと		
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の 16:20～16:50		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	栄養ケア・マネジメント	テキスト第1章をよく読んでくること (2時間)	
2	発育・発達・加齢と栄養	テキスト第3章をよく読んでくること (2時間)	
3	日本人の食事摂取基準	食事摂取基準を読んでくること (2時間)	
4	妊娠期・授乳期の栄養 小試験①	テキスト第4章をよく読んでくること (2時間)	
5	新生児期・乳児期の栄養	テキスト第5章をよく読んでくること (2時間)	
6	乳児期の栄養	テキスト第5章の幼児期をよく読んでくること (2時間)	
7	幼児期の栄養 小試験②	テキスト第6章の学童期をよく読んでくること (2時間)	
8	学童期・思春期の栄養	テキスト第6章の思春期をよく読んでくること (2時間)	
9	成人期 (生活習慣の変化) の栄養	テキスト第7章をよく読んでくること (2時間)	
10	成人期 (更年期の生理的変化) の栄養	テキスト第7章をよく読んでくること (2時間)	
11	高齢期の (加齢による生理的変化) の栄養	テキスト第8章をよく読んでくること (2時間)	
12	高齢期 (嚥下・咀嚼・消化機能の変化) と栄養 小試験③	テキスト第8章をよく読んでくること (2時間)	
13	運動・スポーツと栄養、休養と栄養	テキスト第9章、10章をよく読んでくること (2時間)	
14	ストレスと栄養、特殊環境と栄養	テキスト第10章をよく読んでくること (2時間)	
15	授業のまとめ・解説 小試験④	これまでの復習をしておくこと (2時間)	
テキスト	栢下淳、上西一弘『応用栄養学 改訂第2版』(羊土社)		
指定図書	なし。		

科目名	給食管理		担当者	伊藤雅子
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	①小テスト(80%)、②課題レポート(20%)、			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	給食管理学は栄養士業務を支える根幹である。その知識、技術を専門的、体系的に学習できる力を養う。			
到達目標	①栄養学、食品学、食品衛生学、調理学を基盤とし、総合的に給食管理が実践できる。 ②大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理を実践する事ができる。 ③施設に合わせた給与栄養目標量の設定方法、アセスメントを知ることができる。 ④リスクマネジメントの重要性を学び、実務に生かすことができる。			
履修上の注意	新聞・テレビ等で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。			
オフィスアワー	月曜日 16時～17時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	給食管理の概念		ノートの整理と確認（2時間）	
2	給食経営のシステム		ノートの整理と確認（2時間）	
3	特定給食施設の種類と関係法規		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
4	給食施設における栄養管理・品質管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
5	メニュー管理 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
6	食材料管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
7	衛生・安全管理		大量調理施設衛生管理マニュアルを事前に読んでおくこと（2時間）	
8	給食の原価管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
9	調理作業管理、給食の食材管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
10	給食の生産管理 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
11	施設・設備管理・安全衛生		大量調理施設衛生管理マニュアルを事前に読んでおくこと（2時間）	
12	給食委託会社の仕事（外部講師）		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
13	給食経営におけるマーケティング		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
14	給食経営の組織管理とマネジメント		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
15	危機管理 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
テキスト	高城孝助編著『実践 給食マネジメント論』（第一出版） 松本伸子監修『調理の基本 まるわかり便利帳』（女子栄養大学出版部）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	調理学	担当者	豊嶋瑠美子
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	定期試験 (40%)、小テスト (30%)、提出物 (20%)、受講態度 (10%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題は適宜返却する。		
目的	栄養士の実践活動に必要な調理理論を習得する。		
到達目標	食品の調理特性、調理操作、調理機器の特徴を総合的に学び、栄養・健康面を考慮した食事設計の基本について理解できる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜日 11:00~12:00		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	調理の概念	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
2	基礎調理操作 (1) 調理と温度 (2) 加熱方式・伝熱・熱媒体 (3) 食品の保存	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
3	基礎調理操作: 加熱調理操作	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
4	基礎調理操作: 非加熱調理操作 小テスト①	小テストに備え、日本食品成分表 手ばかりの目安量を予習する。(2時間)	
5	基礎調理操作: 調味操作、	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
6	調理機器と調理 小テスト②	小テストに備え、日本食品成分表日常食品の目安量を予習する。(2時間)	
7	食品の調理特性と調理 (1) 植物性食品 米・小麦粉・いも類・豆類・種実類、	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
8	食品の調理特性と調理 (2) 植物性食品 野菜類・果実類・きのこ類・藻類 中間まとめ等	中間まとめに備え、復習する (2時間)	
9	食品の調理特性と調理 (1) 動物性食品 食肉類・魚介類、	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
10	食品の調理特性と調理 (2) 動物性食品 卵・牛乳・乳製品 小テスト③	小テストに備え、日本食品成分表日常食品の目安量を予習する。(2時間)	
11	食品の調理特性と調理: 成分抽出素材	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
12	郷土料理	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
13	郷土料理発表	他者の発表内容と自己の発表を振り返る (1時間)	
14	調理と嗜好性・おいしさの評価法食事設計 小テスト④	小テストに備え、日本食品成分表日常食品の目安量を予習する。(2時間)	
15	献立作成条件と手順	内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
テキスト	金谷昭子編著『食べ物と健康 調理学』(医歯薬出版)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	食品学実験		担当者	塚本研一
区分等	1年次・前期 [実験] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	実験技法・操作の習熟度 (10%)、食品学基礎知識の習熟度 (授業内小テスト) (10%) およびレポート (80%) 評価。			
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。			
目的	食品学総論で学んだ食品成分の性質を、実験を通して理解する力を養う。 実験器具や装置の名称と取り扱い方法、食品試作・分析実験の基礎技術を学ばせる。			
到達目標	健康栄養専攻の学習成果の一番目に記載されている「栄養士としての基本的知識を身につける」ために、実験を通して、下記能力の獲得を目指す。 ・実験器具・装置の名称を覚え、実験の基本操作が正しくできる。 ・食品学と食品分析の理論を理解し、基礎技術が身につく。 ・実験結果を正しくレポートに纏めることができる。			
履修上の注意	実験専用の白衣と防護メガネを必ず着用すること。科目の性格上、出席日数と実験操作の体得が重視される。			
オフィスアワー	講義終了後			
	授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	実験に関する諸注意、実験の基本操作 (I)		実験器具の名称と基本操作を復習する (0.75 時間)	
2	実験の基本操作 II (試薬取扱いと試験溶液の調製法) & 試作実験の基本操作		基本操作と試薬の特徴を復習する (0.75 時間)	
3	炭水化物の定性実験 (呈色反応・還元反応)		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
4	たんぱく質の定性実験		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
5	油脂の定性実験		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
6	分析用食品試料の試作 I		実験結果を簡易レポートに纏める (0.75 時間)	
7	分析用食品試料の試作 II		実験結果を簡易レポートに纏める (0.75 時間)	
8	分析用食品試料の試作 III		実験結果を簡易レポートに纏める (0.75 時間)	
9	水分と灰分の定量 I & 塩分測定 (簡易)		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
10	水分と灰分の定量 II & 塩分測定 (沈殿滴定)		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
11	pH の測定と中和滴定		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
12	水分活性と Bx (糖度) の測定		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
13	酵素的・非酵素的褐変反応		実験結果をレポートに纏める (0.75 時間)	
14	食品試作・分析実験の基礎技術のまとめ		実験全体を復習し、記録整理する (0.75 時間)	
15	食品学実験総論解説まとめ		実験全体を復習し、記録整理する (0.75 時間)	
テキスト	なし (逐次配付するプリントを使用)。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	食品加工衛生学実験		担当者	熊谷昌則
区分等	1 年次・後期 [実験] 1 単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①レポート(90%) ②実験態度(10%)			
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。			
目的	食品中などに含まれる細菌やカビ、化学物質による危険性を認識するため、実際に実験によってこれらを検出、定量し、防御のための方法を学ぶ。 身の周りの加工食品を取り上げ、実際に製造する過程で、原料の特性や製造方法を学ばせるとともに加工食品の栄養価、必要性、食文化としての側面にも目を向ける力を養う。			
到達目標	1. 食品、飲料水、調理器具中の細菌検出試験法について理解する。 2. 水質検査法と飲料水の規格基準について理解する。 3. 実習内容をレポートにきちんと纏めることができる。 4. 加工食品の製造方法と原料の特性に関する知識が身につく。 5. 加工食品を正しい手順で効率よく製造し、製品を完成できる。 6. 実習内容をレポートにきちんと纏めることができる。			
履修上の注意	材料費を徴収する。事前に加工食品について自学していると理解が深まる。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	細菌学実験を始めるにあたっての注意 滅菌法、消毒法 実験器具の取り扱い 培地の調製法 培地調製		テキストの予習(1時間)。	
2	顕微鏡の取り扱い 一般細菌試験 (1) 空中落下細菌の計測		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
3	一般細菌試験 (2) 手指洗浄の効果、グラム染色法		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
4	一般細菌試験 (3) 市販食品の一般生菌数の計測		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
5	一般細菌試験 (4) 紫外線による殺菌効果の観察		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
6	飲料水の水質検査 (1) 外観検査・微生物試験		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
7	飲料水の水質検査 (2) 化学成分の検出		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
8	第6回、7回の実験のまとめと発表		実験ノートの整理とレポート作成(2時間)	
9	講義(豆腐、あさづけ・こざき練り、うどん・中華めん、チーズ・バター、ところてん・コンニャク、バター餅)		講義内容を復習する(0.75時間)	
11	実習(あさづけ・こざき練り)		実習手順の事前確認と実習後の記録整理(0.75時間)	
10	実習(豆腐)		実習手順の事前確認と実習後の記録整理(0.75時間)	
11	実習(あさづけ・こざき練り)		実習手順の事前確認と実習後の記録整理(0.75時間)	
12	実習(うどん・中華めん)		実習手順の事前確認と実習後の記録整理(0.75時間)	
13	実習(チーズ・バター)		実習手順の事前確認と実習後の記録整理(0.75時間)	
14	実習(ところてん・コンニャク)		実習手順の事前確認と実習後の記録整理(0.75時間)	
15	実習(バター餅)		実習全体を復習し、記録整理する(0.75時間)	
テキスト	なし(逐次配付するプリントを使用)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	基礎調理実習		担当者	豊嶋瑠美子
区分等	1年次・前期 [実習] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	実習記録(50%)、調理技術(30%)、実習に取り組む姿勢(20%)			
課題に対するフィードバック	実習記録は適宜確認し、返却する。			
目的	調理の基本となる理論に基づいて、その要点を会得し、より能率的、且つ的確に調理技術を身につけることを目的とする。			
到達目標	1. 炊飯、出汁の引き方、様々な野菜の切り方ができるようになる。 2. 煮る、焼く、蒸す、炒める、揚げるなどの基本的な調理ができるようになる。 3. 栄養計算の方法がわかるようになる。			
履修上の注意	材料費を徴収する。指定の調理着、帽子、コックシューズ、ハンドタオル、電卓を準備すること。			
オフィスアワー	月曜日 11:00~12:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	調理実習の目的と諸注意・衛生管理について		実技試験のために各自練習する(1時間)	
2	実技試験(きゅうりの輪切り・りんごの皮むき)		実技試験のために各自練習する(1時間)	
3	炊飯、出汁の引き方、野菜の切り方指導		野菜の切り方について各自練習する。(1時間)	
4	日本料理(三色丼、みそ汁、千草あえ)		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
5	日本料理(椿寿司、筑前煮、若竹汁、みかん羹)		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
6	お菓子		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
7	西洋料理(ドライカレー、オニオンスープ、コールスローサラダ)		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
8	西洋料理(スパゲッティミートソース、ベジタブルスープ、キャロットケーキ)		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
9	栄養計算		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
10	中国料理(涼拌三絲、芙蓉蟹、麻婆豆腐、馬拉糕)		配付資料を読み、当日は食品成分表と電卓を持参する。栄養計算を復習する(1時間)	
11	中国料理(炒飯、鶏茸粟米、涼拌粉絲黃瓜、豆沙麻球)		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間)	
12	中国料理(冷拌麵、加爾比豆腐)		レシピを事前に読み、実習後は記録を作成する。(1時間) 1~12回分の記録をまとめてグーグルクラスに提出する。(2時間)	
13	グループごとに自由献立立案(ワンプレートランチ)		各自レシピを探して献立立案の際に持ってくる。(1時間)	
14	実技試験(きゅうりの輪切り・りんごの皮むき)衛生管理		実技試験に向けて各自練習する。(2時間)	
15	自由献立の実習		実習後は記録を作成し、栄養計算をする。(2時間)	
テキスト	松本仲子監修 『調理の基本 まるわかり便利帳』(女子栄養大学出版部)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	応用調理実習		担当者	豊嶋瑠美子
区分等	1年次・後期 [実習] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	実習記録・提出物(50%)、調理技術(30%)、実習に取り組む姿勢(20%)			
課題に対するフィードバック	実習記録は適宜確認し、返却する。			
目的	調理の基本となる理論に基づいて、その要点を会得し、効率的且つ的確に調理できるようになることを目的とする。			
到達目標	1. 日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を理解し、献立立案及び実習ができるようになる。 2. 調理内容を多く取り入れ、更に実技テストを行うことによって調理技術が向上する。 3. 栄養計算ができるようになる。			
履修上の注意	材料費を徴収する。調理着、帽子、コックシューズ、ハンドタオル、電卓を準備すること。			
オフィスアワー	火曜日 15:00~16:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	栄養計算について		栄養計算をする。(2時間)	
2	日本料理(鮭の香り漬け、みそ汁、キャベツとささみの和え物、みつ白玉)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
3	日本料理(かやくごはん、土瓶蒸し、春菊と菊の和え物、おしるこ)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
4	西洋料理(マカロニグラタン、アボカドサラダ、ババロア)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
5	郷土料理(きりたんぼ、とんぶりの月見、さつまいもの花かご)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力して、1~4までを 구글클래스 に提出する。(1時間)	
6	日本料理(さんまの蒲焼丼、みそ汁、深山和え、くるみまんじゅう)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
7	西洋料理(かぼちゃのポタージュ、ポークソテー、オレンジサラダ)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
8	西洋料理(煮込みハンバーグ、コーンスープ、ジャーマンキャベツ、カスタードプディング)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
9	クリスマス料理(アクアパッツァ、コーンチャウダー、ツナブレッドカップ、パンチ、パウンドケーキ)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
10	お正月料理(えびの甘煮、鶏もも肉のチャーシュー焼、岩石卵、たたきごぼう、祝かまぼこ、紅白寒天)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力して5~10回目をまとめて 구글클래스 に提出する。	
11	中国料理(八宝菜、黄花湯、炸八塊、彩色杏仁豆腐)		レシピを事前に読み、実習後は記録を入力する。(1時間)	
12	自由献立立案(日本料理・中国料理・西洋料理)		各自作りたいレシピを探して献立立案の際に持ってくる。(1時間)	
13	実技試験(きゅうりの輪切り・りんごの皮むき)		実技試験のために各自練習する。(1時間)	
14	自由献立の実習		記録を入力し、栄養計算をする。(2時間)	
15	テーブルマナー		食に対する興味を持ち、家庭でマナーを実践する。(1時間)	
テキスト	松本伸子監修 『調理の基本 まるわかり便利帳』(女子栄養大学出版社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	学校栄養教育論	担当者	高山裕子
区分等	1年次・後期 [講義] 2単位 選択/健康栄養専攻		
評価基準	定期試験 (70%)、課題 (30%)		
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説、試験結果の返却と解説をする。		
目的	栄養教諭の役割と職務内容、学校で食育をすすめるための、子どもたちの食生活や食環境について学ぶ。また、食に関する全体計画の作成や展開方法、学校給食を活用した食に関する指導の実践法を学ぶ。		
到達目標	① 栄養教諭の意義、学校における役割や職務内容を説明できる。 ② 現代の幼児・児童・生徒の栄養に係わる諸問題を理解し、食文化を含む現代の食に関する課題をふまえた、給食管理と食に関する指導の方法が理解できる。 ③ 栄養教諭としての基本的な知識を身に付け・食に関する指導を実践できる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	栄養教諭の役割と職務内容	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
2	学校給食の教育的意義と役割	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
3	子どもたちの健康と栄養に関する課題	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
4	学校給食の歴史と食文化の変遷	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
5	子どもたちの発育発達と食生活	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
6	食に関する指導の全体計画と展開法	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
7	給食の時間における食に関する指導	指導内容を検討しておくこと (2時間)	
8	個別栄養相談指導のあり方	指導内容を検討しておくこと (2時間)	
9	学習指導要領の理解と指導案作成	指導案の検討・教材研究をしておくこと (2時間)	
10	給食の時間における食に関する指導	指導案の検討・教材研究をしておくこと (2時間)	
11	教科などにおける食に関する指導	指導案の検討・教材研究をしておくこと (2時間)	
12	教科などにおける食に関する指導	指導案の検討・教材研究をしておくこと (2時間)	
13	指導案の作成と実践演習	これまでの授業内容を復習すること (2時間)	
14	指導案の作成と実践演習	テキストを読んで予習しておくこと (2時間)	
15	まとめ	これまでの授業内容を復習すること (2時間)	
テキスト	芦川修武『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』(学建書院) 文部科学省『食に関する指導の手引』(第二次改定版)(建学社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	体験学習Ⅱ		担当者	高山裕子
区分等	2年次・通年〔演習〕1単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	活動報告、感想レポート、参加態度により評価する。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	各専門分野の講師からの講義、見学、活動を通して、多角的視野を養う。			
到達目標	自主的、積極的な行動の効果を知り、客観的視野を広げることができる。			
履修上の注意	木曜午後に授業および活動を14回実施。 それに加え12月「クリスマスの日」に地域貢献活動を行う。			
オフィスアワー	月曜日 16時～17時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・体験学習の意義		事前に配布する資料を読んでおく。	
2	学外活動：業務製品会社（サトー商会）見学		事前に配布する資料を読んでおく。	
3	学外活動：業務製品会社（サトー商会）見学		事前に配布する資料を読んでおく。	
4	摂食嚥下について学会分類 2021		事前に配布する資料を読んでおく。	
5	ソフト食について		事前に配布する資料を読んでおく。	
6	社会保障と年金		事前に配布する資料を読んでおく。	
7	商品開発の基礎		事前に配布する資料を読んでおく。	
8	最新式厨房機器について		事前に配布する資料を読んでおく。	
7	商品開発について 減塩の工夫		事前に配布する資料を読んでおく。	
8	調味料の歴史について		事前に配布する資料を読んでおく。	
9	講演「超高齢社会を支える食と栄養」		事前に配布する資料を読んでおく。	
10	講演「超高齢社会を支える食と栄養」		事前に配布する資料を読んでおく。	
11	学内活動：栄養科学分野		事前に配布する資料を読んでおく。	
12	学内活動：食・健康ビジネス分野		事前に配布する資料を読んでおく。	
13	学内活動：栄養サポート分野		事前に配布する資料を読んでおく。	
14	活動のまとめ		事前に配布する資料を読んでおく。	
15	地域貢献活動		事前に配布する資料を読んでおく。	
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	総合基礎（教職）B		担当者	佐藤光咲
区分等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	①演習における授業内、及び授業外の取り組み（60%）、②履修カード（10%）、③レポート（30%）			
課題に対するフィードバック	授業内での講評、履修カードや提出物にコメントをつけて返却する。			
目的	教職全般に関心をもち、1年次の「教職総合基礎A」で培った学習の上に、栄養教諭として必要な総合的発展的な知識や技能を身に付ける。			
到達目標	1年次で学修した教職科目や「教職総合基礎A」で培った栄養教諭として必要な実践的知識や技能及び教職科目の学修内容を、より総合的発展的に高め、採用試験に取り組む。			
履修上の注意	①1年次の教職科目や「教職総合基礎A」の学修を基に、より総合的発展的な演習を行う。 ②演習課題の予習や準備を行う。 ③栄養教諭として採用選抜試験に向かう総合的発展的な学力を身に付ける。			
オフィスアワー	授業の前後、及び月～水曜日の12:30～14:00			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	全国及び秋田県における教員採用の動向 （秋田県の栄養教諭の採用試験と特色）	わが国における教員（栄養教諭）の養成や採用はどのように行われているのだろうか、予想したり、調べてみたりする。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
2	国の教育施策の具体とその特色1 （憲法と教育施策）	わが国の教育政策にはどんなものがあるか、これまでの学修事項等からまとめる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
3	国の教育施策の具体とその特色2 （学習指導要領の特色と教育施策）	学習指導要領は何のために作られているか。現行の学習指導要領の特色を調べてみる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
4	教育の今日的課題と教育施策	わが国の今日的教育課題について調べておく。 （1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
5	国の施策と地方教育行政	の施策は地方行政にどのように反映されているのだろうか、予想し、調べてみる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
6	秋田県の施策（県の施策と教育振興計画）	県の施策と教育振興計画の特色を調べておく。 （1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
7	秋田県学校教育の指針1 （本県学校教育の目指すもの）	秋田県の学校教育の目標や何か。また、大事にしているものは何かを調べてみる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
8	秋田県学校教育の指針2 （学校教育共通実践課題～ふるさと教育、キャリア教育その他）	ふるさと教育やキャリア教育を大事にしているのはなぜだろうか。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
9	秋田県学校教育の指針3 （全教育活動と課題～生徒指導など）	秋田県の学校教育において、生徒指導、道徳教育、人権教育、情報教育の重点は何か。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
10	秋田県学校教育の指針4 （全教育活動を通して取り組む教育課題）	秋田県におけるコミュニティスクールや働き方改革の特色や動向について調べる。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
11	食育基本法・学校給食法と栄養教諭	栄養教諭の職務と法律についてまとめてみる。 （1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
12	食に関する指導（学習指導）1	より実践的な指導案作りをしよう。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
13	食に関する指導（学習指導）2	模擬授業をしよう。（1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
14	採用試験に必要な資質能力1	採用試験要項の確認と志願理由をまとめてみる。 （1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
15	採用試験に必要な資質能力2	過去問や面接等へ対応についてと準備しよう。 （1時間） 授業のまとめと確認（1時間）		
テキスト	学習資料配付（毎時間）。			
指定図書	なし。			

科目名	社会福祉概論		担当者	伊藤雅子
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	①小テスト(80%)、②課題レポート(20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	健康で文化的な生活の方向性を社会的サービスと社会制度の体系の中から学ぶ。			
到達目標	公共の福祉と地域福祉、国民の社会保障制度を理解することができる。 少子・高齢化社会、家庭機能の変化、障害者の自立と社会参加の時代を迎え、栄養士の視点から社会福祉を理解することができる。			
履修上の注意	社会福祉制度とその仕組みが日常どのように動いているかを毎日の報道でチェックする。 (新聞・テレビ・ネットニュース等)			
オフィスアワー	月曜日 16時～17時			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	生活を支える「食」と「社会福祉」		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
2	社会福祉の意味と対象		ノートの整理と確認 (2時間)	
3	公的扶助		ノートの整理と確認 (2時間)	
4	母子保健		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
5	高齢者の福祉		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
6	児童家庭福祉 小テストと解説		参考文献・指定図書を読んでおくこと (2時間)	
7	障害者の福祉		参考文献・指定図書を読んでおくこと (2時間)	
8	地域福祉		参考文献・指定図書を読んでおくこと (2時間)	
9	介護保険について		事前に配布する資料を読んでおくこと (2時間)	
10	社会福祉における援助の方法 小テストと解説		事前に配布する資料を読んでおくこと (2時間)	
11	社会福祉実践の場		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
12	雇用保険について 外部講師		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
13	ACP, ナラティブブックについて		事前に配布する資料を読んでおくこと (2時間)	
14	社会福祉の専門職		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
15	社会福祉の分野で働く栄養士 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
テキスト	岩松 珠美・三谷 嘉明 編 六訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉 (株式会社みらい)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	公衆衛生学		担当者	高山裕子 岩澤敦史
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	課題レポート(40%) 定期試験(60%)			
課題に対するフィードバック	課題レポートは講評し、授業内で返却する。試験は解答を配付する。			
目的	集団とし健康を守るために行われてきた公衆衛生対策の歴史と方法、また現在の公衆衛生活動の現状を学び、身近な衛生問題と保健活動について理解する。			
到達目標	1. 衛生行政の目的、内容、法令について説明できる。 2. 衛生統計の用語に慣れ、各種統計値の意味を理解できる。 3. 保健活動の内容を学び、地域、国内、世界における具体的活動を挙げるができる。			
履修上の注意	公衆衛生学で衛生学の用語に慣れることによって、新聞のほとんどが理解できるようになる。公衆衛生学に興味を持ち、時間を見つけて、新聞を読むことを薦める。			
オフィスアワー	高山：月曜、木曜、金曜日の16:20～16:50 岩澤：授業終了後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	公衆衛生の課題（高山）		教科書第1章、20章を読む（予習60分）	
2	出生・死亡統計（高山）		教科書第2章を読む（予習60分）	
3	疫学的方法による健康の理解（岩澤）		教科書第3章を読む（予習60分）	
4	日常生活環境と健康（高山）		教科書第4章を読む（予習60分）	
5	環境汚染と公害・食の安全（高山）		教科書第5章、6章を読む（予習60分）	
6	感染症とその予防（高山）		教科書第7章を読む（予習60分）	
7	母子保健（高山）		教科書第10章を読む（予習60分）	
8	学校保健（高山）		教科書第11章を読む（予習60分）	
9	健康教育と行動変容（岩澤）		教科書第9章を読む（予習60分）	
10	精神保健福祉（岩澤）		教科書第13章を読む（予習60分）	
11	労働と健康・メンタルヘルス（岩澤）		教科書第12・13章を読む（予習60分）	
12	成人保健（高山）		教科書第14章を読む（予習60分）	
13	地域保健行政（高山）		教科書第17章を読む（予習60分）	
14	高齢者保健（岩澤）		教科書第15章を読む（予習60分）	
15	医療制度と医療政策・授業のまとめ		教科書19章を読む（予習60分）（予習60分）	
テキスト	『コンパクト公衆衛生学（第6版）』			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	運動生理学		担当者	齋藤 謙
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	試験 (80%)、授業への取り組み・態度 (20%) により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。			
目的	健康と運動について学習し、栄養士としての指導能力を高める。			
到達目標	運動の仕組み、エネルギー代謝、トレーニングについて理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13時～14時			
授業計画			授業外学習	
1	健康増進とは。現代人の生活状況の問題点。肥満。	運動生理 1-5(1時間)		
2	肥満度の判定、加齢、精神的ストレス。運動の意義と栄養士の役割	運動生理 4-10, 12-15(1時間)		
3	骨格筋の構造と筋収縮のしくみ。収縮の様式。	運動生理 17-22(1時間)		
4	骨格筋収縮の神経系による調節。速筋と遅筋。	運動生理 22-5. 運動生理 25-8(1時間)		
5	骨格筋収縮時のエネルギー供給。	運動生理 28-32(1時間)		
6	身体運動と呼吸器系の働き。	運動生理 32-38(1時間)		
7	身体運動と循環器系の働き 1: 心臓。	運動生理 38-41(1時間)		
8	中間のまとめ。身体運動と循環器系の働き 2: 血管。	運動生理 42-6(1時間)		
9	食物のエネルギー、エネルギー代謝率の測定、呼吸比、非蛋白呼吸比。	運動生理 49-54(1時間)		
10	基礎代謝率、食事誘発性熱産生、運動時のエネルギー代謝率、メッツ、身体活動レベル、推定エネルギー必要量。	運動生理 54-61(1時間)		
11	最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値。	運動生理 61-67(1時間)		
12	トレーニング運動の種類と方法。	運動生理 69-73(1時間)		
13	トレーニングの原則。	運動生理 73-77(1時間)		
14	トレーニングの効果。	運動生理 77-82(1時間)		
15	肥満の解消。骨粗鬆症を予防するトレーニング。トレーニング時の栄養・水分・電解質補給。	運動生理 83-4. 運動生理 102-5(1時間)		
テキスト	杉 晴夫著『やさしい運動生理学』(南江堂) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』(南江堂) 高橋 徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	臨床栄養学Ⅰ		担当者	須磨亜沙子
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	中間まとめ (50%)、定期試験 (50%)			
課題に対するフィードバック	1. 中間まとめについては、解説しながら返却する。 2. 授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目的	傷病者の病態や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を身に付ける。			
到達目標	1. 臨床栄養管理の意義と目的を理解できる。 2. 各疾患及び病態時の栄養管理の必要性を説明できる。 3. 各疾患別の身体状況や栄養状態を理解し、それに応じた栄養管理の基本を述べることができる。 4. 各疾患に応じた適切な栄養素・エネルギーなどを提案できる。			
履修上の注意	1. 解剖学、生理学、生化学の知識を身につけておくこと。(人はなぜ病気になるのか、どのように治療するのかを理解するためには、先に人体の構造、各器官、栄養素の代謝のしくみを学ぶことが大切である。) 2. 授業で学んだ知識を定着させるためには、復習が必須である。			
オフィスアワー	木曜日 16時以降			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	臨床栄養学の意義と目的		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
2	糖尿病の栄養管理(1) 病態理解		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
3	糖尿病の栄養管理(2) 栄養ケア		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
4	肥満症・脂質異常症の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
5	炎症性腸疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
6	肝疾患の栄養管理(1) 病態理解		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
7	肝疾患の栄養管理(2) 栄養ケア		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
8	膵臓・胆嚢疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
9	高血圧・心疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
10	呼吸器疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
11	腎疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
12	経口摂取法		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
13	経腸栄養法		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
14	静脈栄養法		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
15	総合学習		予習：該当する教科書のページを読む(2時間) 復習：ノートの整理と確認(2時間)	
テキスト	友竹浩之、他編『栄養科学シリーズNEXT 臨床栄養学概論』(講談社) 本田佳子編『新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント』(医歯薬出版)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	臨床栄養学Ⅱ		担当者	齋藤 謙
区分等	2年次・前期 [講義] 1単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	試験 (80%)、授業への取り組み・態度 (20%) により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。			
目的	食物と人体のかかわりについて学ぶ。幾つかの重要な疾患を解説し、疾患と食物・栄養の関係について学ぶ。			
到達目標	主要疾患の食事療法を理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13時～14時			
	授業計画		授業外学習	
1	アレルギーの定義と分類。		臨栄 241-5 (30分)	
2	食物アレルギー。		臨栄 245-7, 250-2 (1時間)	
3	ヘマトクリット。赤血球。貧血。		臨栄 219-3, 229-37 (1時間)	
4	血液凝固と線溶系。血栓症。		臨栄 226-8, 生理 22(表 2-5), 病理 49-54 (1時間)	
5	糖尿病。		臨栄 67-76. 病理 244-7 (1時間)	
6	中間のまとめ。脂質代謝。		臨栄 78-86 (1時間)	
7	脂質異常症。動脈硬化症。		臨栄 86-91. 病理 135-8 (1時間)	
8	蛋白質代謝とその異常		臨栄 92-5 (1時間)	
テキスト	後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂) 高橋 徹著『よくわかる病理学』(金原出版) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』(南江堂)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	スポーツ栄養学		担当者	浅野純平
区分等	2年次・前期 [講義] 1単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	中間まとめの試験、定期試験で評価する(中間まとめの試験 50%、定期試験 50%)。			
課題に対するフィードバック	授業の中で中間まとめの試験に関する解説を行う。			
目的	競技スポーツにおける栄養サポートの理論と実践力を身に付けさせる。また、身体活動による生活習慣病、運動器症候群の予防法を学ばせる。			
到達目標	ヒトの栄養素代謝、運動によって変化する生理機能・身体組成を学び、競技者に対する栄養指導方法を理解できる。			
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 解剖生理学、基礎栄養学、運動生理学の知識が必要不可欠なので、これらの科目を復習しておくこと。 3. 栄養学総論で使用した教科書「栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)」を持参すること。 4. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補習を実施する。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	運動の効用: 身体活動、運動(疾病との関わり、健康づくりの運動)		日頃から教科書・配付テキストを読み自学すること(2時間)	
2	運動によって変化する生理機能、身体組成(骨・骨格筋、循環器、呼吸器、内分泌への影響)		〃	
3	身体を作る栄養素、身体の機能調節をする栄養素(タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)		〃	
4	スポーツ・運動のエネルギー供給系、運動と糖質の栄養・代謝(身体活動のためのエネルギー、糖質と運動パフォーマンス) 第1回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
5	第1回小テストの解説 運動と脂質およびタンパク質の栄養・代謝(持久トレーニングと脂質代謝、筋タンパク質の合成・分解機構)		〃	
6	運動とビタミン、試合前後の食事内容(身体づくりとビタミン、食事によるコンディション調整方法)		〃	
7	運動と水分、運動時の体温と循環調節(体内の水分分布と体液量調節、脱水症、暑熱順化、熱中症のメカニズム) 第2回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
8	第2回小テストの解説 運動と食事(競技種目別エネルギー摂取量、献立の工夫、ウエイトコントロール)		〃	
テキスト	栄養・健康科学シリーズ『スポーツ栄養学』(化学同人)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	公衆栄養学	担当者	高山裕子
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	授業内の複数回試験(40%)、定期試験(60%)		
課題に対するフィードバック	試験結果の返却と解説		
目的	個人、地域社会や集団を対象とした、食と生活環境要因と関連づけた公衆栄養の展開を学ぶ。		
到達目標	① 少子高齢化の進展と要介護の増大や生活習慣病の増加など、問題が生じている中、健康寿命を延伸させるまでのプロセスを理解できる。 ②2020年度版、食事摂取基準の基礎理論を理解し活用できるようになる。 ② わが国の栄養・食料政策についてその現状を理解できる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	公衆栄養学の概念	テキスト chapter1 をよく読み予習をしてくること (90分)	
2	高齢社会の健康問題	テキスト chapter1 をよく読み予習をしてくること (90分)	
3	わが国の健康・栄養問題の現状と課題	テキスト chapter2 と国民健康栄養調査結果を読んてくること (90分)	
4	わが国の健康・栄養問題の現状と課題	テキスト chapter2 をよく読み予習をしてくること (90分)	
5	公衆栄養マネジメント	テキスト chapter3 をよく読み予習をしてくること (90分)	
6	公衆栄養プログラムの展開	テキスト chapter3 をよく読み予習をしてくること (90分)	
7	栄養疫学	テキスト chapter4 をよく読み予習をしてくること (90分)	
8	食事調査の方法と活用	テキスト chapter4 をよく読み予習をしてくること (90分)	
9	日本人の食事摂取基準 (2020年版)	テキスト chapter7 と食事摂取基準をよく読み予習をしてくること (90分)	
10	活用の基礎理論の考え方	テキスト chapter7 をよく読み予習をしてくること (90分)	
11	わが国の健康・栄養政策	テキスト chapter5 をよく読み予習をしてくること (90分)	
12	諸外国の健康・栄養政策	テキスト chapter6 をよく読み予習をしてくること (90分)	
13	公衆栄養関連法規	テキストの関連法規抜粋を読み予習してくること (90分)	
14	公衆栄養活動と行政栄養士の業務	地域の栄養活動を調べてくること (90分)	
15	行政栄養士の業務・これまでのまとめ	テキスト、プリントを復習すること (60分)	
テキスト	芦川修貳監修『エスカパーシク公衆栄養学概論』(同文書院)		
指定図書	なし。		

科目名	栄養指導論	担当者	伊藤雅子
区分等	2年次・前期 [講義] 2単位 必修/健康栄養専攻		
評価基準	①小テスト(60%)、②グループ発表(30%)、③課題レポート(10%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	健康教育の専門家として適切な指導能力を身につける。		
到達目標	栄養指導の意義、歴史、制度、関係法令を学びながら、必要な栄養知識を学び、栄養指導カウンセリングの技術その専門能力を身につけ実践できる。		
履修上の注意	新聞・テレビ等で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。		
オフィスアワー	月曜日 16時～17時		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	栄養教育・指導の概念 栄養指導とは、目標、目的	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
2	栄養指導の役割、歴史	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
3	栄養指導に関連する法令(1) 健康増進法、食育基本法、地域保健法	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
4	栄養指導に関連する法令(2) 高齢者医療、母子保健法等	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
5	栄養指導に関する指標 小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
6	各法令についてグループワーク	自分の担当の法令についてまとめる(2時間)	
7	各法令についてグループワーク	自分の担当の法令についてまとめる(2時間)	
8	各法令についてグループワーク・発表(1)	自分の担当の法令について発表を充実させる工夫を考え、実践してみる(2時間)	
9	各法令についてグループワーク・発表(2)	自分の担当の法令について発表を充実させる工夫を考え、実践してみる(2時間)	
10	日本人の食事摂取基準 2020年版について(1)	日本人の食事摂取基準 2020年版を事前に読んでおくこと(2時間)	
11	日本人の食事摂取基準 2020年版について(2) 小テストと解説	日本人の食事摂取基準 2020年版を事前に読んでおくこと(2時間)	
12	栄養指導に必要な基礎知識 栄養指導の教材・媒体の特徴	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
13	栄養指導とカウンセリング(1) カウンセリングの基本と理解	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
14	栄養指導とカウンセリング(2) カウンセリングの基本と理解	指定した教科書を事前に読んでおくこと (2時間)	
15	効果的な栄養指導について 小テストと解説	これまでの復習(2時間)	
テキスト	芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』(学建書院) 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	ライフステージ栄養指導論		担当者	須磨亜沙子
区分等	2年次・後期〔講義〕2単位 必修/健康栄養専攻			
評価基準	1. 受講態度（質問及び回数、ノート記入等）（40%） 2. 定期試験（60%）			
課題に対するフィードバック	授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目的	各ライフステージにおける生理的特徴を理解し、起こりうる栄養代謝の異常・栄養状態に応じた栄養管理・栄養指導法を身に付ける。			
到達目標	1. ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養、食生活の諸問題、課題を説明することができるようになる。 2. ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と栄養教育カリキュラムのポイントを理解できる。 3. ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について効果的な方法を説明することができるようになる。 4. ヘルスプロモーションの考え方をふまえ、食環境づくりの関係及びその必要性を説明することができるようになる。 5. 栄養指導を行う代表的疾患の特徴とその指導方法について理解できる。			
履修上の注意	なし。			
オフィスアワー	月曜日 9～10時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ライフステージ別栄養指導の意義と目的		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
2	妊娠期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
3	妊娠期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
4	授乳期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
5	授乳期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
6	幼児期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
7	幼児期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
8	思春期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
9	思春期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
10	青年期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
11	青年期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
12	老年期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
13	老年期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
14	老年期の栄養管理・栄養指導③		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
15	総合学習		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
テキスト	友竹浩之、他編『栄養科学シリーズNEXT 臨床栄養学概論』（講談社） 本田佳子編『新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント』（医歯薬出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

目 名	解剖生理学実験		担当者	齋藤 謙
区 分 等	2年次・前期 [実験] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評 価 基 準	レポート提出 (80%) と実験態度 (20%) により評価。			
課題に対するフィードバック	毎回、実習中に巡回して質問に答え、必要に応じて補足の説明を行う。			
目 的	解剖生理学 I, II の講義で理解したことを、実際の観察によってより確かなものとする。			
到 達 目 標	人体の構造および生理現象の実験を通して、各臓器・組織の構造と働きを理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13時～14時			
授業計画			授業外学習	
1	顕微鏡の観察法、組織標本の染色法、 組織実習：大腸(消化管壁の5層構造)	プリント、臨床栄養 36-7, 解剖 151, 183-5(1時間)		
2	組織実習：大腸(粘膜下の小動静脈、筋層の 平滑筋細胞、粘膜下・筋間神経叢)	解剖 151, 185, 生理 42, 47, 229-30, プリント(写真) (1時間)		
3	NHKDVD「人体I-3(胃)」視聴 組織実習：胃(胃体部)	解剖 168-77, 生理 3(図1-1), 臨床栄養 23-5(1時間)		
4	NHKDVD「人体I-3(腸)」視聴 組織実習：小腸(空腸)	解剖 177-83, 臨床栄養 35-6(1時間)		
5	組織実習：肝臓	解剖 185-9, 130-1(1時間)		
6	組織実習：膵臓(外分泌、内分泌)	解剖 190-3, 251-2, 臨床栄養 33-5, 19-20(1時間)		
7	生理実習：味覚(塩味、甘味) NHKDVD「歯の手入れ」視聴	解剖 162-4, 159-62, 261, 308, 268(図13-13) (1時間)		
8	組織実習：心臓(左心室)	解剖 111-4, 13-4(1時間)		
9	組織実習：肺	解剖 199-208, 211(1時間)		
10	組織実習：腎臓	解剖 213-8, 生理 102(図6-3), 臨床 151(図7-5) (1時間)		
11	組織実習：副腎皮質・髄質	解剖 249-51, 生理 175(図10-4), 解剖 242(図12-1), 244, 臨床 127(1時間)		
12	組織実習：末梢血塗抹標本	解剖 146-9, 臨床栄養 283		
13	生理実習：視覚、嗅覚	解剖 313-8, 309(図13-50), 196-9, 285, 解剖生理学実験 141, 143(1時間)		
14	DVD「アトピー性皮膚炎(皮膚バリアの保持)」 視聴 組織実習：皮膚	解剖 326-32, プリント(表皮) (1時間)		
15	生理実習：血圧測定	臨床栄養 126, 生理 41(図3-12) 解剖 123(図7-23), 解剖生理学実験 87-9(1時間)		
テキスト	青峰、藤田、他共著『イラスト解剖生理学実験』(東京教学社) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』(南江堂) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)			
指定図書	なし。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：医師として病院勤務

教育内容：人体の構造および生理現象を人体の計測、生理実習、組織実習により実践的に学び、各臓器・組織の構造と働きを学習する。

科目名	生化学実験		担当者	浅野純平
区分等	2年次・後期 [実験] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	1. 複数回のレポート (50%) 2. 実験に取り組む姿勢 (50%)			
課題に対するフィードバック	実験の中でレポートに関する解説を行う。			
目的	生体物質の特性を理解し、実験技術を習得させる。			
到達目標	1. タンパク質の定量法について学び、理解を深めることができる。 2. 酵素の諸性質について理解を深めることができる。 3. 尿・唾液等を用いて様々な生化学的検査を行い、検査値について理解できる。 4. 検体検査、生理機能検査を理解できる。			
履修上の注意	1. 実験中は白衣を着用すること。 2. レポートは実験毎に提出すること。 3. グラフ用紙、計算機、実験ノート、生化学の教科書を持参すること。 4. 班毎の実験ではあるが、必ず各人が身体を動かし実験すること。時間を有効に利用して実習時間内にレポートを作成することが望ましい。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	官能基・アミノ酸の構造	第1回レポートの準備 (1時間)		
2	緩衝液の調製	第2回レポートの準備 (1時間)		
3	タンパク質の定量	第3回レポートの準備 (1時間)		
4	分光分析	第4回レポートの準備 (1時間)		
5	酵素反応一(1)	第5回レポートの準備 (1時間)		
6	酵素反応一(2)	第6回レポートの準備 (1時間)		
7	第1回から第6回目までの実験内容のまとめと解説	第1回から第6回目までのレポートの見直し (1時間)		
8	アルコール感受性試験およびヒト遺伝子に関する講義	第7回レポートの準備 (1時間)		
9	簡易血糖測定装置による食事前後の血糖値測定による耐糖能の観察	第8回レポートの準備 (1時間)		
10	唾液と尿を用いた生化学的検査-(1)尿を用いた酵素反応実験の応用	第9回レポートの準備 (1時間)		
11	唾液と尿を用いた生化学的検査-(2)ろ紙ディスク法による味覚実験	第10回レポートの準備 (1時間)		
12	唾液と尿を用いた生化学的検査-(3)尿中、唾液中のNa <sup>+</sup> 濃度、K <sup>+</sup> 濃度	第11回レポートの準備 (1時間)		
13	唾液と尿を用いた生化学的検査-(4)唾液アミラーゼの実験	第12回レポートの準備 (1時間)		
14	唾液と尿を用いた生化学的検査-(5)尿中クレアチニンの定量	第13回レポートの準備 (1時間)		
15	第8回から第14回目までの実験内容のまとめと解説	第7回から第13回目までのレポートの見直し (1時間)		
テキスト	『2024年度版 生化学実験書』			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	栄養学実習		担当者	浅野純平
区分等	2 年次・前期 [実習] 1 単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	1. レポート (50%) 2. 実験に取り組む姿勢 (50%)			
課題に対するフィードバック	実習の中でレポートに関する解説を行う。			
目的	栄養学の意義を理解し、実験技術を習得させる。			
到達目標	1. 栄養素や酵素に関する実験を行い、それらの諸性質を理解できる。 2. 動物実験を行い、生体試料の調製方法を学びながら、生命の尊厳を考えることができる。 3. パソコンを活用した栄養計算、栄養補正、栄養評価方法を理解できる。			
履修上の注意	1. 実験中は白衣を着用すること。 2. レポートは実験毎に提出すること。 3. グラフ用紙、計算機、実験ノートを持参すること。 4. 班毎の実験ではあるが、必ず各人が身体を動かし実験すること。時間を有効に利用して実習時間内にレポートを作成することが望ましい。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	体組成計を用いる自己の身体状況の評価 (BMI、筋肉量、骨密度などの測定)		第 1 回レポートの準備 (1 時間)	
2	栄養価計算 (パソコンを用いる栄養価計算)		第 2 回レポートの準備 (1 時間)	
3	自己の食物摂取状況の評価-(1) (食事調査、摂取エネルギー量の算出)		第 3 回レポートの準備 (1 時間)	
4	デンプンのヨウ素反応 (粗デンプンの調製とヨウ素反応)		第 4 回レポートの準備 (1 時間)	
5	等電点沈殿を利用した牛乳からのカゼインの分離 (カゼインの分離、タンパク質とリンの定性)		第 5 回レポートの準備 (1 時間)	
6	脂質の定性とコレステロールの反応 (乳化反応、リーベルマン・ブルアルト反応)		第 6 回レポートの準備 (1 時間)	
7	ビタミン C の定量 (緑茶、紅茶中のビタミン C の定量)		第 7 回レポートの準備 (1 時間)	
8	第 1 回から第 7 回目までの実習内容のまとめと解説		第 1 回から第 7 回目までのレポートの見直し (1 時間)	
9	動物実験に関する教育訓練		動物実験に関する教育訓練配付資料の通読 (1 時間)	
10	ラットの解剖 (摂食と絶食による臓器所見の比較、臓器所見の作成、血清と肝臓の採取)		第 8 回レポートの準備 (1 時間)	
11	ラット血清中の血糖値の定量 (絶食が血糖値に及ぼす影響を調べる)		第 9 回レポートの準備 (1 時間)	
12	ラット血清中のトリグリセリドの定量 (絶食がトリグリセリド量に及ぼす影響を調べる)		第 10 回レポートの準備 (1 時間)	
13	ラット血清・肝臓タンパク質の定量 (ローリ法) (絶食がタンパク質量に与える影響を調べる)		第 11 回レポートの準備 (1 時間)	
14	肝グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 (絶食が酵素活性に及ぼす影響を調べる)		第 12 回レポートの準備 (1 時間)	
15	自己の消費エネルギー量の算出 第 9 回から第 15 回目までの実習内容のまとめと解説		第 8 回から第 12 回目までのレポートの見直し (1 時間)	
テキスト	『2024 年度版 栄養学実習書』			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	ライフステージ栄養学実習		担当者	豊嶋瑠美子
区分等	2年次・前期〔実習〕1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	レポート(60%)、調理技術(20%)、受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。			
目的	ライフステージに対応した栄養マネジメント能力を養う。			
到達目標	ライフステージの特性を理解した上で、対象者に応じた栄養計画、実施、評価ができる。			
履修上の注意	1. 材料費は別途で徴収する。 2. 食品を取り扱うので、調理用白衣・帽子・コックシューズを着用し、衛生管理の徹底を心がけること。 3. 食品成分表と電卓を持参すること。			
オフィスアワー	月曜日 11:00~12:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション (1) 実習の目標と内容 (2) 栄養アセスメントおよび栄養計画		1. 各ライフステージの特性を十分理解した上で授業に臨む。 2. 授業後は、対象者に応じた栄養管理についてレポートを作成する。	
2	妊娠期、乳児期の栄養管理 (1) 生後5~6か月 調乳・離乳食		妊娠期、乳児期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(1時間)	
3	乳児期の栄養管理 (2) 生後7~8か月、9~11か月、12~18か月 離乳食		実習後はレポートを作成する。(1時間)	
4	幼児期の栄養管理 (1) 4歳女子の栄養アセスメント		幼児期の栄養管理について教科書で予習する。 課題提出締め切り：妊娠期、乳児期 (2時間)	
5	幼児期の栄養管理 (2) 献立作成		乳児期の献立作成を行い、授業時に各自持参する。(1時間)	
6	幼児期の栄養管理 (3) 実施、評価		実習後はレポートを作成する。(2時間)	
7	学童期の栄養管理 (1) 8歳女子の栄養アセスメントと栄養計画		学童期の栄養管理について教科書で予習する。(1時間)	
8	学童期の栄養管理 (2) 献立作成		学童期の献立を作成し、持参する。(2時間)	
9	学童期の栄養管理 (3) 実施、評価		実習後はレポートを作成する。(2時間)	
10	思春期の栄養管理 (1) 16歳女子の栄養アセスメントと栄養計画 3・1・2 弁当箱法		思春期の栄養管理について教科書で予習する。(1時間) 課題提出締め切り：幼児期・学童期	
11	思春期の栄養管理 (2) 実施、評価		実習後はレポートを作成する。(1時間)	
12	青年期の栄養管理 (1)		青年期の栄養管理について教科書で予習し、個人で昼食の献立を立案して臨む。(1時間)	
13	青年期の栄養管理 (2)		グループ献立実習後は1日分の栄養管理をして、レポートを作成し、グループクラスに提出する。(3時間)	
14	高齢期の栄養管理 (1) 70歳女性の栄養アセスメントと栄養計画		高齢期の栄養管理について教科書で予習し、昼食の献立を立案して臨む。(2時間) 課題提出締め切り：思春期、青年期 (2時間)	
15	高齢期の栄養管理 (2) 実施、評価、スマイルケア食の試食		グループ献立実習後は1日分の栄養管理をして、レポートを作成し、グループクラスに提出する。(3時間)	
テキスト	東愛子・原田まつ子編『応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理』(講談社サイエンティフィック)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	臨床栄養学実習		担当者	須磨亜沙子
区分等	2年次・前期〔実習〕1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	受講態度（質問及び回数、ノート記入等）（40%）、課題（60%）			
課題に対するフィードバック	1. 課題について評価し、随時解説やアドバイスをしながら返却する。 2. 授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目的	傷病者の病態や栄養状態に基づき、適切な栄養管理を行うための栄養食事計画の技術を養う。			
到達目標	1. 常食から治療食への展開食の計画、調整ができるようになる。 2. 各疾患の食事調整・献立計画・調理実習を通して、栄養管理の意義を理解できる。 3. 成分別栄養管理および疾病別栄養管理について理解できる。 4. 糖尿病・腎臓病交換表により献立作成ができ、活用方法を説明できるようになる。			
履修上の注意	1. 調理の日は指定の白衣、帽子、コックシューズを準備すること。 2. 食品成分表・電卓を持参すること。 3. 材料費を徴収する。			
オフィスアワー	月曜日 15～16時			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	オリエンテーション 臨床栄養学実習の目標、食事療養の意義 治療食の種類（一般食と特別治療食）、献立の展開	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
2	献立展開の実際 一般食の展開	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
3	一般食（常食、軟食、流動食）の調理	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
4	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→塩分コントロール食	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
5	特別治療食の食事計画 塩分コントロール食の調理	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
6	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→脂質コントロール食	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
7	特別治療食の食事計画 脂質コントロール食の献立作成	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
8	特別治療食の食事計画 脂質コントロール食の調理	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
9	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→エネルギーコントロール食	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
10	特別治療食の食事計画 エネルギーコントロール食の献立作成	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
11	特別治療食の食事計画 エネルギーコントロール食の調理	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
12	食品交換表を活用した食事計画の考え方(1) 糖尿病	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
13	食品交換表を活用した食事計画の考え方(2) 腎臓病	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
14	特別治療食の食事計画 タンパク質制限食 治療用特殊食品を利用した献立の考え方	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
15	評価を含むまとめ	予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：実習書の整理（2時間）		
テキスト	芦川修貳、ほか編集『栄養士になるための臨床栄養学実習・食事療養実務入門』（学建書院） 芦川修貳、ほか編集『栄養士になるための臨床栄養学実習・別冊・食事療養実務実習書』（学建書院） 松本仲子監修『調理の基本 まるわかり便利帳』（女子栄養大出版部） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（文光堂） 浅野誠一他著『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：傷病者の病態や栄養状態に基づき、適切な栄養管理を行うための栄養食事計画の技術を、食事調整・献立作成・調理実習等の実践的教育により養う。

科目名	栄養指導実習		担当者	伊藤雅子
区分等	2年次・後期 [実習] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	プレゼンテーション (50%)、実習記録の提出(30%)、課題レポート(20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目的	各対象者における栄養指導のあり方、方法について学習する。			
到達目標	①行動科学やカウンセリングなどの理論を理解し、栄養指導の計画を立案できる。 ②実際の場面を想定して栄養指導ができる。 ③対象者に合わせてコミュニケーション方法を選択する事が出来る。			
履修上の注意	栄養学総論・各論、臨床栄養学、調理学、栄養指導論などの科目を基礎とし、演習方式で授業を行う。			
オフィスアワー	月曜日 16時～17時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	話し方の基礎	パワーポイントの有効な活用 (1)	指定した教科書を事前に読んでおくこと	
2	話し方の基礎	パワーポイントの有効な活用 (3)	事前に配布する資料を読んでおくこと	
3	有効なプレゼンテーションの方法	外部講師	事前に配布する資料を読んでおくこと	
4	教育・媒体の種類と活用	(1)	事前に配布する資料を読んでおくこと	
5	教育・媒体の種類と活用	(2)	事前に配布する資料をまとめておくこと	
6	1～5回のまとめ	プレゼンテーション	発表内容をまとめておくこと	
7	栄養指導の資料作成方法について	(個別指導・集団指導) (1)	指定した教科書を事前に読んでおくこと	
8	栄養指導の資料作成方法について	(個別指導・集団指導) (2)	指定した教科書を事前に読んでおくこと	
9	栄養指導における有効な資料について	まとめ	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
10	栄養指導におけるコミュニケーションの取り方	(1)	事前に配布する資料を読んでおくこと	
11	栄養指導におけるコミュニケーションの取り方	(2) 病態別栄養指導の方法	事前に配布する資料を読んでおくこと	
12	病態別栄養指導案作り	(1)	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
13	病態別栄養指導案作り	(2)	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
14	病態別栄養指導実施	(1)	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
15	病態別栄養指導実施	(2)	担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
テキスト	芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』(学建書院) 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：集団指導の実践を通して、食生活全般にわたる教育・指導に必要な企画力、教育・指導力を養う。

科目名	ライフステージ栄養指導実習		担当者	須磨亜沙子
区分等	2年次・後期〔実習〕1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	実習態度(30%)、課題提出(30%)、発表内容(40%)			
課題に対するフィードバック	1. 課題、発表内容について評価し、留意点について授業内でフィードバックを行う。 2. 授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目的	理論で学んだ基礎知識を応用して、食生活全般にわたる教育・指導に必要な企画力、教育・指導力を養う。			
到達目標	1. ライフステージ別に栄養教育の課題を理解し、指導計画を立案できるようになる。 2. 対象に応じた指導案を作成できるようになる。 3. 指導内容にあった媒体を選択し、適切に活用できるようになる。 4. 集団・個別指導技術を身に付け、指導を円滑に進めることができるようになる。 5. 集団・個別指導の実践を通して対象者に効果的な指導方法とはどのようなものかについて理解できる。			
履修上の注意	指導対象者の実態把握のための情報収集、栄養指導方法の検討、指導媒体の検討をするために図書館の図書を積極的に利用してほしい。			
オフィスアワー	火曜日 15～16時			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ライフステージ別栄養管理		予習:各ライフステージの特性を調べる。(1時間)	
2	妊娠期・授乳期 栄養指導計画書作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
3	妊娠期・授乳期 栄養指導案作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
4	乳児期・幼児期 栄養指導計画書作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
5	乳児期・幼児期 栄養指導案作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
6	学童期・思春期 栄養指導計画書作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
7	学童期・思春期 栄養指導案作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
8	青年期・壮年期 栄養指導計画書作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
9	青年期・壮年期 栄養指導案作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
10	高齢期 栄養指導計画書作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
11	高齢期 栄養指導案作成		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
12	栄養指導媒体作成(1)		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
13	栄養指導媒体作成(2)		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
14	栄養指導の実際 模擬指導		予習:該当するライフステージの特性を調べる。(1時間)	
15	栄養指導の評価		復習:これまでのまとめ(1時間)	
テキスト	なし。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験:管理栄養士として病院勤務

教育内容:行動科学やカウンセリングなどの理論を理解し、栄養指導の計画を立案できるよう、実際の場面を想定したライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養指導のあり方を実践的に学ぶ。

科目名	給食管理実習 I	担当者	伊藤雅子
区分等	2年次・前期 [実習] 1単位 選択/健康栄養専攻		
評価基準	レポート (50%) 実習態度 (40%) 実技テスト (10%)		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目的	各専門科目の学習で得た知識を応用して給食施設の特徴を知り、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につけること。		
到達目標	①給食施設での栄養士の役割について知ることができる。 ②予算にあった献立作成ができるようにする。 ③大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく調理作業管理ができるようにする。 ④発注業務管理ができるようにする。		
履修上の注意	①『八訂日本食品成分表』、電卓準備。 ②調理の日は指定の白衣、帽子、コックシューズを着用。 ③材料費を徴収する。		
オフィスアワー	月曜日 16時～17時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	給食管理実習オリエンテーション 給食管理実習の意義と目的、実習室の説明、作業と衛生の留意点。実技テスト	シラバスの確認と指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
2	大量調理の基本	指定した教科書を事前に読んでおくこと	
3	学校給食 発注	対象献立をを考えておくこと	
4	学校給食（実習1班）実技テスト	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
5	学校給食（実習2班）実技テスト	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
6	学校給食（実習3班）実技テスト	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
7	学校給食（実習4班）実技テスト	作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
8	コンベクションオーブンの使い方（外部講師）	配布した資料を読んでおくこと	
9	ランチ献立作成（1）	配布した資料を読んでおくこと	
10	ランチ献立作成（2）	配布した資料を読んでおくこと	
11	ランチ提供（1）	試作により改善すべき点を見出しておくこと	
12	ランチ提供（2）	試作により改善すべき点を見出しておくこと	
13	ランチ提供・反省	試作により改善すべき点を見出しておくこと	
14	ランチ提供（3）	試作により改善すべき点を見出しておくこと	
15	ランチ提供（4）	試作により改善すべき点を見出しておくこと	
テキスト	藤原政嘉編著『給食経営管理実習ワークブック第3版』（株式会社みらい） 松本仲子監修『調理の基本 まるわかり便利帳』（女子栄養大学出版部） 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』（第一出版）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務

教育内容：大量調理施設衛生管理マニュアルに基づき調理作業管理等を実践的に学び、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につける。

科目名	給食管理実習Ⅱ	担当者	伊藤雅子
区分等	2年次・集中〔校外実習〕2単位 選択／健康栄養専攻		
評価基準	校外実習レポート(60%)、報告会の発表内容(30%)実習現場先の総合的評価(10%)		
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントを付けて返却する。		
目的	給食施設における給食管理の実際を体験し、栄養士に必要な知識・技術・応用力を身につける。		
到達目標	①給食運営の実際を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。 ②献立管理のポイントを知ることができる。 ③食数管理の方法を知ることができる。 ④発注管理のポイントを知ることができる。 ⑤在庫管理の重要性を知ることができる。 ⑥事務管理のポイントを知ることができる。 ⑦衛生管理の重要性を知ることができる。		
履修上の注意	『八訂日本食品成分表』、電卓準備。		
オフィスアワー	月曜日 16時～17時		
	<b>授業計画</b>	<b>準備学習（予習・復習）の内容および、時間</b>	
	①校外実習先の概要を学び、その施設について理解、指導者の計画に基づき実習訓練を受ける。 ②個人の目標として、その施設の事務管理、衛生管理、作業管理、栄養管理について目標を持って実習に入る。 ③対象者に合わせた食形態、病態に合わせた食事内容について確認 ④研究テーマの設定（1課題） ⑤校外実習時間 80時間 ⑥報告会の発表準備 ⑦報告会の実施	大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読しておく。  校外実習先対応の参考文献を読んでおく。  研究テーマについての関連文献を読んでおく。	
テキスト	松崎政三編著『臨地実習マニュアル(給食経営管理・給食の運営)』第3版(建帛社) 藤原政嘉編『給食経営管理実習ワークブック第3版』(株式会社みらい) 松本仲子監修『調理の基本 まるわかり便利帳』(女子栄養大学出版部) 芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』(学建書院) 伊藤 貞嘉、佐々木 敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務

教育内容：大量調理施設衛生管理マニュアルに基づき調理作業管理等を実践的に学び、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につける。

科目名	調理学実験		担当者	豊嶋瑠美子
区分等	2年次・後期 [実験] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	レポート(80%)、受講態度(20%)、			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、評価をつけて返却する。			
目的	調理過程における食品の変化を理解し、健康を考えた調理を再現できる応用力と想像力を養う。			
到達目標	食品の性質を理解した上で、調理操作による科学的变化を説明できる。			
履修上の注意	1. 材料費は別途で徴収する。 2. 食品を取り扱うので、調理用白衣・帽子・コックシューズを着用し、衛生管理の徹底を心がけること。 3. フードスペシャリスト資格取得を目指す者は必ず履修すること。			
オフィスアワー	火曜日 15:00~16:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション：(1) 実験の導入と心がけ (2) レポートの書き方		授業後は、実験結果に基づいたレポートを作成し、どのような点が明らかになったか、科学的根拠に基づいた考察を行う。	
2	測定の基礎：(1) 食品の体積と密度 (2) 嗅覚～たまねぎのにおいの調理による変化		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
3	栄養・健康性：(1) 汁物の調理方法と塩分摂取量 (2) 香ばしさ・油のコク・辛味・酸味の減塩効果		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
4	調理による理化学的变化：(1) うち米、もち米の浸漬による変化 (2) 米粉シフォンケーキの調理特性		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
5	調理による理化学的变化：(1) 鶏卵の鮮度鑑別と各部重量 (2) 卵の起泡性と泡の安定性～添加物の影響～		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
6	レポートのまとめ		レポートを振り返り考察する。	
7	調理による理化学的变化：スポンジケーキの品質に及ぼす卵の影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
8	調理による理化学的变化：(1) 野菜の色と調理変化 (2) 果物の変色・褐変		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
9	調理による理化学的变化：(1) さつまいもの加熱調理と甘味 (2) あずきあんの調製と性状		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
10	調理による理化学的变化：(1) ハンバーグにおける食塩や副材料の役割 (2) 湿式加熱による肉の硬さとスープの食味における加熱時間の影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
11	調理による理化学的变化：切り身魚を調味液に入れる時期の影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
12	栄養・健康性：(1) 咀嚼のしやすさと調理 (2) 粥・ご飯の食べ方と一口量		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
13	栄養・健康性：(1) 舌でつぶせる硬さの程度 (2) 刻み食・ブレンダー食		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
14	調理による理化学的变化：砂糖添加がゲルの性状とテクスチャーに及ぼす影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する(1時間)	
15	物性試験について		13・14回目の実験を復習し、物性試験に臨む。(01時間)	
テキスト	なし。別途実験書を配付する。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	フードコーディネーター論	担当者	豊嶋瑠美子
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 選択/健康栄養専攻		
評価基準	定期試験(30%)、小テスト(30%)、提出物(20%) 受講態度(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。		
目的	この授業では生活者としての視点とビジネスとしての視点を兼ね備え、「食のアメニティの創造」と「ホスピタリティ」をもって仕事をする事ができるようにフードコーディネーターの基礎概念を学ぶ。		
到達目標	食の演出ができるようになるための知識と技能を身につける。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜日 15:00~16:00		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1	フードコーディネーターの基本理念	フードスペシャリストの資格を取得する目的だけでなく、自分の感性を豊かにするための努力をすること。(1時間)	
2	食事の文化・日本の食事・外国の食事	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
3	フードスペシャリスト過去問題模擬試験	フードスペシャリストの過去問を解いて模擬試験に臨む。(2時間)	
4	食卓のコーディネーター	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
5	日本・中国・西洋の食卓のコーディネーター	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
6	食卓のサービスとマナー(日本・中国・西洋)	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
7	メニュープランニングとは	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
8	メニュープランニングの要件	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
9	料理様式とメニュー開発の基礎	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
10	食空間のコーディネーター・フードマネジメント	フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(1時間)	
11	食卓の演出のための作品制作	食卓の演出を各自考え、授業に臨む。(1時間)	
12	テーブルコーディネーターの基礎	当該単元を読んで授業に臨む。(1時間)	
13	フードコーディネーターの基礎①濃淡、構図	当該単元を読んで授業に臨む。(1時間)	
14	フードコーディネーターの基礎②質感、総仕上げ	当該単元を読んで授業に臨む。(1時間)	
15	食卓の演出のための作品制作・発表	当該単元を読んで授業に臨み、レポートを作成する。(2時間)	
テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『フードコーディネーター論』(建帛社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	食品の官能評価・鑑別演習		担当者	豊嶋瑠美子
区分等	2年次・後期〔演習〕1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	レポート(40%)、小テスト(40%)、受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。			
目的	フードスペシャリストにとって必要な食品の官能評価・鑑別についての知識や技術を習得する。			
到達目標	食品の品質、化学的評価法、物理的評価法を理解した上で個別食品の官能評価・鑑別ができる。			
履修上の注意	フードスペシャリスト資格取得を目指す者は必ず履修すること。			
オフィスアワー	火曜日 15:00~16:00			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	フードスペシャリストに必要とされる知識と技能		次回内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
2	官能評価の概要、官能評価の基本と実施法		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
3	官能評価の実施：塩味の濃度差テスト		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1時間)	
4	フードスペシャリスト問題の模擬試験(1)		過去問を解き、模擬試験に備える。(2時間)	
5	オリジナルブレンドハーブティの作製(1)		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
6	オリジナルブレンドハーブティの作製(2)		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
7	オリジナルブレンドハーブティの作製(3)		試飲した感想をまとめ、発表用パワーポイントを作成する。(1時間)	
8	オリジナルブレンドハーブティの発表		自分の選んだハーブを調べ、パワーポイントを作成する。(2時間)	
9	フードスペシャリスト問題の模擬試験(2)		過去問を解き、模擬試験に備える。(2時間)	
10	物理的評価法、食品の状態、レオロジーとテクスチャー		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1時間)	
11	フードスペシャリスト資格認定試験問題(1)		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(2時間)	
12	フードスペシャリスト資格認定試験問題(2)		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(2時間)	
13	官能評価の実施：2点識別・嗜好試験		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
14	官能評価の実施：スピアマンの順位相関係数		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
15	官能評価の実施：ケンドールの一致性の係数		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1時間)	
テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『新版食品の官能評価・鑑別演習第3版』(建帛社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	教職概論		担当者	佐藤光咲
区分等	1年次・前期 [講義] 2単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①レポート (60%)、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度 (20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	教職の意義、チーム学校の一員としての教員の役割、職務内容に関する理解を深めさせることで、教員を志願する者が教職に対する自らの適性を考察し、教職への意欲や一体感の形成を図る。			
到達目標	(1)教員を志す者に理想とする教員像が明確になる。 (2)教員に求められる資質能力やチーム学校の一員としての役割を理解し、説明できる。 (3)教職に就くことについて多角的に考察することができる。 (4)教職への意欲・適性等を熟考し、進路選択を行うことができる。			
履修上の注意	グループワークをできるだけ取り入れる。			
オフィスアワー	金曜日 15時～16時			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス—授業の概要と計画		教師を志す理由をまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
2	教職の意義、理想の教師像		理想の教師像等についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
3	法律の中の学校、教師—学校とは、教員とは何か		学校とは何か、教師とは何か、についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
4	教員の任用とサービス—教員の義務と責任		教員の義務と責任についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
5	教師の役割と仕事1—学校における様々な教員等と役割 (チーム学校の一員、組織と分掌)		学校にはどのような教員や職員がいるのだろうか、調べておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
6	教師の役割と仕事2—学級担任、教科担任～専門家として教科、その他の指導 (生徒指導、道徳教育、特別活動など)		学級担任の仕事の内容及び毎日の教科の授業はどのようにして行われているのか、まとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
7	教師の役割と仕事3—食育推進の中心を担う栄養教諭の仕事		栄養教諭の仕事について情報を収集しまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
8	職務の実際1—教師 (栄養教諭) の仕事の実際 (1日の仕事・多忙化と働き方改革)		教員の多忙化やその背景を調べておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
9	職務の実際2—教師の力量形成と研修、教員評価		教員の研修とは何か、まとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
10	職務の実際3—教員のライフサイクルと異動		教員のライフサイクルや異動について自分の考えをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
11	職務の実際4—教師のおこなう教育評価 (わが国における学習評価の特色)		わが国の学校における学習評価の特徴について調べ、まとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
12	国の教育施策と秋田県、市町村 (学習指導要領、学校教育の指針等)		我が国及び秋田県の教育施策について、ネット等で調べまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
13	教教育実習の意義と心得—教育実習への期待と不安、子どもとの触れ合いと授業実践		教育実習に対する不安や期待、疑問についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
14	教職への進路選択と教員採用選考—秋田県の場合		栄養教諭採用選考試験に対する不安や期待、疑問についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
15	グループ討議—教職の魅力、教師になるということ		これまでの学修を振り返り、教職の意義について再度考え、まとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認、レポートの構想と執筆をする。(1時間)	
テキスト	学習資料配付 (毎時間)。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	教育原理	担当者	寺谷直輝
区分等	1 年次・前期 [講義] 1 単位 選択/健康栄養専攻		
評価基準	<b>授業への「参加」(単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う)が単位認定の前提です。</b> ①感想文(200字以上)の提出状況【7点×8回=56%】 ②定期試験(動画を1つ視聴してその場で動画に対する感想文を書いてもらう問題)【44%】		
課題に対するフィードバック	①感想文は、匿名化処理を行った上で、受講生全員にPDF形式で配信(共有)します。 ②定期試験は、希望があれば個別にフィードバックします。		
目的	教育の考え方や方法の基礎を知ることが目的とする。		
到達目標	1. 教育の意義、目的、歴史の変遷を理解し、教育の基礎となる子ども観、教育観を自身の言葉で説明できる。 2. 教育制度、教育実践の基礎理論について説明できる。 3. 教育の現状と課題について理解し、解決に向けた方略を提案できる。 4. 教育の現状や教育観などについて自身の考えをまとめるに当たり、他者の考えを取り入れて改善することができる。		
履修上の注意	<b>【重要】最終的に栄養教諭になるか否かは別として、栄養学以外の学問(教育学)を学ぶ貴重な機会です。難易度は高くありませんし、栄養士が活躍できる様々な現場(学校、児童養護施設、子ども食堂他)も事例として紹介しながら授業を進めます。少しでも興味があれば、ぜひ初回の授業から参加してください。</b> 1. 7.5回の開講科目ですので、 <b>欠課を2回してしまうと失格(D評価)</b> となります。 2. 授業時間中に使用しますので、 <b>①75mm×75mm以上の付箋(テキストに直接書き込むことに抵抗感のある場合のみ)、②スマートフォンを必ず持参してください。</b> 3. 限られた開講回数では要点のみを扱うに留まりますので、自主自学が基本です。 4. 学習内容が現実社会に関係していることを視覚でイメージできるようにするため、授業時間の一部を映像作品の鑑賞に充てることがあります。 5. 後期の【特別支援教育】(2023年度は後期月曜1・2限に開講)も履修することを前提として授業を行います。		
オフィスアワー	火曜日 15時00分～16時00分 (C B 0 7 研究室)		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション ●座席の確定(座席表の作成) ●成績評価と履修上の注意に関する説明 ●Google Classroomへの招待と参加確認 導入：教育の類型(公教育と私教育) ●近代教育制度の成立と展開/代表的な教育家の思想	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
2	発達を支える要因とは？(生態学的システム理論) ●教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係/代表的な教育家の思想	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
3	教科書を使わない授業は可能か？ ●学校や学習に関わる教育の思想/代表的な教育家の思想	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
4	学校だけが学ぶ場なのか？ ●家族と社会による教育の歴史/現代社会における教育課題	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
5	学校は何をする場なのか？ ●教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標/近代教育制度の成立と展開	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
6	学校と家庭以外で生活する場とは？(子ども食堂) ●家族と社会による教育の歴史/家庭や子供に関わる教育の思想	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
7	障害者の生涯学習推進に関わる政策と実践動向 ●家族と社会による教育の歴史/現代社会における教育課題	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
8	まとめ(半期の授業で学んだことの振り返り) ●家族と社会による教育の歴史/現代社会における教育課題	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
テキスト	後期に開講する【特別支援教育】の学習内容との円滑な接続を意図して、二本柳覚編『 <b>図解でわかる障害福祉サービス</b> 』(中央法規出版)を指定します。第5・7回で本格的に使用します。		
指定図書	あり(巻末参照)		

※実務経験のある教育による担当教員の実務経験、教育内容

実務経験：障害者総合支援法で定められた自立訓練事業や地域生活支援事業による、知的障害や発達障害のある青年を対象としたフリースクールで学習支援や運営に携わってきた。また、文部科学省が実施している「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」事業で、NPO法人と行政による障害者の生涯学習プログラム開発にも携わってきた。

教育内容：「障害児教育は教育の原点」と言われるように、これまで担当者が関わってきた知的障害や発達障害のある青年の事例や、彼らが過ごしてきた学校生活等を学生に紹介することで、これまで学生が受けてきた教育を相対化して教育制度にも視野を広げ再考できるよう講義する。

科目名	教育制度論		担当者	栗森 貢
区分等	1年次・前期 [講義] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	定期テスト (60%)、授業に対する参加態度や姿勢 (40%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○定期テストを実施し、履修したことへの理解の定着を図るとともに、講義で使用したプリント類を毎時間回収し、コメントを付して返却する。			
目的	教育制度をめぐる課題について考察しながら、わが国の教育制度の特色や歴史的変遷とともに、チーム学校推進法の制定やその背景、学校と地域との連携について理解できるようにする。			
到達目標	教育制度に関する基礎的知識を理解するとともに、チーム学校としての新たな動きなど種々の教育課題に対する自分の考え方を論理的に説明できる。			
履修上の注意	必要に応じてグループワークを取り入れる。			
オフィスアワー	月曜日 15時～16時			
		<b>授業計画</b>	<b>準備学習（予習・復習）の内容および、時間</b>	
1	教育制度－その機能と歴史、子どもの権利	わが国の教育は、何に基づいて行われているか、自身のこれまでの経験と照らし合わせて考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
2	教育制度と法－憲法、教育基本法の理念など	憲法で規定された教育を実施するためにはどんなコトやモノが必要か考えをまとめる。(1時間) 教育制度に関する法令の内容をまとめる。(1時間)		
3	教育制度と学校－学校の設置、組織と編成など、認定こども園、コミュニティスクール	学校とはどういうものか、予想しまとめる。(1時間) 学校に関する法令の内容をまとめ確認する。(1時間)		
4	教育制度と教職員－教職員の身分と任用、服務規程、教員評価など	教員と会社員の違いは何か。(1時間) 教員の身分や服務規定についてまとめ確認する。(1時間)		
5	学校を支える教育行政－文部科学省と地方教育委員会、学校評価、コミュニティスクールなど	教育委員会は何のためにあるのか予想しまとめる。(1時間) 教育委員会の役割と学校との関係についてまとめ、確認する。(1時間)		
6	教育制度をめぐる教育的課題－特別支援教育、学校安全と危機管理（いじめや虐待などへの対応）、チームとしての学校および地域との連携	いじめや虐待に関する法律にはどのようなものがあるか予想しまとめる。(1時間) いじめや虐待に対して学校や教員がとるべき対応についてまとめ確認する。(1時間)		
7	教育制度改革の動向と日本－学力の国際競争、全国学力・学習状況調査、教育費負担	全国学力テストや教育の無償化の背景とその課題について考えをまとめる。(1時間) 各課題のまとめと確認をする。(1時間)		
8	わが国の教育制度の特色とその諸課題について 〔学校給食法の改正及び食育基本法の制定について〕	わが国の教育制度の特色と課題について、これまでの学習を振り返り要点をまとめる。(1時間) 「学校給食法の改正及び食育基本法の制定について」調べておく。(1時間)		
テキスト	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	教育心理学		担当者	織田栄子
区分等	1年次・前期 [講義] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	定期試験でのテスト (30%)、中間まとめ (20%)、受講カードの提出と内容 (20%)、受講取り組み態度 (30%)。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	子どもの学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴に応じた教育的対応を身に付ける。			
到達目標	①子どもの心身や人間関係等、発達的特徴や個人差に応じた教育的対応方法がわかる。 ②自己理解を通して、保育者としての心構えができ、子どもや保護者等への理解が深まる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 教育と発達1 ・教育心理学とは ・遺伝と環境の関係	授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
2	教育と発達2 ・成熟と学習 ・発達課題と発達段階 学習の原理 ・学習とは ・行動の変化を重視する立場からの知見 ・内的システムを重視する立場からの知見 意欲と動機づけ ・やる気を高めるためには	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
3	知能と学力 ・知能の構造、知能測定、知能と学力の関係 教授—学習過程 ・教授—学習過程のモデル ・授業の計画と実施、授業の評価・分析	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
4	教育評価 ・教育評価の意義、評価の問題点 教育測定と統計 ・教育測定の意義、教育測定の例 パーソナリティと適応 ・パーソナリティの捉え方、教育方法との関係 ・適応と適応機制	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
5	学級集団 ・教師が学級集団に及ぼす影響 ・学級集団を捉える方法、学級が機能しない場合 ・学級をまとめるための教育プログラム ・中間まとめと解説	1～4回までの授業の復習、及び2冊以上「学級」についての参考文献を読み、要点をまとめる (2時間)		
6	不登校・いじめ・暴力行為 ・気になる子どもたち	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
7	発達障害を持つこどもの理解と対応 ・発達障害の種類と特徴、対応 これからの特別支援教育	前回授業の復習 (1時間) 授業に関連した文献を読んでおく (1時間)		
8	教育相談の進め方 ・教育相談の歴史と今日的課題、役割 ・進路指導とキャリア教育 ・保護者対応と支援	前回授業の復習 (1時間) これまでの授業の復習 (1時間)		
テキスト	本郷一夫、八木成和編著『教育心理学』(建帛社)			
指定図書	『小学校学習指導要領解説総則編』(最新版)(文部科学省著、東洋館出版社) 『中学校学習指導要領解説総則編』(最新版)(文部科学省著、ぎょうせい) 『幼稚園教育要領および解説』(最新版)(文部科学省著、フレーベル館) その他(巻末参照)。			

科目名	特別支援教育	担当者	寺谷直輝
区分等	1 年次・後期 [講義] 1 単位 選択/健康栄養専攻		
評価基準	<b>授業への「参加（単なる出席ではなく、学生・教員が共に授業を創る主体であることを認識し、学習効果を高める授業環境の整備への貢献を行う）」が単位認定の前提です。</b> ①感想文（200 字以上）の提出状況【7 点×8 回=56%】 ②定期試験（動画を1つ視聴してその場で動画に対する感想文を書いてもらう問題）【44%】		
課題に対するフィードバック	①感想文は、匿名化処理を行った上で、受講生全員に PDF 形式で配信（共有）します。 ②定期試験は、希望があれば個別にフィードバックします。		
目的	保育・教育現場の現状を踏まえ、特別な支援を要する子どもの多様なニーズに対する理解を深めるとともに、必要な支援の在り方を考える。		
到達目標	特別支援に関する保育・教育現場の現状を理解する。 特別な支援を要する子どものニーズを理解し、適切な支援を考えることができる。		
履修上の注意	<b>【重要】最終的に栄養教諭になるか否かは別として、特別支援教育を学ぶ貴重な機会です。難易度は高くありません。ぜひ前期の【教育原理】から引き続き、初回の授業から参加してください。</b> 1. 7.5 回の開講科目ですので、 <b>欠課を2回してしまうと失格（D評価）</b> となります。 2. 授業時間中に使用しますので、 <b>①75mm×75mm 以上の付箋（テキストに直接書き込むことに抵抗感のある場合のみ）、②スマートフォンを必ず持参してください。</b> 3. 限られた開講回数では要点のみを扱うに留まりますので、自主自学が基本です。 4. 学習内容が現実社会に関係していることを視覚でイメージできるようにするため、ほぼ毎回の授業時間の一部は映像作品の鑑賞に充てます。		
オフィスアワー	火曜日 15 時 00 分～16 時 00 分（C B 0 7 研究室）		
<b>授業計画</b>		<b>準備学習（予習・復習）の内容および、時間</b>	
1	<b>オリエンテーション</b> ●座席の確定（座席表の作成） ●プレゼンテーションの日程調整とグループ編成 ●授業の進行方法と履修上の注意に関する説明 ●Google Classroom への招待と参加確認 <b>「障害（児・者）」とは（障害と社会的障壁）</b> ●視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
2	<b>特別支援教育の制度と歴史</b> ●特別支援教育に関する制度の理念や仕組みの理解	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
3	<b>障害のある子どもの学習上・生活上の課題</b> ●発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程 ●視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
4	<b>障害のある子どもへの支援体制・支援方法</b> ●発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法 ●特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
5	<b>障害のある子どもの進路選択（就職と進学）</b> ●「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容の理解 ●個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
6	<b>障害のある子どもの就学先の選択</b> ●特別支援教育に関する制度の理念や仕組みの理解 ●「通級による指導」の教育課程上の位置づけと内容 ●個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
7	<b>特別な教育的ニーズのある児童生徒の把握・支援</b> ●特别的教育的ニーズのある児童生徒の学習上・生活上の困難や組織的な対応の必要性	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
8	<b>まとめ（半期の授業で学んだことの振り返り）</b> ●特別支援教育に関する制度の理念や仕組みの理解 ●発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程 ●達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法	日頃からテキストや配布資料を読み自学すること(2時間)	
テキスト	前期に開講した【教育原理】から継続して、二本柳覚編『図解でわかる障害福祉サービス』（中央法規出版）を指定します。第1回から本格的に使用します。		
指定図書	あり（巻末参照）		

※実務経験のある教育による担当教員の実務経験、教育内容

実務経験：障害者総合支援法で定められた自立訓練事業や地域生活支援事業による、知的障害や発達障害のある青年を対象としたフリースクールで学習支援や運営に携わってきた。また、文部科学省が実施している「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」事業で、NPO 法人与行政による障害者の生涯学習プログラム開発にも携わってきた。

教育内容：「障害児教育は教育の原点」と言われるように、これまで担当者が関わってきた知的障害や発達障害のある青年の事例や、彼らが過ごしてきた学校生活等を学生に紹介することで、軽度知的障害や発達障害のある児童生徒の生活上学習上の困難性やに支援の方法について具体的に解説する。

科目名	教育課程総論		担当者	佐藤光咲
区分等	1年次・前期 [講義] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①レポート (60%)、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度 (20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	教育課程の意味やその編成の原理について理解し、学校における教育課程の編成の方法を学ぶ。とりわけ、学習指導要領の変遷を基軸として理解を深めさせる。さらに、教育課程編成における現代的な課題について、その背景を理解するとともに、その実践ができるような資質能力を養う。			
到達目標	日本の学校教育における教育課程（カリキュラム）について、その成立過程やその意図、あるいは当時の学力観をもとに、説明することができる。また、現代的な課題に関するカリキュラム開発のあり方について事例をあげて説明することができる。			
履修上の注意	テキストは必ず持参すること。			
オフィスアワー	火曜日 15時～16時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスー学ぶとは何か、教育の目的		自身の経験と照らし合わせて、学ぶ意味や教育の目的について考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
2	教育課程、カリキュラムとは～その編成		全国すべての子どもに教育を実施するためには何が必要か考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
3	教育課程と学習指導要領、そして教科書		学習指導要領や教科書の役割をまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
4	学習指導要領の歴史的変遷①―戦後の教育と経験主義（コア・カリキュラムの展開）		テキストの指定ページを読み概要をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
5	学習指導要領の歴史的変遷②―高度経済成長期と系統主義（教育内容の現代化と子どもの学力）		テキストの指定ページを読み概要をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認 (1時間)	
6	カリキュラム改革とその背景―「ゆとり」と個性、「生きる力」と確かな学力、「知識基盤社会」		自身が受けてきたゆとり教育について振り返り、まとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
7	新しい時代に求められる資質・能力と「社会に開かれた教育課程」、カリキュラム・マネジメント―食育のカリキュラムの事例を通して		現行学習指導要領の趣旨や特色等について調べる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
8	わが国の教育課程の特色と課題―学力格差とその対応等		わが国の教育課程の特色と課題について調べ、考えをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
テキスト	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	教育方法論		担当者	佐藤光咲、佐藤 恵
区分等	1年次・後期 [講義] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①学習指導案作成と模擬授業 (50%) ②プレゼンテーション・情報機器の活用力 (40%) ③履修カード (10%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題 (レポート等) を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	(1) よい授業とはどんな授業であるかを知り、授業のデザインにとって必要かつ重要な事項を理解させる。 (2) 授業デザインや教育効果を高める情報機器の効果的な活用の基礎的技能を身につけさせる。 (3) 授業デザインと模擬授業の実践を通して、基礎的な実践力を育てる。			
到達目標	授業とは何かを理解し、小・中学生が授業を受けようとする動機づけを意識しながら教材を考えるとともに、指導案の作成、授業の運営など、教育の方法を身につける。			
履修上の注意	「説得力をもって相手に伝えるにはどうすれば良いか」という問題意識をもって、積極的に授業に参加すること。			
オフィスアワー	金曜日 15時～16時			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	ガイダンス、授業とは何かー授業の目標と授業を行う上で必要な準備と教材、児童生徒の実態把握の意義と方法など (佐藤光咲、佐藤恵)	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせてよい授業や思い出に残る授業についてまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
2	児童生徒の発達に応じた教材とその活用法 (佐藤光咲)	授業における教材や資料がどのような働きをもつか、自身が受けてきた教育経験と照らし合わせてまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
3	授業の形態と活用、指導言と発問 (佐藤光咲)	教師が授業中に話す言葉や働きかけにはどんな働きがあるか考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
4	食に関する指導の授業展開と評価法 (佐藤光咲)	食に関する授業について、自分の構想をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
5	情報機器とその活用法 (佐藤恵)	情報機器の授業における活用法について自身の経験をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
6	プレゼンテーションと評価・改善 (佐藤恵)	プレゼンテーション練習をする。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
7	情報機器を活用した指導の構想と指導案づくり (佐藤光咲)	授業の構想と指導案づくりをする。(3時間)		
8	模擬授業と評価・改善 (佐藤光咲、佐藤恵)	模擬授業の準備や練習をする。(1時間) 模擬授業の評価及び授業のまとめをする。(1時間)		
テキスト	学習資料配付 (毎時間)。			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	道徳・特別活動及び総合的な学習		担当者	佐藤光咲
区分等	1年次・後期〔講義〕1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①レポート(60%)、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度(20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポート(課題)を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	学校教育の中で教科のほかに、子どもの成長や自己実現にとって重要な役割を担う「道徳教育」や「特別活動」、「総合的な学習の時間」の意義や目標を理解する。また、「道徳教育」や「道徳科」の指導、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」の指導の実際を学びながら、これらの内容や指導方法の基本について理解を深める。			
到達目標	(1)道徳教育の意義と役割、ねらいについて学び、道徳的な実践意欲と態度を育てる「道徳科」の指導方法の基本を理解する。 (2)特別活動の意義と特質、ねらいについて学び、「学級活動」「生徒会活動」など4つの内容と指導方法の基本を理解する。 (3)「総合的な学習の時間」の意義と特質、ねらいについて学び、指導計画の作成、指導方法の基本を理解する。 (4)「道徳科」及び「学級活動」、「総合的な学習の時間」における食に関する授業の具体例を考察しながら指導案の作成や指導法の基本を理解し、教育実習において授業が実践できるようにする。			
履修上の注意	講義と演習を併用しながら進める。			
オフィスアワー	金曜日 15時～16時			
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間		
1	ガイダンス、「道徳教育」、「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の意義と役割	自身の経験から道徳教育、特別活動及び総合的な学習の時間について特色をまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
2	学習指導要領における「道徳教育」、「道徳科」の目標と内容	テキストを読み、道徳教育、道徳科の目標のポイントをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
3	「道徳科」の授業の実際、指導方法の基本～「手品師」の授業を通して	小・中学校における道徳の時間の授業を振り返り、授業の進め方のポイントをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
4	「総合的な学習の時間」の目標、及び全体計画と指導計画について	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて、総合的な学習の時間についての意義や活動の思い出をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
5	「総合的な学習の時間」の指導構想と評価	総合的な時間の計画を構想し、ポイントをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
6	特別活動の目標と内容、「学級活動」における指導の特色と実際	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて、特別活動についての意義や活動の思い出をまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
7	「児童(生徒)会活動」、「クラブ(部)活動」、「学校行事」の目標、内容と指導の実際	テキストを読み、学級活動の授業(食に関する指導)の進め方についてポイントをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
8	特別活動における食に関する指導事例と授業づくり	学級活動の特質を生かした食に関する指導構想をまとめておく。(1.5時間) 授業のまとめと確認をする。(0.5時間)		
テキスト	『小学校学習指導要領解説 道徳編』(最新版)(文部科学省著、東洋館出版) 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(最新版)(文部科学省著、ぎょうせい) 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	生徒指導		担当者	佐藤光咲
区分等	2年次・前期〔講義〕1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①レポート(60%)、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度(20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	生徒指導の意義や基本的な概念を理解し、学校教育における生徒指導上の諸課題とその解決に向けた考え方や対応についての基礎的な力を培う。			
到達目標	(1)生徒指導の意義、目的、機能を理解し、学校教育における生徒指導上の諸課題とその解決に向けた考え方を説明できる。 (2)学校における生徒指導の実際を学び、課題解決のための具体的な指導及び、対応を考えることができる。			
履修上の注意	講義を軸にグループディスカッションを適宜取り入れる。			
オフィスアワー	火曜日 15時～16時			
		<b>授業計画</b>	<b>準備学習(予習・復習)の内容および、時間</b>	
1	ガイダンス、生徒指導の意義と役割	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて生徒指導について自分なりの考えをもつ。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
2	生徒指導と教育課程との関連、生徒指導の組織と計画(学校における事例を通して)	テキストの指定したページを読み、予習する。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
3	生徒理解の意義と方法－発達段階の特徴と課題	生徒理解とは何をすることか考えをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
4	生徒指導の方法－集団指導と個別指導	集団指導と個別指導の特色、意義についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
5	問題行動とその対応(いじめその他)－チーム学校としての取り組み	いじめの起こりやすい状況、環境について自分の考えをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
6	授業における生徒指導－生徒指導の3機能、教師の実践事例を通して	授業における生徒指導とは何か、自分の考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
7	生徒指導と法律－校則、懲戒と出席停止、青少年育成条例など	自己の学校生活を振り返り、校則について考えをまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
8	自己実現に向かう生徒指導－キャリア教育等との関わり、社会的スキルの支援等	児童生徒が自己実現に向かう態度を育てる生徒指導はどうあるべきか、自分の考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
テキスト	『生徒指導提要』(最新版)(文部科学省著、教育図書) 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	教育相談		担当者	佐藤光咲
区分等	2年次・前期 [講義] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	①レポート (60%)、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度 (20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	教育相談の意義と役割を確認し、子どもや保護者の理解を促すために、教育相談の進め方として心理アセスメント及び各種相談技法について理解を深める。また、チーム学校としての教育相談の取り組みの実際を学び、子どもが自力解決できるための対応や支援の基礎を養う。			
到達目標	(1)教育相談の意義と役割、児童生徒理解の基本知識を説明できる。 (2)教育相談に必要なカウンセリングなどの技法の基礎を学び、教育相談の実際を通して理解を深める。 (3)不登校、虐待、発達障害等の問題を抱える保護者や子どもとの教育相談の在り方について理解を深める。 (4)教育相談における開発的支援として、社会的スキル、グループエンカウンター等の意義を理解し、指導方法の基礎を身に付ける。			
履修上の注意	グループワークやロールプレイングを取り入れる。			
オフィスアワー	火曜日 15時～16時			
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間		
1	ガイダンス、教育相談(及びカウンセリング)とは何かー学校における教育相談の意義や目的など	自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて教育相談について自分なりの考えをもつ。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
2	教育相談に生かす子ども理解ー一般的理解と個別的理解、発達理解(胎児期・幼児期・児童期・青年期)	教育相談において子ども理解はなぜ不可欠か考えをまとめ、理解の方法を予想する。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
3	教育相談に生かす心理学的基礎ー欲求・葛藤・自我の防衛機制など	前時に提示した防衛機能について種類、内容を図書やネットで調べ、まとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
4	教育相談の歴史とカウンセリング理論ーフロイト、ロジャーズ等	フロイトとロジャーズのカウンセリング(療法)の特色を図書やネットで調べ、まとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
5	カウンセリングマインドを生かした教育相談ー事例を通じた演習	望ましいカウンセリングとは何か、相談者の立場からまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
6	問題行動(反社会的・非社会的)への対応と教育相談ーチーム学校としての取り組み	テキストやネット等から不登校、虐待等の事例等についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
7	特別な支援を必要とする子どもと教育相談ー育てる教育相談と支援	テキスト等から主な発達障害の概要についてまとめておく。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)		
8	開発的教育的教育相談ー進路指導、キャリア教育、コーチングなど	自己実現に向かう相談、支援はどうあるべきか自身を振り返り、まとめておく。(1時間) 授業のまとめとレポート作成を構想する。(1時間)		
テキスト	『生徒指導提要』(最新版)(文部科学省著、教育図書) 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	栄養教育実習指導		担当者	高山裕子、佐藤光咲
区分等	2年次・前期 [講義] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	課題提出 (50%)、報告会の発表内容 (30%)、受講態度 (20%)。			
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説			
目的	栄養教育実習の事前・事後指導を主とする。事前指導は、教育実習生としての意識を高め、教育実習における自己目標の設定、研究授業における学習指導案・教材作成等の実践力を養う。事後指導では、設定した目標の達成度、研究授業実践における反省を含めて、教育実習を通して捉えた課題をまとめる。			
到達目標	栄養教育実習に際して、十分な準備、終了後の振り返りと整理・まとめを行い、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」を実践できる能力を修得する。			
履修上の注意	日頃から、礼節、言葉づかいなど、学生としての品位を保つよう心がけること。			
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	教育実習の意義と目的・実習内容、教育実習校の把握と確認 (高山)		授業内容の整理・まとめ (2時間)	
2	学校および児童・生徒の実態 実習計画と目標設定 (高山)		授業内容の整理・まとめ (2時間)	
3	教育実習の形態と関わり方 (観察実習・参加実習・授業実習・研究授業) (高山)		授業内容の整理・まとめ (2時間)	
4	研究授業準備 教材研究と学習指導案作成 (佐藤)		授業内容の整理・まとめ (2時間)	
5	研究授業準備 模擬授業と評価・改善 (佐藤)		授業内容の整理・まとめ (2時間)	
6	教育実習終了後の必要事項の確認 (高山)		実習日誌の整理、課題レポートの作成 (2時間)	
7	教育実習後の反省・教育実習報告会発表準備 (高山)		実習報告会資料の作成・発表準備 (2時間)	
8	教育実習報告会 (佐藤)		実習報告会の反省・履修カルテの記載 (2時間)	
テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』(学建書院) 文部科学省『食に関する指導の手引』(第二次改定版) (建学社)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科目名	栄養教育実習		担当者	高山裕子、佐藤光咲
区分等	2年次・前期 [実習] 1単位 選択/健康栄養専攻			
評価基準	実習校からの評価 (60%)、実習日誌 (20%)、受講態度 (20%)。			
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説			
目的	教育現場における栄養教諭の役割と職務「学校給食の管理」および「食に関する指導」を捉え、栄養教諭が行う、給食時間における食に関する指導や食に関する指導の授業の実践に取り組み、栄養教諭としての資質と実践力を習得する。			
到達目標	教育実習において、授業の参観と活動を主体的かつ積極的に行い、栄養教諭としての知識と教育方法を身に付け、実践することができる。			
履修上の注意	目的意識を持ち積極的に取り組むこと。 日頃から、礼節、言葉づかいなど、学生としての品位を保つよう心がけること。			
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の16:20～16:50			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
実習校が指定した教育実習期間・時間帯に5日間 (40時間) の教育実習を行う。 <実習内容> 1. 学校組織・学校運営・学校行事、学級活動などの参加・観察 2. 学校給食管理の実践・観察 3. 給食時間における食に関する指導の実践 4. 食に関連した授業およびその他の授業の観察 5. 研究授業の教材研究・授業実践・授業の反省			実習計画に基づき自己課題研究、研究授業のための教材研究などの準備とふり返りをしっかり行うこと。	
テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』(学建書院) 文部科学省『食に関する指導の手引』(第二次改定版) (建学社)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として県保健所・研究機関勤務

教育内容：教育現場における栄養教諭の役割と職務「学校給食の管理」および「食に関する指導」を捉え、栄養教諭が行う、給食時間における食に関する指導や食に関する指導の授業の実践に取り組み、栄養教諭としての資質と実践力を習得する。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		担当者	佐藤光咲、織田栄子、高山裕子
区分等	2年次・後期〔演習〕2単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	①自己課題研究の発表とレポート提出（70%） ②授業参加態度、演習での貢献度（20%） ③履修カードの内容と提出（10%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題やレポート等を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	健康栄養専攻においてこれまで学んできた知識と教育実習との体験を統合し、栄養教諭として学校給食管理と食に関する指導を行うための実践力を養う。			
到達目標	教員に求められている資質・力量を振り返り、自らの課題を自覚し、それを解決しようとする意欲と解決できる実践的能力の育成をめざすとともに、将来にわたる職能成長の素地を培う。			
履修上の注意	複数教員によるオムニバス形式の授業である。授業の形態として、講義、演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて用いる。			
オフィスアワー	火曜日 15時～16時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、授業の意義及び目標と内容 （佐藤・織田・高山）		これまで短大で履修した教職科目の内容とそのポイントについて、まとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認をする。（0.5時間）	
2	望ましい栄養教諭とは （佐藤）		自分の理想の栄養教諭像をまとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認をする。（0.5時間）	
3	学校給食施設の管理の実際（フィールドワーク） （高山）		授業のまとめと確認をする。（2時間）	
4	地場産物を活用した学校給食と食に関する指導 （高山）		課題をまとめてレポートを作成する（2時間）	
5	食育推進コーディネータとしての役割（校内・家庭・地域） （高山）		課題をまとめてレポートを作成する（2時間）	
6	幼児・児童・生徒の発達段階と食に関する指導 （織田）		授業のまとめと確認（1時間）	
7	個別相談指導における児童生徒：保護者への対応1 （織田）		授業のまとめと確認（1時間）	
8	個別相談指導における児童生徒：保護者への対応2 （織田）		授業のまとめと確認（1時間）	
9	学校の安全管理（食中毒対応を含む） （高山）		授業のまとめと確認をする（2時間）	
10	食に関する指導技術の理解 （高山）		授業のまとめと確認をする（2時間）	
11	給食の時間における食に関する指導 （高山）		課題をまとめてレポートを作成する（2時間）	
12	教科などにおける食に関する指導（食育の大切さ、楽しさを育てる授業づくり） （佐藤）		教科などにおける食に関する指導について、授業や教育実習で学んだことを振り返り、そのポイントをまとめる。（0.5時間） 授業のまとめと確認をする。（1時間）	
13	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究 （佐藤・織田・高山）		これまでの授業や実習内容から自己課題を設定し、研究をする。（1時間）	
14	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究 （佐藤・織田・高山）		研究とそのまとめを行う。（3時間）	
15	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題（発表） （佐藤・織田・高山）		研究のまとめと発表の準備を行う。（3時間） これまでの学修のまとめを行う（1時間）	
テキスト	各回の担当教員が適宜紹介する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

◎教養教育科目 全学共通

キリスト教学Ⅰ・Ⅱ		マツテュ フィリップ	
(書 名)	(著者・編者)	(出版社)	(冊)
人間と聖書 1～3	ラシャベル・アンドレ	サンパウロ	各 1
パノラマバイブル 体験する聖書 (2F 聖書コーナ)		日本聖書協会	1
イエス・キリストの生涯	三浦綾子	講談社	1
日本人にとってキリスト教とは何か	若松英輔	NHK出版	1
すべてには時がある	若松英輔・小友聡	NHK出版	1
知っているようで実は知らない世界の宗教	池上 彰	SB クリエイティブ	1
教皇フランシスコ コロナの世界を生きる	教皇フランシスコ	PHP 研究所	1
みんなの聖書絵本シリーズ全 36 巻		日本聖書協会	各 1
*絵本は保育コーナーにあり			

キャリアデザインⅠ・Ⅱ (進学コース)		近藤清兄	
英文法ビフォー&アフター	豊永 彰	南雲堂	1
樋口裕一の小論文トレーニング	樋口裕一	ブックマン社	1
常用字解 [第2版]	白川 静	平凡社	1
日本語力をつける ことばと漢字のレッスン	日英社編集所	日栄社	1

情報システム論		米山修司	
30 時間アカデミック Office2019	杉本くみ子ほか	実教出版	1
Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎	切田節子ほか	近代科学社	1
女子大生のためのコンピュータ教科書	齊藤 豊	電気書院	1
Word 2019 やさしい教科書	国本温子	SB クリエイティブ	1
PowerPoint 2019 やさしい教科書	リブロワークス	SB クリエイティブ	1
Excel 2019 やさしい教科書	門脇香奈子	SB クリエイティブ	1
Zoom やさしい教科書	相川浩之	SB クリエイティブ	1
今すぐ使えるかんたん Google Workspace 完全ガイド	田中友尋ほか	技術評論社	1
ブック 困った解決&便利技			
「そんなことも知らないの?」と思われたくない社会人のパソコンスキル大全	四禮静子	技術評論社	1
スペースキーで見た目を整えるのはやめなさい	四禮静子	技術評論社	1
エクセル方眼紙で文書をつくるのはやめなさい	四禮静子	技術評論社	1

国語表現Ⅰ・Ⅱ		栗森 貢	
作文に強くなる	馬場博治	岩波書店	2
日本語を反省してみませんか	金田一春彦	角川書店	1
日本語練習帳	大野 晋	岩波書店	2
論文の教室	戸田山和久	日本放送出版協会	2
「超」文章法	野口悠紀雄	中央公論社	1
受かる小論文・作文模範文例		新星出版社	2
日本語教室	井上ひさし	新潮社	2
書くことが思いつかない人のための文章教室	近藤勝重	幻冬舎	2
思考の整理学	外山滋比古	筑摩書房	2
子育ては言葉の教育から	外山滋比古	PHP 研究所	2
頭のよい子は「ことば」で育つ	外山滋比古	PHP 研究所	2

◎専門教育科目

Basic English Skills I・II		近藤清兄	
Soup Should Be Seen, Not Heard	Beth Brainard ほか	Dell Publishing	5
What's What 英語図詳大辞典	レジナルド・マラコニア・ジュニア	小学館	1
スヌーピーの50年	チャールズ・M・シュルツ	朝日新聞出版	1
英語のしくみがわかる基本動詞 24	小西友七	研究社	1

Listening I・II		近藤清兄	
新版 英語音声学・音韻論入門	フィリップ・カー	研究社	1
初級英語音声学	竹林 滋ほか	大修館書店	1
チャージャーの言語入門	ウド・フリース	開文社出版	1

TOEFL I・II		菅野 薫	
英語ことば選び辞典	小野史子	学研プラス	1
キリスト教・ユダヤ教・イスラム教の知識と英語を身につける	石井隆之	ベレ出版	1
文章力の基本	阿部紘久	日本実業出版社	1
DVD「しあわせの隠れ場所」		ワーナーホームビデオ	1
DVD「エリン・プロコピッチ」		ソニーピクチャーズ	1
*DVDはAVコーナーにあり			
極める!TOEFL iBT テストスピーキング・ライティング解答力	山内勇樹	スリーエーネットワーク	1
極める!TOEFL iBT テストリーディング・リスニング解答力	山内勇樹	スリーエーネットワーク	1
世界を変えた10人の女性	池上 彰	文藝春秋	1
わたしは13歳、学校に行けずに花嫁になる。	久保田恭代	合同出版	1
ぼくは12歳、路上で暮らしはじめたわけ。	国境なき子どもたち	合同出版	1
わたしは13歳、シリア難民。	国境なき子どもたち	合同出版	1
ウクライナから来た少女 ブラータ 16歳の日記	ズラータ・イヴァシコワ	世界文化社	1
山本美香という生き方	山本美香	オアシス文庫	1
Japan Times Alpha			
地図でスッと頭に入る世界の民族と紛争	祝田秀全	昭文社	1
外国語を使って働きたい!	小島さなえ	左右社	1
世界の視点を読む ニュース英語入門	倉林秀男	ジャパンタイムズ出版	1
「国境なき医師団」の僕が世界一過酷な場所で見つけた命の次に大事なこと	村田慎二郎	サンマーク出版	1
英語にないなら作っちゃえ!これで伝わる直訳できない英語		朝日出版社	1
最新世界紛争地図	パスカル・ボニファス	ディスカバー	1

TOEIC L&R A・B		菅野 薫	
公式 TOEIC Listening&Reading プラクティスリスニング編		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading プラクティスリーディング編		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 8		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 9		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 10		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
TOEIC Bridge Listening&Reading 公式ワークブック		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
高校の英文読解が1冊でしっかりわかる本	肘井 学	かんき出版	1
はじめて受ける TOEIC L&R テスト 全パート完全攻略	小石裕子	アルク	1
TOEIC L&R テスト 文法問題で1000問	TEX 加藤	アスク	1
TOEIC テスト 中学英文法で600点!	小石裕子	アルク	1
公式 TOEIC Listening&Reading 500+		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
TOEIC L&R テスト リーディング 精読講義		アスク	1
TOEIC L&R はじめから超特急 金のパッケージ	TEX 加藤	朝日新聞出版	1

Global Issues I		菅野 薫	
JICA×SDGs 国際協力でサステナビリティな世界へ		山川出版社	1
世界の視点を読む ニュース英語入門	倉林秀男	ジャパンタイムズ出版	1

ドイツ語 I・II		横溝眞理	
メモ式ドイツ語早わかり	在間 進	三修社	2
メモ式ドイツ語早わかりチェックテスト	在間 進	三修社	2
標準ドイツ語 新訂版	常木 実	郁文堂	3

韓国語 I・II・III・IV		ジョン・サーロー	
ハングルの初歩の初歩	中村 完	大修館書店	1
朝鮮語のすすめ	渡辺吉鎔	講談社	1
ハンドブック韓国入門	松原孝俊	東方書店	1
NEW ポータブル日韓・韓日辞典	民衆書林編集部	三修社	1
朝鮮語辞典	油谷幸利ほか	小学館	1
コスモス朝和辞典	菅野裕臣	白水社	1

中国語 I・II		周 業欣	
Why?にこたえる はじめての中国語の文法書	相原 茂ほか	同学社	1
簡明中国語文法 ポイント100	馬 真 ほか	白帝社	1
こうすれば話せる CD 中国語	讚井唯允ほか	朝日出版社	1
中国語の文法と使い方 55	植田渥雄	三修社	1
現代中国語辞典	香坂順一	光生館	1
中日辞典 第3版	相原 茂	講談社	1
中日辞典 第3版		小学館	1
日中ことわざ辞典	金丸邦三	同学社	1

心理学A		織田栄子	
社会心理学	池田謙一 ほか	有斐閣	1
臨床心理学	丹野義彦 ほか	有斐閣	1
心理学 新版	無藤 隆 ほか	有斐閣	1
司法犯罪心理学	越智啓太	サイエンス社	1
Newton ゼロからわかる心理学 (増補第2版)		ニュートンプレス	1
Newton 心理学実践編		ニュートンプレス	1
心理学大図鑑		ニュートンプレス	1
心のしくみと働き図鑑	黒木俊秀	創元社	1

心理学B		織田栄子	
認知心理学	箱田裕司 ほか	有斐閣	1
心理学ビジュアル百科	越智啓太 ほか	創元社	1
図説 世界を変えた50の心理学	ジェレミー・スタンルーム	原書房	1
Newton ゼロからわかる心理学		ニュートンプレス	1
Newton ゼロからわかる心理学 (増補第2版)		ニュートンプレス	1
Newton 心理学実践編		ニュートンプレス	1
Newton 脳とは何か (改訂第2版)		ニュートンプレス	1
Newton 脳とは何か活用編 (改訂第2版)		ニュートンプレス	1
Newton 睡眠の教科書 (増補第2版)		ニュートンプレス	1

日本文学A・B		栗森 貢	
新版 作品で読む宮沢賢治	宮沢賢治ほか	新典社	1
賢治から、あなたへ 世界のすべてはつながっている	ロジャー・パルバース ほか	集英社インターナショナル	1
集中講義 宮沢賢治	山下聖美	NHK 出版	1

Webプログラミング・プログラミングⅡ		米山修司	
HTML5&CSS3 標準デザイン講座	草野あけみ	翔泳社	1
JavaScript 本格入門	山田祥寛	技術評論社	1
30 時間アカデミック Web デザイン	影山明俊ほか	実教出版	1
30 時間アカデミック JavaScript 入門	大川晃一ほか	実教出版	1
はじめての JavaScript 第3版	Ethan Brown ほか	オライリージャパン	1
HTML5&CSS3 辞典	株式会社アଙ୍କ	翔泳社	1
まとめて学ぶ Python&JavaScript	伊尾木将之	日経 BP	1
スラスラ読める JavaScript ふりがなプログラミング増補改訂版	リブロワークスほか	インプレス	1
[コードの気持ちが変わる!]プログラミングの英単語	松元大地	技術評論社	1

情報と社会		米山修司	
こども SDGs なぜ SDGs が必要なのかがわかる本	秋山宏次郎ほか	カンゼン	1
世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本	池上 彰	Gakken	1
未来を変える目標 SDGs アイデアブック	Think the Earth ほか	紀伊国屋書店	1
知っていますか? SDGs	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房	1
著作権のツボとコツがゼッタイにわかる本	三坂和也ほか	秀和システム	1

情報科学入門・ICT 基礎		米山修司	
教養のコンピュータサイエンス情報科学入門	小館香椎子ほか	丸善出版	1
キタミ式イラスト IT 塾 IT パスポート 令和 05 年	きたみりゅうじ	技術評論社	1
情報処理試験の計算問題がちゃんと解ける本 第2版	坂下夕里	翔泳社	1
コンピュータ科学の基礎	田嶋拓哉ほか	共立出版	1
IT Text 一般情報教育	稲垣知宏ほか	オーム社	1
コンピュータ科学序説	米村俊一ほか	コロナ社	1
情報セキュリティ読本 六訂版	情報処理推進機構	実教出版	1
キタミ式イラスト IT 塾 IT パスポート 令和 06 年	きたみりゅうじ	技術評論社	1
高校生だけじゃもったいない	中山心太	PHP 研究所	1
仕事に役立つ新・必修科目「情報 I」			

Python I ・ Python II		米山修司	
スッキリわかる Python 入門	国本大悟ほか	インプレス	1
新・明解 Python 入門	柴田望洋	SB クリエイティブ	1
Python プログラミング逆引き大全 400 の極意	金城俊哉	秀和システム	1
みんなの Python 第4版	柴田 淳	SB クリエイティブ	1
リーダブルコード (日本語版)	Dustin Boswell ほか	オライリージャパン	1
スラスラ読める Python ふりがなプログラミング 増補改訂版	リブロワークスほか	インプレス	1
独習 Python	山本祥寛	翔泳社	1
よしもとプログラミング部と学ぶ Python「超」入門教室	よしもとプログラミング部ほか	SB クリエイティブ	1
Python チュートリアル 第4版	Guido van Rossum ほか	オライリージャパン	1
徹底攻略 Python3 エンジニア認定[基礎試験]問題集	株式会社ビープラウドほか	インプレス	1

データサイエンス入門		米山修司	
Excel で学ぶ統計解析本格入門	日花弘子	SB クリエイティブ	1
はじめての統計学	鳥居泰彦	日本経済新聞社	1
完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	1
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎ほか	講談社	1
データサイエンス入門	竹村彰通ほか	学術図書	1
Excel データ分析の教科書	日花弘子	SB クリエイティブ	1
統計学図鑑	栗原伸一ほか	オーム社	1
よくわかる統計学 介護福祉・栄養管理データ編第2版	石村貞夫ほか	東京図書	1
やさしく学べる統計学	石村園子	共立出版	1
基礎統計学	鈴木良雄ほか	講談社	1
1 歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方	神林博史	ミネルヴァ書房	1
アンケート分析入門 Excel による集計・評価・分析	菅 民郎	オーム社	1
わかる統計学	松村康弘ほか	化学同人	1
統計学が最強の学問である	西内啓著	ダイヤモンド社	1
管理栄養士・栄養士のための統計処理入門	武藤志真子ほか	建帛社	1
図解 アンケート調査と統計解析がわかる本新版	酒井 隆	日本能率協会マネジメントセンター	1

悩めるみんなの統計学入門	中西達夫	技術評論社	1
健康・栄養データを読む力は「生活・仕事力」をアップさせる	宮城重二	光生館	1
統計学のための数学教室	永野裕之ほか	ダイヤモンド社	1
ふたたびの確率・統計 [1] 確率編	永野裕之	すばる舎	1
ふたたびの確率・統計 [2] 統計編	永野裕之	すばる舎	1
統計学×データ分析 基礎から体系的に学ぶデータサイエニ	浜松ウエジマ	SBクリエイティブ	1
エンティスト養成講座			
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス	保本正芳	Noa 出版	1

Web ページ作成 I・II		ベ ジンソク	
Dreamweaver レッスンブック	関口和真	ソシム	1
html&css と Web デザイン入門講座	Mana	SBクリエイティブ	1
HTML&CSS と Web デザインが 1 冊できちんと身につく本	服部雄樹	技術評論社	1
世界一わかりやすい Adobe XD	北村 崇	技術評論社	1
世界一わかりやすい Dreamweaver	中川正道	技術評論社	1

比較文化A		菅野 薫	
国際語としての英語	若本夏美 ほか	松柏社	1
日本語と英語 その違いを楽しむ	片岡義男	NHK出版	1
国際共通語としての英語	鳥飼玖美子	講談社	1
社会人のための英語の世界ハンドブック	坂井志延	大修館書店	2
そもそも英語ってなに？	里中哲彦	現代書館	1
他言語とくらべてわかる英語のしくみ	宍戸里佳	ベレ出版	1

比較文化A		横溝眞理	
現代ドイツにおける学校制度改革と学力問題	布川あゆみ	晃洋書房	1
現代ドイツを知るための 67 章 第 3 版	浜本隆志ほか	明石書店	1
現代ドイツ情報ハンドブック+オーストラリア・スイス 改訂版	在間 進ほか	三修社	1
ドイツの学校にはなぜ「部活」がないのか 非体育会系ス	高松平藏	晃洋書房	1
ポーツが生み出す文化、コミュニティ、そして豊かな時間			
ドイツ文化事典	石田勇治	丸善出版	1

比較文化A		近藤清兄	
沖縄語の入門 (改訂版)	中岡 敏ほか	白水社	1
はじめてのハワイ語	木村由香	小学館	1
スワヒリ世界をつくった「海の市民たち」	根本利通	昭和堂	1
Concise Oxford Dictionary of English Place-Names	Eilert Ekwall	Oxford University Press	1

比較文化A		米山修司	
わかるヨコハマ	横浜市教育委員会ほか	神奈川新聞社	1
港都横浜の文化論	小林照夫ほか	関東学院大学出版会	1
幕末・明治の横浜	斎藤多喜夫	明石書店	1
図説【横浜の歴史】	「図説・横浜の歴史」編集委	横浜市市民局市民情報	1
横浜開港と境域文化	員会 内海 孝	室広報センター 御茶の水書房	1

比較文化B		横溝眞理	
クリスマスの文化史	若林ひとみ	白水社	2
ドイツ クリスマスマーケットめぐり	見市 知	産業編集センター	1
きらめくドイツクリスマスマーケットの旅	久保田由希	マイナビ出版	1
クリスマス小事典	遠藤紀勝 ほか	社会思想社	1
キリスト教歳時記 知っておきたい協会の文化	八木谷涼子	平凡社	1

日本文化史A		渡部育子	
図説 秋田市の歴史	秋田市	秋田市	2

<b>日本文化史B</b>			<b>渡部育子</b>
元明天皇 元正天皇	渡部育子	ミネルヴァ書房	3
<b>スポーツ科学B</b>			<b>渡邊和仁</b>
観るまえに読む大修館スポーツルール 2024	大修館書店編集部	大修館書店	1
<b>消費生活論</b>			<b>小野寺倫子</b>
18歳からはじめる民法〔第5版〕	潮見佳男ほか	法律文化社	1
<b>ドイツ語圏文化A</b>			<b>横溝眞理</b>
現代ドイツ情報ハンドブック	在間 進ほか	三修社	1
はじめて学ぶドイツの歴史と文化	南 直人ほか	ミネルヴァ書房	1
ドイツのシンプル家事	久保田由希	大和書房	1
ドイツの歴史を知るための50章	森井裕一	明石書店	1
環境と経済がまわる、森の国ドイツ	森まゆみ	晶文社	1
<b>食生活論</b>			<b>熊谷昌則</b>
食生活論	岡崎光子	光生館	1
食文化論	吉川誠次	建帛社	1
日本食の文化 「和食」の継承と食育	江原絢子	アイイ・コーポレーション	1
日本食の文化 「原始から現代に至る食のあゆみ」	江原絢子	アイイ・コーポレーション	1
<b>調理演習A・B</b>			<b>松田律子</b>
初めての料理 肉と卵 (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 魚と豆腐 (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 野菜と芋 (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 ご飯とめん (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	3
初めての手作り お菓子和パン (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	3
<b>基礎経済論</b>			<b>熊丸博隆</b>
落ちこぼれでもわかるミクロ経済学の本―初心者のための入門書の入門	木暮太一	マトマ商事;改訂新版	1
落ちこぼれでもわかるマクロ経済学の本―初心者のための入門書の入門	木暮太一	マトマ商事;改訂新版	1
経済学入門	奥野正寛	日本評論社	1
<b>時事経済</b>			<b>熊丸博隆</b>
コア・テキスト公共経済学	板谷純一 ほか	新世社	1
<b>食料経済</b>			<b>佐藤 了</b>
図説食料・農業・農村白書	農林水産省	農林統計協会	1
現代の経営 上・下 (ドラッカー名著集2・3)	P. E. ドラッカー	ダイヤモンド社	各1
わかりやすいマーケティング戦略 新版	沼上 幹	有斐閣	1
ドラッカー (経営学史叢書X)	河野大機	文真堂	1
飢餓と飽食のマーケティング	小林富雄	ブイツソリューション	1
世界の農業と食料問題のすべてがわかる本	八木宏典	ナツメ社	5
農山村は消滅しない	小田切徳美	岩波書店	1
知っておきたい「味」の世界史	宮崎正勝	角川学芸出版	1
図解 知識ゼロからのコメ入門	八木宏典	家の光協会	1
食と日本人の知恵	小泉武夫	岩波書店	1
すごい和食	小泉武夫	ベストセラーズ	1
日本料理の歴史	熊倉功夫	吉川弘文館	1
日本人は何を食べてきたのか	永山久夫	青春出版社	1
イザベラ・バードの日本紀行 上・下	イザベラ・バード	講談社	各1
水田農業と期待される農政転換	佐藤 了 ほか	筑波書房	1

戦争と農業	藤原辰史	集英社	1
日本人はなにをたべてきたか	原田信男	角川学芸出版	1

<b>秘書実務 I・II</b>		<b>小林紀子</b>	
入門ビジネス文書 新訂	三沢 仁	産能大学出版部	2
ビジネス敬語に慣れる本	宮腰 賢	チクマ秀版社	2
秘書英語	田中篤子	有斐閣	4

<b>ビジネス実務総論</b>		<b>佐藤 恵</b>	
組織を動かすコミュニケーション力	高橋真知子	実教出版	2

<b>ビジネス実務演習 I</b>		<b>佐藤 恵</b>	
集団コミュニケーション	浅井亜紀子	実教出版	2
日本人 礼儀作法のしきたり	飯倉晴武	青春出版社	2

<b>卒業研究</b>		<b>佐藤光咲</b>	
世界食物百科	マグロンヌ・トゥーサン＝サマ	原書房	1
コメを選んだ日本の歴史	原田信男	文藝春秋	1
ジャガイモの世界史	伊藤章治	中央公論新社	2
肉食の思想	鯖田豊之	中央公論新社	2
世界の食べもの 食の文化地理	石毛直道	講談社	1
物語 食の文化	北岡正三郎	中央公論新社	2
世界史を大きく動かした植物	稲垣栄洋	PHP	1
食の歴史 ～人類はこれまで何を食べてきたのか～	ジャック・アタリ	プレジデント社	1
食べる	西江雅之	青土社	1

<b>卒業研究</b>		<b>栗森 貢</b>	
SDGs のきほん	稲葉茂勝	ポプラ社	1
未来の授業 SDGs ライフキャリアBOOK	佐藤真久	宣伝会議	1
世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本	池上 彰	Gakken	1

<b>卒業研究</b>		<b>近藤清兄</b>	
秋田のことば	秋田県教育委員会	無明舎出版	1
解説秋田方言 その諸相を探る	北条忠雄	「解説秋田方言」刊行会	1
方言の地図帳	佐藤亮一	講談社	1

<b>卒業研究</b>		<b>菅野 薫</b>	
もうひとつの秋田	アートNPOゼロダテ	アートNPOゼロダテ	1
あきたをおしえて	こばやしたけし	くまがい書房	1
地方は活性化するか否か	こばやしたけし	学研プラス	1
やさしいデザインの教科書	瀧上園枝	エムティエヌコーポレーション	1
地域を変えるデザインコミュニティが元気になる 30 のアイデア	Issue+design project	英治出版	1
デザインの基本ノート	尾沢早飛	SBクリエイティブ	1
全予測 2020 年代の日本 図解・未来の年表	河合雅司	講談社	1
勝平得之 創作版画の世界	加藤隆子	秋田魁新報社	1
AI 翻訳革命 あなたの仕事にもう英語学習はいらない	隅田英一郎	朝日新聞出版	1
データで読む地域再生		日経 BP	1
戦争は女の顔をしていない (岩波文庫)	スヴェトラナ・アレクシエヴィチ	岩波書店	1
// 漫画版 1	小梅けいと	KADOKAWA	1
// 2	//	//	1
// 3	//	//	1

<b>卒業研究</b>		<b>米山修司</b>	
Java で学ぶ自然言語処理と機械学習	杉本 徹ほか	オーム社	1
自然言語処理の基礎	奥村 学	コロナ社	1
IT Text 自然言語処理	天野真家ほか	オーム社	1
実践入門 Word2Vec 自然言語処理活用ハンドブック	長崎俊紀	インプレス R&D	1
自然言語処理の基本と技術	奥野 陽ほか	翔泳社	1
Python で学ぶ テキストマイニング入門	石田基広	シーアントリアル研究所	1
Python・Colab・NLP 入門	井田昌之	近代科学社 Digital	1
コピペで簡単実行！キテレツおもしろ自然言語処理	Youwht	翔泳社	1

自然言語処理の教科書	小町 守	技術評論社	1
自然言語処理 三訂版	黒橋禎夫	放送大学教育振興会	1

Essay and Speech		菅野 薫	
相手を必ず動かす! 英会話のテクニック	清水崇文	アルク	1
英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ	平野次郎	KADOKAWA	1
セレブたちの卒業式スピーチ		朝日出版社	1
はじめての英語スピーチアクト	鈴木利彦	南雲堂	1
英語を話すために知っておきたい 知らない英文法	Mami	KADOKAWA	1
イラストと図解でぱっとわかる 英文法図鑑	田地野彰	KADOKAWA	1
すごい言語化	小暮太一	ダイヤモンド社	1
言語化大全	山口拓朗	ダイヤモンド社	1
AI 翻訳革命 あなたの仕事にもう英語学習はいらない	隅田英一郎	朝日新聞出版	1
こあら式 英語のフレーズ図鑑	こあらの学校	KADOKAWA	1
英語で言いたい 日本語の慣用表現	柴田真一	アルク	1

ドイツ語Ⅲ		横溝眞理	
ドイツ留学案内			
大学篇	山本浩司 ほか	三修社	1
語学学校・サマーコース篇	山本浩司 ほか	三修社	1
ワーキングホリデー in ドイツ	オセアニア交流センター	三修社	1

ドイツ語Ⅳ		横溝眞理	
トラブらないトラベル会話			
ドイツ語 ドイツを旅する	沖島博美	三修社	1
ドイツ語 スイスを旅する	鈴木光子	三修社	1
おいしく食べて楽しいドイツ語	祐子・タム	三修社	1

データベース活用		周 業欣	
よくわかる Microsoft Access 基礎	富士通エフ・オー・エム	富士通オフィス機器	1
よくわかる Microsoft Access 応用	富士通エフ・オー・エム	富士通オフィス機器	1

保育学		石井美和子	
保育のまなざし	井桁容子	チャイルド本社	1
母親というものは	葉 祥明	学研プラス	2
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育			
第1巻 睡眠・食事・生活の基本	池田輝久 ほか	中央法規	1
第2巻 運動・遊び・音楽	小西行郎 ほか	中央法規	1
第3巻 言葉・非認知的な心・学ぶ力	小椋たみ子 ほか	中央法規	1
新保育学	岡野雅子 ほか	南山堂	2

ビジネス実務演習Ⅱ		佐藤 恵	
コミュニケーション・スキルの学び	木下直子 ほか	実教出版	3

教育原理		寺谷直輝	
教育原理	坂越正樹ほか	光生館	1
教育原理 (新基本保育シリーズ2)	矢藤誠慈郎ほか	中央法規出版	1
新・教職課程演習 第2巻 (教育史)	尾上雅信ほか	協同出版	1
SDGs時代の保育実践アイデア帳 一緒につくろう! 持続可能な社会	小西貴士ほか	フレーベル館	1
今日から実践保育で取り組むSDGs	秋山宏次朗	新星出版社	1

教育心理学		織田栄子	
こどもとむかいあうための教育心理学演習	会田元明	ミネルヴァ書房	2
こどもとむかいあうための教育心理学概論	会田元明	ミネルヴァ書房	2
発達心理学辞典		ミネルヴァ書房	1

教育方法論		栗森 貢	
子どもの才能を伸ばすモンテッソーリ教具 100	藤崎達宏ほか	三笠書房	1
専門家と作ったスキンシップ絵本 ぎゅ	はるな檸檬ほか	文響社	1

幼児理解に基づいた評価	文部科学省	ぎょうせい	2
幼児の思いをつなぐ指導計画作成と保育の展開	文部科学省	チャイルド社	2
指導と評価に生かす記録	文部科学省	チャイルド社	2
<b>保育内容総論</b>			<b>大曾基宣</b>
非認知能力を育てるあそびのレシピ	大豆生田啓友	講談社	2
子どものこころを感じてみようよ	葉 祥明	サンマーク出版	2
<b>保育内容・言葉A</b>			<b>栗森 貢</b>
保育内容 言葉	秋田喜代美 ほか	光生館	1
子どもとことば	岡本夏木	岩波書店	2
新版 保育内容・言葉	藪中征代ほか	教育出版	1
0～6歳児 言葉を育てる保育	福山多江子ほか	東洋館出版社	1
<b>乳児保育Ⅰ・Ⅱ</b>			<b>石井美和子</b>
伝わる心がめげばえるころ	神田英雄	かもがわ出版	1
子どもの発達と子育て・子育て支援	丸山美和子	かもがわ出版	1
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育			
第1巻 睡眠・食事・生活の基本	池田輝久 ほか	中央法規	2
第2巻 運動・遊び・音楽	小西行郎 ほか	中央法規	1
第3巻 言葉・非認知的な心・学ぶ力	小椋たみ子 ほか	中央法規	1
育ちのきほん	神田英雄	ひとなる書房	1
保育のまなざし	井桁容子	チャイルド本社	2
<b>こどもの音楽A・B</b>			<b>佐藤眞由子</b>
こどものうた 200 正・続		チャイルド本社	各2
*保育コーナーにあり			
<b>保育実習指導Ⅰ</b>			<b>石井美和子</b>
乳児のあそび大図鑑	あそび編集委員会	かもがわ出版	3
幼児のあそび大図鑑	あそび編集委員会	かもがわ出版	3
小林雅代のかならずできる ベストパネルシアター	小林雅代	ひかりのくに	3
楽しいエプロンシアター	中谷真弓	メイト	3
楽しいエプロンシアター2	中谷真弓	メイト	3
楽しいエプロンシアター3	中谷真弓	メイト	3
保育の表現活動	植草一世	学文社	2
保育の基本用語	長島和代	わかば社	2
保育のマナーと言葉	長島和代	わかば社	2
保育に役立つ 言語・表現・教材	松本和美	みらい	3
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田啓友ほか	中央法規	3
<b>社会福祉</b>			<b>寺谷直輝</b>
護られなかった者たちへ	中山七里	宝島社	1
図解でわかるソーシャルワーク	鈴木孝典ほか	中央法規出版	1
第2版 社会福祉（新基本保育シリーズ4）	松原康雄ほか	中央法規出版	1
働く人のための社会保障入門 君を守る社会の仕組み	藤本健太郎ほか	ミネルヴァ書房	1
<b>こども家庭福祉</b>			<b>寺谷直輝</b>
改訂版 施設実習パーフェクトガイド	守 巧 ほか	わかば社	1
児童の福祉を支える子ども家庭福祉【第2版】	吉田眞理	萌文書林	1
社会福祉の動向 2024	社会福祉の動向編集委員会	中央法規出版	1
保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典	中坪史典ほか	ミネルヴァ書房	1
<b>こども家庭支援の心理学</b>			<b>織田栄子</b>
子ども家庭支援の心理学	白川佳子 ほか	中央法規	1
子ども家庭支援の心理学	青木紀久代	みらい	1
子ども家庭支援の心理学	松本園子 ほか	ななみ書房	1

こどもの理解と援助		織田栄子	
こどもの詩	川崎 洋	文藝春秋	1
ほお…、ここが地球のほいくえんか	てい先生	ベストセラーズ	2
のっぼさんの「小さな人」となかよくできるかな？	高見のっぼ	小学館	1

こどもの食と栄養		須磨亜沙子	
図解でよくわかる 新・食育ガイドブック	堤ちはる	メイト	1
0～5歳児 食育まるわかりサポート&素材データブック		学研プラス	1
組み合わせが生きる！保育園の献立300	文京区保育園栄養士会	芽ばえ社	1
食育パワーアップ掲示板 天地人ベスト版	「月刊食育フォーラム」編集部	健学社	1

保育指導法		石井美和子	
実習における遊びの援助と展開	久富陽子	萌文書林	1
保育実習・教育実習の設定保育	片山紀子 ほか	朱鷺書房	1
おてて絵本入門	サトシン	小学館	3
ここがポイント！3法令ガイドブック	無藤 隆 ほか	フレーベル館	5
これからの時代の保育者養成・実習ガイド	大豆生田啓友ほか	中央法規	2

保育内容・健康		大曾基宣	
保育内容「健康」（新しい保育講座）	川邊貴子ほか	ミネルヴァ書房	1

保育内容・環境		大曾基宣	
あそびワンダーブック 20th Anniversary	愛知県児童総合センター		1
思いをつなぐ 保育の環境構成			
0・1歳児クラス編 触れて感じて人とかかわる	宮里暁美	中央法規	3
2・3歳児クラス編 遊んで感じて自分らしく	宮里暁美	中央法規	3
4・5歳児クラス編 遊びを広げて学びに変える	宮里暁美	中央法規	3
マークの図鑑	小学館	小学館	2
森の工作図鑑			
Vol.1 どんぐり・まつぼっくり	岩藤しおい	いかだ社	1
Vol.2 落ち葉	岩藤しおい	いかだ社	1

保育原理		大曾基宣	
子どもを「人間としてみる」ということ	佐伯 胖ほか	ミネルヴァ書房	1
驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育	佐藤 学ほか	TOKYO CALENDAR	1
学びの物語の保育実践	大宮勇雄	ひとなる書房	1

保育内容・言葉B		栗森 貢	
遊んで学ぶ文字・言葉	中島千恵子	黎明書房	1
0～6歳児 言葉を育てる保育	福山多江子ほか	東洋館出版社	1
新版 保育内容・言葉	藪中征代ほか	教育出版	1
幼い子の文学	瀬田貞二	中央公論新社	1

英語A・B		菅野 薫	
やさしい英語の相性図鑑	すずきひろし	ソシム	1
I spy letters	Jean Marzollo	Scholastic Inc	1
I spy animals	Jean Marzollo	Scholastic Inc	1
コアラ式英語のニュアンス図鑑	こあらの学校	KADOKAWA	1
もう一度始める英語入門	菅谷とも子	成美堂出版	1
ワードセンス 伝えるための単語力	大西泰斗ほか	桐原書店	1
高校 やさしくわかりやすい英文法	組田幸一郎	文英社	1
イラストと図解でパッとわかる英文法図鑑	田地野彰	KADOKAWA	1
Hunggy Kissy	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Splash	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Binky	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Yummy Yucky	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Baby Happy Baby Sad	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Boo	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Fa La La	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1

Higher higher	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Quiet LOUD	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Toot	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
難訳和英オノマトペ事典	松本弘道	さくら社	1
12歳までに知っておきたい語彙力図鑑	齋藤 孝	日本能率協会	1
Dear Zoo A Lift-the-Flap Book	Rod Campbell	Little Simon;Brdbk Anv 版	1
Twinkle, Twinkle, Little Star		Cartwheel Books;Illustrated 版	1
Where's Spot?	Eric Hill	Warne	1
Excuse Me!		Grosset&Dunlap	1
Potty	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1

教育原理		寺谷直輝	
これからの教育学	神代健彦ほか	有斐閣	1
希望をつむぐ教育	行田稔彦ほか	生活ジャーナル	1
子ども食堂をつくろう！人がつながる地域の居場所づくり	豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク	明石書店	1
教育原理（よくわかる！教職エクササイズ1）	島田和幸ほか	ミネルヴァ書房	1
教育原理・教職原論（新・教職課程演習 第1巻）	平井悠介ほか	協同出版	1

教育課程総論		寺谷直輝	
教育・保育カリキュラム論（新基本保育シリーズ13）	千葉武夫ほか	中央法規出版	1
改訂版 幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド	小櫃智子ほか	わかば社	1
改訂版 実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド	小櫃智子	わかば社	1
新・教職課程演習 第3巻（教育方法と技術・教育課程）	樋口直宏ほか	協同出版	1
幼児小の「架け橋プログラム」実践のためのガイド	湯川秀樹ほか	ミネルヴァ書房	1

教育制度論		寺谷直輝	
教育行政学 子ども・若者の未来を拓く	横井敏郎	八千代出版	1
図解・表解教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト 新訂第4版	坂田 仰	教育開発研究所	1
新・教職課程演習第4巻（教育法規・教育制度・教育経営）	藤井穂高ほか	協同出版	1
幼児教育・保育制度改革の展望 教育制度研究の立場から	秋川陽一ほか	教育開発研究所	1
保育学講座2（保育を支えるしくみ 制度と行政）	日本保育学会	東京大学出版会	1

教職実践演習		寺谷直輝	
保育現場の ICT 活用ガイド 実践に役立つ・業務の効率化につながる	田中浩二	中央法規出版	1
ICTを使って保育を豊かに ワクワクにつながる&広がる28の実践	秋田喜代美ほか	中央法規出版	1

教育相談		織田栄子	
カウンセリングの話	平木典子	朝日新聞社	1
カウンセリングを学ぶ	水島恵一 ほか	有斐閣	1
河合隼雄のカウンセリング入門	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング講話	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング教室	河合隼雄	創元社	1
心理臨床大事典	氏原 寛 ほか	培風館	1

健康栄養専攻共通			
Nブックスシリーズ		建帛社	各1
健康・栄養科学シリーズ		南江堂	各1
ヒューマン・ニュートリション	J.S Garrow ほか	医歯薬出版	2
活躍する管理栄養士	田中浩子	文理閣	5
海を渡った栄養士たち		青年海外協力協会	1

英語A・B		近藤清兄	
スヌーピーの50年	チャールズ・M・シュルツ	朝日新聞出版	1
A peanuts book featuring Snoopy (8)~(10)		角川書店	各1

解剖生理学 I・II		齋藤 謙	
解剖学 1～3	森 於菟 ほか	金原出版	各 1
解剖学 続巻	森 優	金原出版	1
図説 ヒトのからだ	中野昭一	医歯薬出版	2
図説 からだの仕組みと働き	中野昭一	医歯薬出版	2
からだの構造と機能	A. シェファー	西村書店	2
新入門解剖図譜	三井但夫 ほか	建帛社	1

生化学		浅野純平	
細胞機能と代謝マップ I	日本生化学会	東京化学同人	1
ホートン生化学	H. Robert Horton	東京化学同人	1
生化学辞典 第4版	今堀和友 ほか	東京化学同人	1
基礎の生化学 第2版	猪飼 篤	東京化学同人	1
図説 生化学	石倉久之 ほか	丸善	1
標準生化学	藤田道也	医学書院	1
基礎から考える化学	山崎昶	化学同人	1
有機化学概論	塩田三千夫 ほか	裳華房	1
基礎化学 (栄養科学シリーズ NEXT)	辻 英明 ほか	講談社	1
ステップアップ 大学の総合化学	齋藤勝裕	裳華房	1
ネオパルノート 化学講座		第一学習社	1
標準細胞生物学	石川春律 ほか	医学書院	1
もっとよくわかる! 免疫学	河本 宏	羊土社	1

食品学総論		熊谷昌則	
新訂 原色食品図鑑	小原哲二郎 ほか	建帛社	3
食品化学 改訂新版	藤巻正生 ほか	朝倉書店	3
食品学 I	水品善之 ほか	羊土社	5
新版 食品化学用語辞典	岡本 奨	建帛社	2
栄養・生化学辞典 (普及版)		同文書院	1
食の本棚 栄養満点おいしい人生を与えてくれる70冊	河合知子	幻冬舎ルネッサンス	1

食品学各論		熊谷昌則	
食品材料 (エスカ・シリーズ)	五十嵐 脩 ほか	同文書院	3
食品図鑑 オールカラー版	芦澤正和 ほか	女子栄養大学出版部	2
食品学 II	水品善之 ほか	羊土社	5
新櫻井総合食品辞典		同文書院	3
日本食品大事典 新装 第二版	平 宏和 ほか	医歯薬出版	1

食品衛生学		熊谷昌則	
新訂 原色食品衛生図鑑	辺野喜正夫 ほか	建帛社	2
食中毒の科学	本田武司	裳華房	1
食品表示検定認定テキスト 初級		ダイヤモンド・フリードマン社	1
食品衛生基本テキスト	コーデックス食品規格委員会	鶏卵肉情報センター	1
食品添加物インデックス PLUS	日本輸入食品安全推進協会	中央法規出版	1
食品機能の表示と科学	清水俊雄	同文書院	1
食品添加物の使用基準便覧		日本食品衛生会	1
生食のはなし	川本伸一 ほか	朝倉書店	1

栄養学総論		浅野純平	
基礎栄養学 (栄養科学シリーズ NEXT)	木戸康博 ほか	講談社	1
コンパクト栄養学	脊山洋石	南江堂	1
栄養の基本がわかる図解事典	中村丁次	成美堂出版	1
栄養の教科書	中嶋洋子	新星出版社	1
最新 基礎栄養学	吉田 勉 ほか	医歯薬出版	1

臨床栄養学 I		須磨亜沙子	
病気がみえる全 14 巻	医療情報科学研究所	メディックメディア	各 1
カラー図解 人体の正常構造と機能 I～X	医療情報科学研究所	日本医事新報社	各 1
潰瘍性大腸炎とクローン病の栄養管理	中東真紀	講談社	1
人体の構造と機能	内田さえ	医歯薬出版	1

エッセンシャル 臨床栄養学	佐藤和人	医歯薬出版	1
---------------	------	-------	---

給食管理		伊藤雅子	
介護食メニュー集	田中弥生	ニチブン	1
栄養食事管理のための施設別給食献立集	鈴木久乃 ほか	建帛社	1
メディカル栄養管理総説	田花利男 ほか	第一出版	1
新・実践給食経営管理論	藤原正嘉 ほか	みらい	1
給食の運営管理論 (エスカパーシック)	芦川修貳 ほか	同文書院	1
給食経営管理論	日本栄養改善学会	医歯薬出版	1
たべることと出すこと	頭木弘樹	医学書院	1
香りや見た目目で脳を勘違いさせる	坂井信之	かんき出版	1
「食を」とおして育つもの・育てたいもの	堤ちはる	ぎょうせい	1
プイゼ 子どものための味覚教育食育入門編	石井克枝	講談社	1

調理学		豊嶋瑠美子	
料理の科学大図鑑	シュチュアート・ファリモンド	河出書房新社	1
からだにおいしい魚の便利帳	藤原昌高	高橋書店	1
新・野菜の便利帳 健康編		高橋書店	1
新・野菜の便利帳 おいしい編		高橋書店	1
旬の野菜の栄養事典	吉田企世子	エクスマレッジ	1

食品学実験		塚本研一	
化学基礎食品学実験 新版	揚田富子 ほか	三共出版	2
要説栄養・食品学実験-50	大西正三	医歯薬出版	3
食品学実験	橋本俊二郎 ほか	講談社	3
食品学実験書	青柳康夫 ほか	建帛社	1
食品学実験・実習	長澤治子	青山社	1
新・図解食品学実験	新美康隆	(株)みらい	1
栄養学・食品学を学ぶための 食品学実験	川端 彰	啓明出版	1
身のまわりの食品分析実験	安達達彦 ほか	三共出版	2
最新食品学	甲斐達夫	講談社	2

食品加工衛生学実験		熊谷昌則	
衛生試験法・注解	日本薬学会	金原出版	1
乳製品試験法・注解	日本薬学会	金原出版	1
初心者のための食品製造学	中島一郎	光琳	3
食品加工実習	浅利喬泰 ほか	樹村房	3
食品加工実習	相沢孝亮	地人書館	3
原色食品加工工程図鑑	小原哲二郎 ほか	建帛社	3
てがるにできる加工食品	峰下 雄 ほか	建帛社	3
新しい食品加工学	小川 正 ほか	南江堂	3
第7版 つくってみよう加工食品	仲尾玲子 ほか	学文社	1
図解 食品衛生学実験 第3版	一戸正勝 ほか	講談社	1
イラスト食品加工・食品機能実験第2版	太田英明 ほか	東京数学社	1

基礎調理実習		豊嶋瑠美子	
家庭料理技能検定公式ガイド3級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
知っておいしい肉事典	実業之日本社	実業之日本社	1
美しい盛りつけの基本	久保香菜子	成美堂出版	1
新装版 包丁の教科書	野崎洋光	新星出版社	1
なぜ?からはじめるかんたん和食	野崎洋光	ぴあ	1

応用調理実習		豊嶋瑠美子	
家庭料理技能検定公式ガイド筆記試験編 1級から2級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
家庭料理技能検定公式ガイド実技試験編 1級から2級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2

学校栄養教育論		高山裕子	
学校給食アレルギー事故防止マニュアル	赤城智美	合同出版	1
食育白書	農林水産省	日経印刷	1

ごはんがすすむ にいがた給食レシピ	新潟県学校栄養士協議会	新潟日報事業社	1
東京足立区の給食室	足立区教育委員会	泰文堂	2
組み合わせ自由 3 段式学校給食の献立	藤原勝子	群羊社	1

<b>教職概論</b>		<b>佐藤光咲</b>	
教職概論	佐藤晴雄	学陽書房	1
必携 教職入門	佐々木芳輝	本の森	1
教師の資質	諸富祥彦	朝日新聞出版	1
教職概論 (新・教職課程シリーズ)	高橋 勝	一藝社	1
教職論 (Minerva はじめて学ぶ教職)	吉田武男	ミネルヴァ書房	1
日本の教育はダメじゃない	小松 光 ほか	ちくま新書	1
教育現場は困っている	榎本博明	平凡社新書	1

<b>教育制度論</b>		<b>栗森 貢</b>	
学力の経済学	中室牧子	デイスカフアートクリエイション	1
学校法	佐々木幸寿	学文社	1
現代の教育制度と経営	岡本 徹 ほか	ミネルヴァ書房	1
教育の最新事情 現代教育の動向と課題		教育出版	

<b>教育心理学</b>		<b>織田栄子</b>	
いじめ、虐待、そして犯罪の深層	町沢静夫	丸善	1
池上彰が聞く「僕たちが学校に行かなかった理由」	池上 彰	オクムラ書店	2
非行少年の加害と被害	藤岡淳子	誠信書房	1
教職をめざす人のための教育心理学	藤田主一 ほか	福村出版	1
問題行動と学校の荒れ	加藤弘通	ナカニシヤ出版	1

<b>教育課程総論</b>		<b>佐藤光咲</b>	
実践に活かす 教育課程論・教育方法論	樋口直宏 ほか	学事出版	1
教育課程 (教師教育テキストシリーズ)	山崎準二	学文社	2
取り残される日本の教育	尾木直樹	講談社	1
「カリキュラム・マネジメント」の進め方	矢ノ浦勝之	小学館	1
「考える力」を伸ばす	久野泰可	集英社文庫	1

<b>教育方法論</b>		<b>佐藤光咲</b>	
新・教育の方法と技術	平田啓一 ほか	教育出版	1
教育方法論 (新・教職課程シリーズ)	広石英記	一藝社	1
子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化	1
新しい時代の教育方法	田中耕治 ほか	有斐閣	1
教育の方法と技術	樋口直宏 編	ミネルヴァ書房	1

<b>道徳・特別活動及び総合的な学習</b>		<b>佐藤光咲</b>	
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東洋館出版	1
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	ぎょうせい	1
特別活動研究	高橋哲夫 ほか	教育出版	1
道徳教育論 (新・教職課程シリーズ)	松下良平	一藝社	1
特別活動論 (新・教職課程シリーズ)	犬塚文雄	一藝社	1
特別の教科 道徳Q&A	松本美奈 ほか	ミネルヴァ書房	1

<b>特別支援教育</b>		<b>寺谷直輝</b>	
特別支援教育 (よくわかる! 教職エクササイズ5)	石橋裕子ほか	ミネルヴァ書房	1
障がい青年の大学を拓く インクルーシブな学びの創造	田中良三ほか	クリエイツかもがわ	1
障がい青年の学校から社会への移行期の学び	田中良三ほか	クリエイツかもがわ	1
学校・福祉事業型専攻科ガイドブック			
特別支援教育 (新・教職課程演習 第6巻)	米田宏樹ほか	協同出版	1

<b>社会福祉概論</b>		<b>伊藤雅子</b>	
社会福祉概論	小田兼三ほか	勁草書房	1
わかりやすい社会福祉	阿部 實	同文書院	1
社会福祉概論	立花直樹 ほか	ミネルヴァ書房	1
新版 福祉のための家政学	中川英子	建帛社	1

「平穩死」のすすめ	石飛幸三	講談社	1
平穩死という生きかた	石飛幸三	幻冬舎	1
老人の美学	筒井康隆	新潮社	1
ひとりでも最後まで自宅で	森 清	教文館	1
母の家がごみ屋敷 高齢者セルフネグレクト	工藤 哲	毎日新聞出版	1
エンド・オブ・ライフ	佐々涼子	集英社イタターナル	1
在宅ひとり死のススメ	上野千鶴子	文春新書	1
日本国憲法	松本弦人	TAC 出版	1
先生、どうか皆の前ではめないで下さい	金間大介	東洋経済新報社	1
80歳の壁	和田秀樹	幻冬舎新書	1
コミュ障のための社会学-生きづらさの正体をさぐる-	岩本茂樹	中央公論社	1
思いがけず利他	中島兵志	三島社	1
ルポ食が壊れる	堤 未果	文春新書	1
母親になって後悔してる	オルナ・ドースト	新潮社	1

公衆衛生学		高山裕子	
国民衛生の動向	厚生統計協会	厚生統計協会	1
公衆衛生がみえる		メディックメディア	1
岩波ブックレット			
アスベスト問題	宮本憲一 ほか	岩波書店	1
アメリカ産牛肉から食の安全を考える	岡田幹治	岩波書店	1
いのちの選択	小松美彦 ほか	岩波書店	1
介護認定	小竹雅子 ほか	岩波書店	1
学校給食	牧下圭貴	岩波書店	1
新型インフル ハンデミックを防ぐために	外岡立人	岩波書店	1
データでわかる世界と日本のエネルギー大転換	レスター・R. ブラウン	岩波書店	1
地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます	明日香壽川	岩波書店	1
内部被曝	矢ヶ崎克馬 ほか	岩波書店	1
B型肝炎	奥泉尚洋 ほか	岩波書店	2
放射能汚染と学校給食	牧下圭貴	岩波書店	1
母乳と環境	本郷寛子	岩波書店	1
血液と健康	三浦恭定	裳華房	1
したたかなウイルスたち	生田和良	裳華房	1
アレルギーとアトピー	矢田純一	裳華房	1
糖尿病の本当のはなし	清野 裕 ほか	裳華房	1
動き出した遺伝子医療	松田一郎	裳華房	1
ヒトゲノムの光と影	佐伯洋子	裳華房	1
脳と心の化学	大木幸介	裳華房	1
現代の感染症	相川正道 ほか	岩波書店	1

運動生理学		齋藤 謙	
運動の仕組みと応用	中野昭一	医歯薬出版	2

臨床栄養学Ⅱ		齋藤 謙	
図説 病気の成り立ちとからだⅠ	中野昭一	医歯薬出版	2
図説 病気の成り立ちとからだⅡ	中野昭一	医歯薬出版	2
人体の構造・機能と疾病の成り立ち	奈良信雄	医歯薬出版	1
イラスト人体の構造と機能および疾病の成り立ち	加藤昌彦	東京数学社	2

スポーツ栄養学		浅野純平	
強くなるスポーツ栄養学	成田和子	日本文芸社	2
栄養と運動	跡見順子 ほか	杏林書院	3
スポーツと健康の栄養学	下村吉治	ナッパ	2
これでなっとく使えるスポーツサイエンス	征矢英昭 ほか	講談社	1
これからの健康とスポーツの科学	安部 孝 ほか	講談社	1
実践的スポーツ栄養学	鈴木正成	文光堂	1
基礎から学ぶ！スポーツ栄養学	鈴木志保子	ベースボールマガジン社	2
アスリートのためのスポーツ栄養学	柳沢香絵	学研	1
スポーツ・運動栄養学 (栄養科学シリーズNEXT)	加藤秀雄 ほか	講談社	1
新版 コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口 満	市村書店	1

<b>公衆栄養学</b>			<b>高山裕子</b>
食事調査マニュアル	日本栄養改善学会	南山堂	1

<b>栄養指導論</b>			<b>伊藤雅子</b>
食事バランスガイド	第一出版編集部	第一出版	2
イラスト栄養教育・栄養指導論	城田知子 ほか	東京数学社	1
演習栄養教育	大里進子 ほか	医歯薬出版	1
医師の感情「平静の心」がゆれるとき	ダニエル・オーフリー	医学書院	1
食事摂取基準入門	佐々木 敏	同文書院	1
栄養指導論（エスカパーシック）	古畑 公 ほか	同文書院	1
イラストで学ぶ栄養士・管理栄養士の世界	末永美雪	学建書院	1
データ栄養学のすすめ	佐々木 敏	女子栄養大学出版部	1
栄養・運動で予防するサルコペニア	雨海照祥	医歯薬出版	1
高齢者を低栄養にしない20のアプローチ	吉田貞夫	メディカ出版	1
リハビリテーション栄養Q&A+症例7	田村佳奈美	メディカ出版	1
食品成分最新ガイド栄養素の通になる	上西一弘	女子栄養大学出版部	1
実践に役立つ栄養指導実例集	井川聡子	理工図書	1
私の患者になってくれてありがとう	井上義文	フジメィカル出版	1
基礎から学ぶ栄養学研究	村上健太郎	建帛社	1

<b>ライフステージ栄養指導論</b>			<b>須磨亜沙子</b>
食物アレルギーAtoZ	中村丁次 ほか	第一出版	1
食物アレルギー診療ガイドライン	宇理須厚雄 ほか	協和企画	1
保護者と学校の先生に伝えたい食物アレルギーの基礎知識	小林陽之助	診断と治療社	1
小児・思春期糖尿病管理の手引き		南江堂	1
摂食障害		金剛出版	1
嚥下障害の臨床	苅安 誠	医歯薬出版	1
小児思春期1型糖尿病診療ガイド	日本糖尿病学会	南江堂	1
保護者からの質問に自信を持って答える 小児食物アレルギーQ&A	海老澤元宏	日本医事新報社	1
こどもの糖尿病と治療	浦上達彦	メディカ出版	1
おいしく食べたい食べさせたい	金丸晶子	インカーメディア	1
そのまま使える！シブ別アレルギーの栄養食事指導	海老澤元宏	南山堂	1
精神疾患の栄養指導	功刀 浩	講談社	1
摂食嚥下障害の栄養食事指導マニュアル	藤谷順子	医歯薬出版	1

<b>生化学実験</b>			<b>浅野純平</b>
新生化学受験講座			
第1巻 タンパク質I	日本生化学会	東京化学同人	1
第1巻 タンパク質V	日本生化学会	東京化学同人	1
第2巻 核酸I	日本生化学会	東京化学同人	1
栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ	奈良信雄	医歯薬出版	2
ワラック検査値ハンドブック		医歯薬出版	1
タンパク質実験ノート 上・下	岡田雅人 ほか	羊土社	各1
標準臨床検査医学 第4版	高木康也 ほか	医学書院	1

<b>栄養学実習</b>			<b>浅野純平</b>
基礎栄養学実験（Nブックス実験シリーズ）	木元幸一 ほか	建帛社	1

<b>ライフステージ栄養学実習</b>			<b>豊嶋瑠美子</b>
高齢者の食介護ハンドブック	手嶋登志子	医歯薬出版	1
食物アレルギーの栄養指導	海老澤元宏	医歯薬出版	1
介護食ハンドブック	手嶋登志子	医歯薬出版	3
食べるのが好きになる離乳食	猪野雅孝	女子栄養大学出版部	1
食べない子が食べてくれる幼児食	加藤初枝 ほか	女子栄養大学出版部	1
これからの応用学演習・実習	渡邊早苗	朝倉書店	1
子どもが喜ぶ食物アレルギーレシピ	海老澤元宏	成美堂出版	1
病院・施設のための嚥下食			
ピラミッドによる咀嚼・嚥下困難者レシピ 100	栢下 淳	医歯薬出版	1
JISS 国立スポーツ科学センターアスリートレシピ	JISS 国立スポーツ科学センター	主婦と生活社	2

臨床栄養学実習	須磨亜沙子		
カラー版 一品料理 500 選	宗像伸子	医歯薬出版	2
カラー版 ビジュアル治療食 300		医歯薬出版	1
せんぼ東京高輪病院 500kcal 台のけんこう定食	足立香代子	ワニブックス	1
せんぼ東京高輪病院 日本一の減る塩定食	足立香代子	ワニブックス	1
国循の美味しい！かるしおレシピ	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版部	1
国循の美味しい！かるしおレシピ (続)	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
国循の美味しい！かるしおレシピ (続々)	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
塩分一日 6g の健康献立	香川達雄	女子栄養大学出版部	1
腎臓病たんぱく質 30g の献立集	宮本佳代子 ほか	女子栄養大学出版部	1
腎臓病たんぱく質 40g の献立集	宮本佳代子 ほか	女子栄養大学出版部	1
聖路加国際病院の愛情健康レシピ	聖路加国際病院	永岡書店	1
長寿一位の長野県式・減塩ごはん	長野県栄養士会	マイナビ	2
きよせの森総合病院の極上健康レシピ	土屋忠保	ソフトバンク	1
奥菌壽子の超かんたん！極うま減塩レッスン	奥菌壽子	PHP 研究所	1
奥菌壽子の超かんたん！糖尿病ごはん	奥菌壽子	PHP 研究所	1
女子栄養大学栄養クリニック 糖尿病バランスレシピ	女子栄養大学クリニック	西東社	1
東京医科大学病院のおいしい コレステロール・中性脂肪対策レシピ	榎本眞理	主婦の友社	1
「かる塩」「かる糖」料理帖	山脇リン	小学館	1
亀田総合病院の血圧が高めの人のための おいしい減塩レシピ	亀田総合病院栄養管理室	PHP 研究所	1
ホテルシェフと大学病院の管理栄養士が考えた おいしくやせる 480kcal レシピ	横山雅好 ほか	PHP 研究所	1
おいしい血圧対策レシピ	検見崎聡美	主婦の友社	1
透析を予防する！専門医が教える腎臓病の治療法と おいしいレシピ	金沢良枝	ナツメ社	1
100 歳まで元気！強い血管をつくる塩分カットレシピ	高沢謙二	角川マガジズ	1
関西電力病院のおいしい糖尿病レシピ	清野 裕 ほか	主婦の友社	1
高血圧を下げる！ラクラクへるしお減塩レシピ	今泉久美	主婦の友社	1
長野県栄養士会の野菜たっぷり減塩レシピ	長野県栄養士会	マイナビ	1
京都医療センター メタボ外来の 3 か月で確実！やせるレシピ	京都医療センター	セブン&アイ出版	1
糖尿病専門病院が教える日本で一番おいしいレシピ	池田医院	世界文化社	1
おいしい+予算内の病院食レシピと治療食への展開 臨床調理	武蔵裕子 ほか 玉川和子	瀬谷出版 医歯薬出版	1 1

栄養指導実習	伊藤雅子		
一分で一生の信頼を勝ち取る法	矢野 香	ダイヤモンド社	1
「話し方」に自信がもてる	秋竹朋子	ダイヤモンド社	1
会話力があがる 大人のはきはき「滑舌」上達ドリル	花形一実	メイツ出版	1
栄養管理プロセスを活用した栄養指導・実例集	中村丁次	日本医療企画	1
プレゼンテーション ZEN	ガーレイノルズ	丸善出版	1
佐々木敏の栄養データはこう読む！	佐々木敏	女子栄養大学出版部	1
CD 桂文我 上方落語全集第 1 巻 (上)	桂 文我	パンローリング (株)	1
CD 桂文我 怪噺 5	桂 文我	パンローリング (株)	1
*CD は AV コーナーにあり			
目でみるからだのメカニズム 第 2 版	境 章	医学書院	1
フリーランスで活躍したい管理栄養士の本	中田恵津子ほか	女子栄養大学出版部	1
聞く技術聞いてもらう技術	東畑開人	筑摩書房	1
栄養指導ステップアップ BOOK	北島幸枝	MC メディカ出版	1
国語辞典をたべあるく	サンキュータツオ	女子栄養大学出版部	1
行動栄養学とはなにか？	佐々木 敏	女子栄養大学出版部	1

ライフステージ栄養指導実習	須磨亜沙子		
たべもの・食育図鑑	井上幸子 ほか	群羊社	2
はじめよう食育	長嶋正實 ほか	東山書房	1
効果のみえる栄養指導の方法と実際	井上正子	南江堂	1
実践に役立つ栄養指導事例集	井川聡子 ほか	少年写真新聞社	1
応用栄養学 栄養マネジメント演習・実習 第 5 版	竹中 優	医歯薬出版	1
電子レンジを活用した調理	肥後温子	建帛社	1

—加熱特性を知り健康を支援する—			
------------------	--	--	--

給食管理実習Ⅰ・Ⅱ		伊藤雅子	
イラストで見る はじめての大量調理	殿塚婦美子 ほか	学建書院	1
給食施設のための献立作成マニュアル	赤羽正之	医歯薬出版	1
衛生管理&調理技術マニュアル (テキストコーナー)	文部科学省	学建書院	1
給食のための基礎からの献立作成	上地加容子 ほか	建帛社	1
学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省	学建書院	1
改訂新版 大量調理	殿塚婦美子	学建書院	1
調理科学のなぜ?	松本伸子	朝日新聞出版	1
臨地実習・校外実習ハンドブック	藤原政嘉 ほか	みらい	1
めざせ! 栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション	小野章史	第一出版	1
栄養士課程実習ノート	熊沢明子 ほか	医歯薬出版	1
ステップアップ臨地・校外実習	長谷川輝美	建帛社	1
六訂大量調理施設衛生管理のポイント	全国食品衛生主管課長連絡協議会	中央法規	1
調理の基本 まるわかり便利帳	松本伸子	女子栄養大学出版部	1
衛生管理調理技術Q&A	田中延子 編集代表	学建書院	1
ピュイゼ 子どものための味覚教育 食育入門編	石井克枝	講談社	1
基礎から学ぶ栄養学研究	村上健太郎	建帛社	1
臨床栄養入門 レジデント	雨海照祥ほか	文光堂	1
「食」をとおして育つもの・育てたいもの	堤ちはる	ぎょうせい	1
記者ハンドブック 新聞用字用語集 第14版	共同通信社	共同通信社	1

調理学実験		豊嶋瑠美子	
健康を考えた調理科学実験	今井悦子	アイ・ケイコーポレーション	2
食品機能性の科学	平川研次郎	産業技術サービスセンター	1
調理科学	調理科学研究会	光生館	1
「こつ」の科学 調理の疑問に答える新装版	杉田浩一	柴田書店	2
新版 お菓子「こつ」の科学	河田昌子	柴田書店	2

フードコーディネーター論		豊嶋瑠美子	
フードコーディネーター教本 2021	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	1
フードコーディネーター用語集	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	1
盛りつけの発想と組み立て	まちやま ちほ	誠文堂新光社	1
盛りつけ&セッティング 55 のポイント	落合なお子	メイツ出版	1
おもてなしの教科書 (美人開花シリーズ)	山本侑貴子	ワニブックス	2

食品の官能評価・鑑別演習		豊嶋瑠美子	
官能評価士テキスト	日本官能評価学会	建帛社	2
食の官能評価入門	大越ひろ	光生館	2
メディカルハーブ事典	ティエラオナ・ロウ・ドッグ	日経ナショナルジオグラフィック社	2
日本食品大事典	杉田浩一	医歯薬出版	2

生徒指導		佐藤光咲	
新・生徒指導 12 講	楠本恭久 ほか	福村出版	1
生徒指導の研究	高橋哲夫	教育出版	1
生徒指導・進路指導 (新・教職課程シリーズ)	林 尚示	一藝社	1
いじめ、虐待、そして犯罪の深層	町沢静夫	丸善出版	1
問題行動と学校の荒れ	加藤弘道	ナカニシヤ出版	1
生徒指導の理論と方法	江川玫成	学芸図書	1

教育相談		佐藤光咲	
子どもの成長を支える発達教育相談	鎌倉利光 ほか	北樹出版	1
教育相談 (新・教職課程シリーズ)	羽田紘一 ほか	一藝社	1
河合隼雄のカウンセリング入門	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング教室	河合隼雄	創元社	1
学校教育相談	丸藤太郎 ほか	ミネルヴァ書房	1
こころの科学叢書 教育相談入門	高野久美子	日本評論社	1
教育相談 その理論と方法	江川玫成	学芸図書	1

栄養教育実習指導 栄養教育実習		高山裕子・佐藤光咲	
食の授業アイデア集－ワークショップでつくる	藤本勇二	全国学校給食協会	1
基礎からわかる・授業に活かせる食育指導ガイドブック	中村丁次 ほか	丸善	1
すぐにできるアイデア食育	京都食育キャラバン隊	東山書房	1
朝ごはん指導実践事例集	金田雅代	少年写真新聞社	1
給食&食育だよりセレクトブック	橋本秀美	少年写真新聞社	1
食育早わかり図鑑 1～2	稲村 修	群羊社	各 2
入門・食育実践集	藤本勇二	全国学校給食協会	2
はじめての食育授業	江口敏幸 ほか	群羊社	1

教職実践演習（栄養教諭）		佐藤光咲	
新・教職リニューアル	篠原清昭	ミネルヴァ書房	1
よくわかる栄養教諭	藤澤良知	同文書院	1
給食・食育で子どもが変わる	新村洋史	新日本出版社	2
最新 教育動向 2023	教育の未来を研究する会	明治図書	1

教職実践演習（栄養教諭）		高山裕子	
はじめての食育授業	江口敏幸	群羊社	1
家庭とつながる！新食育ブック			
1. 子どもの食と健康	小川万紀子 ほか	少年写真新聞社	1
2. 食事のマナーと環境	小川万紀子 ほか	少年写真新聞社	1
3. 成長期に大切な食品	小川万紀子 ほか	少年写真新聞社	1